元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅴ遺跡
元総社小見内Ⅵ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅴ遺跡
元総社小見内Ⅵ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1　元総社小見Ⅴ遺跡全景（北から）

2　元総社小見Ⅴ遺跡出土遺物

3　元総社小見内Ⅵ遺跡A区W－4・5号溝跡全景（北から）

4　元総社小見内Ⅵ遺跡A区出土遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室４古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東４名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度発掘調査を行いました元総社小見Ⅴ遺跡は、前橋市の西部、国分僧寺と国分尼寺の中間南に、元総社小見内Ⅵ遺跡は、国府推定域のわずか西側に位置します。国分僧寺及び国分尼寺並びに国府に直接関連すると思われる構造物、道路、溝などの遺構は検出されませんでしたが、竪穴住居跡、溝跡などが検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、厳しい気候の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成16年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　**阿　部　明　雄**

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町地内
発掘調査期間	平成15年5月20日～平成15年10月14日
整理・報告書作成期間	平成15年10月15日～平成16年３月25日
発掘・整理担当者	高槁一彦・高坂麻子（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は高槁・高坂が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石原義夫・岩木　操・大澤俊夫・大嶋洋平・岸フクエ・斉藤亀寿・白石　晃・須田博治・角田　愷
渡木秋子・中澤光江・平林しのぶ・湯浅たま江・湯浅道子・阿部シゲ子・神澤とし江・橋本　茂
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の１/200,000地形図(宇都宮、長野)、１/25,000地形図(前橋)、１/2,500前橋市現形図を使用した。
3．遺跡の略称は、次のとおりである。
元総社小見Ⅴ遺跡：15A118　　元総社小見内Ⅵ遺跡：15A114
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
J…縄文時代の竪穴住居跡　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　B…掘立柱建物跡
T…竪穴状遺構　W…溝跡　I…井戸跡　D…土坑　A…道路状遺構
P…ピット・貯蔵穴（住居内P_5を貯蔵穴とした。）　O…落ち込み
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・溝跡・井戸跡・土坑・ピット…1/60
竈断面図…1/30　全体図…1/200
遺物　土器・鉄製品…1/1、1/3、1/4　石器・石製品…1/1、1/3、2/3、1/4、1/5　瓦…1/5
6．計測値については、(　　)は現存値、[　　]は復元値を表す。
7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。
◎は非常に締まり・粘性あり、○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。
8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構平面図　焼　土…　灰…
遺構断面図　構　築　面…
遺物実測図　須恵器断面…　炭化物（煤付着など）…　黒色処理…
灰釉陶器断面…　灰釉陶器内面…
9．火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
As—B　(浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年)
Hr—FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr—FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As—C　(浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉)

目　　次

序 …… i

Ⅰ 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 …… 1

2 歴史的環境 …… 1

Ⅲ 調査の方針と経過

1 調査方針 …… 6

2 調査経過 …… 6

Ⅳ 基本層序 …… 7

Ⅴ 遺構と遺物

1 元総社小見Ⅴ遺跡 …… 9

2 元総社小見内Ⅵ遺跡A区 …… 22

3 元総社小見内Ⅵ遺跡B区 …… 37

Ⅵ 考察 …… 42

図　　版

口絵　1　元総社小見Ⅴ遺跡全景
　　2　元総社小見Ⅴ遺跡出土遺物
　　3　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｗ－４・５号溝跡全景
　　4　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区出土遺物

ＰＬ．1　元総社小見Ⅴ遺跡Ｈ－３・５号住居跡重複全景、Ｊ－１・２号住居跡、Ｏ－１号落ち込み全景
　　2　Ｈ－１～４号住居跡
　　3　Ｈ－５～８号住居跡
　　4　Ｈ－９～13号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡
　　5　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区全景、Ｈ－１～３号住居跡
　　6　Ａ区Ｈ－５～８号住居跡
　　7　Ａ区９～12号住居跡
　　8　Ｈ－13～17号住居跡
　　9　Ｈ－18号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｗ－１～５号溝跡
　　10　Ｗ－４・５号溝跡、Ｉ－１・２号溝跡
　　11　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区全景、Ｂ－１～４号掘立柱建物跡
　　12　Ｗ－１～３号溝跡、Ｉ－１号井戸跡
　　13　元総社小見Ⅴ遺跡Ｊ－１・２号住居跡出土の土器
　　14　Ｊ－２・Ｈ－１～３・５号住居跡出土の土器、石器
　　15　Ｈ－５号住居跡出土の土器、瓦、鉄器
　　16　Ｈ－５～８号住居跡出土の土器、瓦
　　17　Ｈ－５・８号住居跡出土の土器、瓦
　　18　Ｈ－５・８・９号住居跡出土の土器、瓦、勾玉、石器
　　19　Ｈ－９・11・13号住居跡、Ｏ－１号落ち込み、Ｄ－11号土坑、Ｐ－14号柱穴出土の土器、鉄器、石器
　　20　Ｏ－１号落ち込み、グリッド、遺構外出土の土器
　　21　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－１・３・６・８～10・15・18号住居跡出土の土器、鉄器、瓦
　　22　Ａ区Ｈ－８・18号住居跡、Ｗ－１・２・４号溝跡出土の土器、瓦
　　23　Ａ区Ｗ－４・５号溝跡出土の土器、瓦、鉄器
　　24　Ａ区Ｗ－５号溝跡、Ｄ－２・３号土坑、グリッド、遺構外出土の土器、鉄器、石器
　　Ｂ区Ｗ－２号溝跡出土の土器、瓦

挿　　図

Fig.　1　元総社蒼海遺跡群位置図
　　2　周辺遺跡図
　　3　元総社小見Ⅴ遺跡基本層序
　　4　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区基本層序
　　5　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区基本層序
　　6　元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区時期別の竪穴住居配置図
　　7　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
　　8　元総社小見Ⅴ遺跡全体図
　　9　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区全体図
　　10　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区全体図
　　11　元総社小見Ⅴ遺跡Ｊ－１～３号住居跡
　　12　Ｈ－１～４号住居跡
　　13　Ｈ－４・５号住居跡
　　14　Ｈ－６・７号住居跡
　　15　Ｈ－８～９号住居跡
　　16　Ｈ－10～11号住居跡
　　17　Ｈ－12～13号住居跡
　　18　Ｂ－１・２号掘立柱建物跡
　　19　１・２号畠跡
　　20　Ｏ－１号落ち込み
　　21　Ｄ－１～13号土坑、Ｐ－１～３号ピット
　　22　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－１・３号住居跡
　　23　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－２・４・５・６号住居跡
　　24　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－７・８号住居跡
　　25　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－９・10号住居跡
　　26　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－11～13号住居跡

27　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－14～16号住居跡
28　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区17・18号住居跡、Ｂ－１号掘立柱建物跡
29　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｂ－２・３号掘立柱建物跡、Ｔ－１号竪穴状遺構
30　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｗ－１～３号溝跡
31　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｗ－４～５号溝跡
32　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｄ－１～３号土坑、Ｐ－１～17号ピット
33　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｐ－18～42号ピット
34　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｐ－43～57号ピット、Ｉ－１・２号井戸跡
35　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｈ－１・２号住居跡、Ｂ－１・２号掘立柱建物跡
36　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区３・４号掘立柱建物跡
37　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｗ－１・２号溝跡、Ａ－１号道路状遺構
38　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｗ－３号溝跡
39　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｄ－１～６号土坑、Ｐ－１～18号ピット
40　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｐ－19～42号ピット
41　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｐ－43～51号ピット、Ｉ－１号井戸跡、１号不明遺構
42　元総社小見Ⅴ遺跡Ｊ－１号住居跡出土遺物
43　Ｊ－２・Ｈ－２号住居跡出土遺物
44　Ｈ－３・５号住居跡出土遺物
45　Ｈ－５号住居跡出土遺物
46　Ｈ－５号住居跡出土瓦
47　Ｈ－５号住居跡出土瓦
48　Ｈ－５号住居跡出土瓦
49　Ｈ－５号住居跡出土瓦
50　Ｈ－５号住居跡出土瓦
51　Ｈ－５号住居跡出土瓦
52　Ｈ－５～７号住居跡出土遺物
53　Ｈ－７～９号住居跡出土遺物
54　Ｈ－９・11号住居跡出土遺物
55　Ｈ－11・13号住居跡、Ｄ－11号土坑、Ｐ－14号ピット、Ｏ－１号落ち込み出土遺物
56　Ｏ－１号落ち込み出土遺物
57　Ｏ－１号落ち込み出土遺物、グリッド、遺構外出土遺物
58　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－１～４・８・９号住居跡出土遺物
59　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－10・15・16・18号住居跡出土遺物
60　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｈ－18号住居跡、Ｗ－１・２号溝跡出土遺物
61　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｗ－２・４号溝跡出土遺物
62　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｗ－４・５号溝跡出土遺物
63　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｗ－５号溝跡、Ｄ－２・３号土坑出土遺物
64　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区Ｄ－３号土坑、Ｉ－１号井戸跡、グリッド、遺構外出土遺物、元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区Ｗ－２・３号溝跡

表

Tab.　1　元総社蒼海遺跡群　周辺遺跡概要一覧表
2　元総社小見Ⅴ遺跡住居跡一覧表
3　元総社小見Ⅴ遺跡竈跡一覧表
4　元総社小見Ⅴ遺跡土坑・ピット計測表
5　元総社小見Ⅴ遺跡出土遺物観察表
6　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区住居跡一覧表
7　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区竈跡一覧表
8　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区溝跡計測表
9　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区土坑・井戸跡計測表
10　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区ピット計測表
11　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区出土遺物観察表
12　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区住居跡一覧表
13　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区溝跡計測表
14　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区出土遺物観察表
15　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区土坑・井戸跡・ピット計測表
16　時期別竪穴住居の軒数
17　採掘時期・場所・方法（採掘工程）
18　検出数・面積・規模・掘り方（平面形）

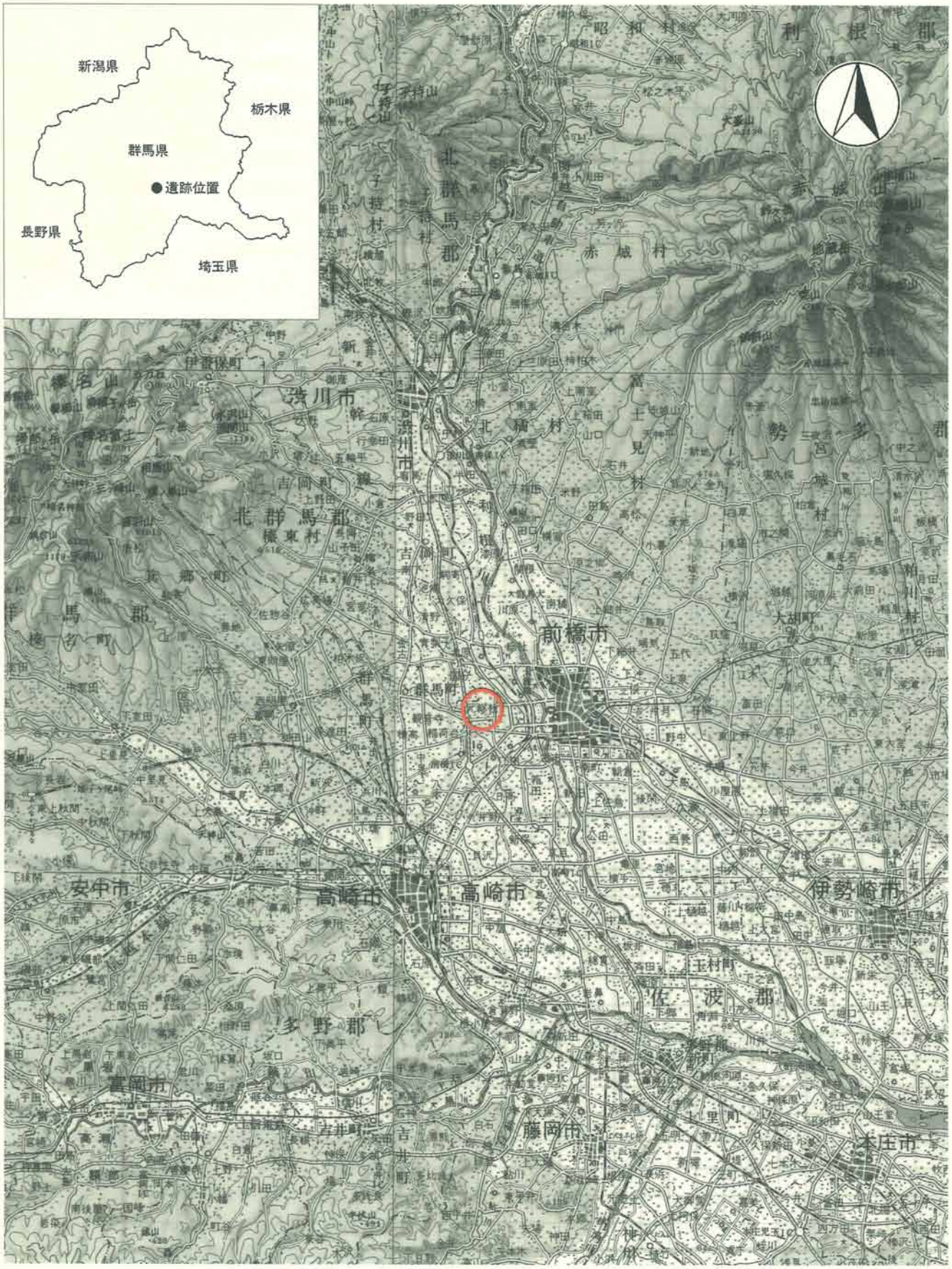


Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、4年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成15年4月9日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄に対し、調査の実施を通知し、調査団はこれを受諾した。平成15年5月7日に調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団団長　阿部明雄との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。そして5月20日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見Ⅴ遺跡」（遺跡コード：15A118）「元総社小見内Ⅵ遺跡」（遺跡コード：15A114）の「小見」「小見内」は旧地籍の小字名を採用した。また、名称中のローマ数字は、当調査団で過年度に調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）の利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３m～５mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東には上野国総社神社があり、西側には関越自動車道を隔てて上野国分僧寺がある。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走っている。これらの幹線道路沿いにはオフィスビルや大規模小売店が進出しているが、主要道から一歩入った本遺跡地の周辺は閑静な住宅地域となっており、狭い道筋に昔からの家が建ち並んでいる。また、隣接する畑地には最近になって建設された住宅もある。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

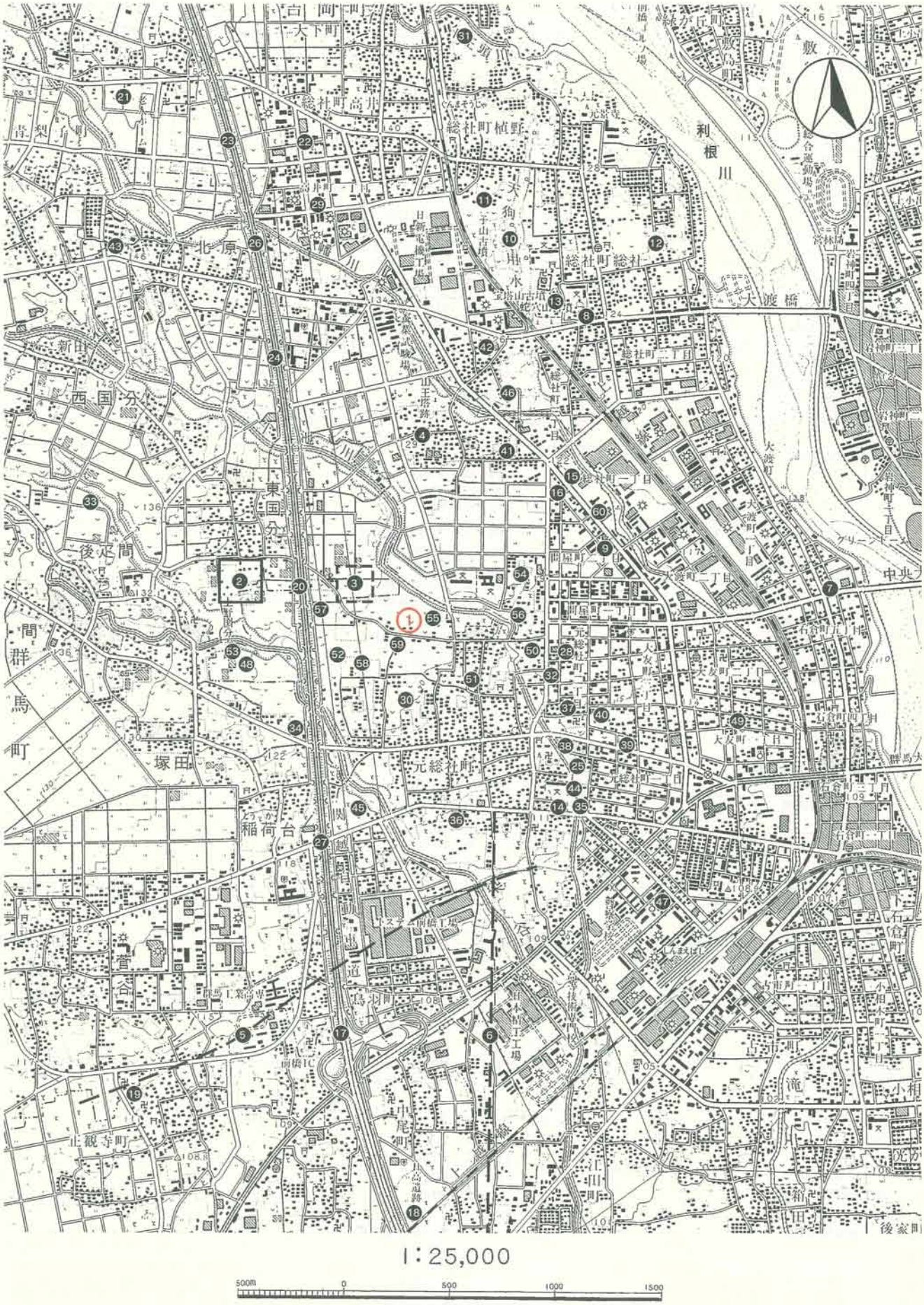
国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元総社小見内Ⅲ遺跡からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されており、昨年度調査が行われた元総社小見内Ⅳ遺跡からもこの溝の延長と思われる溝跡が検出されている。また、元総社小見内Ⅲ遺跡からは官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定される。また、日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。



1:25,000

500m 0 500 1000 1500

Fig.2 周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表　　※年代の（　）は調査開始年度。

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	本遺跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	〃
2	上野国分寺跡（県教委）	1980 ～ 1988	奈　良：金堂基壇、塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈　良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古　墳：塔心礎、根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古　墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古　墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古　墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古　墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古　墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古　墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古　墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平　安：掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄　文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄　文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良･平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥　生：水田跡、方形周溝墓、住居跡、木製農耕具 平　安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979 ～ 1981	弥　生：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980 ～ 1983	縄　文：住居跡、配石遺構 弥　生：住居跡、方形周溝墓 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡 中　世：掘立柱建物跡、溝状遺構、道路状遺構
21	清里南部遺跡群 清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄　文：ピット 奈良･平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良･平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980 ～ 1984	縄　文：屋外埋甕 弥　生：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、柵列 中　世：住居跡、溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、畠跡 中　世：土坑墓
25	元総社明神遺跡　Ⅰ～XIII	1982 ～ 1996	古　墳：住居跡、水田跡、堀跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、大形人形 中　世：住居跡、溝跡、天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄　文：土坑、集石遺構 古　墳：水田跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978 ～ 1983	古　墳：住居跡、鍛冶場跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良･平安：溝跡（上幅6.5~7m、下幅3.24m、深さ2m）
29	柿木遺跡 柿木Ⅱ遺跡	1983 1988	奈良･平安：住居跡、溝跡
30	草作遺跡	1984	古　墳：住居跡 平　安：住居跡 中　世：井戸跡(蒼海城に伴う)
31	桜ヶ丘遺跡		弥　生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡	1985	平　安：住居跡
	総社桜ヶ丘Ⅱ遺跡	1987	奈良･平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古　墳：住居跡（鬼高期） 奈良･平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985 ～ 1987	古　墳：住居 奈良･平安：住居跡 中　世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平　安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平　安：溝跡、木製品

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
36	天神遺跡	1986	奈良･平安：住居跡
	天神Ⅱ遺跡	1988	
37	屋敷遺跡	1986	古　墳：住居跡
	屋敷Ⅱ遺跡	1995	平　安：住居跡 中　世：堀跡、石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古　墳：住居跡 平　安：住居跡、溝跡、地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良･平安：住居跡、溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平　安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良･平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古　墳：住居跡、溝跡 奈良･平安：住居跡 中　世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄　文：住居跡 平　安：住居跡、溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平　安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ （事業団）	1988 ～ 1991	古　墳：水田跡、溝跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器 中　世：溝跡
45	弥勒遺跡	1989	古　墳：住居跡
	弥勒Ⅱ遺跡	1995	平　安：住居跡
46	大屋敷遺跡　Ⅰ～Ⅵ	1992 ～ 2000	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄　文：土坑 平　安：住居跡、瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古　墳：住居跡 平　安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平　安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古　墳：畠跡、水田跡、溝 中　世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古　墳：住居跡、溝跡 平　安：住居跡　溝跡
51	元総社宅地遺跡　1～23ﾄﾚﾝﾁ	2000	古　墳：住居跡 平　安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構 中　世：溝跡 近　世：住居跡、（五輪塔の一部、椀類）
52	元総社小見遺跡	2000	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古　墳：住居跡、畠跡 奈良･平安：住居跡、溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良･平安：住居跡、溝跡 中　世：畠跡 近　世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、溝跡 近　世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古　墳：住居跡、溝跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 中　世：掘立柱建物跡、溝跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、畠跡、溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡 中　世：溝跡、道路状遺構
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄　文：住居跡 古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、溝跡 中　世：溝跡、道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡 中　世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 中　世：土坑墓、掘立柱建物跡、溝跡
60	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古　墳：住居跡 奈良･平安：住居跡、溝跡、竈構築材採掘痕、井戸跡

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、元総社小見Ⅴ遺跡が約1,195㎡、元総社小見内Ⅵ遺跡が約1,034㎡の合計約2,229㎡である。本調査に当たり、元総社小見内Ⅵ遺跡に関わる調査場所が２箇所に分かれているので、便宜的にＡ区、Ｂ区と名称を付した。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へX244、X245、X246…と、北から南へY39、Y40、Y41…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX17・Y135の公共座標は次のとおりである。

第　Ⅸ　系	＋43814.909（X）	－72423.752（Y）	〔新座標〕
	＋43460.000（X）	－72132.000（Y）	〔旧座標〕
緯　　度	36°23′31″．82156	経　度	139°01′33″．59042
子午線収差角	28′44″．474	増大率	0.99996460

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘り下げ・遺構精査・測量・全景写真撮影の順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、委託契約を５月７日に締結し、５月20日から調査を開始した。調査は、元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区、元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区の順に行うこととした。

元総社小見Ⅴ遺跡は南北に長さ約190ｍ、幅は北側で8.5ｍ、南側で４ｍの範囲を調査。５月20日に、調査区南側約100ｍを重機（バックフォー0.25m³）１台で、幅85㎝、長さ127㎝から170㎝のトレンチを７本入れたところ、全て盛土で覆われ遺構は検出されなかった。翌日の21日から重機（バックフォー0.7m³）１台、10tクローラ１台を使い、調査区北側約90ｍの表土掘削を行った。表土掘削に２日かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。23日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。調査中は天候に恵まれ作業は順調に進んでいった。その結果、竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡１棟、中世の畠跡が検出された。６月６日にトラック架装リフト（ハイライダー18ｍ）による全景写真撮影を行い、一面目の調査を終了させた。10日から二面目の調査を開始した。遺構の掘り下げ・精査の結果、縄文時代前期の竪穴住居跡１軒、縄文時代中期の竪穴住居跡２軒、落ち込みを検出した。23日をもって元総社小見Ⅴ遺跡の調査を終了させた。

７月23日より元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区の調査を開始した。この調査区は南北に長さ68ｍ、幅８ｍの範囲を調査。重機（バックフォー0.4m³）１台、10tクローラ１台、２tダンプ２台を使い、表土掘削を開始した。表土掘削に３日かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。７月28日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。地山の土層は調査区北側は黄褐色の砂質土で覆われ、南側は黒褐色の粘質土が厚く堆積していた。このため調査中、雨の影響で調査区南側に水が溜まり、ポンプで水を抜いたり、崩れた土砂を取り除いたりするため、一時作業が停滞することがあった。遺構精査の結果、竪穴住居跡18軒、竪穴状遺構１軒、掘立柱建物跡１棟、溝跡３条、道路状遺構が検出された。竪穴住居の残存状況は悪く、住居上部は削平されていた。８月25日にトラ

ック架装リフト（ハイライダー18m）による全景写真撮影を行い一面目の調査を終了させた。29日より二面目の調査のため、重機（バックフォー0.25m³）１台を使いもう一段掘り下げたところ、溝跡２条、掘立柱建物跡３棟、井戸跡２基が検出された。また、溝の中から竈構築材採掘跡痕も検出された。９月11日をもってＡ区の調査を終了させた。

９月1日より元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区の調査を開始した。この調査区はＴ字形をしており、南北に長さ57m、幅６m、東西に28m、幅６mの範囲を調査。重機（バックフォー0.25m³）１台、２tダンプ１台を使い、表土掘削を開始した。表土掘削に４日半かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。９月８日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。昨年度調査した北側同様にこの調査区も遺構数が少なく、竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡４軒、溝跡３条、井戸跡１基、道路状遺構が検出されただけであった。9月26日にトラック架装リフト（ハイライダー18m）による全景写真撮影を行い一面目の調査を終了させた。

10月２日には、春日中学校の２年生６名が職場体験学習に訪れ、発掘調査の現場を体験した。中学生は発掘調査の話や出土遺物の説明を受けた後、現地見学を行い、当時の生活の様子を想像し、住居造りにおける先人の知恵や工夫に感心していた。その後、出土遺物の洗浄・注記・接合の体験作業を行い、緻密で根気のいる仕事と感じて帰校した。10月３日より二面目の調査のため、重機（バックフォー0.125m³）１台を使い一面目より更に30cm程掘り下げたが遺構は確認されなかった。このため引き続き、重機（バックフォー0.125m³、0.25m³、）各１台、２tダンプ１台を使い埋め戻し作業に入った。10月14日に地権者、区画第二課立ち会いの下、現状復帰した農地の状況を確認していただき引き渡し、この日をもって調査を終了させた。その後11月28日まで現場事務所において土器洗いや図面整理などを済ませ、28日をもって現地での調査は終了となった。

12月１日より文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたり、翌年３月25日までにすべての作業を完成させる運びとなった。

Ⅳ　基本層序

元総社小見Ⅴ遺跡

本遺跡地内の地層の堆積は、以下の通りである。

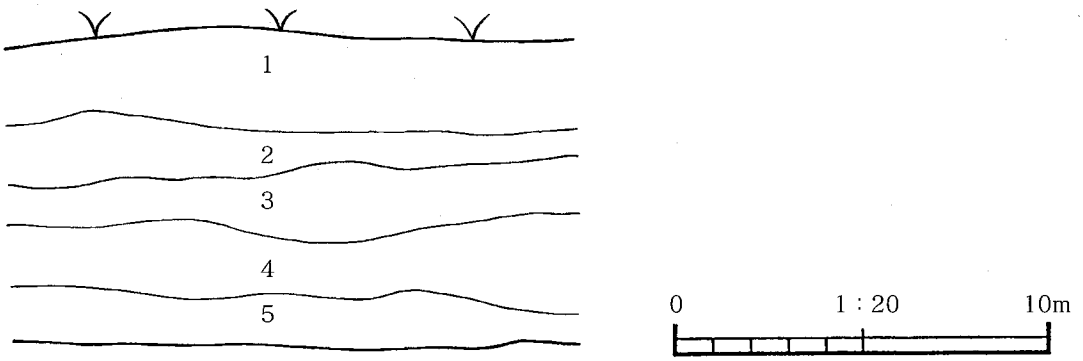


Fig.3　基本層序

1	10YR3/3	暗褐色細砂層	×	×	Ａs-Ｂ混じる、Ｈｒ-ＦＰ２％含む。〈厚さ20cm前後〉
2	10YR3/2	黒褐色細砂層	△	×	Ａs-Ｃ５％・Ｈｒ-ＦＰ５％含む。〈厚さ20cm前後〉
3	10YR4/3	にぶい黄褐色細砂層	○	△	Ａs-Ｃ１％・Ｈｒ-ＦＰ１％含む。〈厚さ30cm前後〉
4	10YR4/4	褐色細砂層	○	△	ローム漸移層。〈厚さ10cm前後〉
5	10YR5/6	黄褐色細砂層	○	×	地山（総社砂層）。〈厚さ10cm前後〉

元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区

本遺跡地内の地層の堆積は、以下の通りである。

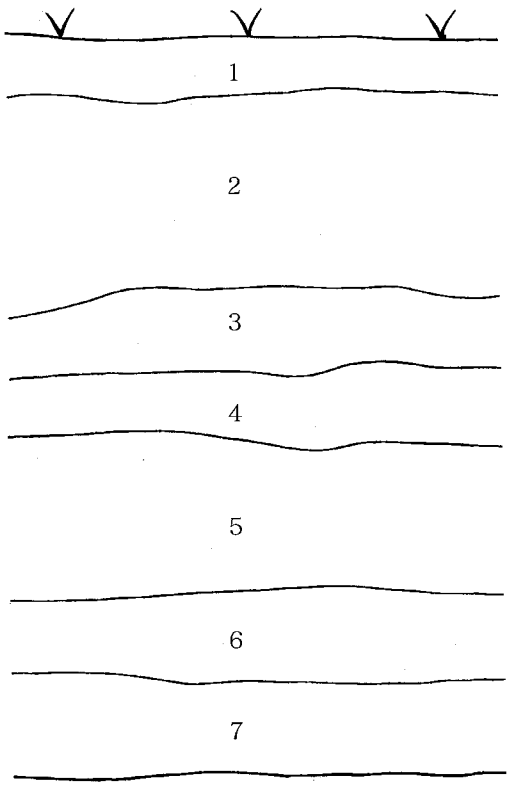


Fig.4　A区基本層序

1　10YR3/3　暗褐色細砂層　△　×
Ａｓ-Ｂ混じる、現耕作土。〈厚さ20cm前後〉

2　10YR3/2　黒褐色細砂層　○　△
Ａｓ-Ｂ混じる、Ａｓ-Ｃ１％・Ｈｒ-ＦＰ１％、
砂鉄分の多い川砂を多量に含む。〈厚さ40cm前後〉

3　10YR2/3　黒褐色細砂層　○　○
Ａｓ-Ｂ混じる、Ａｓ-Ｃ１％・Ｈｒ-ＦＰ１％、
砂鉄分の多い川砂50％ 含む。〈厚さ20cm前後〉

4　10YR3/1　黒褐色細砂層　○　△
Ａｓ-Ｂ混じる、Ａｓ-Ｃ１％Ｈｒ-ＦＰ１％含む。
〈厚さ20cm前後〉

5　10YR2/2　黒褐色細砂層　○　○
Ａｓ-Ｃ２％・Ｈｒ-ＦＰ３％、川砂を多量に含む。
〈厚さ35cm前後〉

6　10YR3/2　黒褐色細砂層　○　○
Ａｓ-Ｃ３％、砂利含む。地山の粘質土多量に含む。
〈厚さ20cm前後〉

7　10YR2/3　黒褐色細砂層　○　◎
粘性の強い地山。総社砂層の砂利含む。

元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区

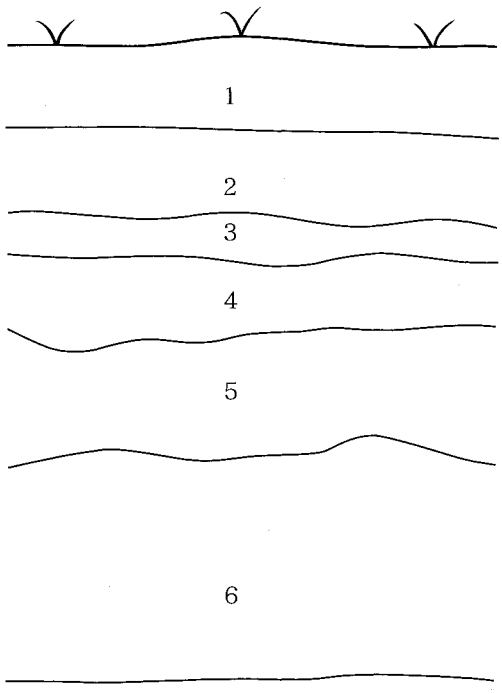


Fig.5　B区基本層序

1　10YR5/4　にぶい黄褐色細砂層 ○　×
Ａｓ-Ｂ混じる、現耕作土。〈厚さ20cm前後〉

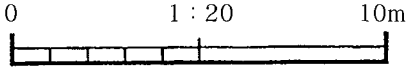
2　10YR4/3　にぶい黄褐色細砂層 ○　×
Ａｓ-Ｂ混じる、Ｈｒ-ＦＰ５％含む。
〈厚さ20cm前後〉

3　10YR3/4　暗褐色細砂層　　○　×
Ａｓ-Ｂ10％、Ｈｒ-ＦＰ２％含む。
〈厚さ10cm前後〉

4　10YR2/3　暗褐色細砂層　　○　×
Ａｓ-Ｃ５％、Ｈｒ-ＦＰ１％含む。
〈厚さ20cm前後〉

5　10YR4/4　褐色細砂層　　△　×
Ａｓ-Ｃ１％、Ｈｒ-ＦＰ１％含む、ローム漸移層。
〈厚さ30cm前後〉

6　10YR5/8　黄褐色細砂層　　○　×
ローム層。（地山）〈厚さ55cm前後〉



V　遺構と遺物

1　元総社小見V遺跡

(1)　竪穴住居跡

（住居跡の出土遺物の項目については、遺構の重複からどの住居跡の遺物か特定できないものがあるため、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。）

J－1号住居跡（Fig.11、PL.1）

位　置　X17、Y129・130グリッド　**主軸方向**　(N－10°－W)　**面　積**　(4.43)㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが、円形と推定される。東西（1.43）m、南北（4.34）m、壁現高43.5cmを測る。

床　面　ローム層を主体とした堅緻な床面を検出。炉は調査区外のため検出されず。

時　期　埋土や出土遺物から縄文中期後半と考えられる。

遺　物　総数928点。そのうち深鉢11点、石皿１点、打製石斧１点、削器１点を図示した。

J－2号住居跡（Fig.11、PL.1）

位　置　X16・17、Y131・132グリッド　**主軸方向**　(N－36°－E)　**面　積**　9.33㎡

形状等　円形と推定される。東西3.58m、南北3.35m、壁現高28.0cmを測る。

床　面　ローム層を主体とした堅緻な床面を検出。炉は確認できなかったが、中央部に建物の屋根材が崩れたと思われる炭化物の塊を検出。炭化物の周辺には約6.5cmの厚さで粘土が堆積する。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：62×58×54cm、楕円形）の１基を検出した。

時　期　埋土や出土遺物から縄文中期後半と考えられる。

遺　物　総数832点。そのうち深鉢９点、耳栓１点、石鏃１点を図示した。

J－3号住居跡（Fig.11、PL.－）

位　置　X16・17、Y130～132グリッド　**主軸方向**　(N－23°－E)　**面　積**　(18.76)㎡

形状等　重複が激しく、床面のみの確認となったが、長方形と推定される。東西（3.67）m、南北（5.75）m、壁現高50.0cmを測る。

床　面　ローム層を主体とした堅緻な床面を検出。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：65×45×54cm、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：45×29×69.5cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：56×53×72.5cm、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：62×53×54cm、円形）の４基を検出した。

時　期　埋土や出土遺物から縄文前期後半と考えられる。

遺　物　なし。

H－1号住居跡（Fig.12、PL.2）

位　置　X16・17、Y129グリッド　**主軸方向**　(N－88°－E)　**面　積**　(5.70)㎡

形状等　一部調査区外のため、全容は不明であるが方形と推定される。東西3.00m、南北（2.06）m、壁現高は22.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈の前に堅緻な面を確認。中央部竈前寄りに集石あり。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：49×41×30cm、楕円形）の１基を検出した。

竈　東壁より検出され、主軸方向N－87°－Eであり、全長90cm、最大幅63cm、焚口部幅40cmを測る。壁の構築材（補強材）として灰白色粘土を使用する。

重　複　H－２と重複し、新旧関係はH－２→本遺構の順である。

時　期　時期を判定する出土遺物が少なく埋土からも不明であるが、重複関係から９世紀前半以降と考えられる。

遺　物　総数187点。そのうち石鏃１点を図示した。

H－２号住居跡（Fig.12、PL.２）

位　置　X17、Y129グリッド　**主軸方向**　（N－85°－E）　**面　積**　(5.96)㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西（2.60）m、南北（2.46）m、壁現高8.6cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。

竈　調査区外で検出されず。

重　複　H－１と重複し、新旧関係は本遺構→H－１の順である。

時　期　埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

遺　物　総数107点。そのうち須恵坏1点、須恵高台埦1点を図示した。

H－３号住居跡（Fig.12、PL.1・2）

位　置　X16・17、Y130・131グリッド　**主軸方向**　（N－73°－E）　**面　積**　11.49㎡

形状等　四隅に丸みを帯びる南北に長軸を持つ長方形を呈する。東西3.06m、南北4.20m、壁現高27.5cmを測る。

床　面　全体的に堅緻な床面。住居の東壁から西壁にかけて周溝あり。

竈　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N－76°－Eであり、全長125cm、最大幅98cm、焚口部幅36cmを測る。壁の補強材として石を、落ちてしまっているが天井石に凝灰岩を使用する。また、袖石には角柱状に加工された凝灰岩を使用し、灰白色粘土で補強している。

重　複　H－４・H－５と重複し、新旧関係はH－５→本遺構→H－４の順である。

時　期　埋土や出土遺物から９世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数329点。そのうち土師坏4点、須恵蓋１点、須恵壺１点、土師甕１点、丸瓦１点を図示した。

H－４号住居跡（Fig.12・13、PL.２）

位　置　X16・17、Y130グリッド　**主軸方向**　竈のみ検出のため不明である。　**面　積**　(0.32)㎡

形状等　竈のみ検出のため不明である。

床　面　竈のみ検出のため不明である。

竈　東壁より検出され、主軸方向N－83°－Eであり、全長76cm、最大幅56cm、焚口部幅40cmを測る。

重　複　H－3と重複し、新旧関係はH－3→本遺構の順である。

時　期　時期を判定する出土遺物が少なく埋土からも不明であるが、重複関係から9世紀半ば以降と考えられる。

遺　物　総数16点。

H－５号住居跡（Fig.13、PL.１～３）

位　置　X16・17、Y131・132グリッド　**主軸方向**　（N－105°－E）　**面　積**　（24.31）㎡

形状等　重複により一部は不明であるが、方形と推定される。東西4.75m、南北5.38m、壁現高27.5cmを測る。

床　面　全体的に堅緻な床面。床の高さはH－３とほぼ同じである。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：52×40×78.5cm、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：46×40×71cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：43×40×72.5cm、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：42×32×80.5cm、円形）の４基を検出した。

竈　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N－109°－Eであり、全長85cm、最大幅94cm、焚口部幅56cmを測る。壁の補強材として瓦を使用する。

貯蔵穴　住居の南東隅に１基（長軸87cm×短軸83cm×深さ23.5cm、形状：円形）検出。穴に蓋をする形で４枚の瓦を、その瓦の下からは須恵坏片や小甕片を検出した。

重　複　H－３と重複し、新旧関係は本遺構→H－３の順である。

時　期　埋土や出土遺物から９世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数2,089点。そのうち土師坏１点、須恵坏６点、須恵蓋１点、須恵皿１点、土師大盤１点、土師甕１点、刀子３点、平瓦26点、熨斗瓦１点、丸瓦10点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.14、PL.３）

位　置　X17・18、Y133・134グリッド　**主軸方向**　（N－81°－E）　**面　積**　（14.42）㎡

形状等　四隅に丸みを帯びる方形を呈する。東西（4.20）m、南北（3.68）m、１号畠跡に切られわずかに残る壁現高は13.5cmを測る。

床　面　１号畠跡に切られ、床面は不明確であるが、わずかに堅緻な面を検出。

竈　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N－86°－Eであり、全長88cm、最大幅68cm、焚口部幅46cmを測る。

重　複　１号畠跡と重複し、新旧関係は本遺構→１号畠跡の順である。

時　期　埋土や出土遺物から９世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数246点。そのうち須恵坏１点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.14、PL.３）

位　置　X16・17、Y134～136グリッド　**主軸方向**　（N－21°－W）　**面　積**　（26.78）㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、方形と推定される。東西（5.48）m、南北（6.47）m、壁現高43.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦で締まりの強い床面を確認。炉は検出されなかったが、２つの柱穴の外周から壁際までに堅緻でわずかな高まりを検出。ベッド状遺構と考えられる。また、屋根材と思われる炭化物の塊が所々に分布する。P_3（長軸×短軸×深さ、形状：55×44×32cm、楕円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：40×35×81cm、円形）の２基を検出した。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物から古墳時代前期、4世紀後半と考えられる。

遺　物　総数582点。そのうち石田川式器台1点、石田川式台付甕2点、土師甕1点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.15、PL.3）

位　置　X17・18、Y137・138グリッド　**主軸方向**　（N－92°－E）　**面　積**　（19.84）㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、方形と推定される。東西（4.93）m、南北（4.80）m、壁現高33.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈の前に堅緻な床面を検出。

竈　東壁北寄りに住居内に入り込む形で検出され、主軸方向（N－83°－E）であり、全長47cm、最大幅98cm、焚口部幅40cmを測る。右袖石に凝灰岩を使用する。竈の前には支柱石が動いたものと思われる石あり。

重　複　H－９と重複し、新旧関係は本遺構→H－９の順である。

時　期　埋土や出土遺物から6世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数906点。そのうち土師坏２点、土師甕２点、有孔鍔付縄文土器２点、勾玉１点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.15、PL.4）

位　置　X17・18、Y137・138グリッド　**主軸方向**　（N－78°－E）　**面　積**　（9.90）㎡

形状等　四隅に丸みを帯びる東西に長軸を持つ長方形を呈する。東西3.60m、南北3.12m、壁現高21.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面で、わずかに堅緻な床面を検出。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－76°－Eであり、全長67cm、最大幅64cm、焚口部幅28cmを測る。構築材として左袖石に凝灰岩を使用する。

重　複　H－８と重複し、新旧関係はH－８→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物から10世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数504点。そのうち、須恵坏3点、須恵高台埦４点、灰釉皿１点、打製石斧２点、削器１点、土製円盤１点を図示した。

H－10号住居跡（Fig.16、PL.4）

位　置　X17・18、Y140・141グリッド　**主軸方向**　（N－35°－W）　**面　積**　（19.06）㎡

形状等　遺構確認面以下に掘り下げてしまったため壁は削平され全容は不明であるが、南北に長軸を持つ長方形と推定される。東西（3.92）m、南北5.96m、壁現高22.0cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。わずかに堅緻な床面を検出。

竈　なし。

重　複　２号畠跡と重複し、新旧関係は本遺構→２号畠跡の順である。

時　期　埋土や出土遺物に石田川式土器片を検出していることから古墳時代と考えられる。

遺　物　総数307点。

H－11号住居跡（Fig.16、PL.4）

位　置　X16、Y133・134グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）　**面　積**　（4.87）㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが、方形と推定される。東西（1.18）m、南北4.33m、壁現高35.5cmを測る。

床　面　確認面がわずかなため確実ではないが、全体的に平坦な床面。竈周辺は締まりが強い。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－87°－Eであり、全長90cm、最大幅68cm、焚口部幅54cmを測る。

壁の補強材及び両袖石に石を使用。竈の焼けが激しく、焼土が多量に検出された。

貯蔵穴 住居の南東隅に１基P_5（長軸×短軸×深さ、形状：93×73×29.5cm、円形）を検出。貯蔵穴より須恵坏２点、酸化焔焼成の高台埦１点、羽釜１点を検出。

重　複 １号畠跡と重複し、新旧関係は本遺構→１号畠跡の順である。

時　期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

遺　物 総数282点。そのうち須恵坏4点、須恵高台埦２点、須恵羽釜１点を図示した。

H－12号住居跡（Fig.17、PL.4）

位　置 X17～19、Y141・142グリッド　**主軸方向**　(N－33°－E)　**面　積**　(14.72)㎡

形状等 遺構確認面以下に掘り下げてしまったため、壁は削平され全容は不明であるが、南北に長軸を持つ長方形と推定される。東西（3.36）m、南北5.25m、壁現高12.5cmを測る。

床　面 全体的に平坦な床面。わずかに堅緻な床面を検出。

竈　なし。

重　複 なし。

時　期 埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、規模や形状などがH－10と類似していることから古墳時代と考えられる。

遺　物 総数39点。

H－13号住居跡（Fig.17、PL.4）

位　置 X17・18、Y130～132グリッド　**主軸方向**　(N－9°－W)　**面　積**　(4.40)㎡

形状等 大部分が調査区外のため全容は不明である。東西（1.04）m、南北（5.32）m、壁現高（9.5）cmを測る。

床　面 全体的に凹凸があり、わずかに堅緻な床面を検出。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複 H－５と重複し、新旧関係はH－５→本遺構の順である。

時　期 埋土や出土遺物から９世紀後半以降と考えられる。

遺　物 総数９点。そのうち土師坏１点、刀子２点、砥石１点を図示した。

(2)　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は2棟検出されているがどれも部分的な検出であり、可能性あるものとしておきたい。

B－１号住居跡（Fig.18、PL.4）

位　置 X17・18、Y137・138グリッド　**主軸方向**　(N－87°－E)　**面　積**　[11.49]㎡

形状等　（長方形）。東西3.5m、南北（3.6）m、部分的な検出である。

柱　穴 P_1（長軸×短軸×深さ、形状：58×50×60cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：64×60×53cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：48×44×80cm、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：58×52×69cm、円形）の４基を検出した。柱間寸法は東西：P_1－P_4で1.65m、P_3－P_4で1.8m、南北：P_1－P_2で3.2mである。

時　期 埋土や出土遺物に乏しく時代判定は難しいが、重複関係などから10世紀半ば以前と考えられる。

B－2号住居跡（Fig.18、PL.－）

位　置　X17、Y138～140グリッド　**主軸方向**　（N－7°－E）　**面　積**　[8.46]㎡

形状等　（方形）。東西（1.7）m、南北4.2m、部分的な検出である。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：62×56×37.5cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：(46)×(24)×8.5cm、(円形)）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：40×34×28.5cm、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：42×40×21.5cm、円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：44×40×42cm、円形）、P_6（長軸×短軸×深さ、形状：42×40×41.5cm、円形）、P_7（長軸×短軸×深さ、形状：46×42×56cm、円形）の7基を検出した。柱間寸法は東西：P_1－P_7で1.66m、南北：P_1－P_2で2.36m、P_3－P_4で0.94m、P_4－P_5で0.76m、P_5－P_6で1.6m、P_6－P_7で0.95mである。

時　期　埋土や出土遺物に乏しく時代判定は難しいが、2号畠跡との切り合い関係から10世紀後半以前と考えられる。

備　考　調査区外のため明らかではないが、柱列は西に延びると考えられる。

(3)　畠　　跡

1号畠跡（Fig.19、PL.－）

位　置　X16～18、Y132～134グリッド　**主軸方向**　（N－86°－E）

形状等　調査区を東西に走り、畝と畝の間隔は18cm～40cmで合計21条を数える。耕作面と考えられる層の上にはAs－B軽石（浅間B1108年）が堆積しており、セクションから畦の部分はローム漸移層であることが確認された。

重　複　H－6・H－11と重複し、新旧関係はH－6→H－11→本遺構の順である。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）を含むことや出土遺物及び重複関係から10世紀後半以降と考えられる。

遺　物　総数404点。

2号畠跡（Fig.19、PL.－）

位　置　X17・18、Y139～141グリッド　**主軸方向**　（N－175°－E）

形状等　大部分を削平され全容は不明であるが、調査区を南北方向に走り、畝と畝の間隔は16cm～29cmで、合計4条を数える。

重　複　H－10と重複し、新旧関係は本遺構→H－10の順である。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）を含むことや1号畠跡と主軸方向がほぼ直交し、同時期のものと考えられることから10世紀後半以降と思われる。つまり、2号掘立柱建物跡が使用されなくなり、中世以降に畑地化が進んだことを示すと考えられる。

遺　物　総数25点。

(4)　落ち込み

1号落ち込み（Fig.20、PL.1）

位　置　X16～18、Y136～139グリッド

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、楕円形と推定される。東西（10.23）m、南北（7.14）m、壁現高97.5cmを測る。

時　期　埋土がAs-B軽石（浅間B1108年）を含まず、As-C（浅間C4世紀前半～中葉）・Hr-FP軽石（榛名二岳伊香保テフラ６世紀中葉）も含まないこと、出土遺物が縄文土器主体であることなどから縄文時代と考えられる。

遺　物　総数1,900点（うち、縄文土器片1,718点）。そのうち深鉢15点、土製円盤１点、石皿１点を図示した。

備　考　最深部から上端までの深さは1.14mと非常に深く、底面には地山を掘り込んだ柱穴状の穴が７基、環状に検出された。これらの性格については上屋が存在した可能性も考えられるが、その性格は不明である。

また、本遺構からは多量の黒曜石片（総数154点、183g）が検出された。これらを総合すると、本遺構は縄文時代の住居の可能性も考えられる。

(5)　土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.４土坑・ピット計測表（P.16）を参照のこと。

(6)　グリッド等出土遺物

総数15点を検出した。そのうち須恵坏２点、ミニチュア土器１点、両耳壺１点、土製円盤１点、打製石斧１点を図示した。

Tab. 2　元総社小見Ⅴ遺跡　住居跡一覧表

遺構名	位　　置	主軸方向	規模（m）	壁現高	面 積	竈または炉	主な出土遺物		
			東西×南北	(cm)	(㎡)	位　置	土師器	須恵器	その他
J－1	X17、Y129・130	N－10°－W	(1.43)×(4.34)	43.5	(4.43)	—			深鉢・石皿
J－2	X16・17、Y131・132	N－36°－E	3.58 × 3.35	28.0	9.33	—			深鉢・耳栓
J－3	X16・17、Y130～132	N－23°－E	(3.67)×(5.75)	50.0	(18.76)	—			
H－1	X16・17、Y129	N－88°－E	3.00 ×(2.06)	22.0	(5.7)	(東壁)			石鏃
H－2	X17、Y129	N－85°－E	(2.60)×(2.46)	8.5	(5.96)	—		坏	
H－3	X16・17、Y130・131	N－73°－E	3.06 × 4.20	27.5	11.49	東壁中央南寄り	坏	坏・蓋・壺	
H－4	X16・17、Y130	—	—	—	(0.32)	(東壁)			
H－5	X16・17、Y131・132	N－105°－E	4.75 × 5.38	27.5	(24.31)	東壁中央南寄り	坏・甕	坏・蓋・皿	刀子・瓦
H－6	X17・18、Y133・134	N－81°－E	(4.20)×(3.68)	13.5	(14.42)	東壁南寄り	坏	坏	
H－7	X16・17、Y134～136	N－21°－W	(5.48)× 6.47	43.5	(26.78)	—	器台・台付甕		
H－8	X17・18、Y137・138	N－92°－E	(4.93)×(4.80)	33.5	(19.84)	(東壁北寄り)	坏・甕	高台埦	深鉢・勾玉
H－9	X17・18、Y137・138	N－78°－E	3.60 × 3.12	21.0	(9.9)	東壁南寄り	坏	坏・高台埦	灰釉皿・土製円盤
H－10	X17・18、Y140・141	N－35°－W	(3.92)× 5.96	22.0	(19.06)	—			
H－11	X16、Y133・134	N－86°－E	(1.18)× 4.33	35.5	(4.87)	東壁南寄り		坏・高台埦・羽釜	
H－12	X17～19、Y141・142	N－33°－E	(3.36)× 5.25	12.5	(14.72)	—			
H－13	X17・18、Y130～132	N－9°－W	(1.04)×(5.32)	(9.5)	(4.4)	—	坏		刀子・石皿・砥石

Tab. 3　元総社小見V遺跡　竈跡一覧表

遺構名	主軸方向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	竈構築材	備考
H－1	N － 87° － E	90	63	40	灰白色粘土	
H－2	—	—	—	—	—	
H－3	N － 76° － E	125	98	36	凝灰岩・灰白色粘土・瓦	瓦1点
H－4	N － 83° － E	76	56	40		
H－5	N － 109° － E	85	94	56	瓦	瓦4点
H－6	N － 86° － E	88	68	46		
H－7	N － 83° － E	47	98	40	石・凝灰岩	
H－8	N － 76° － E	67	64	28	凝灰岩	
H－11	N － 87° － E	90	68	54	石	
H－13	—	—	—	—	—	

Tab. 4　元総社小見V遺跡　土坑・ピット計測表

遺構名	位置	規模（cm）			形状	遺物総数	出土遺物
		長軸	短軸	深さ			
D－1	X16、Y129・130	134	72	58.5	隅丸方形	19	石皿
D－2	X17、Y131	114	88	42.0	楕円形	132	
D－3	X16、Y132	66	27	14.5	不定形	1	
D－4	X17、Y133	176	64	34.5	長方形	17	
D－5	X16、Y132	49	42	19.5	楕円形	6	
D－6	X16・17、Y137・138	77	48	49.5	長方形	3	
D－7	X17、Y138	80	35	43.0	楕円形	14	
D－8	X17・18、Y139	138	110	37.0	隅丸方形	48	
D－9	X18・19、Y141・142	138	77	32.5	隅丸長方形	10	
D－10	X17、Y141	71	52	40.0	楕円形	11	
D－11	X17、Y141・142	82	56	48.0	楕円形	13	
D－12	X18、Y142	116	87	28.0	隅丸長方形	22	
D－13	X18・19、Y143	138	103	62.5	隅丸長方形	17	
P－1	X17、Y136	75	30	12.0	不定形	6	
P－2	X17、Y137	47	43	65.0	円形	4	
P－3	X17、Y139	39	34	32.5	不定形	8	器台・手捏ね

Tab. 5　元総社小見Ⅴ遺跡　出土遺物観察表

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	J－1 埋土	深　鉢	① [27.4] ② (25.6)	①中粒②良好 ③にぶい黄褐色④口縁部～胴部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び渦巻。区画内縄文ＲＬ充填施文。胴部は２本単位の平行沈線垂下後、間に縄文ＲＬ交互に施文。渦巻は突出する。	加曽利Ｅ２
2	J－1 床直	深　鉢	① [23.0] ② (8.8)	①中粒②良好③にぶい赤橙色④口縁部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び小渦巻。区画内縄文ＲＬ充填施文。	加曽利Ｅ２
3	J－1 埋土	深　鉢	① [32.6] ② (7.5)	①粗粒②良好③にぶい橙色④口縁部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び渦巻。	加曽利Ｅ２
4	J－1 埋土	深　鉢	① － ② (8.1)	①中粒②良好 ③灰黄褐色④口縁部	隆帯と沈線で文様区画。	加曽利Ｅ２
5	J－1 埋土	深　鉢	① [21.6] ② (8.4)	①粗粒②良好③にぶい橙色④口縁部	口縁部は隆帯と沈線で文様区画。区画内は縄文ＲＬ充填施文。	加曽利Ｅ２
6	J－1 埋土	深　鉢	① － ② (8.0)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び渦巻。区画内縄文ＬＲ充填施文。渦巻は突出する	加曽利Ｅ３
7	J－1 埋土	深　鉢	① [19.6] ② (6.7)	①中粒②良好 ③明褐色④口縁部	口縁部内彎。文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び渦巻。区画内縄文ＬＲ充填施文。渦巻は突出する。	加曽利Ｅ２
8	J－1 埋土	深　鉢	① [15.2] ② (4.0)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部	縄文ＲＬ充填施文。文様帯は隆帯による渦巻。渦巻は突出する。	加曽利Ｅ３
9	J－1 埋土	深　鉢	① － ② －	①中粒②良好 ③明赤褐色④頸部	楕円形で文様を区画し、区画内縄文ＲＬ充填施文。その上に２列の円形刺突を横位に施す。	加曽利Ｅ３
10	J－1 埋土	深　鉢	① [37.4] ② (4.8)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	口縁部斜位方向に集合沈線を施し、その下に列点による刺突文を横位に廻らしている。	加曽利Ｅ３
11	J－1 埋土	深　鉢	① [29.0] ② (2.5)	①中粒②良好 ③黒褐色④口縁部	口唇部横位に列点による刺突文を施し、その下に１条の沈線を横位に廻らしている。	加曽利Ｅ３
12	J－1 埋土	石　皿	①最　長　30.6　②最大幅　19.0　③最大厚　4.8 ④重　さ　3000.0　⑤遺存度　1/3　⑥石　材　粗粒安山岩		裏は多孔石。一部欠損。	
13	J－1 埋土	打　製 石　斧	①最　長　10.7　②最大幅　3.6　③最大厚　1.7 ④重　さ　93.5　⑤遺存度　完形　⑥石　材　頁岩		短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。	
14	J－1 埋土	スクレ イパー	①最　長　6.2　②最大幅　4.6　③最大厚　1.4 ④重　さ　60.0　⑤遺存度　完形　⑥石　材　珪質頁岩		偏平な剥片を加工。刃部は細かい調整。表面僅かに自然面を残す。	
15	J－2 埋土	深　鉢	① － ② (16.3)	①粗粒②良好 ③明黄褐色④1/2	無文。斜位の篦磨き痕。	
16	J－2 埋土	深　鉢	① [42.0] ② (10.8)	①中粒②良好 ③橙色④口縁部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画及び渦巻。区画内縄文ＲＬ充填施文。胴部は２本単位の沈線垂下後、間に縄文ＲＬ交互に施文。渦巻は突出する。	加曽利Ｅ２
17	J－2 埋土	深　鉢	① [43.0] ② (8.3)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の楕円区画。区画内縄文ＲＬ充填施文。	加曽利Ｅ２
18	J－2 埋土	深　鉢	① [31.6] ② (5.3)	①中粒②良好 ③橙色④口縁部	口縁部横撫で、外傾平口縁。縄文ＬＲ充填施文。	加曽利Ｅ２
19	J－2 埋土	深　鉢	① [28.6] ② (7.3)	①中粒②良好 ③明褐色④口縁部	口縁部内傾平口縁、文様帯は隆帯と沈線による区画。区画内縄文ＲＬ充填施文。	加曽利Ｅ２
20	J－2 埋土	深　鉢	① [25.4] ② (3.9)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	縄文ＲＬ充填施文。口縁部横位に平行沈線を廻らし、その間に円形竹管による１条の連続刺突を施している。	加曽利Ｅ２
21	J－2 埋土	深　鉢	① [18.4] ② (4.3)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	口縁部文様帯は沈線の楕円区画。区画内縄文ＬＲ充填施文。	称名寺Ⅰ
22	J－2 埋土	深　鉢	① － ② －	①中粒②良好 ③明褐色④胴部	多条の平行沈線施文後に３条の隆帯を垂下。	加曽利Ｅ２
23	J－2 埋土	深　鉢	① [30.2] ② (6.1)	①中粒②良好③にぶい黄色④口縁部	口縁部文様帯は隆帯と沈線の小渦巻。渦巻より１条の隆帯が垂下。平行沈線充填施文。	加曽利Ｅ２
24	J－2 埋土	耳　栓 縄　文	①最大径　1.7　②最小径　1.7　③最大厚　2.5　④重　さ　7.7 ⑤胎　土　中粒　⑥焼　成　良好　⑦色　調　にぶい黄褐色　⑧遺存度　完形		両側共に円形刺突を施す。	
25	J－2 埋土	石　鏃	①最　長　(1.9)　②最大幅　2.3　③最大厚　0.4 ④重　さ　2.9　⑤遺存度　2/3　⑥石　材　チャート		平基無茎鏃。先端部欠損。	
26	H－1 床直	石　鏃	①最　長　1.8　②最大幅　1.4　③最大厚　0.3 ④重　さ　0.8　⑤遺存度　完形　⑥石　材　頁岩		凹基無茎鏃。基部の湾入が丸く浅い。周縁は全て鋸歯状、微細な調整が丁寧。	
27	H－2 床直	坏 須恵器	① [15.3] ② (6.4)	①中粒②良好 ③灰白色④1/5	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、体部中位から口縁部まで外傾。体部が深い。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
28	H－2 床直	高台埦 須恵器	① [13.0] ② (4.1)	①中粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤成形。口縁部から体部中位：欠損。緩やかに外傾で立ち上がる。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
29	H－3 床直	坏 土師器	① 12.6 ② 3.5	①中粒②良好 ③橙色④4/5	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で短く直立。口縁部内外面横位の撫で。体部外面篦削り、内面撫で。底部：浅い平底。	
30	H－3 埋土	坏 土師器	① [12.8] ② (3.3)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で短く内傾。口縁部内外面横位の撫で。体部外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底気味。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高③最長④最厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
31	H－3 埋土	坏 土師器	① [11.8] ② (3.2)	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁・体部：外傾して立ち上がり、口縁部に至り端部で短く直立。口縁部内外面横位の撫で。体部外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底。	
32	H－3 床直	坏 土師器	① [12.6] ② (3.8)	①中粒②良好 ③橙色④1/3	口縁・体部：外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部内外面横位の撫で。体部外面横位の篦削り、内面撫で。底部：平底。	
33	H－3 埋土	蓋 須恵器	① [14.0] ② (2.3)	①中粒②良好 ③灰白色④完形	轆轤成形。天井部：平坦。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	
34	H－3 埋土	壺 土師器	① [21.4] ② (12.6)	①中粒②良好 ③橙色④1/10	口縁部：外傾。器最大径。外面撫で、指圧痕有。内面撫で。胴部：上位に膨らみをもつ。外面斜位・横位の篦削り、内面撫で、輪積み痕有。下半から底部：欠損。	
35	H－3 埋土	甕 土師器	① [18.4] ② (10.5)	①中粒②良好 ③明褐色④1/6	口縁部：外反。外面撫で、指圧痕有。内面撫で。「コ」の字口縁。胴部：上位に膨らみをもつ。外面斜位の篦削り、内面撫で、篦押さえ痕有。中位から底部：欠損。	
36	H－5 埋土	丸　瓦	① (9.5) ② 2.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	行基葺式か。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
37	H－5 床直	坏 土師器	① 12.0 ② 3.4	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④完形	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、中位で弱い段をもち口縁部まで外傾。口縁部内外面横位の撫で。体部外面篦削り、内面撫で。底部：浅い平底。	
38	H－5 埋土	大　盤 土師器	① [21.2] ② (6.1)	①中粒②良好 ③褐灰色④1/4	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部至り端部で短く直立。口縁部内外面横位の撫で。体部外面篦削り、内面撫で、刷毛目痕有。底部：欠損。丸底と推測。	
39	H－5 埋土	坏 須恵器	① 12.8 ② 3.1	①中粒②良好 ③褐灰色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
40	H－5 竈、床直	坏 須恵器	① 13.3 ② 3.5	①中粒②良好 ③褐灰色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
41	H－5 床直	坏 須恵器	① 12.9 ② 3.1	①中粒②良好 ③褐灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。内外面油煙が残る。底部：回転糸切り未調整。	
42	H－5 床直	坏 須恵器	① [14.7] ② 4.1	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、弱い段をもち口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
43	H－5 埋土	坏 須恵器	① [13.0] ② 3.4	①細粒②良好 ③黄灰色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
44	H－5 埋土	蓋 須恵器	① 16.5 ② 4.1	①中粒②不良 ③灰色④完形	轆轤成形。天井部：外傾。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。全体的に歪んでいる。	
45	H－5 埋土	皿 須恵器	① 13.6 ② 2.9	①中粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：緩やかに外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
46	H－5 床直	鉢 須恵器	① [25.4] ② 22.3	①粗粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤成形。口縁・胴部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り再調整。	
47	H－5 埋土	甕 土師器	① [13.2] ② (7.0)	①中粒②良好 ③明褐色④1/5	口縁部：外反。外面撫で、指圧痕有。内面撫で。「コ」の字口縁。胴部：上位に膨らみをもつ。外面斜位の篦削り、内面撫で。中位から底部：欠損。	
48	H－5 埋土	刀　子 鉄　器	①最　長 18.1 ②最大幅　1.5 ③最大厚　0.5 ④遺存度 ほぼ完形		背側平ら。全体的に銹化著しい。	
49	H－5 床直	刀　子 鉄　器	①最　長 (10.3) ②最大幅　0.9 ③最大厚　0.4 ④遺存度　2/3		茎端部欠損。背側平ら。銹化著しい。	
50	H－5 埋土	刀　子 鉄　器	①最　長 (8.4) ②最大幅　1.1 ③最大厚　0.2 ④遺存度　1/3		先端部・茎部欠損。背側平ら。全体的に銹化著しい。	
51	H－5 床直	平　瓦	③ 40.8 ④ 2.0	①細粒②良好 ③暗青灰色④完形	粘土紐巻き上げ。凹面：布目擦り消し。凸面：平行叩き。重さ4000g 。側部面取り２面。広端部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
52	H－5 床直	丸　瓦	③ 40.0 ④ 3.1	①中粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	玉縁式。凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後撫で。重さ3050g 。側部面取り２面。広端部面取り１面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
53	H－5 床直	平　瓦	③ 35.6 ④ 2.3	①粗粒②良好 ③灰色④4/5	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
54	H－5 埋土	平　瓦	③ 38.7 ④ 2.1	①中粒②良好 ③黄灰色④4/5	桶巻き作り。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。狭端部面取り１面。煤付着。	還元焔焼成
55	H－5 埋土	平　瓦	③ (28.0) ④ 2.1	①細粒②良好 ③浅黄橙色④2/3	桶巻き作り。凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り３面。広端部面取り３面。二次被熱。煤付着。	酸化焔焼成
56	H－5 床直	平　瓦	③ (26.5) ④ 1.5	①粗粒②良好 ③灰色④1/2	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
57	H－5 床直	丸　瓦	③ 39.9 ④ 1.9	①細粒②良好 ③灰黄色④2/3	半截作り。行基葺式。凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り３面。狭端部面取り２面。煤付着。	酸化焔焼成
58	H－5 床直	平　瓦	③ (28.1) ④ 2.0	①中粒②良好③にぶい橙色④3/8	凹面：布目。凸面：平行叩き。側部面取り１面。狭端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
59	H－5 埋土	丸　瓦	③ (24.5) ④ 1.6	①細粒②良好 ③褐灰色④2/3	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
60	H－5 床直	平　瓦	③ (29.0) ④ 2.4	①細粒②良好 ③灰白色④3/8	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き後撫で。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高③最長④最厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
61	H－5 床直	平　瓦	③ (24.0) ④　(1.9)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	凹面：布目擦り消し。凸面：縄叩き。側部面取り２面。広端部面取り１面。二次被熱。薄手。	酸化焔焼成
62	H－5 床直	平　瓦	③ (12.8) ④　1.8	①中粒②良好 ③黄灰色④1/6	凹面：布目擦り消し。凸面：正格子叩き。側部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
63	H－5 床直	平　瓦	③ (14.7) ④　2.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/5	凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
64	H－5 床直	平　瓦	③ (15.8) ④　1.9	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/4	凹面：布目擦り消し。凸面：横位の篦撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。	酸化焔焼成
65	H－5 床直	平　瓦	③ (19.8) ④　2.4	①中粒②良好 ③暗灰黄色④1/5	凹面：布目。凸面：平行叩き。側部面取り２面。狭端部面取り１面。	酸化焔焼成
66	H－5 埋土	平　瓦	③ (13.5) ④　2.4	①細粒②良好 ③浅黄色④1/5	凹面：布目（粗）。凸面：撫で。側部面取り１面。	酸化焔焼成
67	H－5 竈、埋土	平　瓦	③ (12.0) ④　2.2	①細粒②良好③にぶい橙色④1/6	凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り２面。煤付着。	酸化焔焼成
68	H－5 床直	丸　瓦	③ (15.5) ④　1.7	①粗粒②良好 ③灰色④1/3	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。	還元焔焼成
69	H－5 埋土	丸　瓦	③ (10.3) ④　2.4	①細粒②良好 ③褐灰色④1/4	行基葺式か。凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
70	H－5 埋土	平　瓦	③ (14.3) ④　2.0	①細粒②良好 ③褐灰色④1/5	凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り３面。二次被熱。	酸化焔焼成
71	H－5 床直	丸　瓦	③ (14.0) ④　2.4	①細粒②良好 ③褐灰色④1/5	行基葺式か。凹面：布目（密）。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り１面。煤付着。	還元焔焼成
72	H－5 埋土	平　瓦	③ (10.5) ④　3.1	①細粒②良好 ③灰色④1/8	凹面：布目。凸面：平行叩き。側部面取り２面。	還元焔焼成
73	H－5 埋土	平　瓦	③ (19.0) ④　1.6	①細粒②良好 ③青灰色④1/5	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
74	H－5 床直	平　瓦	③ (11.5) ④　1.4	①細粒②良好 ③青灰色④1/12	凹面：布目。凸面：縦位の撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。薄手。	還元焔焼成
75	H－5 埋土	平　瓦	③ (20.2) ④　2.3	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/4	凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	酸化焔焼成
76	H－5 床直	平　瓦	③ (19.1) ④　2.1	①粗粒②良好 ③黄灰色④1/5	凹面：布目擦り消し。凸面：撫で。側部面取り１面。広端部面取り１面。自然釉付着。	還元焔焼成
77	H－5 床直	平　瓦	③ (11.0) ④　2.6	①細粒②良好 ③暗青灰色④1/4	凹面：布目。凸面：平行叩き。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
78	H－5 床直	丸　瓦	③ (12.2) ④　2.3	①中粒②良好 ③灰色④1/4	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。煤付着。	還元焔焼成
79	H－5 床直	平　瓦	③ (14.7) ④　1.0	①中粒②良好 ③灰色④1/8	凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り１面。薄手。	還元焔焼成
80	H－5 竈、床直	平　瓦	③ (16.5) ④　2.3	①細粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：正格子叩き後撫で。	還元焔焼成
81	H－5 竈、埋土	丸　瓦	③　(9.4) ④　2.3	①細粒②良好 ③褐灰色④1/8	行基葺式。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。二次被熱。煤付着。	酸化焔焼成
82	H－5 竈、床直	平　瓦	③ (11.7) ④　1.3	①細粒②良好 ③黄灰色④1/16	凹面：布目（密）。凸面：正格子叩き。二次被熱。薄手。	還元焔焼成
83	H－5 床直	丸　瓦	③　(7.6) ④　3.0	①細粒②良好 ③褐灰色④1/6	行基葺式か。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り３面。二次被熱。	還元焔焼成
84	H－5 床直	熨斗瓦	③　(9.0) ④　2.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	半截作り。凹面：布目。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。煤付着。	平瓦から転用か。 酸化焔焼成
85	H－5 竈、埋土	平　瓦	③ (14.0) ④　2.1	①細粒②良好 ③灰褐色④1/8	凹面：布目擦り消し。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き後撫で。側部面取り２面。狭端部面取り１面。	酸化焔焼成
86	H－5 埋土	丸　瓦	③ (15.8) ④　2.0	①粗粒②良好 ③灰白色④1/6	凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。	還元焔焼成
87	H－5 床直	平　瓦	③ (10.3) ④　2.2	①中粒②良好 ③青灰色④1/8	凹面：布目。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
88	H－6 床直	坏 須恵器	① [12.8] ②　3.4	①中粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部まで外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
89	H－7 埋土	器　台 土師器	①　9.0 ②　8.7	①中粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	器受部：外傾で立ち上がり、中位で外反して、再び短く外傾。外面撫で、下位斜位の篦磨き。内面撫で。中央に穿孔が１個。台部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。外面篦磨き、内面篦撫で、篦押さえ痕有。穿孔が３個。	石田川式
90	H－7 埋土	台付甕 土師器	①　- ②　8.3	①粗粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	小型。口縁部から胴部上半：欠損。胴部：球形。外面刷毛目、内面篦撫で。台部：欠損。	石田川式

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
91	H－7 埋土	台付甕 土師器	①　- ②　(21.7)	①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	口縁部から胴部上半：欠損。胴部：球形。外面不定方向の刷毛目、内面撫で。台部下半：欠損。	石田川式
92	H－7 埋土	甕 土師器	①　- ②　(9.7)	①中粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/8	口縁部：欠損。胴部上半から底部：欠損。外面不定方向の刷毛目後撫で。内面撫で。	石田川式
93	H－8 埋土	坏 土師器	①［12.0］ ②　5.0	①中粒②良好 ③橙色④1/4	口縁・体部：内彎して立ち上がり、口縁部で外傾。変換点に稜有。口縁部内外面横位の撫で。体部が深い。体部外面篦削り、内面撫で。底部：丸底。	
94	H－8 床直	坏 土師器	①［12.0］ ②　4.9	①中粒②良好 ③橙色④1/3	口縁・体部：内彎して立ち上がり、口縁部で外反。交換点に稜有。口縁部内外面横位の撫で。体部外面篦削り、内面撫で。底部：丸底気味。	
95	H－8 床直	甕 土師器	①　18.4 ②　(21.0)	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④1/3	口縁部：外反。内外面撫で。頸部「く」の字状。胴部：中位に膨らみをもつ。外面斜位・縦位の篦削り、内面撫で。下位から底部：欠損。	
96	H－8 床直	甕 土師器	①［24.6］ ②　(26.6)	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④1/3	口縁部：外反。器最大径。内外面撫で。頸部「く」の字状。胴部：中位に弱い膨らみをもつ。外面縦位の篦削り、内面撫で。下位から底部：欠損。	
97	H－8 床直	有孔鍔 付土器 縄　文	①［28.6］ ②　(9.2)	①中粒②良好③にぶい橙色④口縁部	口縁部は外傾、器面は内外面共に丁寧に研磨が施されている。文様は断面が三角形状の隆帯で鍔部に連結して渦巻きを施している。区画内は縄文を施しており、朱塗りされている。やや上向きの鍔部に穿孔を有する。	流れ込み 加曽利Ｅ２
98	H－8 床直	有孔鍔 付土器 縄　文	①［19.2］ ②　(7.5)	①中粒②良好 ③赤褐色④口縁部	直立した口縁部に穿孔を有する。器面は内外面共に丁寧に研磨が施されている。鍔部の断面は三角形状の隆帯。ベンガラ付着。内黒処理。	流れ込み 加曽利Ｅ２
99	H－8 床直	勾　玉	①最　長　2.1　②最大幅　1.1　③最大厚　0.6 ④重　さ　2.1　⑤遺存度　完形　⑥石　材　頁岩		穿孔有。小型の勾玉。表裏に弱い磨き。	
100	H－9 床直	坏 須恵器	①［11.4］ ②　3.7	①粗粒②良好③にぶい褐色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 小振り
101	H－9 竈、床直	坏 須恵器	①［10.8］ ②　3.4	①中粒②良好③明赤褐色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 小振り
102	H－9 竈、床直	坏 須恵器	①［12.1］ ②　4.1	①中粒②良好③灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	小振り
103	H－9 床直	高台埦 須恵器	①　12.0 ②　4.5	①中粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁部から体部：緩やかに外傾で立ち上がり、口縁部に至り端部で短く外反。内外面轆轤撫で、内外面に煤付着。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
104	H－9 床直	高台埦 須恵器	①［15.0］ ②　(5.0)	①中粒②良好 ③灰白色④3/5	轆轤成形。口縁部から体部：緩やかに外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り再調整。	
105	H－9 埋土	高台埦 須恵器	①［14.4］ ②　(7.6)	①中粒②良好 ③灰黄色④1/2	轆轤成形。口縁部から体部：緩やかに外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。内外面煤付着。底部：垂直に下がり、中位から「ハ」の字状に長く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
106	H－9 埋土	高台埦 灰　釉 陶　器	①［16.0］ ②　5.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁部から体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部に至り端部で外傾。内外面轆轤撫で。内外面に油煙が残る。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	刷毛塗り
107	H－9 竈、床直	皿 灰釉陶器	①［12.7］ ②　2.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤成形。口縁部から体部：緩やかに外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：非常に短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	刷毛塗り
108	H－9 床直	打　製 石　斧	①最　長　(13.5)　②最大幅　7.8　③最大厚　2.3 ④重　さ　300.0　⑤遺存度　3/4　⑥石　材　頁岩		撥形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。両面一部に自然面を残す。	
109	H－9 床直	打　製 石　斧	①最　長　11.5　②最大幅　4.4　③最大厚　1.2 ④重　さ　82.0　⑤遺存度　完形　⑥石　材　頁岩		短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。両面一部に自然面を残す。	
110	H－9 埋土	削　器 石　器	①最　長　6.9　②最大幅　7.1　③最大厚　2.2 ④重　さ　101.0　⑤遺存度　完形　⑥石　材　黒色頁岩		両縁側から刃部にかけて細かい調整。裏面一部に自然面を残す。	
111	H－9 埋土	土　製 円　盤	①長　径　2.1　②短　径　2.0　③最大厚　1.0　④重　さ　5.7 ⑤胎　土　中粒　⑥焼　成　良好　⑦色　調　明赤褐色　⑧遺存度　完形		縁辺は７面の研磨面を有する。縄文。	
112	H－11 竈、床直	坏 須恵器	①　10.6 ②　3.3	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④完形	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 小振り
113	H－11 竈、埋土	坏 須恵器	①　9.8 ②　3.9	①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部に至り端部で短く内彎。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成 小振り
114	H－11 竈、床直	坏 須恵器	①［10.4］ ②　3.6	①中粒②良好 ③橙色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至り端部で外反。内外面轆轤撫で。内外面に煤付着。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 小振り
115	H－11 床直	坏 須恵器	①　11.0 ②　4.0	①中粒②良好③にぶい黄褐色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成 小振り
116	H－11 竈、床直	高台埦 須恵器	①［12.8］ ②　5.4	①中粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤成形。口縁部から体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成
117	H－11 竈、埋土	高台埦 須恵器	①　19.3 ②　9.5	①中粒②良好③にぶい黄橙色④9/10	轆轤成形。口縁部から体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部に至り端部で外反。内外面轆轤撫で。口径が大きく、体部が深い。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
118	H－11 竈、埋土	羽　釜 須恵器	①［19.8］ ②　25.4	①粗粒②良好③にぶい褐色④1/2	口縁部：内傾。横位の撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。鍔部器最大径。胴部：上位に膨らみをもつ。外面斜位の篦削り、内面撫で。	酸化焔焼成
119	H－13 埋土	坏 土師器	①　12.0 ②　3.4	①中粒②良好③橙色④完形	口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部内外面横位の撫で。体部外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
120	H－13 埋土	刀　子 鉄　器	①最　長　(11.5) ②最大幅　1.5 ④重　さ　0.4 ⑤遺存度　2/3		切先部欠損。全体的に銹化著しい。	
121	H－13 埋土	刀　子 鉄　器	①最　長　(7.1) ②最大幅　0.8 ④重　さ　0.2 ⑤遺存度　1/3		刃部のみ残存。切先部はシャープ。背側平ら。銹化著しい。	
122	H－13 床直	砥　石	①最　長　(9.5) ②最大幅　4.3 ③最大厚　3.9 ④重　さ　270.0 ⑤遺存度　2/3 ⑥石　材　凝灰岩		手持ち砥石。使用面は４面。	
123	D－11 埋土	高　坏 土師器	① [16.0] ② (6.9)	①中粒②良好③にぶい褐色④1/2	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部内外面撫で。体部内外面刷毛目後撫で。台部：欠損。	石田川式
124	P－14 埋土	手　捏 土　器	①　8.7 ②　4.2	①中粒②不良 ③明赤④ほぼ完形	口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至り、端部で内傾。内外面刷毛目。底部：突出底。	小振り
125	P－14 埋土	器　台 土師器	①　- ②　(5.5)	①中粒②良好 ③暗赤褐色④1/5	器受部：欠損。台部：外傾した高台貼付。外面篦磨き、内面篦撫で。穿孔が４個か。	石田川式
126	O－1 床直	深　鉢	① [25.0] ② (13.5)	①中粒②良好③明赤褐色④口縁～胴部	多状の平行沈線施文後に、半截竹管による結節付線文を施す。小豆状貼付文を有する。	諸磯ｃ
127	O－1 床直	深　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好 ③黒褐色④胴部胴部	多状の平行沈線施文後に、波状隆帯が貼り付けられている。	諸磯ｃ
128	O－1 埋土	深　鉢	①　- ② (17.3)	①中粒②良好③にぶい褐色④胴部～底部	縄文ＲＬ施文後に、平行沈線を垂下している。	加曽利Ｅ２
129	O－1 埋土	浅　鉢	①　- ②　-	①中粒②良好③にぶい黄橙色④胴部	縄文ＬＲ施文後に、隆帯と沈線による小渦巻を施されており、朱塗りされている。ベンガラ付着。内黒処理。	加曽利Ｅ２
130	O－1 埋土	深　鉢	① [18.0] ② (8.0)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	頸部に２条の波状沈線と１条沈線を横位に３単位施されている。その下に突出した小渦巻の隆帯と横位に列点による刺突文を施している。	勝坂
131	O－1 床直	深　鉢	①　- ②　(4.1)	①中粒②良好 ③明黄褐色④口縁部	横位に平行条線後、ボタン状及び棒状貼付文を施している。	諸磯ｃ
132	O－1 床直	深　鉢	① [27.4] ② (6.7)	①粗粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部	横位に平行条線後、ボタン状及び縦棒状貼付文を施している。	諸磯ｃ
133	O－1 床直	深　鉢	①　- ②　(6.1)	①中粒②良好 ③橙色④口縁部	横位に平行条線後、ボタン状及び縦棒状貼付文を施している。	諸磯ｃ
134	O－1 埋土	深　鉢	①　- ②　(6.2)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部	王冠の把手。渦巻沈線。	焼町
135	O－1 埋土	深　鉢	①　- ②　(5.9)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	突起。小渦巻沈線。	焼町
136	O－1 床直	深　鉢	① [20.0] ② (8.6)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部	隆線による区画内に円形刺突文を施している。 山形の突起。	焼町
137	O－1 埋土	深　鉢	① [19.2] ② (5.3)	①中粒②良好 ③灰褐色④口縁部	隆線による区画内に円形刺突文を施している。	焼町
138	O－1 埋土	深　鉢	①　- ② (10.7)	①中粒②良好③にぶい黄褐色④口縁部	口縁突起部に隆帯による渦巻。区画外は集合沈線充填施文。	加曽利Ｅ２
139	O－1 埋土	深　鉢	① [24.0] ② (5.8)	①中粒②良好 ③黒褐色④口縁部	口縁部外傾。集合沈線および沈線による羽状文を施している。その上に浮線文を施している。	諸磯ｃ
140	O－1 埋土	深　鉢	①　- ② (4.4)	①中粒②良好 ③にぶい褐色④把手	装飾部。集合条線後に、刺突したボタン状及び縦棒状貼付文を施している。	諸磯ｃ
141	O－1 埋土	土　製 円　盤	①長　径　3.3 ②短　径　3.2 ③最大厚　1.3 ④重　さ　19.6 ⑤胎　土　中粒 ⑥焼　成　良好 ⑦色　調　明赤褐色 ⑧遺存度　完形		縁辺は７面の研磨面を有する。縄文。	
142	O－1 埋土	石　皿	①最　長　(14.2) ②最大幅　(11.0) ③最大厚　6.5 ④重　さ　1380.0 ⑤遺存度　1/6 ⑥石　材　安山岩		裏面に一部凹痕。	
143	X16Y132	両耳壺	①　- ②　-	①中粒②良好③にぶい黄褐色④把手	内傾した口縁部上に１対の把手を有する。文様帯を有していない。	加曽利Ｅ４
144	X17Y133	ﾐﾆｭﾁｱ 土器	①　[5.0] ②　5.2	①中粒②良好③にぶい黄褐色④1/3	口縁部：外傾。器最大径。内外面撫で。胴部：上位に膨らみをもつ。外面縦位の篦削り、内面撫で。底部：欠損。	
145	X18Y143	坏 須恵器	① [10.4] ②　3.3	①粗粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 小振り
146	遺構外	坏 須恵器	① [11.6] ②　3.8	①中粒②良好③にぶい橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成 小振り
147	遺構外	土　製 円　盤	①長　径　2.4 ②短　径　2.2 ③最大厚　1.4 ④重　さ　11.0 ⑤胎　土　中粒 ⑥焼　成　良好 ⑦色　調　褐色 ⑧遺存度　完形		縁辺は６面の研磨面を有する。無文。	
148	遺構外	打　製 石　斧	①最　長　8.6 ②最大幅　5.5 ③最大厚　1.4 ④重　さ　79.5 ⑤遺存度　完形 ⑥石　材　黒色安山岩		分銅形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した
②口径、器高の単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

2　元総社小見内VI遺跡A区

(1)　竪穴住居跡

（住居跡の出土遺物の項目については、遺構の重複からどの住居跡の遺物か特定できないものがあるため、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。）

H－1号住居跡（Fig.22、PL.5）

位　置　X152・153、Y108・109グリッド　**主軸方向**　(N－72°－E)　**面　積**　(6.20)㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西3.45m、南北1.93m、壁現高24cmを測る。

床　面　極めて堅緻な床面。竈前より多量の灰を検出。周溝あり。

竈　一部調査区外のため確実ではないが、東壁より検出され、主軸方向N－76°－Eであり、全長125cm、最大幅(97)cm、焚口部幅(61)cmを測る。壁の構築材（補強材）及び左袖石に凝灰岩を使用する。

重　複　H－2・H－3と重複し、新旧関係はH－3→本遺構→H－2の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から9世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数112点。そのうち土師甑1点、土師甕1点を図示した。

H－2号住居跡（Fig.23、PL.5）

位　置　X153、Y108・109グリッド　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　**面　積**　(0.52)㎡

形状等　竈のみの検出のため不明である。

床　面　竈のみの検出のため不明である。

竈　竈のみの検出のため確実ではないが、東壁より検出され、主軸方向N－75°－Eであり、全長100cm、最大幅82cm、焚口部幅45cmを測る。壁の構築材（補強材）及び左袖石に凝灰岩を使用する。

重　複　H－1・H－3と重複し、新旧関係は切り合いからH－3→H－1→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から9世紀半ば以降と考えられる。

遺　物　総数6点。そのうち平瓦1点を図示した。

H－3号住居跡（Fig.22、PL.5）

位　置　X152・153、Y109グリッド　**主軸方向**　(N－64°－E)　**面　積**　(6.84)㎡

形状等　H－1と重複しているため全容は不明であるが、方形と推定される。東西2.98m、南北(2.21)m、壁現高29.5cmを測る。

床　面　極めて堅緻な床面。周溝あり。所々に石が散在する。

竈　東壁南隅より検出されると推定され、主軸方向N－73°－Eであり、全長128cm、最大幅64cm、焚口部幅17cmを測る。支柱石及び両袖石に凝灰岩を使用する。やや長い煙道をもつ。

重　複　H－1・H－2と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H－1→H－2の順である。

時　期　埋土や出土遺物から7世紀半ばと考えられる。

遺　物　総数265点。そのうち土師壺3点、土師甕1点、須恵蓋1点、釘1点を図示した。

H－4号住居跡（Fig.24、PL.－）

位　置　X154、Y116・117グリッド　**主軸方向**　(N－66°－E)　**面　積**　[6.21]㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、方形と推定される。東西[2.44]m、南北3.75mを測る。床面のみの検出につき壁現高は測定不可能。

床　面　全体的に平坦な床面。わずかに堅緻な面を検出。

竈　W－１に切られ、検出せず。

重　複　W－１と重複し、新旧関係は本遺構→W－１の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から10世紀後半以前と考えられる。

遺　物　総数１点。

H－5号住居跡（Fig.23、PL.６）

位　置　X152・153、Y112グリッド　**主軸方向**　(N－173°－E)　**面　積**　(1.38)㎡

形状等　大部分が調査区外のため全容は不明である。東西(0.48)m、南北2.72m、壁現高20cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。

竈　東壁南寄りから検出され、主軸方向N－80°－Eであり、全長80cm、最大幅65cm、焚口部幅40cmを測る。

重　複　H－７と重複し、新旧関係は切り合いからH－７→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、H－６と住居の形状及び主軸方向などが類似していることなどから、10世紀前半頃と考えられる。

遺　物　なし。

H－6号住居跡（Fig.23、PL.６）

位　置　X153・154、Y112・113グリッド　**主軸方向**　(N－89°－E)　**面　積**　(9.17)㎡

形状等　四隅に丸みを帯びる南北に長軸を持つ長方形と推定される。東西2.83m、南北3.48m、壁現高26.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈前は締まりが強い。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－81°－Eであり、全長58cm、最大幅53cm、焚口部幅32cmを測る。壁の構築材（補強材）として凝灰岩を使用する。

重　複　H－８と重複し、新旧関係は本遺構→H－８の順である。

時　期　遺物や埋土から10世紀前半と考えられる。

遺　物　総数193点。そのうち高台埦１点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.24、PL.６）

位　置　X152・153、Y112・113グリッド　**主軸方向**　(N－87°－E)　**面　積**　(4.02)㎡

形状等　(方形)。東西(1.30)m、南北3.02m、壁現高20cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈前は締まりが強い。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－83°－Eであり、全長72cm、最大幅80cm、焚口部幅54cmを測る。

重　複　H－５と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H－５の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、H－６と住居の形状及び主軸方向などが類似していることなどから、10世紀前半頃と考えられる。

遺　物　総数71点。

H－8号住居跡（Fig.24、PL.6）

位　置　X153・154、Y113グリッド　**主軸方向**　（N－102°－E）　**面　積**　6.64㎡

形状等　ややいびつな方形を呈する。東西2.68m、南北2.85m、壁現高25cmを測る。

床　面　一部に堅緻な床面を検出。竈前は締まりが強い。P_2（長軸×短軸×深さ、形状：27×28×27.5cm、楕円形）の1基を検出。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－109°－Eであり、全長105cm、最大幅56cm、焚口部幅34cmを測る。壁の構築材（補強材）及び両袖石、天井石に凝灰岩を使用する。天井石は竈の前に崩れる。やや長く細く延びる煙道をもつ。

重　複　なし。

時　期　遺物や埋土から10世紀後半と考えられる。

遺　物　総数124点。そのうち土師甕2点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.25、PL.7）

位　置　X153・154、Y114グリッド　**主軸方向**　（N－92°－E）　**面　積**　(9.27)㎡

形状等　東壁北隅に丸みを帯び、東西に長軸を持つ長方形を呈する。東西3.58m、南北（2.5）m、壁現高15.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。わずかに堅緻な床面を検出。

竈　東壁より検出され、主軸方向N－106°－Eであり、全長125cm、最大幅73cm、焚口部幅40cmを測る。右袖石に凝灰岩を使用したと思われる。

重　複　H－10・H－11・H－17・H－18と重複し、新旧関係は切り合いからH－18→本遺構→H－10→H－11→H－17の順である。

時　期　遺物や埋土、重複関係から10世紀後半と考えられる。

遺　物　総数78点。そのうち須恵坏1点を図示した。

H－10号住居跡（Fig.25、PL.7）

位　置　X153・154、Y114グリッド　**主軸方向**　（N－89°－E）　**面　積**　11.81㎡

形状等　方形を呈する。東西3.7m、南北3.28m、壁現高12.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。わずかに堅緻な床面を検出。P_1（長軸×短軸×深さ、形状：35×33×42cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：28×27×53cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：35×32×10cm、円形）の3基を検出。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－98°－Eであり、全長79cm、最大幅72cm、焚口部幅34cmを測る。壁の構築材（補強材）として粘土を使用する。

重　複　H－9・H－11・H－17・H－18と重複し、新旧関係は切り合いからH－18→H－9→本遺構→H－11→H－17の順である。

時　期　遺物や埋土、重複関係から11世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数77点。そのうち須恵坏1点を図示した。

H－11号住居跡（Fig.26、PL.7）

位　置　X153・154、Y114・115グリッド　**主軸方向**　（N－91°－E）　**面　積**　6.31㎡

形状等　大部分が重複により一部不明であるが、方形と推定される。東西2.7m、南北2.46m、壁現高19.5cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈前は締まりが強い。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向N－120°－Eであり、全長100cm、最大幅54cm、焚口部幅26cmを測る。

重　複　H－９・H－10・H－17・H－18と重複し、新旧関係は切り合いからH－18→H－９→H－10→本遺構→H－17の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から11世紀初頭以降と考えられる。

遺　物　総数30点。

H－12号住居跡（Fig.26、PL.７）

位　置　X153、Y116・117グリッド　**主軸方向**　(N－85°－E)　**面　積**　(5.69)㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西(1.82)m、南北3.37m、壁現高14cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。竈前は締まりが強い。

竈　東壁北寄りより検出され、主軸方向N－87°－Eであり、全長62cm、最大幅53cm、焚口部幅30cmを測る。

重　複　なし。

時　期　出土遺物からの時代判定は難しいが、切り合い関係よりW－４・５号溝跡埋没後のものであることから９世紀後半以降と考えられる。

遺　物　総数83点。

H－13号住居跡（Fig.26、PL.８）

位　置　X153・154、Y120・121グリッド　**主軸方向**　(N－91°－E)　**面　積**　(8.62)㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが方形と推定される。東西2.6m、南北3.48m、壁現高10cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面だが、大部分は削平され堅緻な面は極わずかに検出するのみ。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－104°－Eであり、全長68cm、最大幅67cm、焚口部幅44cmを測る。壁の構築材（補強材）として石・粘土を使用する。

重　複　なし。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しく、不明である。

遺　物　総数19点。

H－14号住居跡（Fig.27、PL.８）

位　置　X154、Y117～119グリッド　**主軸方向**　(N－13°－W)　**面　積**　[15.22]㎡

形状等　W－１と重複し、大部分が削平されているため全容は不明である。東西[2.95]m、南北[6.10]mを測る。

床　面　W－１に切られ、把握しづらいが全体的に堅緻な床面。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　W－１号溝跡と重複し、新旧関係は本遺構→W－１の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しく不明であるが、重複関係から10世紀後半以前と考えられる。

遺　物　なし。

H－15号住居跡（Fig.27、PL.８）

位　置　X153・154、Y109・110グリッド　**主軸方向**　（N－11°－E）　**面　積**　(11.9)㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明である。東西(2.6)m、南北4.72m、壁現高28.5cmを測る。

床　面　きわめて堅緻な床面。P_2（長軸×短軸×深さ、形状：43cm×33cm×36.5cm、楕円形）、１基を検出。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－16と重複し、新旧関係は→本遺構→H－16の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から10世紀半ば頃と考えられる。

遺　物　総数280点。そのうち須恵カワラケ１点、土師甕１点、平瓦１点を図示した。

H－16号住居跡（Fig.27、PL.8）

位　置　X153・154、Y110・111グリッド　**主軸方向**　（N－85°－E）　**面　積**　(8.92)㎡

形状等　一部調査区外のため全容は不明であるが、方形と推定される。東西(3.1)m、南北3.06m、壁現高22cmを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。わずかに堅緻な床面を検出。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　H－15と重複し、新旧関係はH－15→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から10世紀半ば以降と考えられる。

遺　物　総数126点。そのうち丸瓦１点を図示した。

H－17号住居跡（Fig.28、PL.８）

位　置　X153・154、Y114・115グリッド　**主軸方向**　（N－92°－E）　**面　積**　7.81㎡

形状等　重複が激しく全容は不明であるが方形と推定される。東西2.52m、南北3.3m、壁現高7.5cmを測る。

床　面　H－18に切られ、確認面はわずかであるが、一部に堅緻な床面を検出。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－95°－Eであり、全長70cm、最大幅60cm、焚口部幅38cmを測る。

重　複　H－9・10・11・18と重複し、新旧関係は切り合いからH－18→H－９→H－10→H－11→本遺構の順である。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から11世紀初頭以降と考えられる。

遺　物　総数43点。

H－18号住居跡（Fig.28、PL.９）

位　置　X153・154、Y114グリッド　**主軸方向**　（N－88°－E）　**面　積**　9.8㎡

形状等　方形。東壁北隅に丸みを帯び東西に長軸を持つ長方形を呈する。東西3.76m、南北2.9m、壁現高21cmを測る。

床　面　全体的に堅緻な床面。一面に粘土を貼り、H－17の使用面を整地した後、新たに建てたものと思われる。竈前は締まりが強く、多量の灰を検出。湿気除けと考えられる。

竈　東壁南隅より検出され、主軸方向N－104°－Eであり、全長88cm、最大幅77cm、焚口部幅49cmを測る。壁の構築材（補強材）および左袖石に凝灰岩を使用する。竈前より構築材として使用されたと思われる丸瓦を検出。竈の周辺の壁には粘土を貼り補強する。

重　複　H－９・10・11・17と重複し、新旧関係は切り合いから本遺構→H－９→H－10→H－11→H－17の順である。

時　期　埋土や出土遺物から、10世紀後半と考えられる。

遺　物　総数245点。そのうちカワラケ１点、須恵坏１点、須恵高台埦１点、須恵高台皿１点、平瓦５点（うち篦書「多」の押印をもつもの１点）、丸瓦３点を図示した。

(2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は３棟検出されているがどれも部分的な検出であり、可能性あるものとしておきたい。

B－１号住居跡（Fig.28、PL.９）

位　置　X152・153、Y109・110グリッド　**主軸方向**　(N－94°－E)　**面　積**　[4.04]㎡

形状等　（方形）。東西2.27m、南北1.83m、部分的な検出である。

柱　穴　P_2（長軸×短軸×深さ、形状：28×35×41㎝、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：50×28×24.5㎝、楕円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：34×32×49㎝、円形）の３基を検出した。柱間寸法は東西：P_2－P_3で2.25m、南北：P_3－P_4で1.85mである。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から10世紀前半以前と考えられる。

B－2号住居跡（Fig.29、PL.－）

位　置　X152・153、Y110・111グリッド　**主軸方向**　(N－93°－E)　**面　積**　[13.32]㎡

形状等　（方形）。東西3.83m、南北3.52m、部分的な検出である。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：32×27×21.5㎝、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：33×25×26㎝、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：51×28×36.5㎝、楕円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：38×30×22㎝、楕円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：(65)×(30)×(40)㎝、（楕円形））、P_6（長軸×短軸×深さ、形状：42×32×26㎝、楕円形）の６基を検出した。柱間寸法は南北：P_1－P_2で1.75m、P_2－P_3で1.8m、東西：P_3－P_4で1.78m、P_5－P_6で2.18mである。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しいが、重複関係から10世紀半ば以前のものと考えられる。

B－3号住居跡（Fig.29、PL.－）

位　置　X153、Y118・119グリッド　**主軸方向**　(N－10°－W)　**面　積**　5.86㎡

形状等　（方形）。東西 (0.9) m、南北4.1m、部分的な検出である。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：54×45×52㎝、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：32×30×30㎝、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：60×50×50㎝、楕円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：38×36×50.5㎝、円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：34×28×43㎝、楕円形）、の５基を検出した。柱間寸法は東西：P_1－P_5で1.4m、南北：P_2－P_3で2.05m、P_3－P_4で1.15m、P_4－P_5で0.9mである。

時　期　埋土や出土遺物に乏しく時代判定は難しいが、柱間寸法が不揃いであることから中世のものと考えられる。

備　考　建物は調査区外の西に延びると考えられる。

(3) 竪穴状遺構

T－1号住居跡 (Fig.29、PL.9)

位　置　X152・153、Y110・111グリッド　**主軸方向**　(N－98°－E)　**面　積**　(3.16)㎡

形状等　(方形)。東西(2.11)m、南北1.75m、壁現高16cmを測る。

床　面　堅緻な床面を所々に検出。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明であるが重複関係から10世紀半ば以降と考えられる。

遺　物　総数13点。

(4) 溝　　跡

W－1号溝跡 (Fig.30、PL.9)

位　置　X154・155、Y115～124グリッド　**主軸方向**　(N－177°－E)　**形状等**　逆台形。

時　期　埋土や流れ込みの出土遺物から10世紀後半以前に機能していたと考えられる。

遺　物　総数74点。そのうち土師坏１点、高台埦１点、羽釜１点、丸瓦１点を図示。

W－2号溝跡 (Fig.30、PL.9)

位　置　X153～155、Y123グリッド　**主軸方向**　(N－80°－W)　**形状等**　逆台形。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）が含まれないことから、1108年以前の埋没であると考えられる。

遺　物　総数78点。そのうち羽釜2点、平瓦2点、丸瓦1点を図示した。

備　考　本遺構及びW－３号溝跡の走行方位とW－４・５号溝跡の走行方位を延長すると、それぞれが垂直につながる可能性が強いと考えられる。また、水が流れた形跡がないことからこれらは当時の土地を分ける区画の溝で、重複関係や埋土から国府が機能していた9世紀半ば頃のものであると考えられる。

W－3号溝跡 (Fig.30、PL.9)

位　置　X153～155、Y123・124グリッド　**主軸方向**　(N－83°－W)　**形状等**　逆台形。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）が含まれないことから、1108年以前の埋没であると考えられる。

遺　物　なし。

備　考　本遺構及びW－２号溝跡の走行方位とW－４・５号溝跡の走行方位を延長すると、それぞれが垂直につながる可能性が強いと考えられる。また、水が流れた形跡がないことからこれらは当時の土地を分ける区画の溝で、重複関係や埋土から国府が機能していた９世紀半ば頃のものであると考えられる。

W－4号溝跡 (Fig.31、PL.9・10、口絵)

位　置　X153・154、Y109・116グリッド　**主軸方向**　(N－10°－W)　**形状等**　逆台形。

時　期　２面目調査にて検出。埋土にＡｓ－Ｂ軽石（浅間B1108年）が含まれないことから、1108年以前の埋没であると考えられる。また、溝が埋没した後に9世紀後半の竪穴住居跡が確認されていることから、９世紀半ば頃までには溝としての機能は失われていたと考えられる。

遺　物　総数500点。そのうち須恵カワラケ１点、土師坏２点、土師鉢１点、須恵坏４点、コップ型須恵器１点、土師台付甕１点、須恵大甕１点、磨製石斧１点、鉄製品（馬具か）１点を図示した。

備　考　本遺構には水性堆積がなく水が流れた形跡がないことから、当時の土地を分ける区画の役割を果たしていたと考えられる。さらに、堅緻面が数面確認されたことから、道として使用されたと推測され、区画

のための溝として機能していたのは９世紀半ば以前の国府が機能していた頃と考えられる。また、本遺構及びW－５号溝跡は主軸方向や埋土などから、小見内Ⅲ遺跡（2001）３区のW－３・４号溝跡につながり、北側の12区のW－３号溝跡につながるものと考えられる。

本遺構北底部および側面立ち上がり部分からは、竈構築材採掘痕と思われる遺構を検出した。詳細は考察に譲るが、溝としての役割を終え、道として使用されるに至った際、この付近で竪穴住居の竈の構築材に適した良質の凝灰岩が発見され、採取されたものと思われる。

W－5号溝跡（Fig.31、PL.９・10、口絵）

位　置　X153・154、Y108～116グリッド　**主軸方向**　（N－10°－W）　**形状等**　逆台形。

時　期　２面目の確認面にて検出。埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）が含まれないことから、1108年以前の埋没であると考えられる。また、溝が埋没した後に９世紀後半の竪穴住居跡が確認されていることから、９世紀半ば頃までには溝としての機能は失われていたと考えられる。

遺　物　総数125点。そのうち土師坏２点、須恵坏１点、高台埦２点、須恵蓋２点、須恵大盤１点、須恵長頸壺１点、須恵壺２点、平瓦１点、丸瓦１点を図示した。

備　考　本遺構の埋土には水性堆積がなく水が流れた形跡がないことから、当時の土地を分ける区画の役割を果たしていたと考えられる。さらに、堅緻面が数面確認されたことから、道として使用されたと推測され、区画のための溝として機能していたのは９世紀半ば以前の国府が機能していた頃と考えられる。

また、本遺構及びW－４号溝跡は主軸方向や埋土などから、小見内Ⅲ遺跡（2001）３区のW－３・４号溝跡につながり、北側の12区のW－３号溝跡につながるものと考えられる。

本遺構北底部および側面立ち上がり部分からは、竈構築材採掘痕と思われる遺構を検出した。詳細は考察に譲るが、溝としての役割を終え、道として使用されるに至った際、この付近で竪穴住居の竈の構築材に適した良質の凝灰岩が発見され、採取利用されたものと思われる。

(5) 土坑・ピット・井戸跡

土坑・ピットについては、Tab.９・10土坑・ピット・井戸跡計測表（P.32・33）を参照のこと。

I－1号井戸跡（Fig.34、PL.10）

位　置　X153、Y115グリッド

形状等　円形。長軸136cm、短軸120cm、確認面からの深さ（188)cmを測る。井戸の側壁は粘土で堅固にする。

時　期　埋土や重複関係から9世紀半ば以降と考えられる。

遺　物　総数24点。

I－2号井戸跡（Fig.34、PL.10）

位　置　X153、Y112グリッド

形状等　円形。長軸82cm、短軸80cm、確認面からの深さ（98.5)cmを測る。井戸の側壁は粘土で堅固にする。

時　期　埋土や重複関係から10世紀前半以前と考えられる。

遺　物　総数6点。

(6)　グリッド等出土遺物

総数531点、そのうち須恵カワラケ３点、土師坏１点、須恵坏２点、鎌１点、臼玉１点を図示した。

Tab. 6　元総社小見内Ⅵ遺跡A区　住居跡一覧表

遺構名	位　　置	主軸方向	規模（m）	壁現高	面 積	竈	主な出土遺物		
			東西×南北	(cm)	(㎡)	位　置	土師器	須恵器	その他
H－ 1	X152・153、Y108・109	N － 72° － E	3.45×1.93	24.0	(6.2)	(東壁)	壺・甑・甕		
H－ 2	X153、Y108・109	—	—	—	(0.52)	(東壁)			
H－ 3	X152・153、Y109	N － 64° － E	2.98 ×(2.21)	29.5	(6.84)	(東壁南隅)	壺・甕	蓋	釘
H－ 4	X154、Y116・117	N － 66° － E	[2.44]× 3.75	—	[6.21]	—		高台鉢	
H－ 5	X152・153、Y112	N － 173° － E	(0.48)× 2.72	20.0	(1.38)	東壁南寄り			
H－ 6	X153・154、Y112・113	N － 89° － E	2.83 × 3.48	26.5	(9.17)	東壁南寄り		高台埦	
H－ 7	X152・153、Y112・113	N － 87° － E	(1.30)× 3.02	20.0	(4.02)	東壁中央			
H－ 8	X153・154、Y113	N － 102° － E	2.68 × 2.85	25.0	6.64	東壁中央	甕		
H－ 9	X153・154、Y114	N － 92° － E	3.58 ×(2.5)	15.5	(9.27)	(東壁)		坏	
H－10	X153・154、Y114	N － 89° － E	3.7 × 3.28	12.5	11.81	東壁中央		坏	
H－11	X153・154、Y114・115	N － 91° － E	2.7 × 2.46	19.5	6.31	東壁中央			
H－12	X153、Y116・117	N － 85° － E	(1.82)× 3.37	14.0	(5.69)	東壁北寄り			
H－13	X153・154、Y120・121	N － 91° － E	2.6 × 3.48	10.0	(8.62)	東壁北寄り		カワラケ	
H－14	X154、Y117～119	N － 13° － W	[2.95]×[6.1]	—	[15.22]	—			
H－15	X153・154、Y109・110	N － 11° － E	(2.6) × 4.72	28.5	(11.9)	—	甕	カワラケ	
H－16	X153・154、Y110・111	N － 85° － E	(3.1) × 3.06	22.0	(8.92)	—			
H－17	X153・154、Y114・115	N － 92° － E	2.52 × 3.3	7.5	7.81	東壁南寄り			
H－18	X153・154、Y114	N － 88° － E	3.76 × 2.9	21.0	9.8	東壁南隅		高台埦・高台皿	
T－ 1	X152・153、Y110・111	N － 98° － E	(2.11)×1.75	16.0	(3.16)	—			

Tab. 7　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区　竈跡一覧表

遺構名	主　軸　方　向	全長(cm)	最大幅(cm)	焚口部幅(cm)	構築材	備考
H－ 1	N － 76° － E	125	(97)	(61)	凝灰岩	
H－ 2	N － 75° － E	100	82	45	凝灰岩	
H－ 3	N － 73° － E	128	64	17	凝灰岩	
H－ 4	—	—	—	—	—	
H－ 5	N － 80° － E	80	65	40	—	
H－ 6	N － 81° － E	58	53	32	凝灰岩	
H－ 7	N － 83° － E	72	80	54	—	
H－ 8	N －109° － E	105	56	34	凝灰岩	
H－ 9	N －106° － E	125	73	40	(凝灰岩)	
H－10	N － 98° － E	79	72	34	粘土	
H－11	N －120° － E	100	54	26	—	
H－12	N － 87° － E	62	53	30	—	
H－13	N －104° － E	68	67	44	石・粘土	
H－14	—	—	—	—	—	
H－15	—	—	—	—	—	
H－16	—	—	—	—	—	
H－17	N － 95° － E	70	60	38	—	
H－18	N －104° － E	80	77	49	凝灰岩・瓦・粘土	瓦1点。

Tab. 8　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区　溝跡計測表

遺構名	位　　置	主軸方向	長さ	最大幅（m）		深　さ	底面レベル差	断面形
			(m)	上幅	下幅	(cm)	(m)	
W－1	X154･155、Y115～124	N－ 177°－E	35.9	1.01	(0.78)	46	0.52	逆台形
W－2	X153～155、Y123	N－ 80°－W	6.35	1.36	1.14	60	0.12	逆台形
W－3	X153～155、Y123･124	N－ 83°－W	6.32	1.18	0.9	60	0.55	逆台形
W－4	X153･154、Y109～116	N－ 10°－W	24.6	1.8	0.5	65	0.14	逆台形
W－5	X153･154、Y108～116	N－ 10°－W	27.3	1.4	0.8	91	0.45	逆台形

Tab. 9　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区　土坑・井戸跡計測表

遺構名	位　　置	規　模（cm）			形　状	遺物総数	出　土　遺　物	備　考
		長　軸	短　軸	深　さ				
D－1	X153･154、Y111･112	150	95	116	楕円形	1		
D－2	X153･154、Y112	135	104	120	楕円形	182	鉄鏃・坏・高台埦･蓋	
D－3	X153･154、Y111	64	48	53	楕円形	109	坏・紡錘車	
I－1	X153、Y115	136	120	(188)	円形	24	坏	
I－2	X153、Y112	82	80	(98.5)	円形	6		

Tab. 10　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区　ピット計測表

遺構名	位置	規模(cm)			形状	遺物総数	遺構名	位置	規模(cm)			形状	遺物総数
		長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
P－1	X154、Y109・110	46	33	25	円形	4	P－30	X154、Y116	48	32	29.5	楕円形	
P－2	X153、Y110	76	68	45	円形	12	P－31	X153、Y117	41	37	80.5	円形	
P－3	X154、Y110	62	53	33	円形	4	P－32	X153、Y117	56	47	42	円形	3
P－4	X154、Y110	35	34	29	円形		P－33	X153・154、Y117	40	39	37.5	円形	9
P－5	X153、Y110	42	36	67	円形	10	P－34	X153、Y117	40	34	49.5	円形	1
P－6	X153、Y110	29	26	49	円形		P－35	X153、Y117	102	30	49	楕円形	1
P－7	X153、Y111	37	33	61	円形	6	P－36	X153、Y118	74	40	49.5	楕円形	
P－8	X153、Y111	48	47	52.5	円形	16	P－37	X153、Y118	54	45	32	楕円形	
P－9	X153・154、Y111	68	61	67	円形	22	P－38	X154、Y119	59	57	58	円形	
P－10	X154、Y111	106	90	90	円形	23	P－39	X153、Y119	46	42	56.5	円形	23
P－11	X153、Y112	43	38	30	円形	2	P－40	X154、Y119	48	37	32	円形	
P－12	X154、Y112	(127)	(85)	(22.5)	(円形)	22	P－41	X154、Y119・120	83	82	19.5	円形	
P－13	X154、Y112	36	33	30.5	円形		P－42	X153・154、Y120	40	26	44	楕円形	
P－14	X154、Y112・113	(62)	(40)	(23.5)	(円形)		P－43	X154、Y111	(76)	(47)	(60)	(楕円形)	
P－15	X153・154、Y113	37	35	61.5	円形		P－44	X154、Y111	36	30	70.5	円形	
P－16	X153、Y113	37	35	51.5	円形	4	P－45	X154、Y112	100	66	86.5	楕円形	
P－17	X153、Y113	30	22	21.5	楕円形	2	P－46	X153、Y110	36	33	19.5	円形	
P－18	X153、Y113	29	26	40	円形		P－47	X154、Y112	30	30	86	円形	
P－19	X153、Y113	42	35	63.5	円形		P－48	X153・154、Y122	60	50	21	円形	
P－20	X153、Y113	24	22	33	円形		P－49	X154、Y110	(42)	(26)	(40.5)	(円形)	
P－21	X152、Y113	32	32	22	円形		P－50	X153、Y110	27	24	32	円形	
P－22	X153、Y114	54	48	54	円形		P－51	X154、Y110	33	29	20.5	円形	
P－23	X153、Y115	46	34	69	楕円形		P－52	X152・153、Y110	50	36	46.5	円形	
P－24	X154、Y115	77	54	48.5	楕円形	6	P－53	X153、Y111・Y112	122	105	59.5	円形	
P－25	X153、Y116	68	46	61	楕円形		P－54	X153、Y111	90	74	14.5	楕円形	
P－26	X153、Y110	83	77	16	円形		P－55	X153、Y110	100	98	10	円形	
P－27	X154、Y116	43	37	41	円形		P－56	X152・153、Y110	96	83	16	円形	
P－28	X153、Y116	50	48	59	円形	7	P－57	X153、Y112	132	106	10.5	楕円形	
P－29	X153、Y116	39	33	61	円形	1							

Tab. 11　元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区　出土遺物観察表

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高③長さ④厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－1 床直	甑 土師器	①［15.0］ ②（12.2）	①細粒②良好 ③浅黄色④1/3	口縁部：外反。器最大径。内外面撫で。胴部：中位に小さな膨らみをもつ。外面篦削り、内面撫で。底部：欠損。	流れ込み
2	H－1 竈、床直	甕 土師器	①［19.2］ ②　(7.4)	①中粒②良好③にぶい赤褐色④口縁部1/4	口縁部：外傾。内外面撫で。「く」の字状の口縁。胴部：外面斜位の篦削り、内面撫で、刷毛目有。胴部上半から底部：欠損。	
3	H－2 埋土	平　瓦	③（10.3） ④　1.8	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/12	凹面：布目。凸面：縄叩き。狭端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
4	H－3 床直	蓋 須恵器	①［17.2］ ②　3.6	①細粒②良好 ③灰色④1/6	轆轤成形。天井部：緩やかに膨らむ。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。体部：緩やかに外傾。口縁部：短く直立。	
5	H－3 床直	壺 土師器	①［11.8］ ②　14.4	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	口縁部：僅かに外反。内外面撫で。胴部：球形。中位に器最大径をもつ。外面斜位の篦削り、内面篦撫で、篦押さえ痕有。底部：丸底気味。	
6	H－3 床直	壺 土師器	①［13.8］ ②　9.9	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④2/3	口縁部：内傾気味。内外面撫で。胴部：球形。中位に器最大径をもつ。外面斜位・横位の篦削り、内面篦撫で。底部：丸底気味。	
7	H－3 床直	壺 土師器	①［11.2］ ②（11.4）	①粗粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/4	口縁部：外反。内外面撫で。胴部：楕円形。中位に器最大径をもつ。外面斜位の篦削り、内面篦撫で。底部：欠損。	
8	H－3 床直	甕 土師器	①　21.0 ②（13.0）	①粗粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁部：外反。器最大径。内外面撫で。胴部中位から底部：欠損。外面篦削り、内面撫で、輪積み痕有。	
9	H－3 床直	釘 鉄製品	①最　長　7.6　②最大幅　0.7 ③最大厚　0.5　④遺存度　ほぼ完形		角釘。断面は方形状を呈し、頭部が折れ曲がる。下端で先細りする。錆化著しい。	
10	H－4 床直	大　鉢 陶　器	①［20.6］ ②　(5.7)	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④底部2/3	口縁部から胴部：欠損。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	流れ込み
11	H－6 埋土	高台埦 灰　釉 陶　器	①［15.0］ ②　5.8	①細粒②良好 ③灰白色④1/5	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で外反。内外面轆轤撫で。底部：直立した高台貼付。回転糸切り再調整。	刷毛塗り
12	H－8 床直	甕 土師器	①［18.0］ ②　(7.6)	①中粒②良好③明赤褐色④口縁のみ	口縁部：外反。「コ」の字状口縁。内外面撫で。胴部上位から底部：欠損。外面篦削り、指圧痕有。内面撫で、刷毛目有。内外面煤付着。	
13	H－8 床直	甕 土師器	①［18.0］ ②（19.3）	①中粒②良好 ③明赤褐色④1/8	口縁部：外反。「コ」の字状口縁。内外面撫で。胴部下位から底部：欠損。胴部中位に膨らみをもつ。中位器最大径。外面篦削り、内面撫で。	
14	H－9 埋土	坏 須恵器	①　[8.8] ②　2.5	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部で外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。鋳物が付着（鍋等の破片か）。錆び付く。	
15	H－10 埋土	坏 須恵器	①　[9.2] ②　2.8	①細粒②極良 ③にぶい橙色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部の端部で外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
16	H－15 埋土	ｶﾜﾗｹ 須恵器	①　[9.1] ②　2.5	①細粒②良好 ③明褐灰色④1/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り再調整。	酸化焔焼成
17	H－15 床直	甕 土師器	①［18.2］ ②　(9.3)	①中粒②良好③にぶい黄橙色④口縁部1/8	口縁部：外反。「コ」の字状口縁。内外面横位の撫で。胴部上半から底部：欠損。外面篦削り、内面篦撫で、篦押さえ痕有。内外面煤付着。	
18	H－15 床直	平　瓦	③　(9.0) ④　1.5	①細粒②良好 ③灰色④1/10	凹面：布目（密）。凸面：正格子叩き。側部面取り２面。	還元焔焼成
19	H－16 埋土	丸　瓦	③　(9.5) ④　2.4	①中粒②良好 ③灰色④1/6	行基葺式か。凹面：布目（粗）。凸面：平行叩き。側部面取り１面。	還元焔焼成
20	H－18 床直	ｶﾜﾗｹ 須恵器	①　[9.8] ②　2.2	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
21	H－18 床直	坏 須恵器	①　9.8 ②　3.3	①細粒②良好 ③淡赤褐色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	小振り 酸化焔焼成
22	H－18 埋土	高台埦 須恵器	①［12.6］ ②　4.7	①中粒②良好 ③明褐灰色④1/4	轆轤成形。口縁部から体部：内彎気味に立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。内外面煤付着。	酸化焔焼成
23	H－18 竈、埋土	高台皿 須恵器	①　10.6 ②　2.3	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁部から体部：緩やかに外傾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。内外面一部に煤付着。	酸化焔焼成
24	H－18 埋土	平　瓦	③（16.3） ④　2.4	①細粒②良好 ③灰白色④1/4	凹面：布目。布の合わせ目痕。凸面：撫で。側部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
25	H－18 床直	平　瓦	③（11.5） ④　2.2	①細粒②良好 ③橙色④1/7	凹面：布目（密）。凸面：撫で。押印文字瓦「多」（凸面）。側部面取り２面。広端部面取り２面。二次被熱。煤付着。	酸化焔焼成 文字瓦
26	H－18 竈、床直	平　瓦	③（11.8） ④　1.9	①細粒②良好 ③褐灰色④1/8	凹面：布目。粘土板糸切り痕。凸面：平行叩き後撫で。側部面取り３面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
27	H－18 床直	平　瓦	③（17.5） ④　1.9	①中粒②良好 ③灰褐色④1/6	凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り１面。狭端部面取り１面。二次被熱。	酸化焔焼成
28	H－18 竈、埋土	平　瓦	③（10.5） ④　1.6	①細粒②良好 ③褐灰色④1/8	桶巻き作り。凹面：布目（密）。粘土板糸切り痕。模骨痕。凸面：縄叩き（鮮明）。広端部面取り１面。	還元焔焼成
29	H－18 床直	丸　瓦	③　35.9 ④　2.0	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	行基葺式。重さ2220グラム。凹面：布目。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。狭端部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
30	H－18 埋土	丸　瓦	③（14.0） ④　1.5	①細粒②良好 ③青灰色④1/6	行基葺式か。凹面：布目。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。広端部面取り１面。二次被熱。	還元焔焼成

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高③長さ④厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
31	H－18 埋土	丸　瓦	③ (13.2) ④　2.2	①細粒②良好 ③黄灰色④1/5	行基葺式か。凹面：布目（密）。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。二次被熱。	還元焔焼成
32	W－1 埋土	坏 土師器	① [13.4] ②　(3.6)	①中粒②良好 ③橙色④1/8	口縁・体部：内彎して立ち上がり、口縁部で外傾。変換点に稜有。口縁部内外面横位の撫で。体部外面篦削り、内面撫で。底部：欠損。丸底気味と推測。	
33	W－1 埋土	高台埦 須恵器	① [12.4] ②　(4.2)	①中粒②良好③にぶい褐色④口縁部1/5	轆轤成形。口縁・体部：やや内彎気味に立ち上がり口縁部で外傾。　内外面轆轤撫で。底部欠損。	酸化焔焼成
34	W－1 埋土	羽　釜 須恵器	① [19.6] ②　(4.2)	①細粒②良好③灰白色④口縁部のみ	口縁部：直立。内外面撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。胴部から底部：欠損。	
35	W－1 埋土	丸　瓦	③　(9.8) ④　2.0	①細粒②良好 ③灰色④1/8	行基葺式か。凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。	還元焔焼成
36	W－2 埋土	羽　釜 須恵器	① [19.0] ②　(8.3)	①細粒②良好 ③褐灰色④1/14	口縁部：内傾。内外面撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。胴部上位から底部：欠損。	酸化焔焼成
37	W－2 埋土	羽　釜 須恵器	① [18.0] ②　(7.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/20	口縁部：内傾。内外面撫で。鍔部は三角形状で、やや上向きに張り出す。鍔貼付。胴部上位から底部：欠損。	酸化焔焼成
38	W－2 埋土	平　瓦	③　(9.2) ④　2.3	①細粒②良好 ③黒褐色④1/8	凹面：布目（密）。凸面：撫で。広端部面取り１面。煤付着。	酸化焔焼成
39	W－2 埋土	平　瓦	③ (10.6) ④　1.9	①細粒②良好 ③灰色④1/12	凹面：布目。凸面：撫で。側部面取り２面。狭端部面取り２面。	還元焔焼成
40	W－2 埋土	丸　瓦	③ (16.1) ④　1.5	①細粒②良好 ③灰色④1/5	凹面：布目。凸面：縄叩き後撫で。側部面取り２面。	還元焔焼成
41	W－4 埋土	ｶﾜﾗｹ 須恵器	① [10.0] ②　2.9	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
42	W－4 埋土	坏 土師器	①　10.0 ②　3.8	①中粒②良好 ③橙色④4/5	口縁・体部：内彎して立ち上がり、口縁部で短く内傾。口縁部内外面横位の撫で。体部外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：丸底。	小振り
43	W－4 埋土	坏 土師器	①　11.4 ②　4.2	①中粒②良好 ③橙色④1/2	口縁・体部：内彎して立ち上がり、口縁部で直立。口縁部内外面横位の撫で。体部外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：丸底。	
44	W－4 埋土	鉢 土師器	① [19.0] ②　(5.6)	①中粒②良好 ③赤褐色④1/4	口縁・体部：内彎して立ち上がり、口縁部で短く内傾。口縁部内外面横位の撫で。体部外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
45	W－4 埋土	坏 須恵器	①　12.4 ②　3.4	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
46	W－4 埋土	坏 須恵器	①　12.8 ②　3.1	①細粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
47	W－4 埋土	坏 須恵器	①　12.4 ②　3.9	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
48	W－4 埋土	坏 須恵器	① [13.4] ②　3.5	①中粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
49	W－4 埋土	コップ 型土器 須恵器	① [11.6] ② (11.0)	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	口縁部から体部上位：一部欠損。外面篦削り、内面篦撫で。底部：篦調整。器肉が厚い。	
50	W－4 埋土	台付甕 土師器	①　- ②　(6.5)	①中粒②良好 ③明褐色④底部1/2	口縁部から胴部：欠損。台部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。外面篦削り。内面篦撫で、篦押さえ痕有。	
51	W－4 埋土	大　甕 須恵器	① [24.4] ② (11.0)	①中粒②良好 ③灰色④1/8	口縁部：外反。胴部上半から底部：欠損。外面平行叩き目。内面同心円状当て目。	
52	W－4 埋土	磨　製 石　斧	①最　長　14.9　②最大幅　8.1　③最大厚　5.4 ④重　さ　940.0　⑤遺存度　完形　⑥石　材　安山岩		表裏面の一部と上面に凹痕。	
53	W－4 埋土	馬具か 鉄製品	①最　長　8.1　②最大幅　2.7 ③最大厚　0.6　④遺存度　4/5		頭部がリング状。先端部欠損。断面方形。銹化著しい。	
54	W－5 埋土	坏 土師器	① [13.0] ②　(4.3)	①中粒②良好 ③にぶい赤褐色④3/5	口縁・体部：内彎で立ち上がり、口縁部で短く内傾。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：丸底。	
55	W－5 埋土	坏 土師器	① [12.0] ②　(3.8)	①中粒②良好 ③明赤褐色④1/3	口縁・体部：内彎で立ち上がり、口縁部で短く直立。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
56	W－5 埋土	坏 須恵器	① [11.4] ②　3.1	①中粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
57	W－5 埋土	高台埦 須恵器	①　12.8 ②　4.8	①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤成形。口縁部から体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：短く直立した高台貼付。回転糸切り未調整。	
58	W－5 埋土	大　盤 須恵器	① [18.2] ②　4.4	①中粒②良好 ③灰白色④1/4	轆轤成形。口縁部から体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	
59	W－5 埋土	高台埦 須恵器	① [14.0] ②　(5.0)	①中粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤成形。口縁部から体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至り端部で外反。内外面轆轤撫で。底部：高台欠損。回転糸切り未調整。	
60	W－5 埋土	蓋 須恵器	①　- ②　[2.1]	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤成形。天井部：平坦。内外面篦調整。摘み：ボタン状摘み。 体部から口縁部：欠損。	

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高③長さ④厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
61	W－5 埋土	蓋 須恵器	①　- ②　[1.7]	①細粒②良好 ③灰色④1/10	轆轤成形。天井部：平坦。内外面篦調整。摘み：リング状摘み。体部から口縁部：欠損。	自然釉
62	W－5 埋土	長頸壺 須恵器	①　- ②　[4.2]	①細粒②良好 ③灰色④頸部のみ	轆轤成形。口縁部：欠損。頸部：外面篦調整、内面撫で。胴部から底部：欠損。	
63	W－5 埋土	壺 須恵器	①　- ②　[6.8]	①細粒②良好 ③灰色④1/12	口縁部から胴部上位：欠損。口縁部に３本１単位の櫛状の工具による波状文を施す。轆轤撫で。胴部：球形。胴部中位から底部：欠損。	
64	W－5 埋土	壺 須恵器	①　- ②　[6.4]	①細粒②良好 ③暗灰色④1/12	口縁部から胴部上位：欠損。胴部：球形。内外面轆轤撫で。胴部中位から底部：欠損。	
65	W－5 埋土	丸　瓦	③ (12.3) ④　2.5	①細粒②良好 ③灰色④1/10	行基葺式か。凹面：布目。凸面：横位の撫で。側部面取り２面。煤付着。二次被熱。	酸化焔焼成
66	W－5 埋土	平　瓦	③ (17.0) ④　2.7	①細粒②良好 ③褐灰色④1/8	凹面：布目（密）。凸面：撫で。側部面取り２面。広端部面取り２面。煤付着。二次被熱。	酸化焔焼成
67	D－2 埋土	坏 土師器	①　11.8 ②　4.3	①中粒②良好 ③橙色④7/8	口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底。器肉が厚い。	
68	D－2 埋土	坏 土師器	①[12.4] ②　3.4	①中粒②良好 ③明褐色④1/2	口縁・体部：内彎で立ち上がり、口縁部で僅かに外傾。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底。	
69	D－2 埋土	坏 土師器	①[13.2] ②　3.6	①中粒②良好 ③橙色④1/2	口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底。	
70	D－2 埋土	坏 須恵器	①　13.1 ②　3.5	①中粒②良好 ③灰色④4/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。全体的に歪んでいる。	
71	D－2 埋土	坏 須恵器	①[13.0] ②　3.6	①中粒②良好 ③灰白色④2/5	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
72	D－2 埋土	高台埦 須恵器	①[12.0] ②　4.8	①中粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤成形。口縁部から体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り再調整。	
73	D－2 埋土	蓋 須恵器	①[17.2] ②　3.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤成形。天井部：平坦、肉厚。内外面篦調整。摘み：リング状摘み。体部：外傾。口縁部：短く直立。	
74	D－2 埋土	壺 須恵器	①　- ②[17.1]	①細粒②良好③灰色 ④口縁部のみ欠	轆轤成形。口縁部：欠損。胴部：上位に膨らみをもつ。内外面轆轤撫で調整。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り再調整。	
75	D－2 埋土	鏃 鉄製品	①最　長 15.1　②最大幅　1.1 ③最大厚　0.4　④遺存度　完形		茎部断面方形状を呈している。銹化している。	
76	D－3 埋土	坏 土師器	①[12.0] ②　3.6	①中粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁・体部：外傾で立ち上がり、体部中位から口縁部にかけて外反、端部で短く直立。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面斜位の篦削り、内面撫で。底部：平底。	
77	D－3 埋土	紡錘車 土師器	①径　5.8　②孔径　1.2 ③最長　6.0　④重さ　30.0 ⑤石材　　⑥遺存度　ほぼ完形		扁平。坏の底部を再利用。上面・下面共に撫で調整。	
78	I－1 埋土	坏 土師器	①[12.0] ②　3.7	①中粒②良好 ③橙色④1/3	口縁・体部：内彎で立ち上がり、口縁部で短く直立。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面篦削り、内面撫で。底部：平底気味。器肉が厚い。	
79	X153Y111	カワラケ 須恵器	①　9.0 ②　2.6	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
80	X153Y111	坏 土師器	①　10.4 ②　3.2	①中粒②良好 ③橙色④1/2	口縁・体部：内彎で立ち上がり、口縁部で直立。変換点に稜有。口縁部は内外面横位の撫で。体部は外面横位・斜位の篦削り、内面撫で。底部：丸底。	小振り
81	X153Y111	坏 須恵器	①　13.2 ②　3.7	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整	
82	X153Y111	坏 須恵器	①　13.8 ②　3.5	①中粒②良好 ③灰色④7/8	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至り、端部で短く外反。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	
83	X153Y112	カワラケ 須恵器	①　9.2 ②　2.2	①粗粒②良好 ③明褐灰色④2/3	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、そのまま口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
84	X153Y112	カワラケ 須恵器	①　8.8 ②　2.0	①中粒②良好 ③にぶい橙色④3/4	轆轤成形。口縁・体部：外傾で立ち上がり、口縁部に至る。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
85	遺構外	鎌 鉄製品	①最　長　(6.8)　②最大幅　3.3 ③最大厚　0.3　④遺存度　1/5		刃両端部を欠損。銹化が著しい。	
86	遺構外	臼　玉 石　製 模造品	①径　0.8　②孔径　0.3 ③長さ　0.9　④重さ　1.2 ⑤石材　滑石　⑥遺存度　完形		上下面は加工が不完全。側面は研磨されている。	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した
②口径、器高の単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

3　元総社小見内Ⅵ遺跡B区

(1) 竪穴住居跡

（住居跡の出土遺物の項目については、遺構の重複からどの住居跡の遺物か特定できないものがあるため、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。）

H－1号住居跡（Fig.35、PL.－）

位　置　X126・127、Y150グリッド　**主軸方向**　(N－2°－E)　**面　積**　2.08㎡

形状等　床面のみの検出に加え、大部分が調査区外のため全容は不明である。東西1.40m、南北1.65mを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　なし。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　なし。

H－2号住居跡（Fig.35、PL.－）

位　置　X127、Y149グリッド　**主軸方向**　(N－50°－W)　**面　積**　1.27㎡

形状等　床面のみの検出に加え、大部分が調査区外のため全容は不明である。東西1.60m、南北1.64mを測る。

床　面　全体的に平坦な床面。所々に堅緻な床面を検出。

竈　調査区外のため検出されず。

重　複　なし。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数1点。

(2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は4棟検出されているがどれも部分的な検出であり、可能性あるものとしておきたい。

B－1号住居跡（Fig.35、PL.11）

位　置　X127、Y142～144グリッド　**主軸方向**　(N－10°－E)　**面　積**　部分的な検出のため測定不能。

形状等　直線的な検出のため、形状は不明。南北7.5mを測る。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：(122)×(76)×16cm、円形と推測される。）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：130×118×34.5cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：103×78×46cm、楕円形）の３基を検出した。柱間寸法は南北：P_1－P_2で3.2m、P_2－P_3で3.1mである。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）を含むことから12世紀以降であると考えられる。

B－2号住居跡（Fig.35、PL.11）

位　置　X126・127、Y140～142グリッド　**主軸方向**　(N－43°－W)　**面　積**　8.03㎡

形状等　部分的な検出のため形状は不明。東西(2.40)m、南北3.30mを測る。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：45×40×29.5cm、円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：32×28×27.5cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：42×36×19.5cm、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状

：49×46×20.5cm、円形)、P_5(長軸×短軸×深さ、形状：56×50×25.5cm、円形）の５基を検出した。柱間寸法は東西：P_2－P_3で1.4m、P_1－P_5で2.3m、南北：P_3－P_4で1.34m、P_4－P_5で2.0mである。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）を含むことや柱間寸法が不揃いであることから12世紀以降と考えられる。

B－3号住居跡（Fig.36、PL.11）

位　置　X124～126、Y140・141グリッド　**主軸方向**　(N－37°－W)　**面　積**　22.01㎡

形状等　(長方形)。東西[4.10]m、南北[3.15]m、部分的な検出である。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：40×38×25cm、円形)、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：50×37×29.5cm、楕円形)、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：27×26×57cm、円形)、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：45×40×29.5cm、円形)、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：52×50×25.5cm、円形)、P_6(長軸×短軸×深さ、形状：42×37×33.5cm、円形）の６基を検出した。柱間寸法は東西：P_4－P_5で2.32m、南北：P_1－P_2で1.72m、P_2－P_3で1.75m、P_5－P_6で2.33mである。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しく、不明である。

B－4号住居跡（Fig.36、PL.11）

位　置　X122～124、Y140・141グリッド　**主軸方向**　(N－50°－E)　**面　積**　9.81㎡

形状等　部分的な検出のため不明。東西(5.40)m、南北[3.50]m、部分的な検出である。

柱　穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：93×50×44.5cm、楕円形)、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：87×76×43cm、円形)、P_3(長軸×短軸×深さ、形状：73×67×33.5cm、円形)、P_4(長軸×短軸×深さ、形状：(63)×40×34cm、円形）の４基を検出した。柱間寸法は東西：P_2－P_3で2.8m、P_3－P_4で(2.7)m、南北：P_1－P_2で3.0mである。

時　期　埋土や出土遺物からの時代判定は難しく、不明である。

(3) 溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.37、PL.12）

位　置　X121、Y140・141グリッド　**主軸方向**　(N－21°－E)

形状等　U字形。

時　期　As－B軽石（浅間B1108年）を含む埋土が底部からも検出され、出土遺物からも中世以降と考えられる。

遺　物　総数15点。

W－2号溝跡（Fig.37、PL.12）

位　置　X120～122、Y140・141グリッド　**主軸方向**　(N－47°－W)

形状等　U字形。

時　期　セクションから溝が埋没した後に上位層にAs－B軽石純層（浅間B1108年）が堆積したことが確認でき、1108年以前に構築されたものであることが判明した。

遺　物　総数97点。そのうち須恵カワラケ１点、高台埦１点を図示した。

備　考　本遺構の主軸方向はW－３号溝跡の主軸方向とほぼ同じくし、両脇に柵列と思われる柱穴を伴うこと、確認面のレベルがほぼ同位であることや下位層に砂利の水性堆積層があり、ともに水路としての機能が想定されるなど類似する点が多いことから、同一のものである可能性がある。また、A－１号道路状遺構は本遺構とほぼ並行して走向しており、本遺構は通路を伴う溝であったと考えられる。

また、本遺構を掘り込んで土坑墓が設けられ、わずかに粉骨が検出された。本遺構から出土した須恵カワラケは副葬品と思われ、時代的には11～12世紀代と考えられる。

W－3号溝跡（Fig.38、PL.12）

位　置　X126・127、Y145・147グリッド　**主軸方向**　(N－47°－W)

形状等　U字形。

時　期　セクションから溝が埋没した後に上位層にAs－B軽石純層（浅間B1108年）が堆積したことが確認でき、1108年以前に構築されたものであることが判明した。

遺　物　総数81点。そのうち須恵坏1点、右偏行唐草文の軒平瓦1点を図示した。

備　考　本遺構の主軸方向はW－２号溝跡の主軸方向とほぼ同じとし、両脇に柵列と思われる柱穴を伴うこと、確認面のレベルがほぼ同位であることや下位層に砂利の水性堆積層があり、ともに水路としての機能が想定されるなど類似する点が多いことから、同一のものである可能性がある。

(4) 土坑・ピット・井戸跡

土坑・ピットについては、Tab.14土坑・ピット・井戸跡計測表（P.41）を参照のこと。

I－1号溝跡（Fig.41、PL.12）

位　置　X122・123、Y141グリッド

形状等　円形。長軸157cm、短軸146cm、確認面からの深さ（308）cmを測る。井戸の側壁は石や粘土で固められ、非常に堅固である。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）が含まれることから、12世紀以降と考えられる。

遺　物　総数3点。

(5) 道路状遺構

A－1号道路状遺構（Fig.37、PL.－）

位　置　X119～121、Y140・141グリッド　**主軸方向**　(N－120°－E)

形状等　道路使用面と考えられる非常に堅緻な面を南北方向に幅60cm程度にわたって検出した。

時　期　本遺構はW-2号溝跡と主軸方向をほぼ同じくし、平行して検出されたことから、溝に伴うものと考えられる。W－2号溝跡がセクションにAs-B軽石純層（浅間B1108年）の堆積を検出し、1108年以前のものであると考えられることから、本遺構も同時期のものであると推測される。

遺　物　なし。

(6) 不明遺構

1号不明遺構（Fig.41、PL.－）

位　置　X126・127、Y142グリッド　**主軸方向**　(N－12°－E)

形状等　平面形は中央に島を持つドーナツ状を呈し、断面はU字形である。

床　面　全体的に平坦な床面。周溝より馬歯と思われる少量の骨片を検出。

時　期　埋土にAs－B軽石（浅間B1108年）を含むことから、12世紀以降と考えられる。

遺　物　なし。

備　考　出土遺物もなく、その性格は不明である。

(7) グリッド等出土遺物

総数270点を検出、そのうち平瓦１点を図示した。

Tab. 12　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区　住居跡一覧表

遺構名	位　　置	主軸方向	規模（m）	壁現高	面積	竈	主な出土遺物		
			東西×南北	(cm)	(m²)	位　置	土師器	須恵器	その他
H－1	X126･127、Y150	N － 2° － E	1.40×1.65	—	2.08	—			
H－2	X127、Y149	N － 50° － W	1.60×1.64	—	1.27	—			

Tab. 13　元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区　溝跡計測表

遺構名	位　　置	主軸方向	最大幅（m）		長さ	深　さ	底面レベル差	断面形
			上 幅	下 幅	(m)	(m)	(m)	
W－1	X121、Y140･141	N － 21° － E	1.60	0.62	5.0	0.58	0.19	U字形
W－2	X120～122、Y140･141	N － 47° － W	1.50	0.40	6.4	0.72	0.41	U字形
W－3	X126･127、Y145～147	N － 47° － W	4.80	0.17	6.25	0.62	0.06	U字形

Tab. 14　元総社小見Ⅵ遺跡Ｂ区　出土遺物観察表

番号	遺構／層位	器　種	①口径②器高③最長④最厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	W－2 埋土	カワラケ 須恵器	①　5.8 ②　3.0	①中粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤成形。口縁・体部：やや彎曲気味に立ち上がり、口縁部に至り、端部で直立。内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内外面煤付着。	酸化焔焼成
2	W－2 埋土	高台埦 須恵器	①　13.4 ②　5.3	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤成形。口縁・体部：彎曲して立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で外反。内外面轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に外傾した高台貼付。回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
3	W－3 埋土	坏 須恵器	①　[9.8] ②　[3.1]	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤成形。口縁・体部：彎曲気味に立ち上がり、口縁部で外傾。内外面轆轤撫で。底部：欠損。丸底と推測。	
4	W－3 埋土	軒平瓦	③(14.5) ④　4.0	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/9	瓦当匠は右偏行唐草文。主葉と支葉、外区に珠文を上下に配する。鍔は無鍔に近い。凹面：布目後擦り消し。凸面：撫で。	酸化焔焼成 宇瓦。国分寺創建期瓦

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さ単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 15　元総社小見内Ⅵ遺跡B区　土坑・井戸跡・ピット計測表

遺構名	位置	規模（cm）			形状	遺物総数	遺構名	位置	規模（cm）			形状	遺物総数
		長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ		
I－1	X122・123、Y141	157	146	(308)	円形	3	P－23	X125、Y140・141	(65)	52	19	円形	
D－1	X126・127、Y140・141	178	100	20	長方形		P－24	X125、Y140・141	61	52	16	楕円形	
D－2	X126・Y141	150	76	13	隅丸長方形		P－25	X125、Y141	52	50	35.5	円形	
D－3	X127、Y141・142	235	82	21	長方形		P－26	X127、Y145	60	58	31.5	円形	3
D－4	X127、Y142	180	98	25	隅丸長方形		P－27	X126、Y141	34	32	25.5	円形	
D－5	X127、Y143	270	98	39	隅丸方形		P－28	X125、Y140	56	52	32	円形	
D－6	X127、Y149・150	112	90	37.5	隅丸方形		P－29	X125、Y140・141	67	60	35	円形	
P－1	X127、Y140	60	55	22.5	隅丸方形		P－30	X125、Y141	62	60	34	円形	3
P－2	X127、Y140	40	37	21.5	隅丸方形		P－31	X125・126、Y140	84	60	29.5	楕円形	
P－3	X126、Y142	(50)	(20)	(18)	不定形		P－32	X126、Y140	92	60	38.5	楕円形	
P－4	X122、Y140・141	86	62	38	楕円形		P－33	X126、Y140・141	86	86	37.5	円形	
P－5	X122、Y141	70	60	57	円形		P－34	X126、Y141	37	34	33.5	円形	
P－6	X122・123、Y141	82	64	44	楕円形		P－35	X127、Y145	56	53	22	円形	
P－7	X126、Y143	58	50	34	楕円形		P－36	X126、Y141	34	32	25	円形	
P－8	X123、Y140	72	70	40.5	円形		P－37	X126、Y141	36	34	31.5	円形	
P－9	X123、Y140	45	40	26	円形		P－38	X126、Y141	36	34	26.5	円形	
P－10	X123、Y141	40	40	39	円形		P－39	X126、Y141	54	44	31	楕円形	
P－11	X127、Y144	82	80	66.5	円形		P－40	X126、Y141	38	36	25	円形	
P－12	X123、Y141	58	52	24	隅丸三角形		P－41	X126、Y141	36	35	34.6	円形	
P－13	X123・124、Y140・141	100	100	36	円形		P－42	X127、Y147	50	46	37	円形	
P－14	X123、Y141	44	42	38	円形		P－43	X127、Y141	96	86	29.5	円形	
P－15	X124、Y140	47	42	28	円形		P－44	X127、Y147	34	29	42.5	円形	
P－16	X124、Y141	86	78	15.5	円形		P－45	X126、Y141	28	28	17.5	円形	
P－17	X127、Y142・143	88	75	25.5	円形		P－46	X127、Y147	48	38	45.5	円形	
P－18	X124・125、Y140	84	58	30.5	楕円形		P－47	X127、Y141	(100)	(50)	22.5	(隅丸方形)	
P－19	X124・125、Y140	80	62	22	楕円形		P－48	X127・128、Y142	(70)	(44)	28.5	(円形)	
P－20	X126、Y141	38	32	40	円形		P－49	X127、Y147	24	22	43	円形	
P－21	X125、Y140	50	37	25	(円形)		P－50	X127、Y142	112	96	13	円形	
P－22	X125、Y140	66	46	20.5	楕円形		P－51	X127、Y149・150	55	49	26.5	円形	

Ⅵ 考　　察

今年度で４年目を迎えた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、元総社小見内Ⅵ遺跡を便宜的にＡ区とＢ区に分け、元総社小見Ⅴ遺跡を含めて３箇所の調査区になる。調査の結果、竪穴住居跡36軒（うち３軒が縄文時代の竪穴住居跡）、竪穴状遺構１軒、掘立柱建物跡９棟、溝跡８条、井戸跡３基、土坑22基、落ち込み１基、畠跡２箇所を検出することができた。出土遺物をみると、諸磯ｃ式期を中心とする縄文時代前期の土器片や石器から古墳時代・奈良時代・平安時代の土器片に至るまでの広い時期に渡っている。中でも、９世紀初頭から10世紀後半にかけての遺物が、殆どの割合を占めていた。本遺跡は国府推定域の北西側に位置し、調査区の北西側には国分僧寺、北側には国分尼寺が隣接する地域である。ここでは元総社蒼海遺跡群で適用されている従来の時期区分に従い、Ⅰ期（～７世紀前半、律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～、律令期以後）の３期に大別して、竪穴住居・溝・竈構築材採掘痕について述べたい。また今後、今回の調査結果を周辺遺跡の調査事例と合わせ、より詳細な総社・元総社地区の歴史解明に寄与したい。

1　竪穴住居について

(1) 縄文時代

元総社小見Ⅴ遺跡では３軒の縄文時代の竪穴住居跡と落ち込みを検出した。出土した遺物は、縄文時代前期後半の諸磯c式から中期前半の焼町式、勝坂式、中期後半の加曽利Ｅ３式、後期初頭の称名寺Ⅰ式までバラエティーに富んだ土器片が出土した。

Ｊ－１号竪穴住居跡とＪ－２号竪穴住居跡は加曽利Ｅ２・Ｅ３式の深鉢等が出土し、縄文時代中期後半のものであることが判明した。Ｊ－１号竪穴住居跡は、東側が調査区域外のため一部分のみの検出となった。確認範囲で、壁現高43.5cm、面積約4.43㎡である。円形を呈する竪穴住居跡で、炉は検出されなかったが、おそらく調査区域外の東側であると考えられる。この住居跡からは加曽利Ｅ２式の深鉢（出土遺物観察表№1、Fig.42）をはじめとする土器・石器が928点出土している。Ｊ－２号竪穴住居跡は、径約3.6mの円形を呈する住居で、炉は確認できなかった。この住居からは加曽利E2式の深鉢、耳栓（出土遺物観察表№24、Fig.43）、石鏃等が検出された。この耳栓と類似したものが「上野国分僧寺・尼寺中間地域」からも出土している。Ｊ－３号竪穴住居跡は、J－2号竪穴住居跡と重複しており、住居規模は長軸推定5.75m、短軸推定3.67mを測り、隅丸の長方形を呈している。炉は検出されなかった。この住居はその形状等から考えると、縄文時代前期のものであると推測される。

調査区南側の落ち込みからは、縄文時代の土器片や石器等が1,744点出土している。この中には、黒曜石片が154点（重さ183g）も含まれている。確認範囲で、規模は長軸10.23m、短軸7.14mを測り、楕円形を呈している。覆土は黒褐色土が主体を占めている。底面はほぼ水平で、壁はほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は97.5cmを測り、非常に掘り込みの深いものである。柱穴は大きいもので7個、小さいもので13個検出されている。この検出された柱穴をみると、地山（総社砂層）を掘り込んでおり、穴の配置、穴の大きさ等からこの落ち込みには、縄文時代の竪穴住居跡があった可能性が高いと考えられる。しかも、縄文時代前期後半の諸磯c式の土器片、中期前半の焼町式の土器片、中期後半の加曽利E2式土器片等が出土していることから考えると、少なくても時代の異なった3軒の住居が存在していたことも推測される。

昨年度調査を実施した元総社小見Ⅱ遺跡でも縄文時代中期の竪穴住居跡が2軒検出されており、また今年度調査を実施した元総社小見Ⅳ遺跡からも縄文時代中期の竪穴住居跡が2軒検出されていることから、関連する集落

である可能性が高い。この調査区は西側を染谷川、東側を牛池川に挟まれた台地上の陽当たりの良い土地の一画である。近隣の耕作地では、土器や石器なども採集されており、この地で当時どのような集落形成が成されていたかについては、今後の調査に期待したいところである。

(2) 古墳時代から奈良・平安時代

元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区におけるⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期に大別した竪穴住居について述べたい。

初めにⅠ期では、元総社小見Ⅴ遺跡からは５軒（うち3軒は縄文時代）、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区からは１軒のみの検出であったことが、時期別竪穴住居跡の軒数（Tab.16）や時代別の竪穴住居跡配置図（Fig.6）からも分かる。この中で特徴のある元総社小見Ⅴ遺跡Ｈ－７号竪穴住居跡は西側が調査区域外のため、一部分の確認ではあるが、平面形状は方形と推測され、炉は検出されなかった。壁高は約43.5cmを測る。この住居内からは、ベット状遺構（壁面側が一段高い状態）が検出され、石田川式の土師器器台、台付甕が出土し、古墳時代前期（４世紀後半）のものであることが判明した。住居の床面には炭化材や焼土が散在していることから焼失住居と想定される。調査区内には同時期の住居はないが、昨年度調査を実施した元総社小見Ⅱ遺跡から４世紀代の住居が８軒検出されていることから、関連する集落である可能性が高い。今年度もⅠ期竪穴住居跡の検出数が非常に少なく、特に６世紀末～７世紀前半の遺構は元総社小見Ⅱ遺跡を合わせても５軒のみの検出となった。これらの調査結果は、過去２年間調査を実施した国府推定域北東側の調査同様、国府成立前には国府周辺には大きな集落は形成されていなかったという見解の更なる裏付けとなった。

次にⅡ期では、元総社小見Ⅴ遺跡からは５軒、元総社小見内Ⅵ遺跡A区からは２軒のみの検出であったことが、時期別竪穴住居跡の軒数（Tab.16）や時代別の竪穴住居跡配置図（Fig.6）から分かる。

元総社小見Ⅴ遺跡からは８世紀代の住居は検出されなかった。Ｈ－３号竪穴住居跡は、平面形状は長方形で、竈は東壁中央南寄りに配置される。長軸は4.2m、短軸は3.06mであり、凝灰岩質砂岩の加工材を袖石や天井石に用いていた。出土遺物から考えて、これは9世紀中葉の住居であろう。Ｈ－５号竪穴住居跡は、壁現高約27.5cmで、竈が東壁中央南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築していた。出土した土師器坏、大盤、甕、須恵器坏、蓋、皿等の遺物から９世紀初頭の住居であると考えられる。この住居の竈には国分寺瓦が使用されていた。国分寺周辺から発見される平安時代の竪穴住居跡は、破損し葺き替えられた国分寺の瓦を竈の構築材として再利用している例が数多く見られる。この住居内からも瓦片が200点出土した。その中には、完形の平瓦（出土遺物観察表№51、Fig.45）、ほぼ完形の玉縁式丸瓦（出土遺物観察表№52、Fig.46）も含まれていた。この他にも完形に近い平瓦２点も含まれていたことを考えると、この住居は国分僧寺・尼寺の補修・修理を担当する職人など瓦を簡単に持ち出せる立場の人たちと関連の深いものではないかとの見方もできる。

元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区からも８世紀代の住居は検出されず、９世紀中葉のＨ－１号竪穴住居跡１軒のみであった。

７世紀後半から８世紀後半にかけて、国府創建期以前の竪穴住居跡は、元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区・Ｂ区のどの調査区からも１軒も検出されなかったが、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区から北西約170m先の元総社小見内Ⅷ遺跡Ａ区からは、８世紀代の住居が５軒検出され、更にその中の１軒からは公共の施設であったことも推測される程の多数の土師器坏が出土している。こうした極近い場所での住居の存在から比較してみても、今回住居の検出が認められなかった元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区・Ｂ区の地区は、推定されている国府域の縁辺にあたり土地利用上の規制が及んでいたことが想定される。今回の調査だけでは、根拠となる資料が少なく断定はできないが、この付近に当時、居住域とそうでない地域（居住が許されなかった地域）との境界線があったのではないかと推測される。今後更なる調査によってこの地域周辺のそうした区画の実態が明らかになることを期待したい。

最後にⅢ期では、元総社小見Ⅴ遺跡からは２軒、元総社小見内Ⅵ遺跡A区からは６軒の検出であったことが、

時期別竪穴住居跡の軒数（Tab.16）、時代別の竪穴住居跡配置図（Fig.6）より分かる。

元総社小見Ⅴ遺跡からは２軒のみの検出であった。このうち特徴のあるH－11号竪穴住居跡は、調査区西側が調査区域外のため一部分の確認に至った。竈は東壁南寄りに付設され、竈の両袖と支脚には自然石を用いていた。壁現高約35.5cm、長軸4.33m、短軸は確認範囲で1.18mを測る。また竈の南側には貯蔵穴が確認され、この中から須恵器３点、高台埦２点、羽釜の土器片が出土した。この出土遺物から10世紀後半の住居であると考えられる。もう一つのH－９号竪穴住居跡からは、須恵器坏・高台埦、灰釉陶器Ⅲ・高台埦が出土し、10世紀中葉であると考えられる。

元総社小見内Ⅵ遺跡A区からは６軒検出された。H－８号竪穴住居跡で、平面形状はほぼ方形で、長軸は2.85m、短軸は2.68mを測る。竈は東壁中央に配置され、黒褐色粘土質で構築され、焚き口に懸架石として使用されていたとみられる凝灰岩質砂岩が出土している。また竈の煙道は燃焼部からほぼ水平に長く延び、東側の調査区域外に達していた。この住居は、出土した土師器甕等の遺物から10世紀後半のものと判明した。H－18号竪穴住居跡からは竈の補強に転用された瓦９点が出土した。このうち、ほぼ完形の行基葺式丸瓦（出土遺物観察表№29、Fig.60）と文字瓦（出土遺物観察表№25、Fig.59）が含まれていた。平瓦凸面に「多」と押印（刻印）された文字が検出された。この「多」と類似したものが、上野国分寺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域からも出土している。「史跡上野国分寺跡」報告書によれば、「多」は多胡郡を示すとみられる。これはおそらく多胡郡（現在の吉井方面）で生産され、持ち込まれた瓦と考えられる。これら瓦に書かれた文字は、瓦に関わった地域や人々を明らかにするもので、当時の地域社会の様相を知る上でも非常に重要な意味をもっている。

Tab. 16　時期別の竪穴住居跡の軒数

時期区分	Ⅰ期											Ⅱ期						Ⅲ期				
	4世紀		5世紀			6世紀			7世紀			8世紀			9世紀			10世紀			11世紀	
	中葉以前	後半	前半	中葉	後半	前半	中葉	後半	前半	中葉	後半	前半	中葉	後半	前半	中葉	後半	前半	中葉	後半	前半	中葉以降
小見Ⅴ遺跡	縄文3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	-	1	1	-	-
小見内Ⅵ遺跡A区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	1	3	1	-

別の観点から、検出されたⅢ期の住居をみてみると、元総社小見内Ⅵ遺跡A区については、全ての竪穴住居の残存状況は悪く、住居上部は削平されていた。また遺構確認面の上にB軽石（浅間Bテフラ1108年）混じりで川砂を多量に含んだ暗褐色土層が約80cmほど調査区全体に堆積していた。更に遺構内の微地形は北から南に向かって次第に低くなっており、地山の土層は調査区北側は、黄褐色の砂質土で覆われ、南側は黒褐色の粘質土が厚く堆積している。これらのことを併せて考えた時、調査区北側約110m先を流れる牛池川の氾濫等、自然災害がこの地に起きていたと想定できないだろうか。

以上、竪穴住居の残存状況が悪いことと検出資料が少ないことを踏まえて考えても、過年度の調査同様、元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡A区・B区の竈の方向や住居の主軸方向などに規格に統一性がないことから、この頃は国府機能の衰退と共に規制が緩和され、縁辺部の集落構造が変質したことが想定されるのではないか。

2　溝について

今回の調査では、国府に直接関連すると思われる遺構は検出されなかったが、国府・国分寺造営に伴う地割りに関連するとみられる溝跡が検出された。まず初めに、元総社小見内Ⅵ遺跡A区W－２・３・４・５号溝跡について、W－２号溝跡の規模は、上幅1.36m、下幅1.14m、深さ0.6m、確認全長6.35mを測る。断面形は逆台形。W－３号溝跡の規模は、上幅1.18m、下幅0.9m、深さ0.6m、確認全長6.32mを測る。断面形は逆台形。W－４号

Fig. 6　時期別の竪穴住居跡配置図

溝跡の規模は、上幅1.8m、下幅0.5m、深さ0.65m、確認全長24.6mを測る。断面形は逆台形。W－５号溝跡の規模は、上幅1.4m、下幅0.8m、深さ0.91m、確認全長27.3mを測る。断面形はこれも同じく逆台形。今回確認されたこのW－４・５号溝跡は、昨年度調査を実施した小見内Ⅲ遺跡3区のW－３・４号溝跡に繋がり、更に北側の12区のW－３号溝跡につながると考えると、全長91.3mになる。また、W－４・５号溝跡の走行方位は、N－10°－Wを示し、W－２・３号溝跡の走行方位は、N－80°～83°－Wを示すことから、それぞれの溝を延長していくと直交する可能性が高いと思われる。これらの溝は水が流れた形跡がないことから、当時の土地を分ける区画の役割を果たしていたと考えられる。W－２・３・４・５号溝跡共に、覆土にFP、C軽石を含んでいたが、B軽石は含まれておらず、このことから1108年以前の埋没であると考えられる。また、溝が埋没した後に10世紀後半の竪穴住居跡が確認されていることから、10世紀中頃までには、溝としての機能は失われ、硬化面が数枚確認されたことから、道として利用されていたと推測される。このことから、区画のための溝として機能していたのはおそらく、10世紀中頃以前の国府が機能していた頃と考えられる。

次に、元総社小見内Ⅵ遺跡Ｂ区W－１・２・３号溝跡について、このW－１号溝跡の規模は、上幅1.6m、下幅0.62m、深さ0.58m、確認全長5.0mを測る。断面形はＵ字形。２号溝跡の規模は、上幅1.5m、下幅0.4m、深さ0.72m、確認全長6.4mを測り、断面形はＵ字形である。北壁セクション（Fig.37）からW－２号溝跡はW－１号溝跡より古い溝であり、通路を伴う溝であると考えられる。W－３号溝跡の規模は、上幅4.8m、下幅0.17m、深さ0.62m、確認全長6.25mを測り、断面形はＵ字形。また、W－２号溝跡の走行方位はおよそN－47°－Wを示し、W－3号溝跡の走行方位もおよそN－47°－Wを示すことから、W－２号溝跡はW－３号溝跡につながる可能性が高いと考えられる。W－２・３号溝跡の下位層には砂利の水性堆積層があることから、水路としての機能が想定できる。溝が埋没した後に上位層にB軽石純層（浅間Bテフラ1108年）が検出されていることから（セクションから）、W－２号溝跡とW－３号溝跡は1108年以前に構築された溝であることが判明した。また、W－２号溝跡南側から溝を掘り込んだ土坑墓が検出された。この土坑墓の平面形態は長方形を呈しており、中から完形の須恵器の高台埦、カワラケが出土した。これらの出土遺物から11世紀前半頃にはすでに溝としては機能していなかったと考えられる。また、この溝跡と同様な所見が国分尼寺南辺を東西に走る溝跡からも得られている。おそらくこの溝跡も国府・国分寺造営に伴う地割りに関連するものであると考えているが、更に今後周辺の調査に期待したい。

3　竈構築材採掘痕について

元総社小見内Ⅵ遺跡A区からは、竪穴住居跡に付設される竈の構築材（凝灰岩質砂岩）を採掘した痕が検出された。W－４・５号溝跡は当時の人が区画を目的に掘り下げたところ、良質な凝灰岩質砂岩を発見したため、竪穴住居跡の竈の袖や天井石に利用しようと考えて切り出したのではないかと考えられる。溝縁から縦90cm、横45cmのサイズで切り出した痕跡を検出することができた。また、溝の中には凝灰岩質砂岩の取り残し痕（何らかの原因で構築材の切り出しを放棄したもの）や凝灰岩質砂岩を切り出した工具痕も検出された。（Fig.31）竈の構築に必要な部材は、多くの場合、焚き口部を形成する左右の袖材とこれに架かる天井材が主である。また、支脚や焚き口部の壁面を補強するために部材を用いる場合がある。構築材（補強材）としては、凝灰岩質砂岩以外に粘土・土器・瓦・川原石を用いる例は、他の遺跡でもよくみられる。凝灰岩質砂岩を竈構築材に利用したのは、川原石などに比べて、目的に応じて自由に加工できる点が最大の利点と思われる。また、被熱しても瓦・川原石のように割れない点も利点である。しかし、瓦・川原石は遺跡地周辺にあるものを採集すればよいが、凝灰岩質砂岩は採掘場所を選んで採掘するために、時間がかかる欠点もある。

今までに大規模な竈構築材採掘痕の例としては、県内で3例検出されている。鳥羽遺跡O・L区（財団法人　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団1990）、大屋敷遺跡Ⅲ（前橋市埋蔵文化財発掘調査団1995）、稲荷塚道東遺跡

(財団法人　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団2003）である。

そこで、本遺跡と過年度に検出された３遺跡の竈構築材採掘痕について比較してみたい。

最初に採掘場所について（Tab.17）比較すると、４遺跡とも標高120m～125mの間の地点、ほぼ同レベルで採掘されている。本遺跡以外の３遺跡は、台地上縁辺部や溝縁、現表土下30cm位で凝灰岩質砂岩層に達するため（場所によっては凝灰岩質砂岩層が露出している）検出しやすいので、最初から竈の構築材として使用する目的で切り出したのではないか。本遺跡は、初めは溝を掘る目的で掘り下げたところ、良質な凝灰岩質砂岩が検出されたので、竈の構築材として使用するために切り出したのではないか。このことからみても、本遺跡以外は、明らかに竈構築材採掘する目的であったのに対し、本遺跡は溝を掘ることが主たる目的だったと想定できる。

二つ目に採掘した時期（Tab.17）について比べると、４遺跡とも時代にばらつきがみられる。凝灰岩質砂岩を採掘し始めた時期は大屋敷遺跡が一番早く古墳時代後期頃、次に稲荷塚道東遺跡が奈良時代、本遺跡も４・５号溝跡から出土した遺物から、奈良時代頃だと考えられる。しかし一方で、採掘を終了した時期は、溝の覆土上層にＢ軽石（浅間Bテフラ1108年）が認められたり、溝埋没後10世紀後半の住居跡が検出されたりしたことから、鳥羽遺跡以外の３遺跡はほぼ同時期の12世紀頃だと推測される。

Tab.17　採掘時期・場所・方法（採掘工程）

	採掘時期	採掘場所	採掘方法（採掘工程）
小見内Ⅵ遺跡	８世紀後半以前～10世紀中頃	標高約123m 溝縁、溝の中	まず垂直方向に切り込み、次に水平方向に切り出す方法。
鳥羽遺跡	7世紀代～	標高約122m 台地上縁辺部	まず垂直方向に切り込み、次に水平方向に切り出す方法。
大屋敷遺跡	6世紀代～12世紀	標高約125m 溝縁	まず垂直方向に切り込み、次に水平方向に切り出す方法。
稲荷塚道東遺跡	8世紀代～12世紀	標高約20m 台地縁辺部（溝の両端）	まず垂直方向に切り込み、次に水平方向に切り出す方法。

三つ目に検出数・面積・規模・掘り方（Tab.18）について比べると、掘り方（平面形）は４遺跡とも長方形であった。規模については、鳥羽遺跡と大屋敷遺跡がほぼ同じ大きさであるのに対し、稲荷塚道東遺跡はやや大きめである。本遺跡はW－４号溝跡北側から検出された工具痕を基に推定し、長軸0.55m、短軸0.23mの長さを割り出してみた。この数値が正しいとすれば、今回の範囲からはおよそ97基の竈構築材採掘痕が検出された計算になる。

今回検出された竈構築材採掘痕から切り出した部材が、実際に遺構内の住居の竈構築材として利用されていたという確認はなされなかった。また、過去に採掘痕が検出された遺跡でも、切り出した部材の用途については科学的な証明（直接の証明）は得られていない。

Tab. 18　検出数・面積・規模・掘り方（平面形）

	検出数	面積	規模（平均値）	掘り方（平面形）
小見内Ⅵ遺跡	約97基 （推定）	約14㎡	長軸0.55m、短軸0.23m （推定）	長方形
鳥羽遺跡	315基	約211㎡	長軸0.61m、短軸0.17m	長方形
大屋敷遺跡	42基	約35㎡	長軸0.64m、短軸0.19m	長方形
稲荷塚道東遺跡	130基	約93㎡	長軸0.88m、短軸0.36m	長方形

〈引用参考文献〉

前橋市史編さん委員会編『前橋市史』第一巻　前橋市　1971年

富沢敏弘・飯塚誠・田口正美編『山王廃寺跡第6次発掘調査報告書』　前橋文化財研究会　1980年

岸田治男編『元総社明神遺跡Ⅰ』　前橋市教育委員会　1982年

岸田治男・福田瑞穂編『元総社明神遺跡Ⅱ』　前橋市教育委員会　1983年

唐澤保之・井野修二他4名編『草作遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1985年

木暮誠・町田信之・中野覚・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

原田和博・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅴ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡』　群馬県教育委員会　1986年

山武考古学研究所編『閑泉樋南遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

スナガ環境測設株式会社編『寺田遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年

駒倉秀一・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅵ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1988年

群馬県教育委員会事務局文化財保護課編『史跡上野国分寺跡』　群馬県教育委員会　1988年

林喜久夫・前原照子・井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第2巻　前橋市教育委員会　1988年

駒倉秀一・鈴木雅浩編『元総社明神遺跡Ⅶ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1989年

前原豊・井上敏夫編『元総社明神遺跡Ⅷ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1990年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（4）』　群馬県教育委員会　1990年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『鳥羽遺跡L・M・N・O』　群馬県教育委員会　1990年

井上敏夫・鈴木雅浩編『元総社明神遺跡Ⅸ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1991年

群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編2　群馬県　1991年

鈴木雅浩・狩野吉弘編『元総社明神遺跡Ⅹ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1992年

駒倉秀一・加部二生編『元総社明神遺跡ⅩⅠ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1993年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡Ⅰ』　群馬県教育委員会　1993年

スナガ環境測設株式会社編『元総社明神遺跡ⅩⅡ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994年

大山知久・坂口好孝編『大屋敷遺跡Ⅲ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1995年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡Ⅲ』　群馬県教育委員会　1996年

戸所慎策・古屋秀登編『元総社明神遺跡ⅩⅢ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997年

齊藤仁志・吉田聖二編『上野国分寺参道遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997年

大工原豊『中野谷松原遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998年

山武考古学研究所編『総社閑泉明神北遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年

鈴木雅浩・髙橋一彦編『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

長谷川一郎・折原洋一・湯原勝美編『元総社小見遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

齊木一敏・近藤雅順編『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

長谷川一郎・土生朗治編『元総社小見内Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

長谷川福次編『道訓前遺跡』　北橘村教育委員会　2001年

齊木一敏・高坂麻子編『元総社小見内Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

髙橋一彦・近藤薫編『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編『稲荷塚道東遺跡』　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2003年

Fig.7　元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図

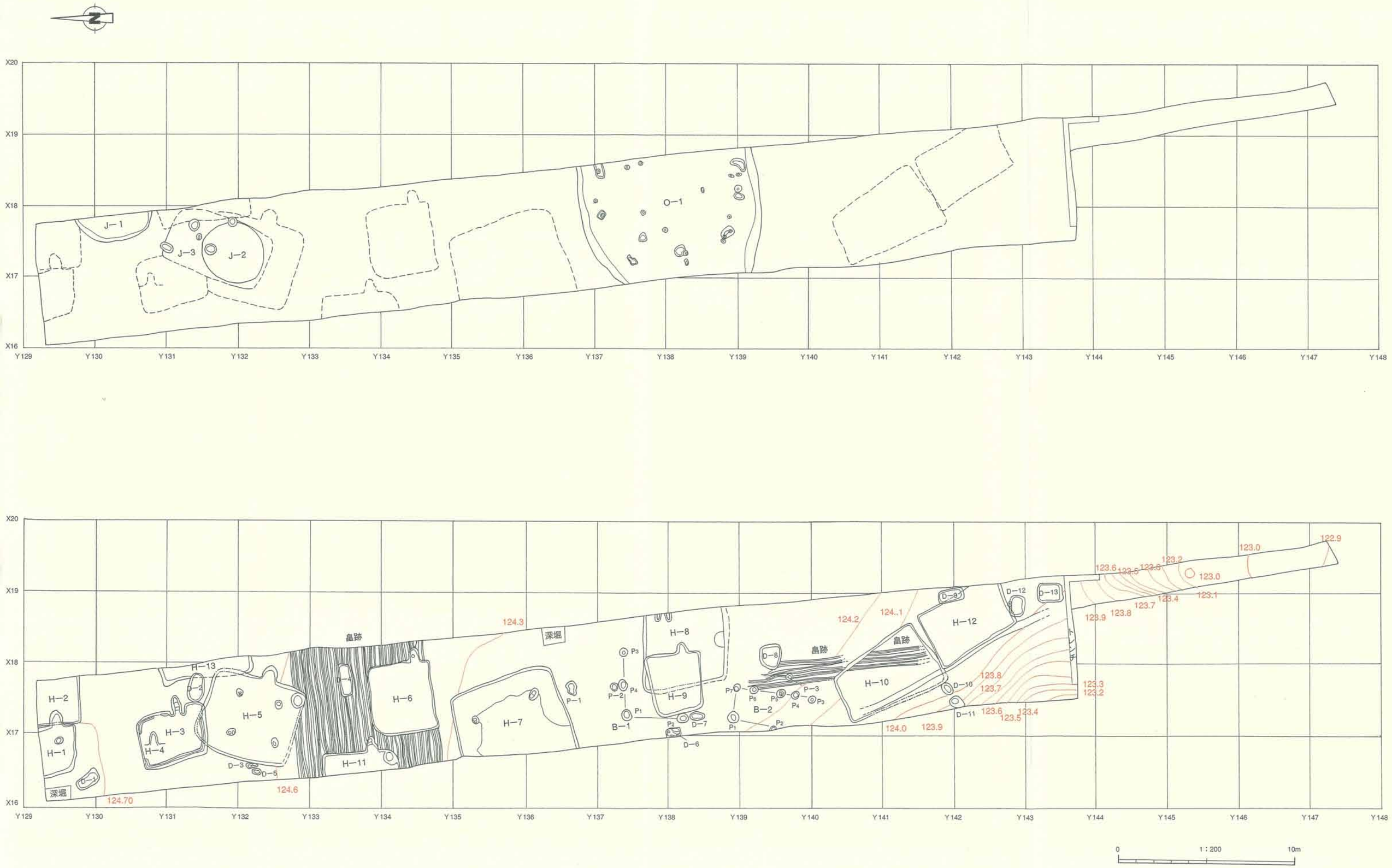
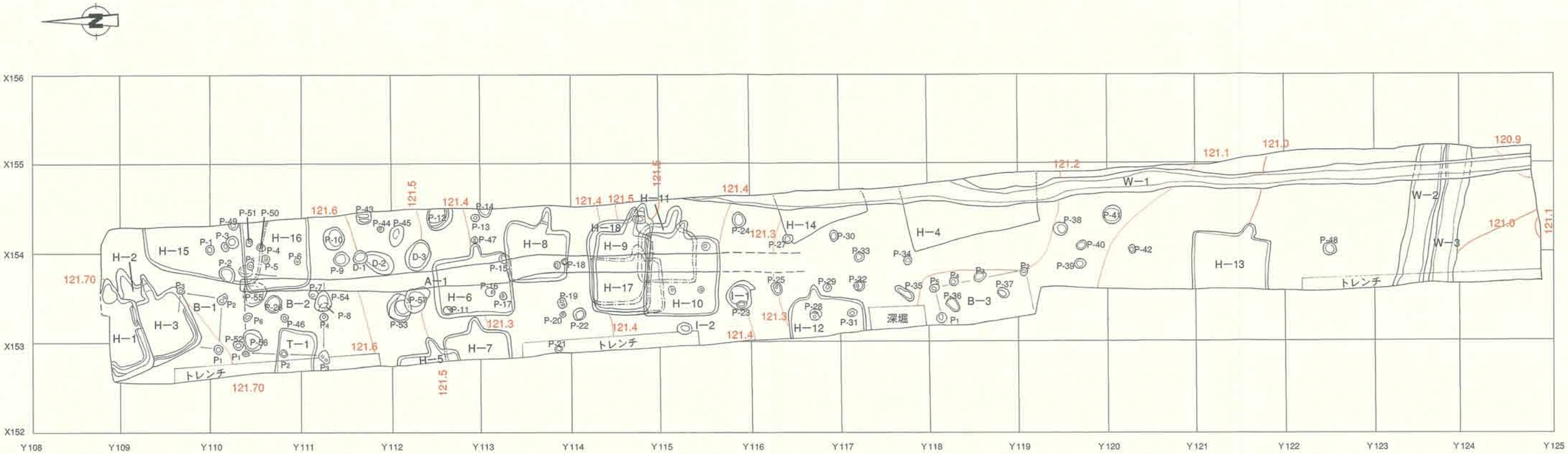
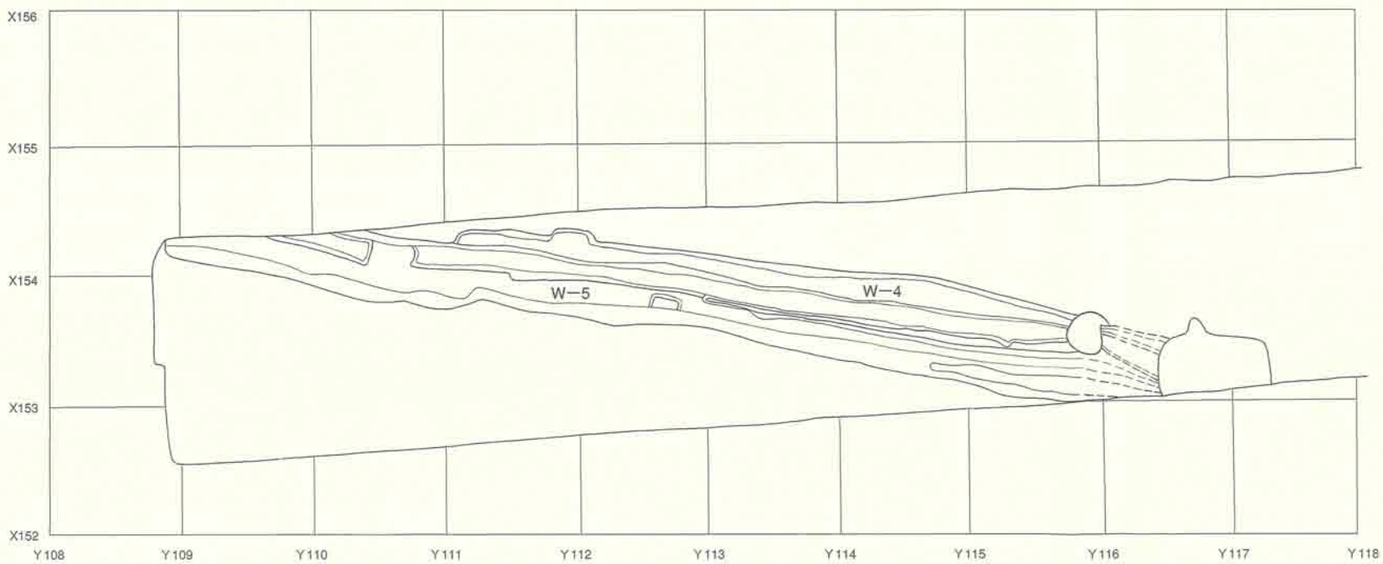


Fig. 8　元総社小見V遺跡全体図





0 1：200 10m

Fig.9　元総社小見内VI遺跡A区全体図

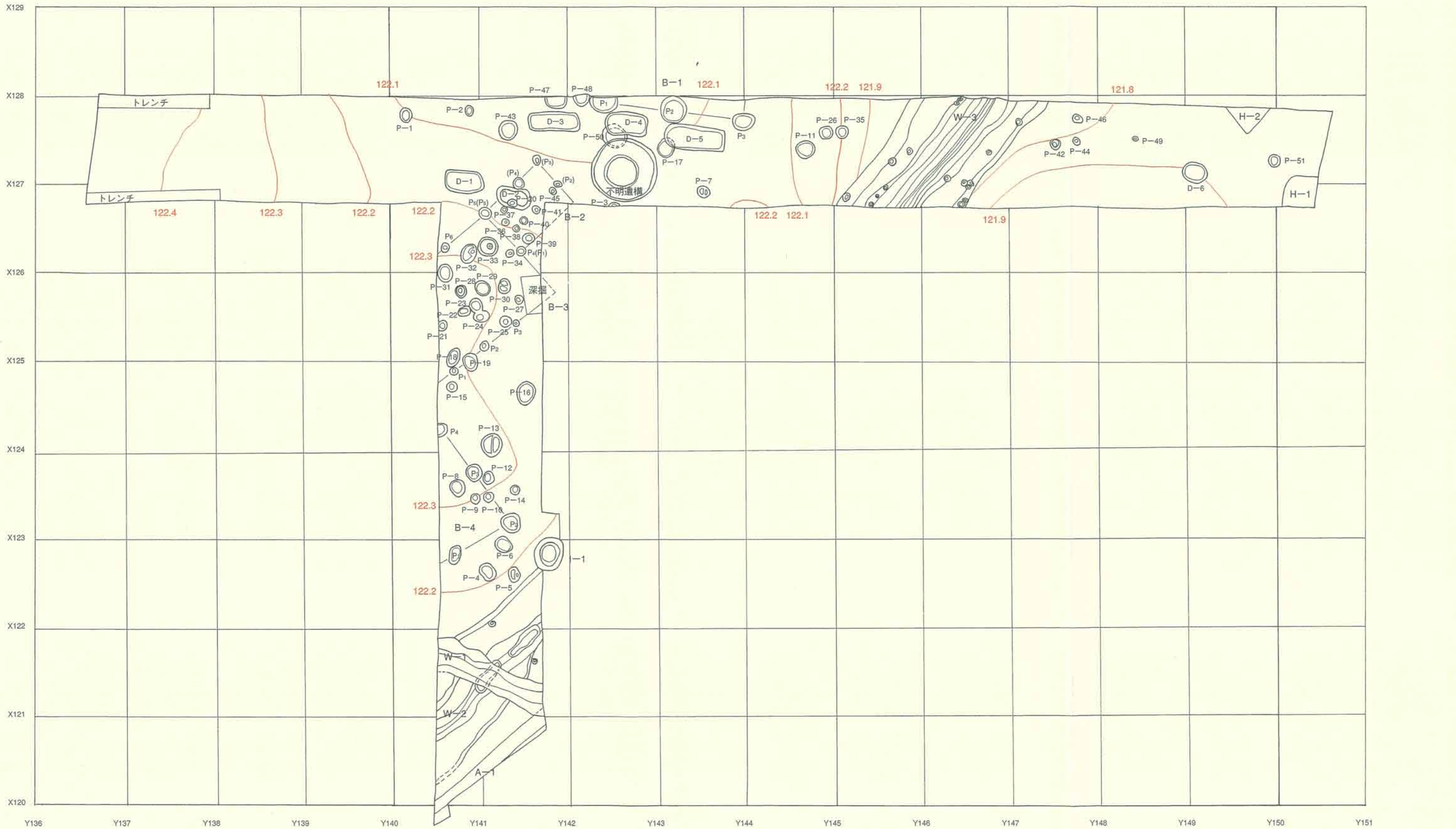
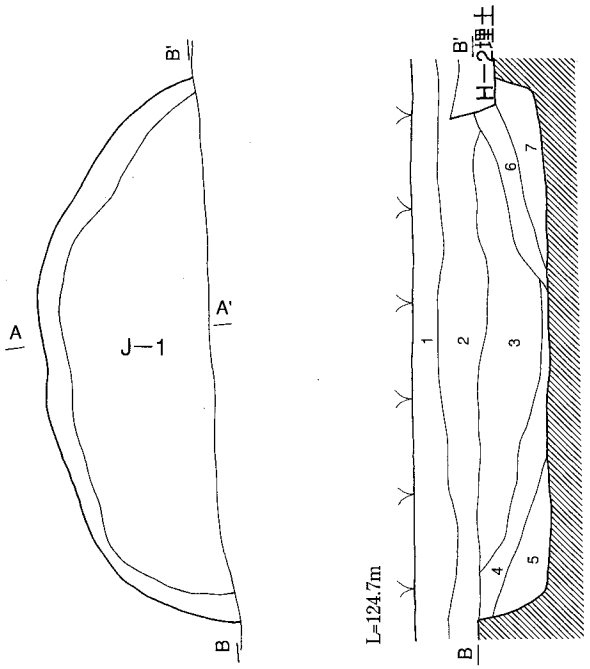


Fig.10　元総社小見内VI遺跡B区全体図

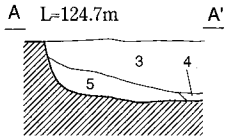
0　1：200　10m

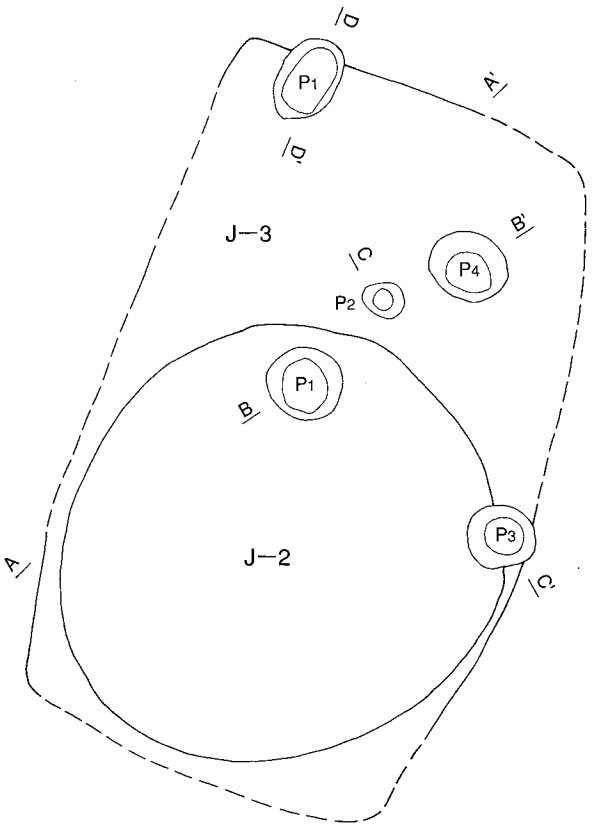
元総社小見Ⅴ遺跡

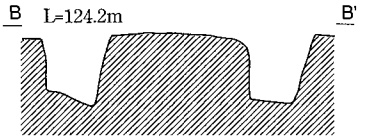


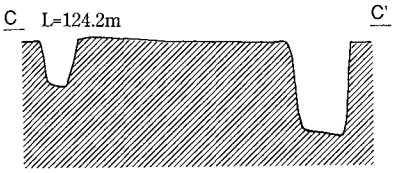
J－1号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	××	As-B混じる、Hr-FP2%、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP5%含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C2%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	
5	にぶい黄褐色細砂層	○×	ロームブロック含む。
6	暗褐色細砂層	△×	As-C1%含む。
7	暗褐色細砂層	○×	As-C2%含む。



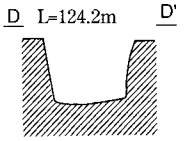






J－2号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○×	極小As-C2%含む。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C10%含む。
3	黒褐色細砂層	○×	As-C1%、炭化物1%含む。
4	褐色細砂層	○×	ロームブロック多量に含む。
5	にぶい黄褐色細砂層	○△	ローム漸移層。
6	暗褐色細砂層	○×	As-C1%含む。

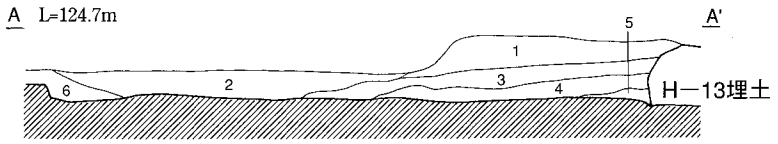


J－2号住居跡　柱穴・土坑　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	円形	62	58	52.5	

J－3号住居跡　柱穴・土坑　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P1	楕円形	65	45	54	
P2	円形	45	29	69.5	
P3	円形	56	53	72.5	
P4	円形	62	53	54	



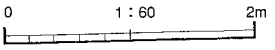
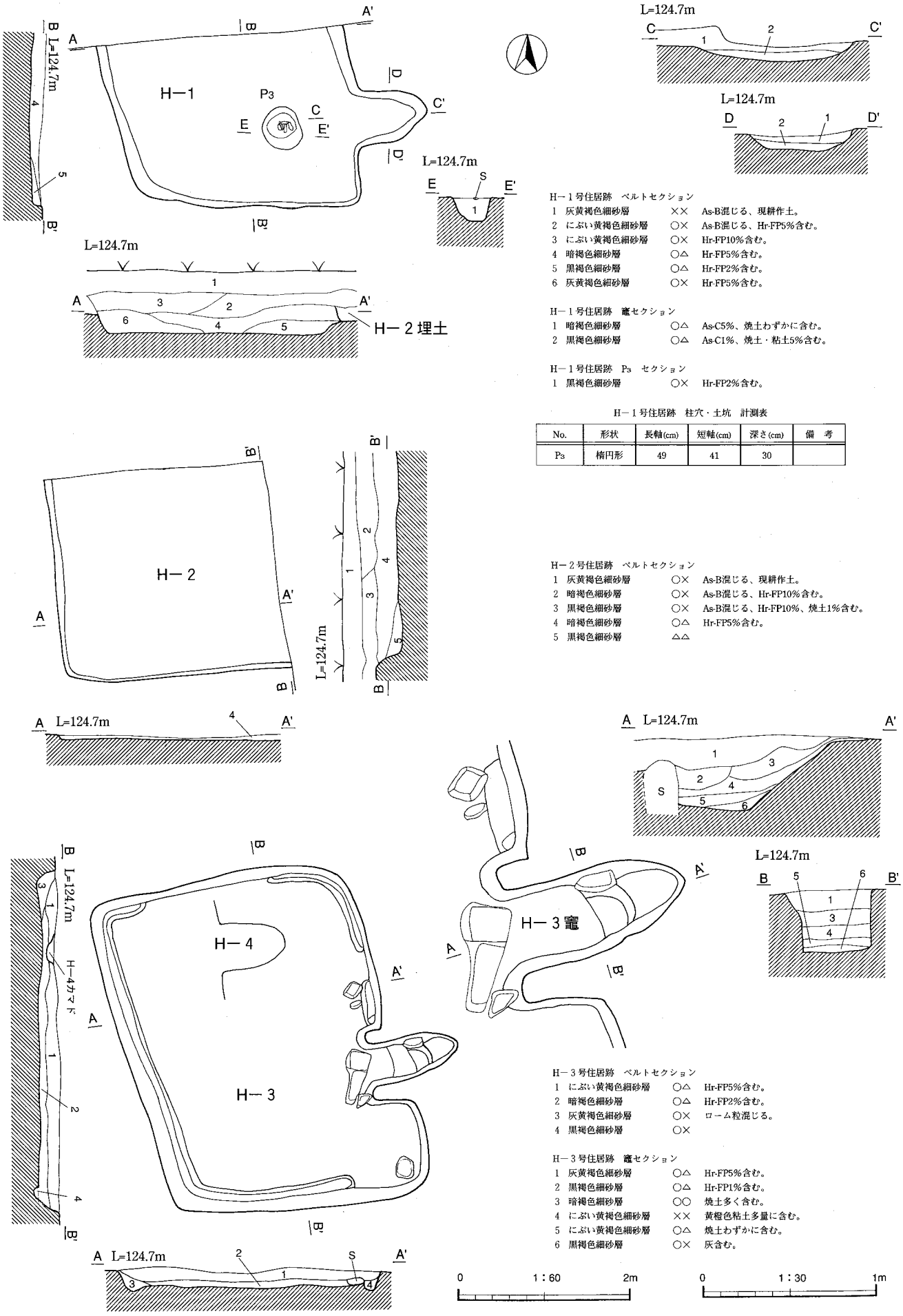


Fig.11　J－1・2・3号住居跡



H－1号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	××	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP5%含む。
3	にぶい黄褐色細砂層	○×	Hr-FP10%含む。
4	暗褐色細砂層	○△	Hr-FP5%含む。
5	黒褐色細砂層	○△	Hr-FP2%含む。
6	灰黄褐色細砂層	○×	Hr-FP5%含む。

H－1号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○△	As-C5%、焼土わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、焼土・粘土5%含む。

H－1号住居跡　P3　セクション

1	黒褐色細砂層	○×	Hr-FP2%含む。

H－1号住居跡　柱穴・土坑　計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P3	楕円形	49	41	30	

H－2号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP10%含む。
3	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP10%、焼土1%含む。
4	暗褐色細砂層	○△	Hr-FP5%含む。
5	黒褐色細砂層	△△	

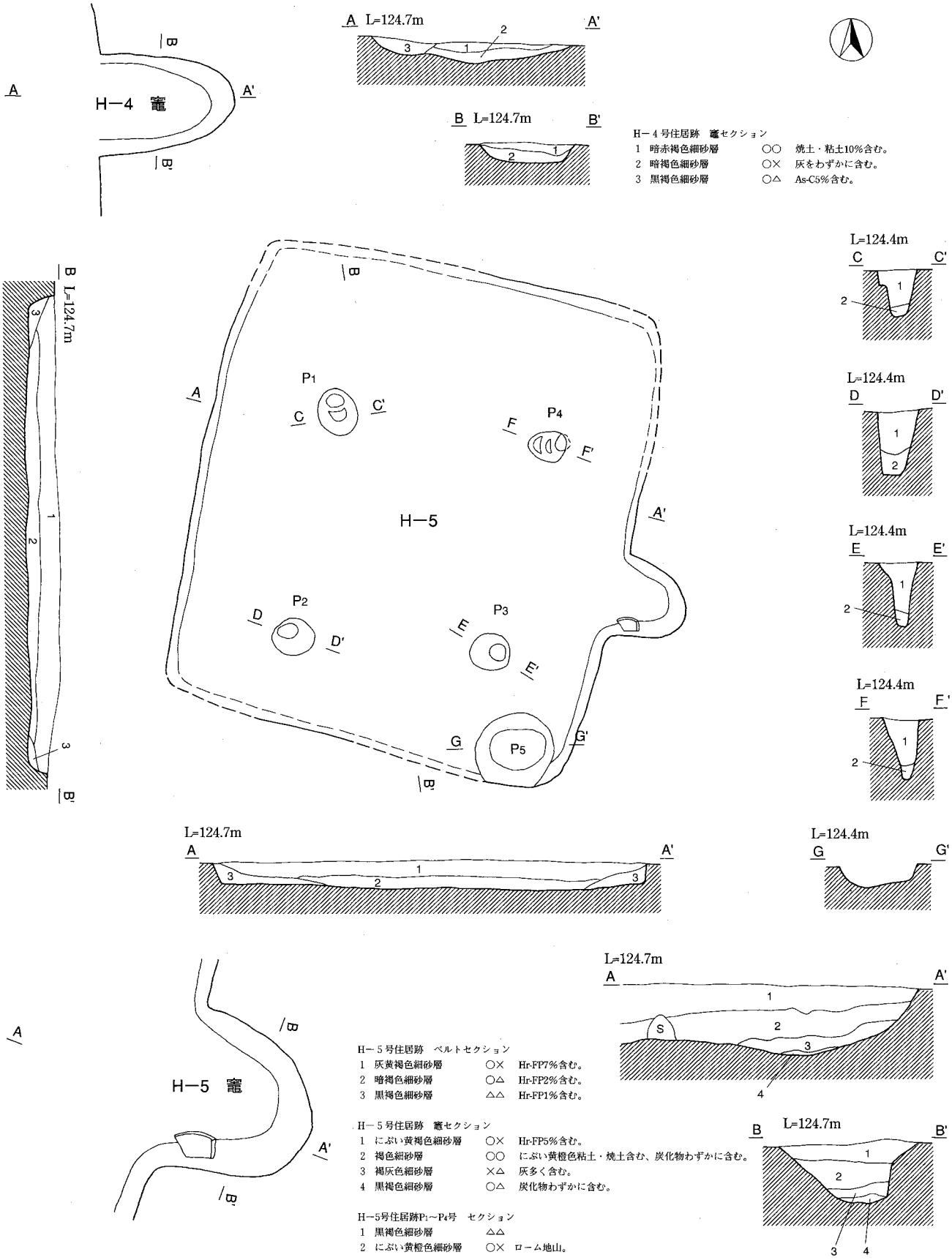
H－3号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○△	Hr-FP5%含む。
2	暗褐色細砂層	○△	Hr-FP2%含む。
3	灰黄褐色細砂層	○×	ローム粒混じる。
4	黒褐色細砂層	○×	

H－3号住居跡　竈セクション

1	灰黄褐色細砂層	○△	Hr-FP5%含む。
2	黒褐色細砂層	○△	Hr-FP1%含む。
3	暗褐色細砂層	○○	焼土多く含む。
4	にぶい黄褐色細砂層	××	黄橙色粘土多量に含む。
5	にぶい黄褐色細砂層	○△	焼土わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○×	灰含む。

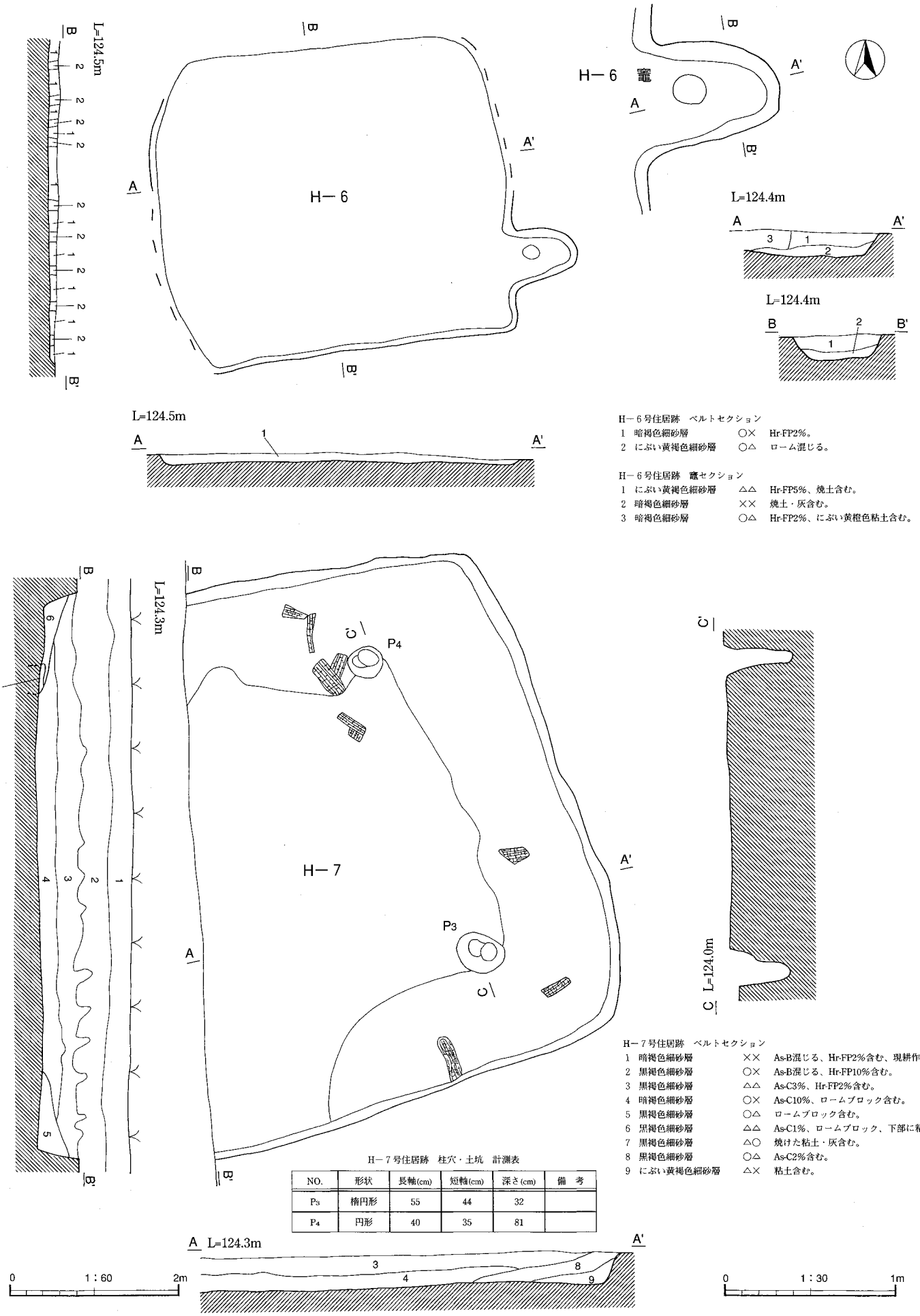
Fig.12　H－1～4号住居跡



H−5号住居跡 柱穴・土坑 計測表

NO.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	楕円形	52	40	78.5	
P2	円形	46	40	71.0	
P3	円形	43	40	72.5	
P4	楕円形	30	32	80.5	
P5	円形	87	83	23.5	貯蔵穴

Fig.13 H−4・5号住居跡



H－6号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	Hr-FP2%。
2	にぶい黄褐色細砂層	○△	ローム混じる。

H－6号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	△△	Hr-FP5%、焼土含む。
2	暗褐色細砂層	××	焼土・灰含む。
3	暗褐色細砂層	○△	Hr-FP2%、にぶい黄橙色粘土含む。

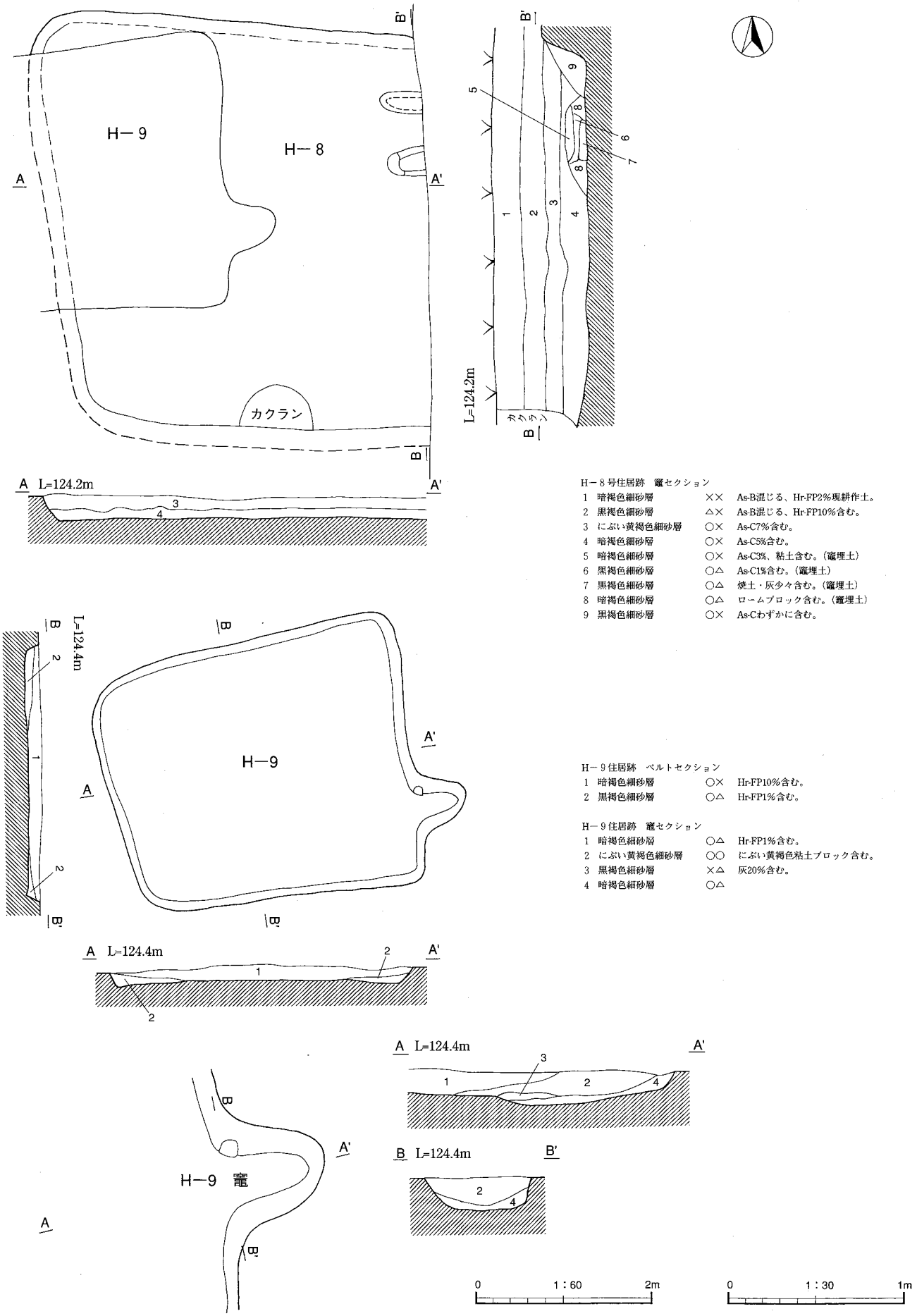
H－7号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	××	As-B混じる、Hr-FP2%含む、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、Hr-FP10%含む。
3	黒褐色細砂層	△△	As-C3%、Hr-FP2%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	As-C10%、ロームブロック含む。
5	黒褐色細砂層	○△	ロームブロック含む。
6	黒褐色細砂層	△△	As-C1%、ロームブロック、下部に粘土・灰含む。
7	黒褐色細砂層	△○	焼けた粘土・灰含む。
8	黒褐色細砂層	○△	As-C2%含む。
9	にぶい黄褐色細砂層	△×	粘土含む。

H－7号住居跡　柱穴・土坑　計測表

NO.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_3	楕円形	55	44	32	
P_4	円形	40	35	81	

Fig.14　H－6・7号住居跡



H－8号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	××	As-B混じる、Hr-FP2%現耕作土。
2	黒褐色細砂層	△×	As-B混じる、Hr-FP10%含む。
3	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C7%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	As-C5%含む。
5	暗褐色細砂層	○×	As-C3%、粘土含む。（竈埋土）
6	黒褐色細砂層	○△	As-C1%含む。（竈埋土）
7	黒褐色細砂層	○△	焼土・灰少々含む。（竈埋土）
8	暗褐色細砂層	○△	ロームブロック含む。（竈埋土）
9	黒褐色細砂層	○×	As-Cわずかに含む。

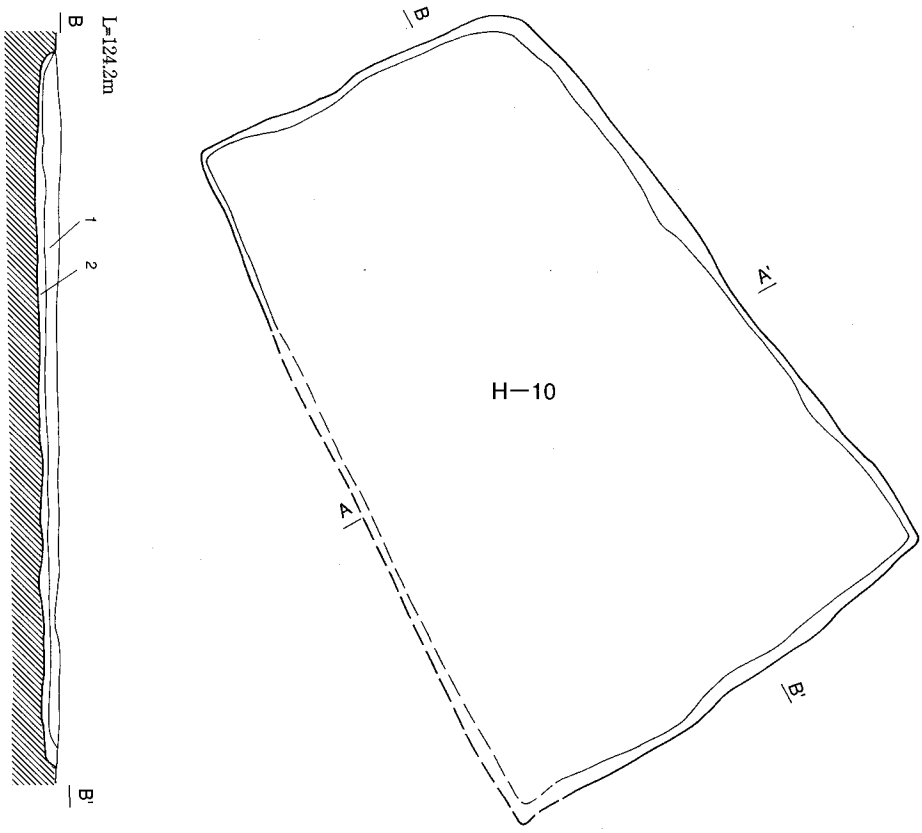
H－9住居跡　ベルトセクション

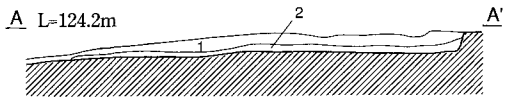
1	暗褐色細砂層	○×	Hr-FP10%含む。
2	黒褐色細砂層	○△	Hr-FP1%含む。

H－9住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○△	Hr-FP1%含む。
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	にぶい黄褐色粘土ブロック含む。
3	黒褐色細砂層	×△	灰20%含む。
4	暗褐色細砂層	○△	

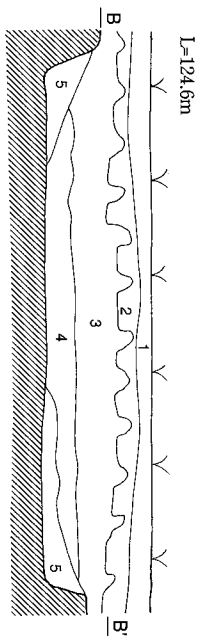
Fig.15　H－8～9号住居跡

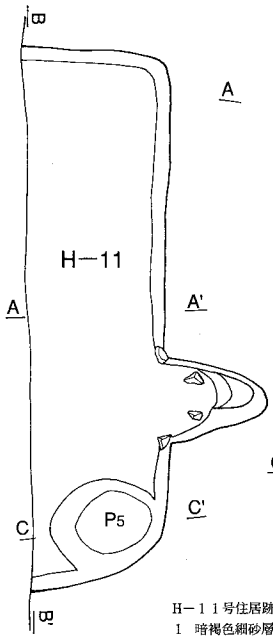


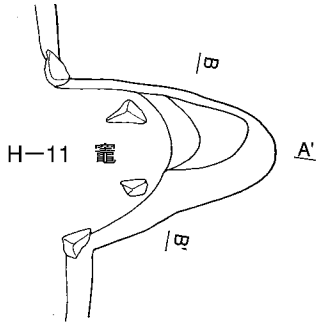


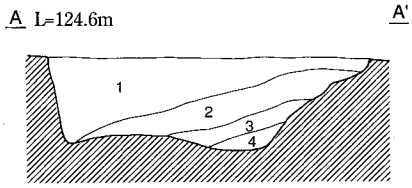
H−10号住居跡　ベルトセクション

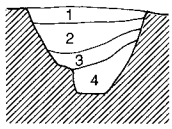
1	黒褐色細砂層	○×	As-C15%含む。
2	暗褐色細砂層	○△	As-C1%含む。

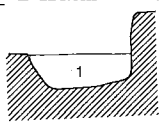






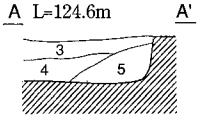






H−１１号住居跡　P5号　貯蔵穴セクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-C7%、Hr-FP5%含む。



H−１１号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	××	As-B混じる、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	△×	Hr-FP10%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-C7%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C5%含む。
5	暗褐色細砂層	○△	As-C2%含む。

H−１１号住居跡　竈セクション

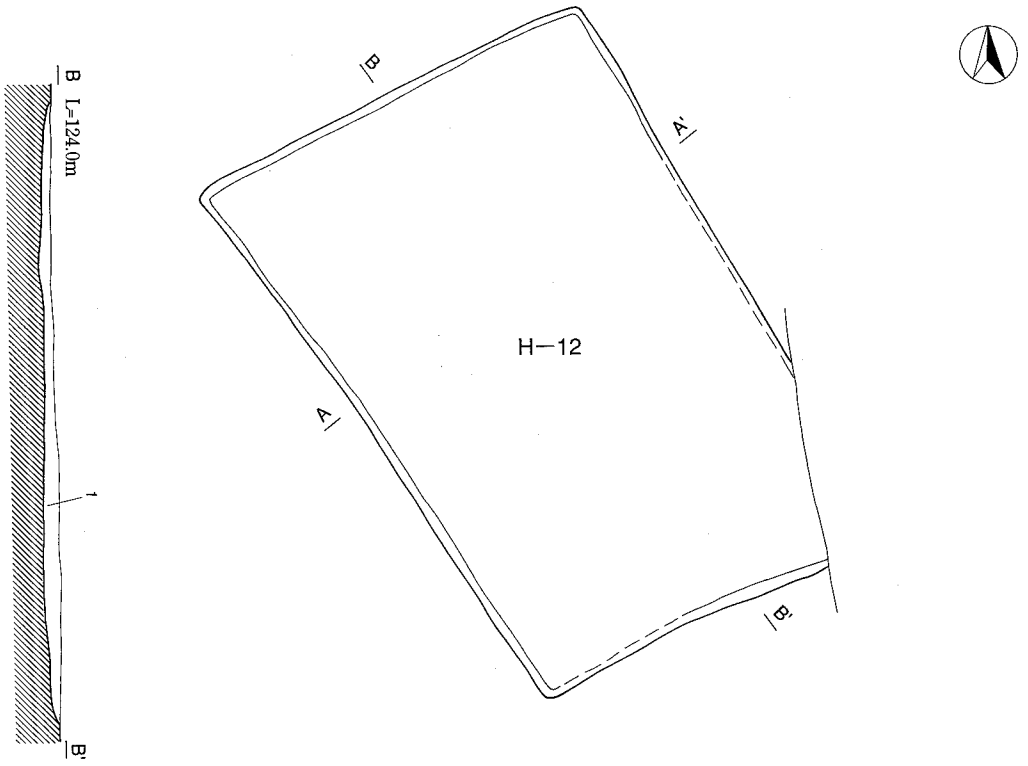
1	黒褐色細砂層	△△	Hr-FP1%、焼土ごくわずかに含む。
2	暗褐色細砂層	△△	焼土粒・ローム粒わずかに含む。
3	黒褐色細砂層	△○	焼土多量に含む。
4	黒褐色細砂層	△○	灰含む、焼土わずかに含む。

H−11号住居跡　柱穴・土坑　計測表

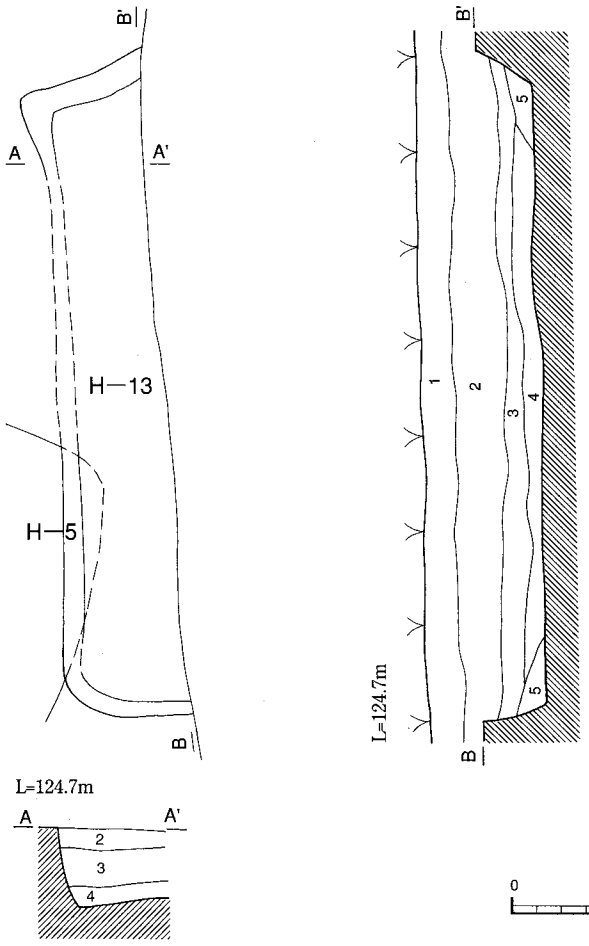
NO.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	円形	93	73	29.5	貯蔵穴

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.16　H−10・11号住居跡



H−12号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　　○△　As-C1%含む。



H−13号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	××	As-B混じる、Hr-FP2%、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	△×	As-B混じる、Hr-FP7%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-C5%含む。
4	黒褐色細砂層	△△	As-C2%含む。
5	黒褐色細砂層	△×	As-C1%含む。

0　1：60　2m

Fig.17　H−12・13号住居跡

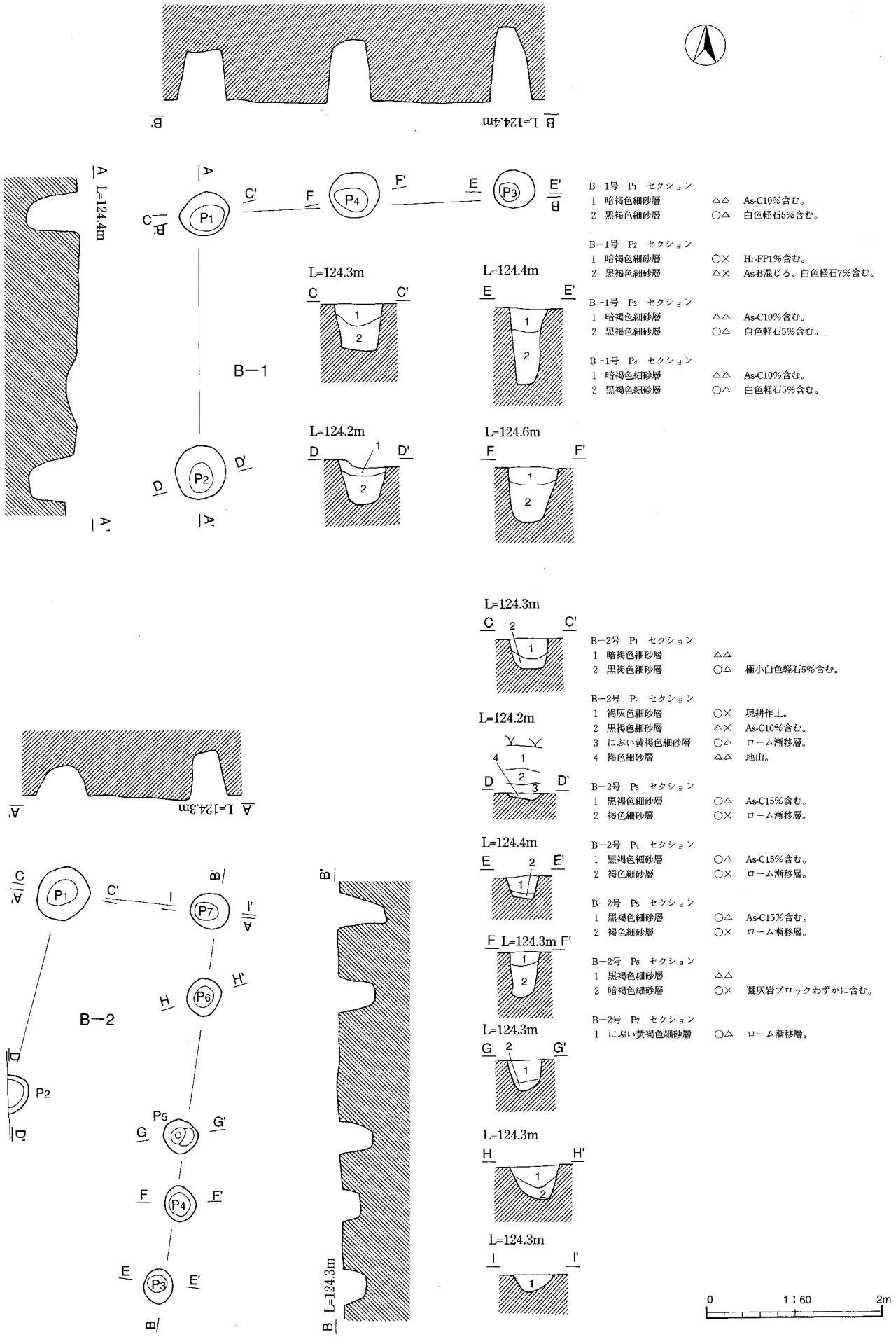


Fig.18 B—1・2号掘立柱建物跡

畠跡1

A L=124.9m A'

B L=125.1m B'

1号畠跡　セクション

1　灰黄褐色微砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2　にぶい黄褐色細砂層	△×	As-B混じる、Hr-FP5%含む。
3　黄褐色微砂層	○×	As-C2%含む、ローム粒混じる。

畠跡2

A L=124.3m A'

0　1：60　2m

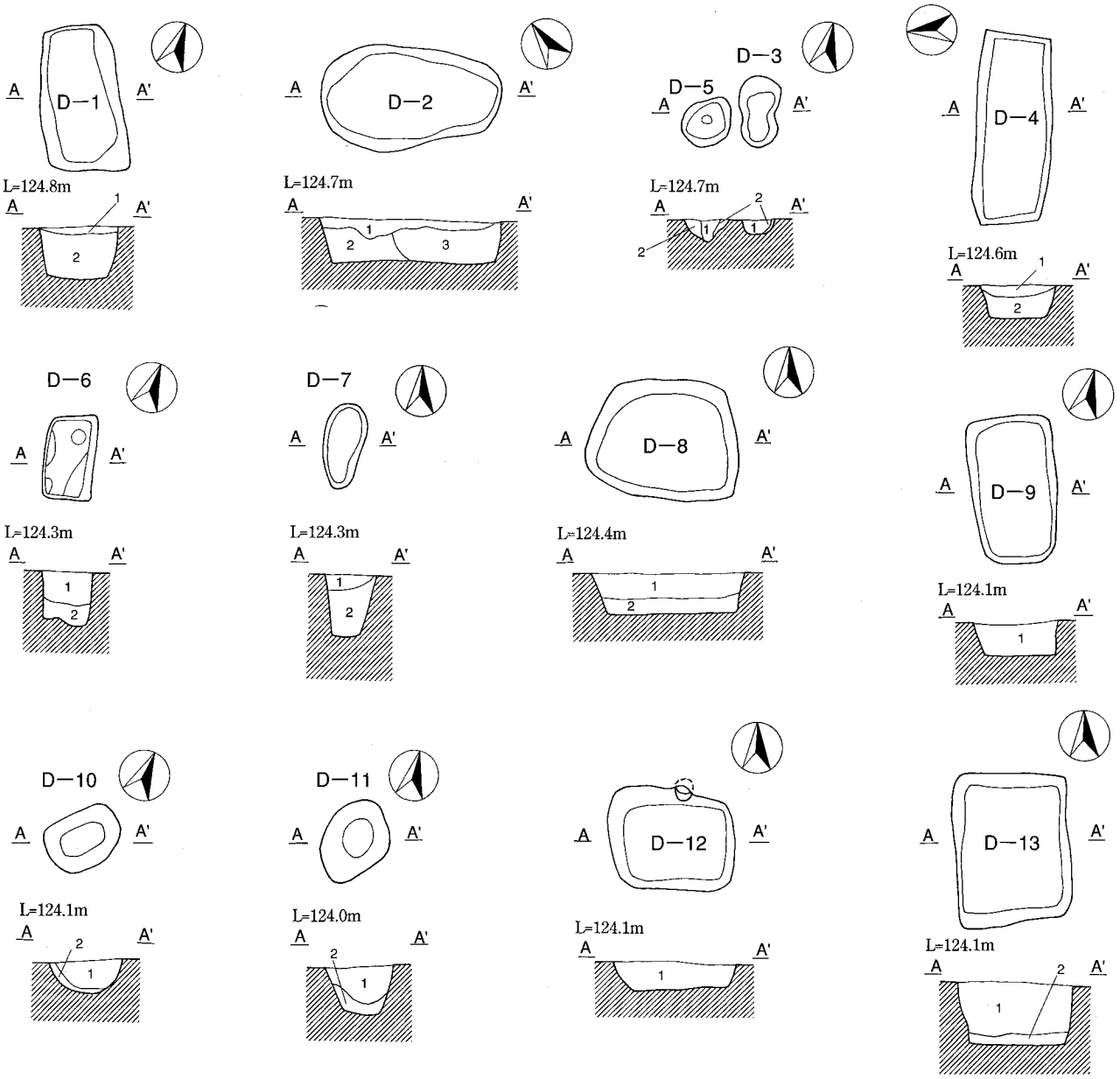
Fig.19　1・2号畠跡

O−1号落ち込み　壁セクション

1	暗褐色細砂層	××	As-B混じる、Hr-FP2%、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	△×	As-B混じる、Hr-FP10%含む。
3	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C7%含む。(H−8号住居跡埋土)
4	暗褐色細砂層	○×	As-C5%含む。(H−8号住居跡埋土)
5	暗褐色細砂層	○×	As-C3%、粘土含む。(H−8号住居跡竈埋土)
6	黒褐色細砂層	○△	As-C1%含む。(H−8号住居跡竈埋土)
7	にぶい黄褐色細砂層	○×	Hr-FP1%、ローム粒含む。
8	暗褐色細砂層	○×	As-C1%、ローム粒、橙色軽石粒含む。
9	黒褐色細砂層	◎△	白色軽石3%含む。
10	黒褐色細砂層	◎○	白色軽石2%含む。
11	暗褐色細砂層	○○	白色軽石1%、橙色軽石粒含む、ローム漸移層。
12	灰黄褐色細砂層	◎×	ローム粒2%、白色軽石3%含む。
13	にぶい黄褐色細砂層	△×	ロームブロック含む。
14	灰黄褐色細砂層	○×	白色軽石2%、ローム粒含む。

0　1:60　2m

Fig.20　O−1号落ち込み



P−1ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C1%含む。
2　暗褐色細砂層　○△　ローム漸移層。

P−2ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C10%含む
2　黒褐色細砂層　○△　白色軽石5%含む。

P−3ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　Hr-FP1%含む。
2　黒褐色細砂層　△×

D−1号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　○×
2　黒褐色細砂層　○△　極小As-C多量に含む。

D−2号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C5%含む。
2　暗褐色細砂層　△×　As-C10%含む。
3　黒褐色細砂層　○△　凝灰岩ブロックわずかに含む。

D−3号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　白色軽石1%含む。
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　地山。

D−4号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　ローム5%含む。
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　ローム漸移層。

D−5号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　白色軽石1%含む。
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　地山。

D−6号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　極小As-C1%含む
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

D−7号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　△△
2　黒褐色細砂層　○△　極小As-C1%含む。

D−8号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-C1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

D−9号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　ロームブロック5%含む。

0　1：60　2m

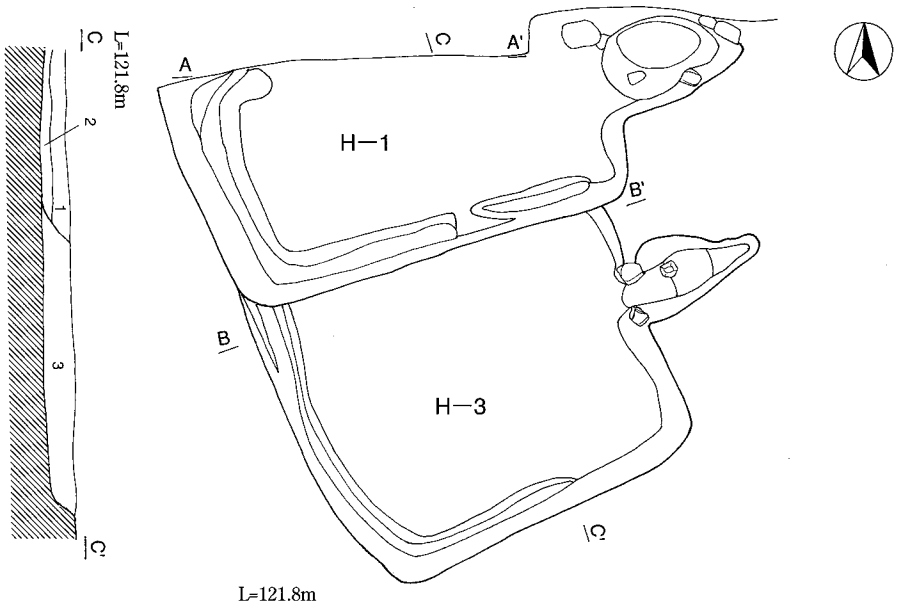
D−10号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　△△　径10cmの凝灰岩ブロック、As-C5%含む。
2　暗褐色細砂層　○×　As-C1%含む。

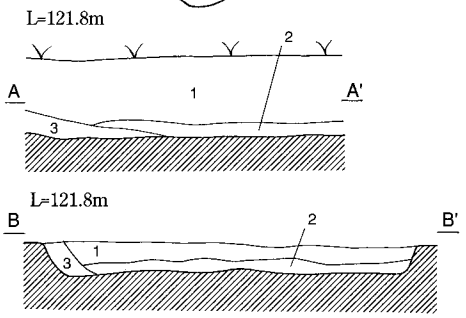
D−11号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C凝灰岩ブロック10%含む。
2　にぶい黄褐色細砂層　○×　地山。

D−12号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×

D−13号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　ロームブロック多量に含む。
2　黒褐色細砂層　○×　ロームブロック5%含む。

Fig.21　D−1～13号土坑　P−1～3号ピット



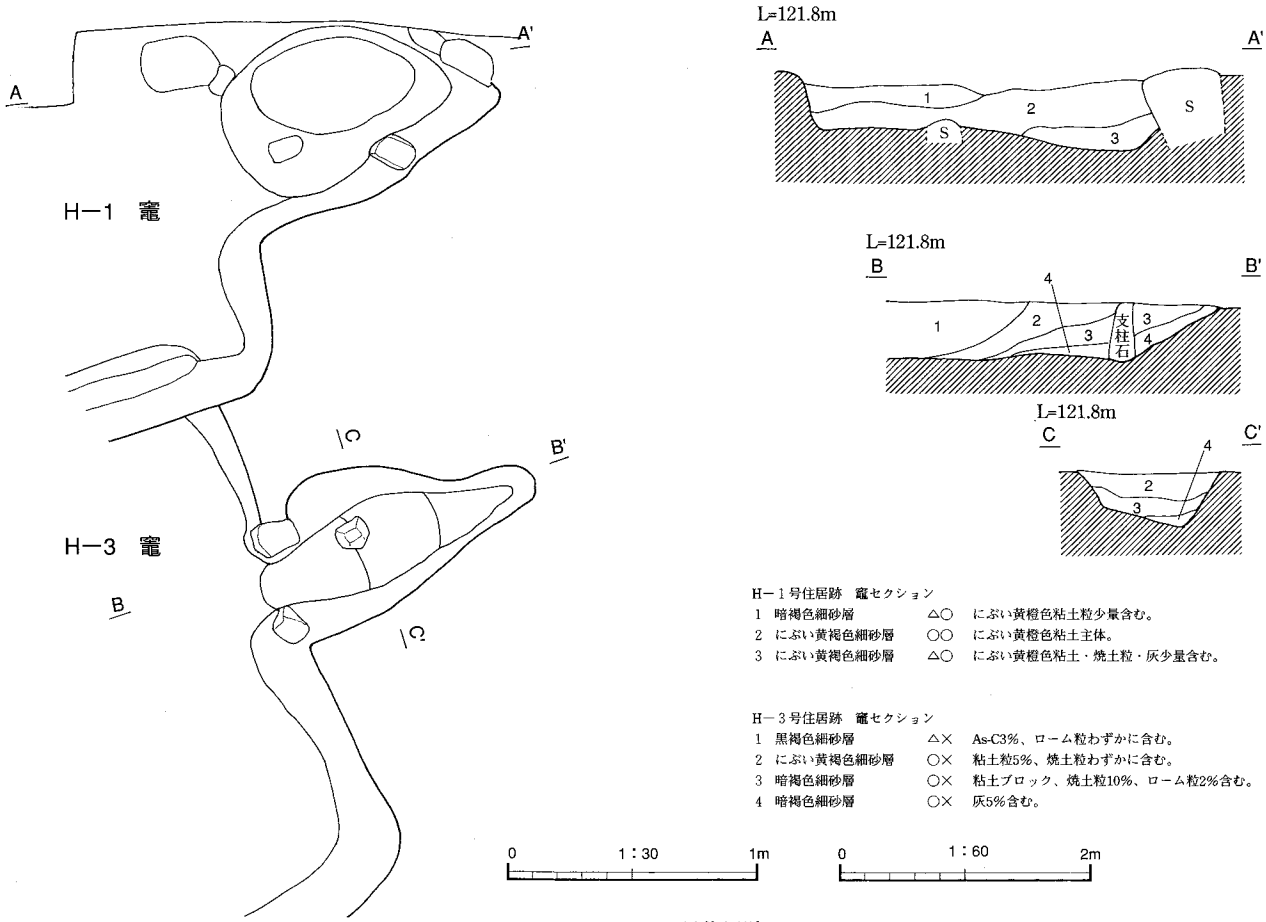


H−1号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	×△	As-C2%、炭化物・焼土粒を含む。
2	暗褐色細砂層	×△	As-C1%、焼土粒を含む。
3	暗褐色細砂層	×○	ロームブロックを含む。

H−3号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	×△	As-C2%、炭化物・焼土粒を含む。
2	暗褐色細砂層	×△	As-C1%、焼土粒を含む。
3	暗褐色細砂層	×○	ロームブロックを含む。



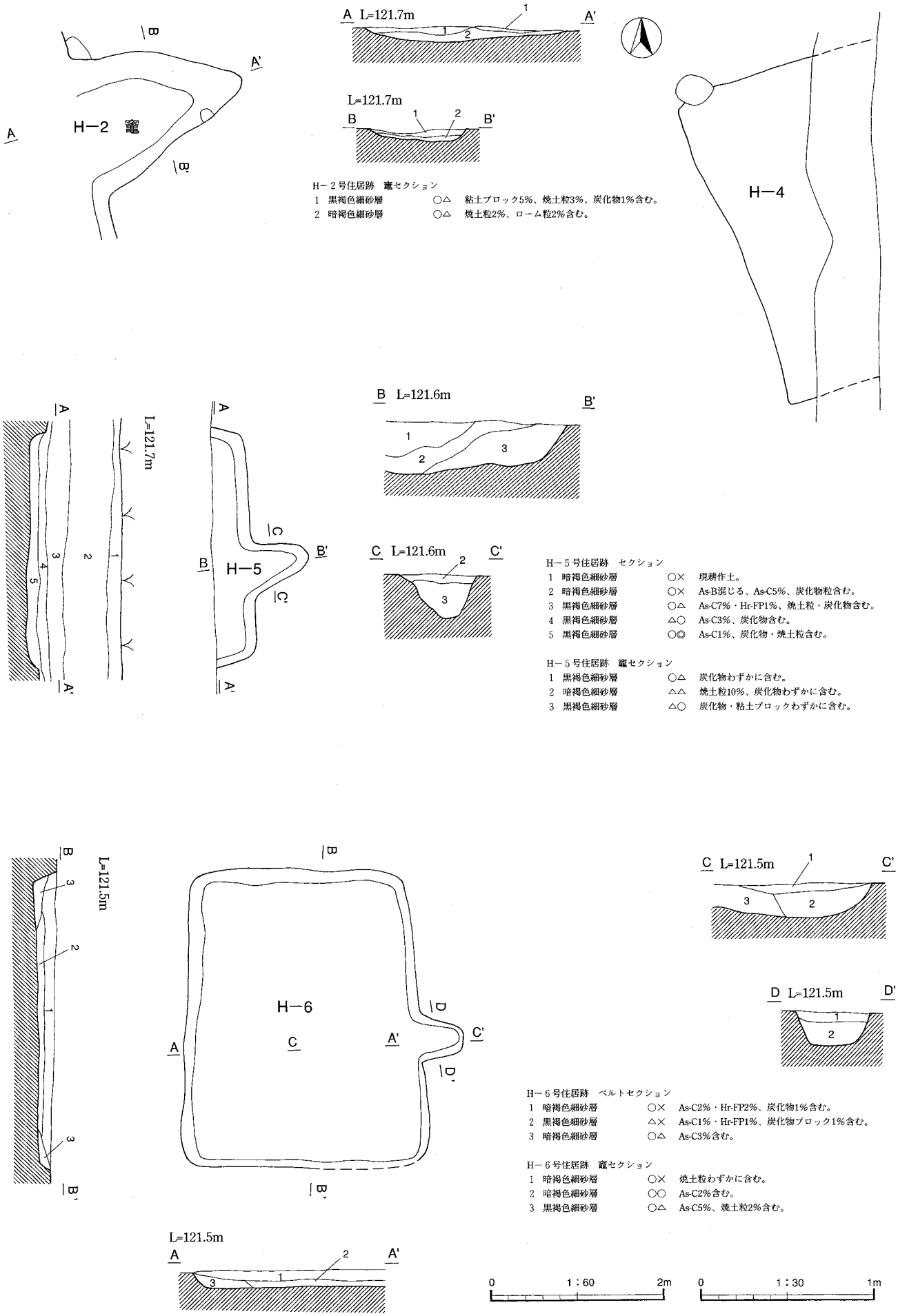
H−1号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	△○	にぶい黄橙色粘土粒少量含む。
2	にぶい黄褐色細砂層	○○	にぶい黄橙色粘土主体。
3	にぶい黄褐色細砂層	△○	にぶい黄橙色粘土・焼土粒・灰少量含む。

H−3号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△×	As-C3%、ローム粒わずかに含む。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	粘土粒5%、焼土粒わずかに含む。
3	暗褐色細砂層	○×	粘土ブロック、焼土粒10%、ローム粒2%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	灰5%含む。

Fig.22　H−1・3号住居跡



H−２号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○△	粘土ブロック5%、焼土粒3%、炭化物1%含む。
2	暗褐色細砂層	○△	焼土粒2%、ローム粒2%含む。

H−５号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C5%、炭化物粒含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C7%・Hr-FP1%、焼土粒・炭化物含む。
4	黒褐色細砂層	△○	As-C3%、炭化物含む。
5	黒褐色細砂層	○◎	As-C1%、炭化物・焼土粒含む。

H−５号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○△	炭化物わずかに含む。
2	暗褐色細砂層	△△	焼土粒10%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色細砂層	△○	炭化物・粘土ブロックわずかに含む。

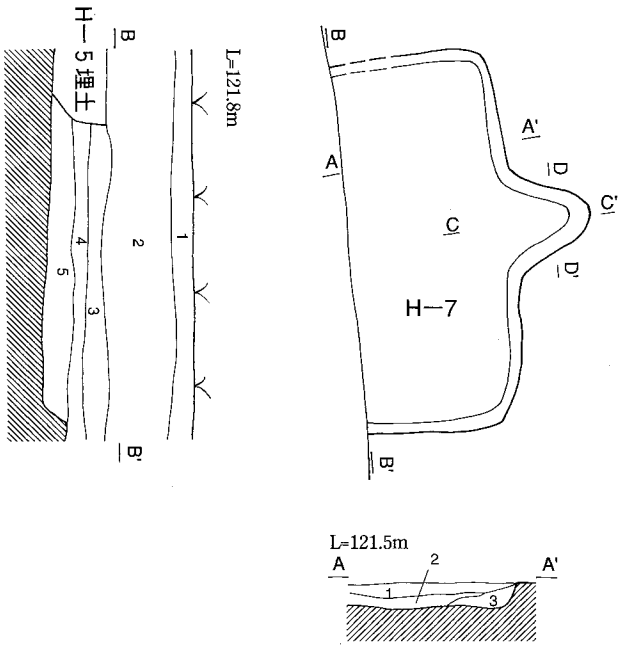
H−６号住居跡　ベルトセクション

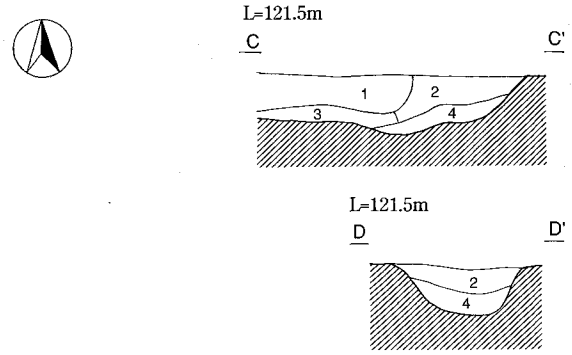
1	暗褐色細砂層	○×	As-C2%・Hr-FP2%、炭化物1%含む。
2	黒褐色細砂層	△×	As-C1%・Hr-FP1%、炭化物ブロック1%含む。
3	暗褐色細砂層	○△	As-C3%含む。

H−６号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○×	焼土粒わずかに含む。
2	暗褐色細砂層	○○	As-C2%含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、焼土粒2%含む。

Fig.23　H−２・４・５・６号住居跡



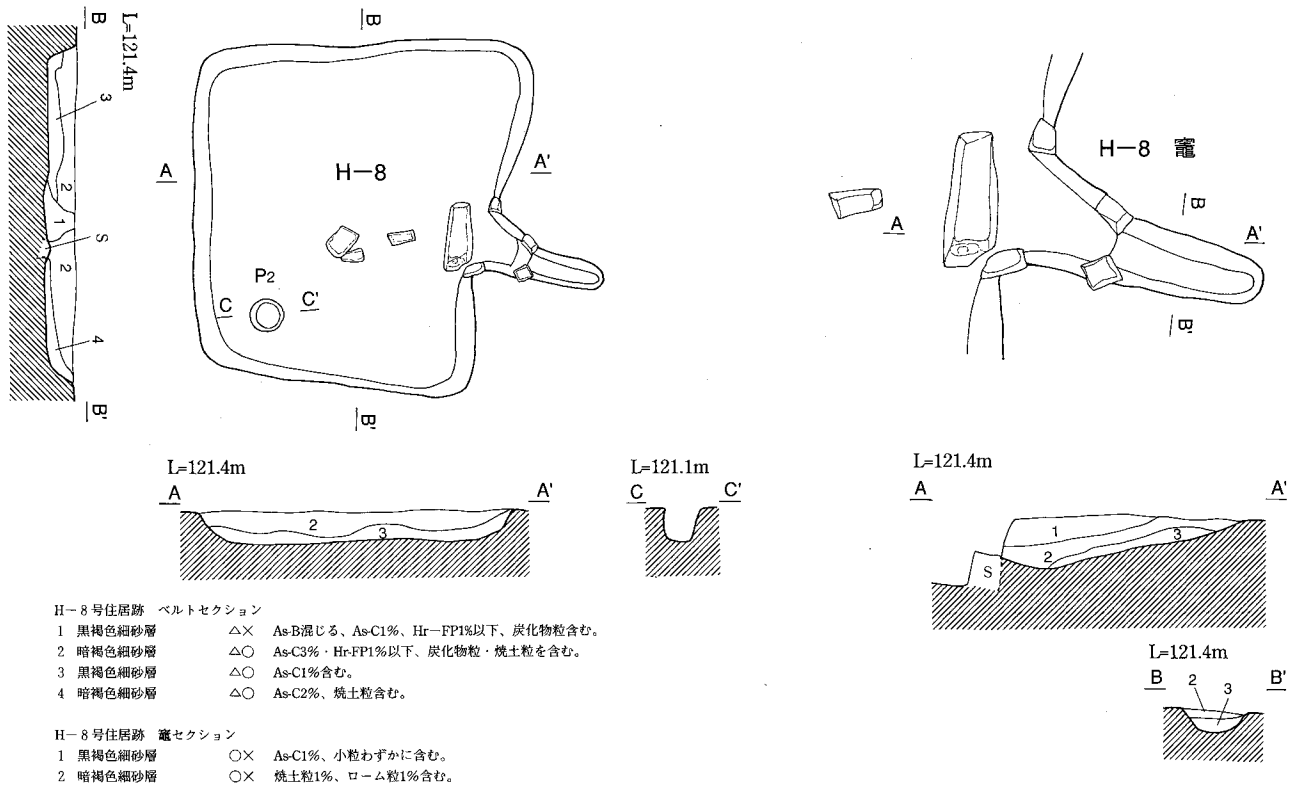


H－7号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△×	As-B混じる、現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP2%、炭化物わずかに含む。
3	黒褐色細砂層	○○	As-B5%・As-C2%・Hr-FP2%含む。
4	黒褐色細砂層	○○	As-C2%・Hr-FP2%、粘土粒2%、炭化物わずかに含む。
5	暗褐色細砂層	×○	粘性強い、As-C2%含む。

H－7号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、粘土粒・焼土粒2%含む。
2	黒褐色細砂層	△△	As-C1%、粘土粒・焼土粒3%含む。
3	黒褐色細砂層	○○	粘土粒2%含む。
4	黒褐色細砂層	○○	粘土粒・焼土粒1%含む。



H－8号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	△×	As-B混じる、As-C1%、Hr－FP1%以下、炭化物粒含む。
2	暗褐色細砂層	△○	As-C3%・Hr-FP1%以下、炭化物粒・焼土粒を含む。
3	黒褐色細砂層	△○	As-C1%含む。
4	暗褐色細砂層	△○	As-C2%、焼土粒含む。

H－8号住居跡　竈セクション

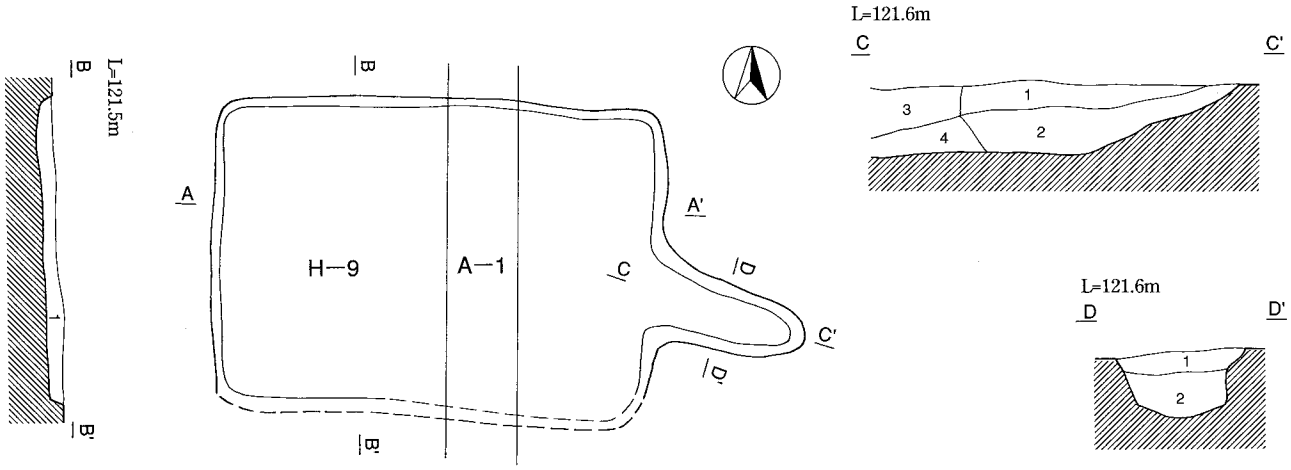
1	黒褐色細砂層	○×	As-C1%、小粒わずかに含む。
2	暗褐色細砂層	○×	焼土粒1%、ローム粒1%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	ローム粒3%含む。

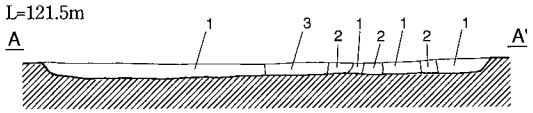
H－8号住居跡　柱穴・土坑　計測表

NO.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P2	楕円形	27	28	27.5	

0　1：30　1m　　0　1：60　2m

Fig.24　H－7・8号住居跡



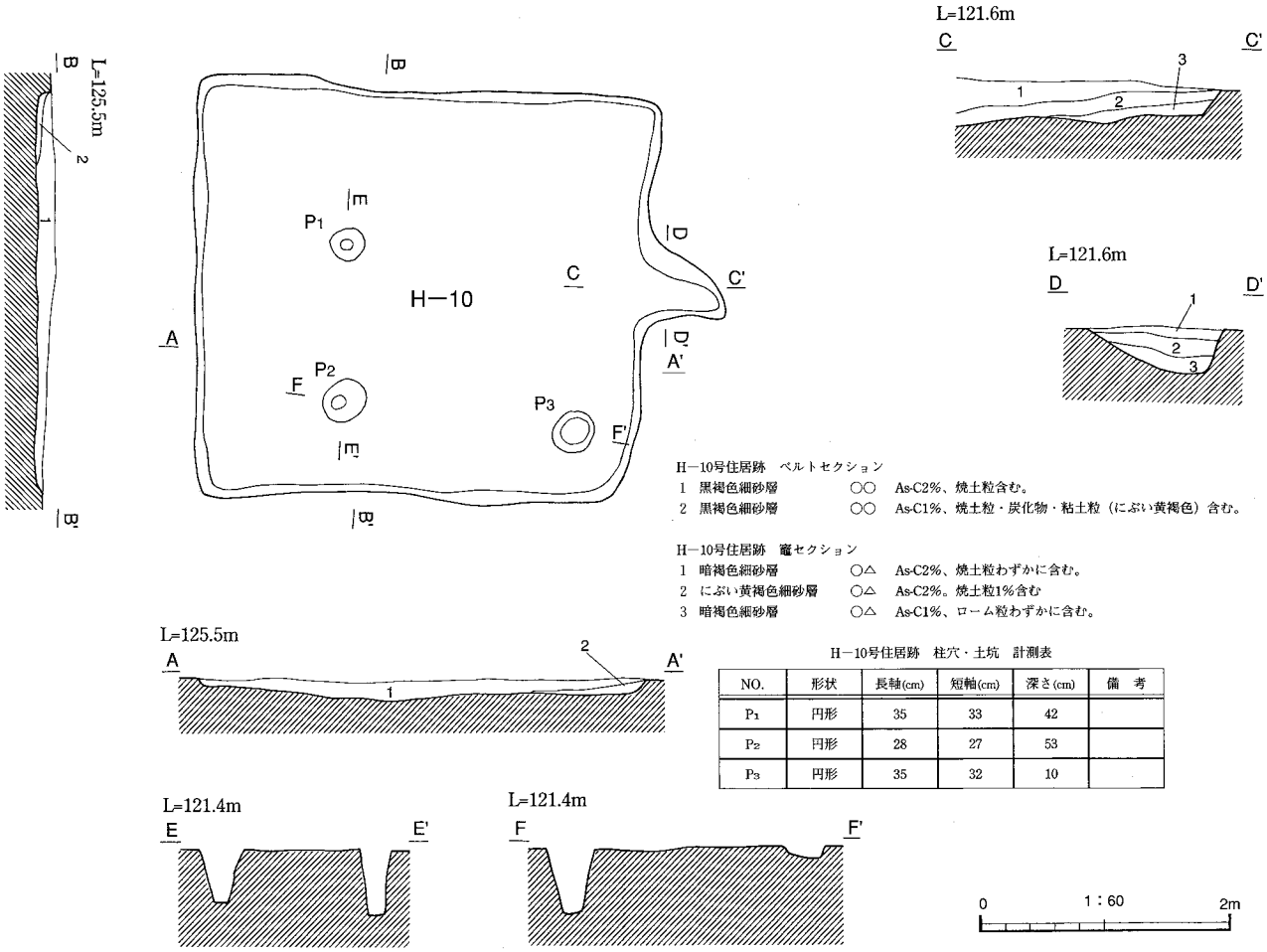


H−9号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○	砂利5%、As-C1%・Hr-FP1%、炭化物1%含む。
2	黒褐色細砂層	○○	砂利2%、炭化物1%含む。
3	黒褐色細砂層	○○	As-C1%、Hr-FP1%、炭化物1%含む。
			(A−1号道路跡埋土)

H−9号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○×	As-C1%、焼土粒1%、炭化物わずかに含む。
2	黒色細砂層	△○	As-C1%。焼土粒5%含む
3	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、炭化物少量含む。
4	暗褐色細砂層	○△	焼土粒1%、粘土粒わずかに含む。



H−10号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C2%、焼土粒含む。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C1%、焼土粒・炭化物・粘土粒（にぶい黄褐色）含む。

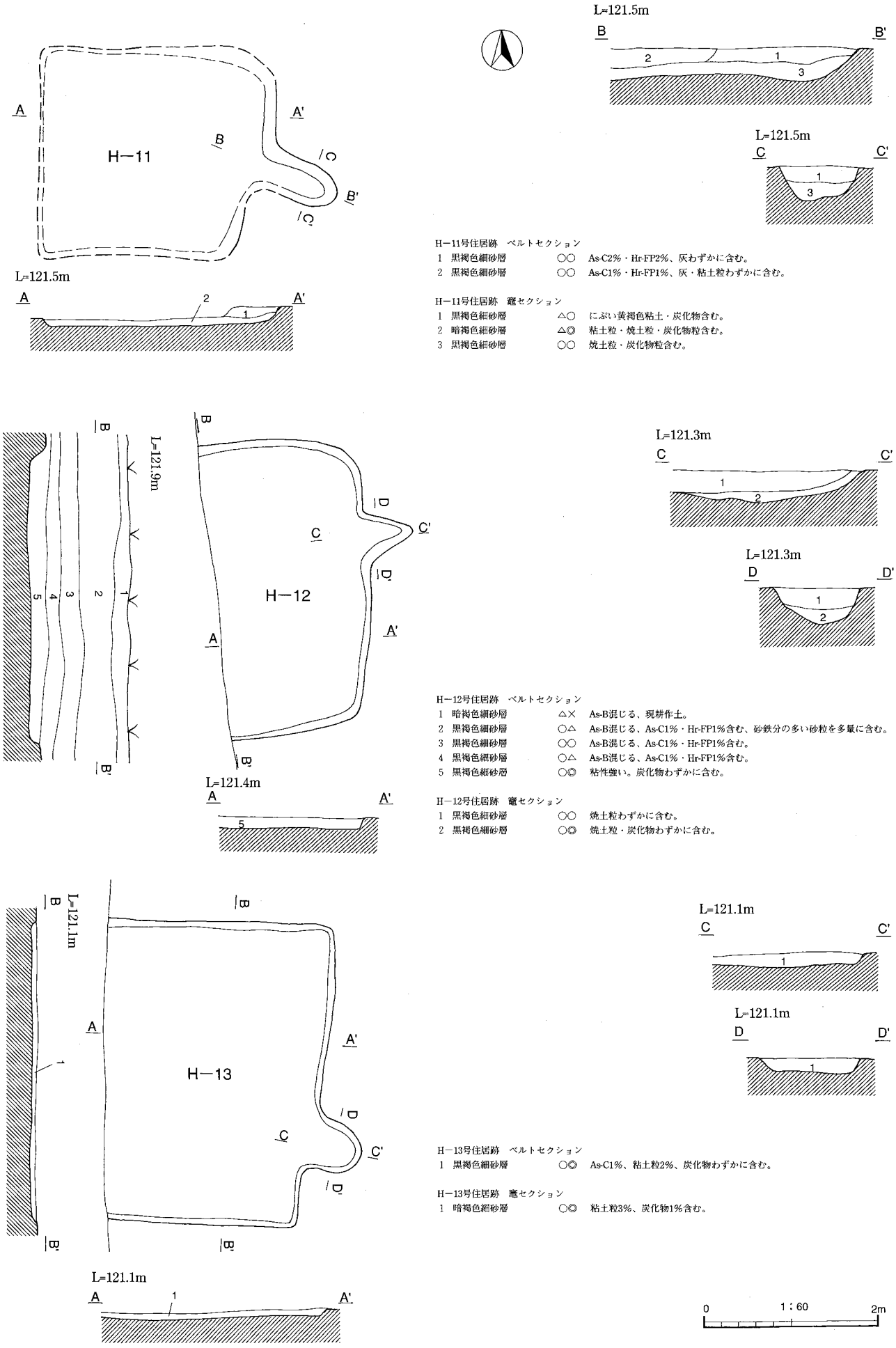
H−10号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○△	As-C2%、焼土粒わずかに含む。
2	にぶい黄褐色細砂層	○△	As-C2%。焼土粒1%含む
3	暗褐色細砂層	○△	As-C1%、ローム粒わずかに含む。

H−10号住居跡　柱穴・土坑　計測表

NO.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	円形	35	33	42	
P_2	円形	28	27	53	
P_3	円形	35	32	10	

Fig.25　H9・10号住居跡



H−11号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C2%・Hr-FP2%、灰わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C1%・Hr-FP1%、灰・粘土粒わずかに含む。

H−11号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△○	にぶい黄褐色粘土・炭化物含む。
2	暗褐色細砂層	△◎	粘土粒・焼土粒・炭化物粒含む。
3	黒褐色細砂層	○○	焼土粒・炭化物粒含む。

H−12号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△×	As-B混じる、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C1%・Hr-FP1%含む、砂鉄分の多い砂粒を多量に含む。
3	黒褐色細砂層	○○	As-B混じる、As-C1%・Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C1%・Hr-FP1%含む。
5	黒褐色細砂層	○◎	粘性強い。炭化物わずかに含む。

H−12号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○○	焼土粒わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○◎	焼土粒・炭化物わずかに含む。

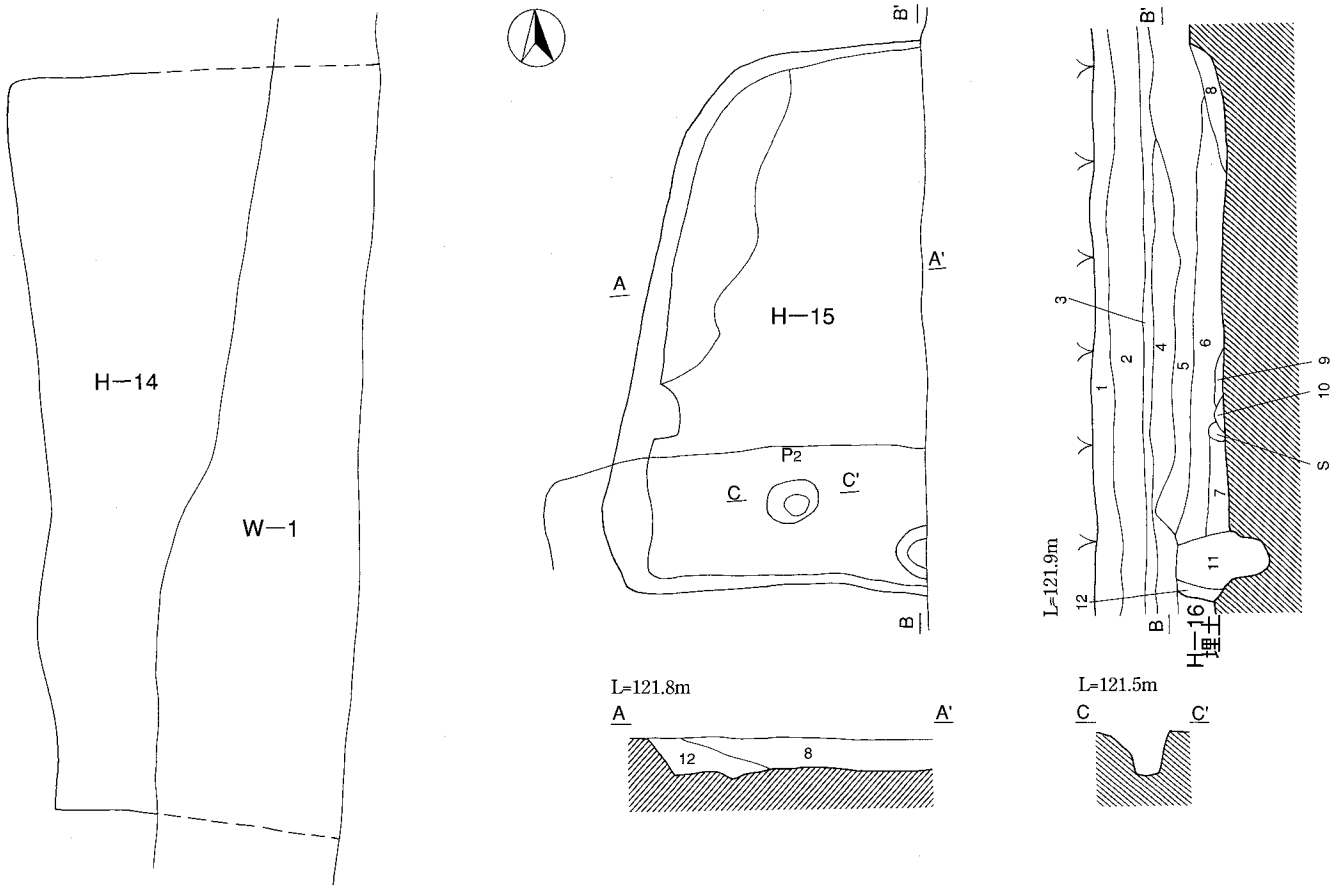
H−13号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○◎	As-C1%、粘土粒2%、炭化物わずかに含む。

H−13号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○◎	粘土粒3%、炭化物1%含む。

Fig.26　H−11～13号住居跡

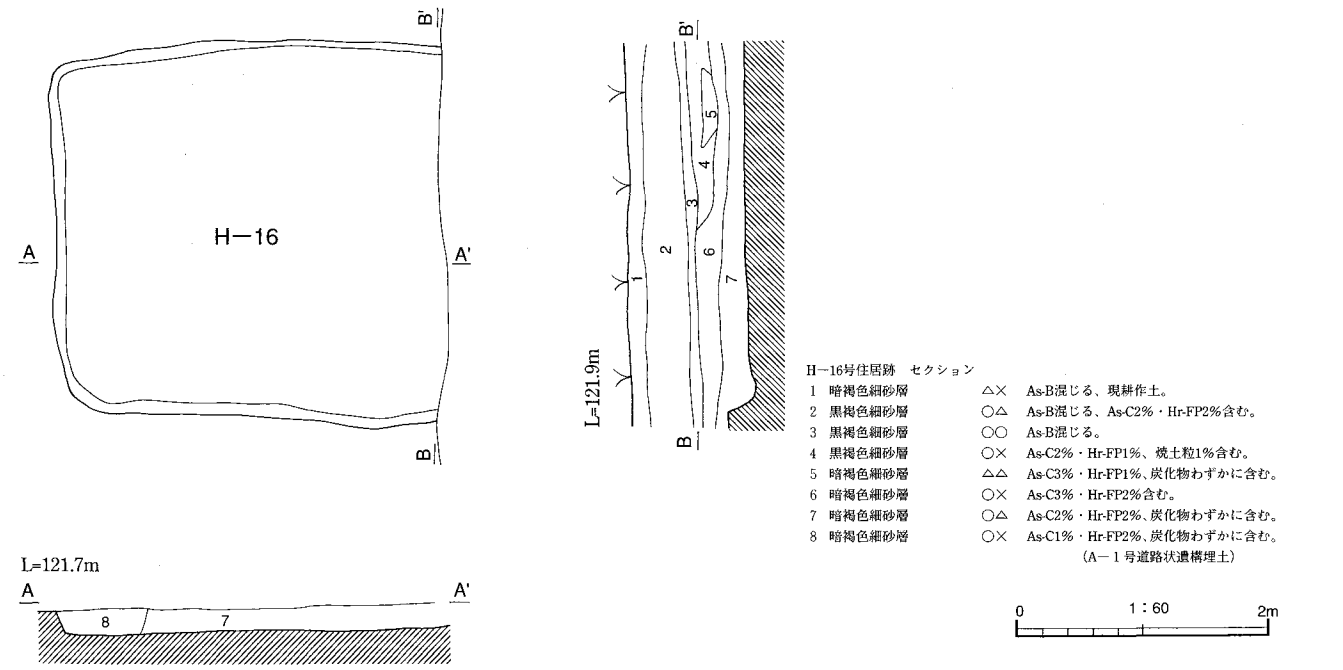


H−15号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	△×	As-B混じる、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C2%・Hr-FP2%含む。
3	黒褐色細砂層	○○	As-B混じる。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP2%、炭化物1%含む。
5	暗褐色細砂層	△△	As-C3%・Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
6	暗褐色細砂層	○×	As-C3%・Hr-FP2%含む。
7	暗褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP2%、炭化物わずかに含む。
8	暗褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP1%含む。
9	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C1%・粘土粒3%含む。
10	褐色細砂層	○△	粘土多量に含む。
11	暗褐色細砂層	○△	As-C1%・Hr-FP1%、ローム粒1%含む。
12	暗褐色細砂層	△×	炭化物わずかに含む。

H−15号住居跡　柱穴・土坑　計測表

NO.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P2	楕円形	43	33	36.5	



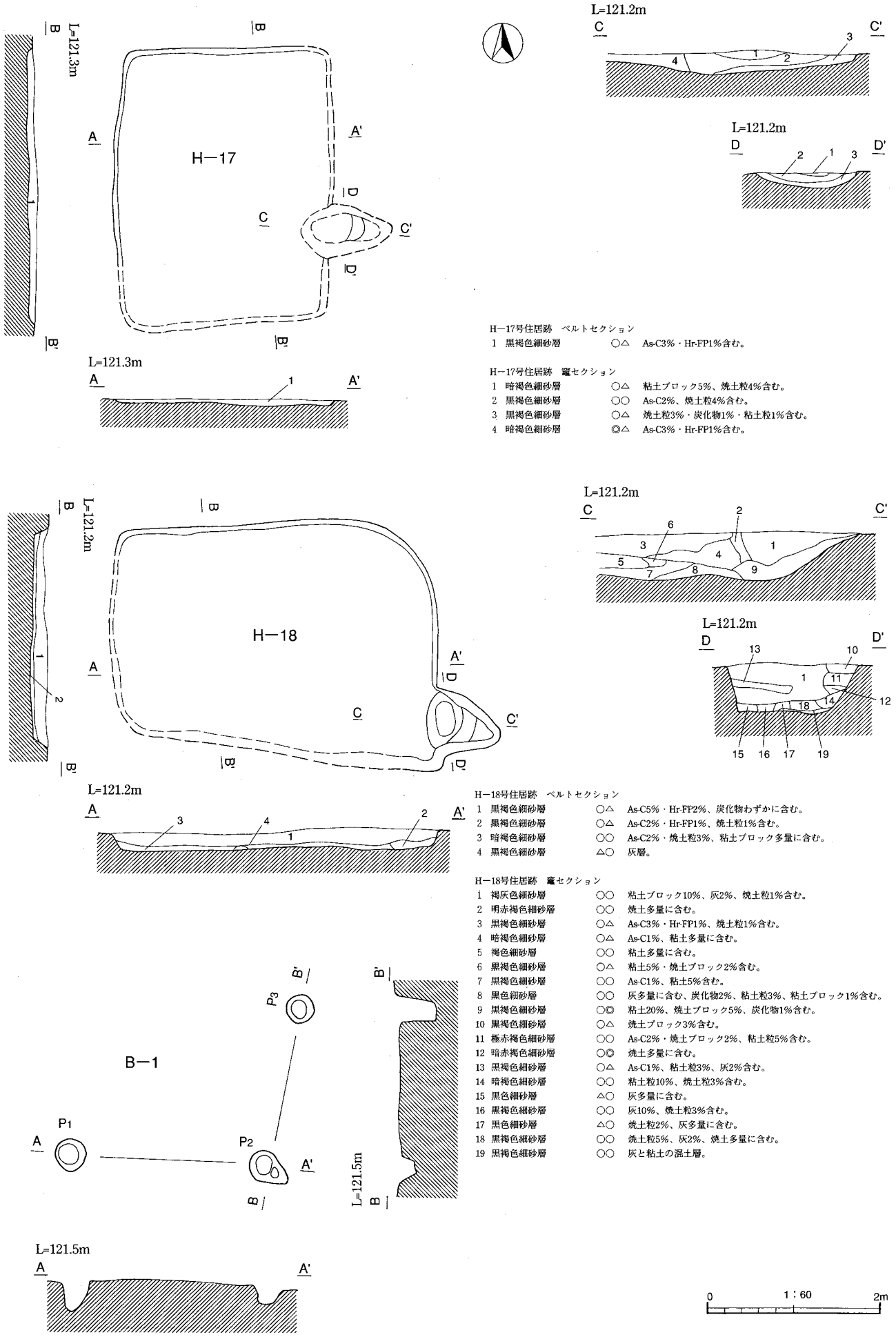
H−16号住居跡　セクション

1	暗褐色細砂層	△×	As-B混じる、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C2%・Hr-FP2%含む。
3	黒褐色細砂層	○○	As-B混じる。
4	黒褐色細砂層	○×	As-C2%・Hr-FP1%、焼土粒1%含む。
5	暗褐色細砂層	△△	As-C3%・Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
6	暗褐色細砂層	○×	As-C3%・Hr-FP2%含む。
7	暗褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP2%、炭化物わずかに含む。
8	暗褐色細砂層	○×	As-C1%・Hr-FP2%、炭化物わずかに含む。

（A−１号道路状遺構埋土）

0　1：60　2m

Fig.27　H−14～16号住居跡



H−17号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C3%・Hr-FP1%含む。

H−17号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	○△	粘土ブロック5%、焼土粒4%含む。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C2%、焼土粒4%含む。
3	黒褐色細砂層	○△	焼土粒3%・炭化物1%・粘土粒1%含む。
4	暗褐色細砂層	◎△	As-C3%・Hr-FP1%含む。

H−18号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C5%・Hr-FP2%、炭化物わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP1%、焼土粒1%含む。
3	暗褐色細砂層	○○	As-C2%・焼土粒3%、粘土ブロック多量に含む。
4	黒褐色細砂層	△○	灰層。

H−18号住居跡　竈セクション

1	褐灰色細砂層	○○	粘土ブロック10%、灰2%、焼土粒1%含む。
2	明赤褐色細砂層	○○	焼土多量に含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C3%・Hr-FP1%、焼土粒1%含む。
4	暗褐色細砂層	○△	As-C1%、粘土多量に含む。
5	褐色細砂層	○○	粘土多量に含む。
6	黒褐色細砂層	○△	粘土5%・焼土ブロック2%含む。
7	黒褐色細砂層	○○	As-C1%、粘土5%含む。
8	黒色細砂層	○○	灰多量に含む、炭化物2%、粘土粒3%、粘土ブロック1%含む。
9	黒褐色細砂層	○◎	粘土20%、焼土ブロック5%、炭化物1%含む。
10	黒褐色細砂層	○△	焼土ブロック3%含む。
11	極赤褐色細砂層	○○	As-C2%・焼土ブロック2%、粘土粒5%含む。
12	暗赤褐色細砂層	○◎	焼土多量に含む。
13	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、粘土粒3%、灰2%含む。
14	暗褐色細砂層	○○	粘土粒10%、焼土粒3%含む。
15	黒色細砂層	△○	灰多量に含む。
16	黒褐色細砂層	○○	灰10%、焼土粒3%含む。
17	黒色細砂層	△○	焼土粒2%、灰多量に含む。
18	黒褐色細砂層	○○	焼土粒5%、灰2%、焼土多量に含む。
19	黒褐色細砂層	○○	灰と粘土の混土層。

Fig.28　H−17・18号住居跡、B−1号掘立柱建物跡

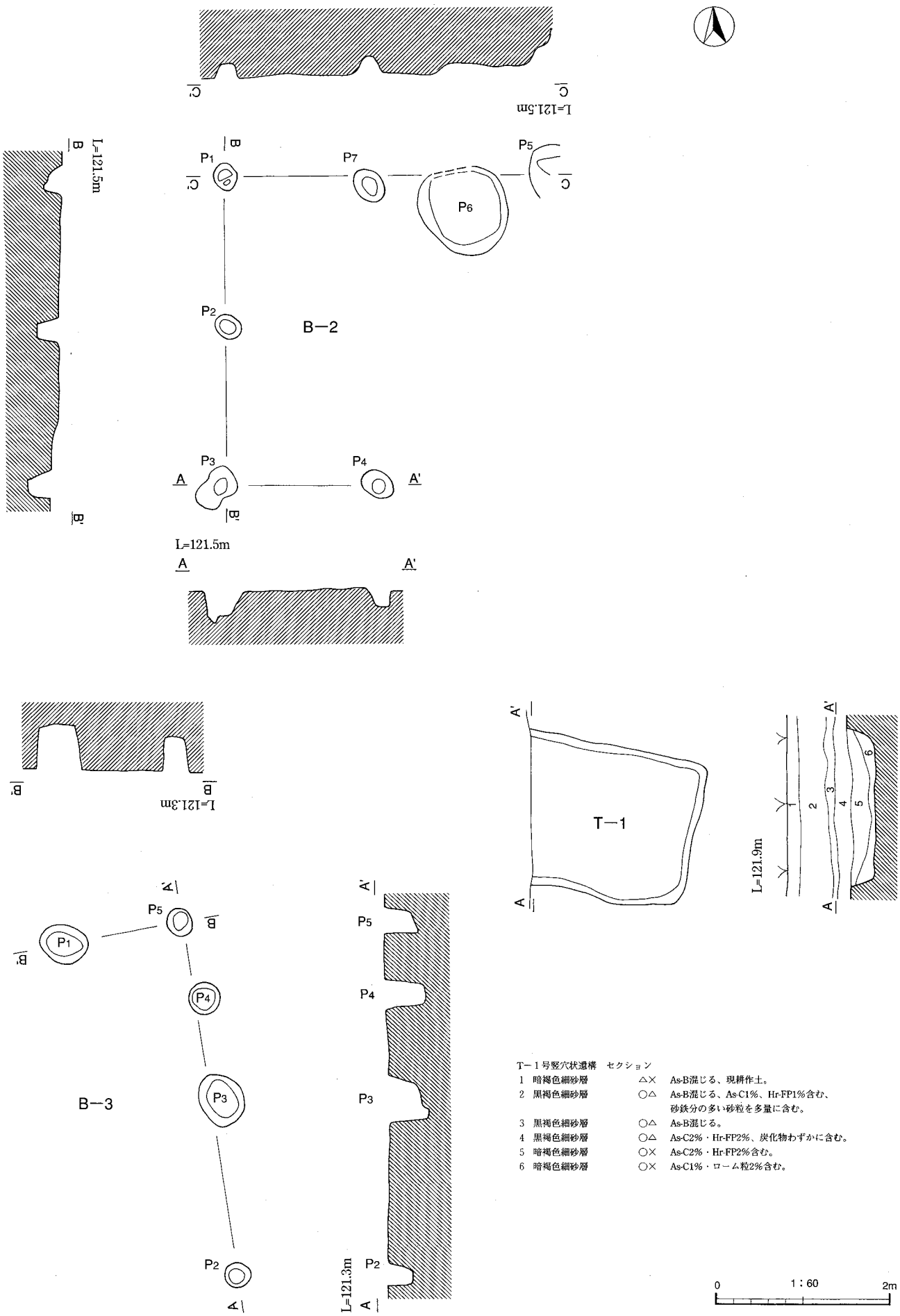


Fig.29　B－2・3号掘立柱建物跡、T－1号竪穴状遺構

W−1号溝跡　北側ベルトセクション

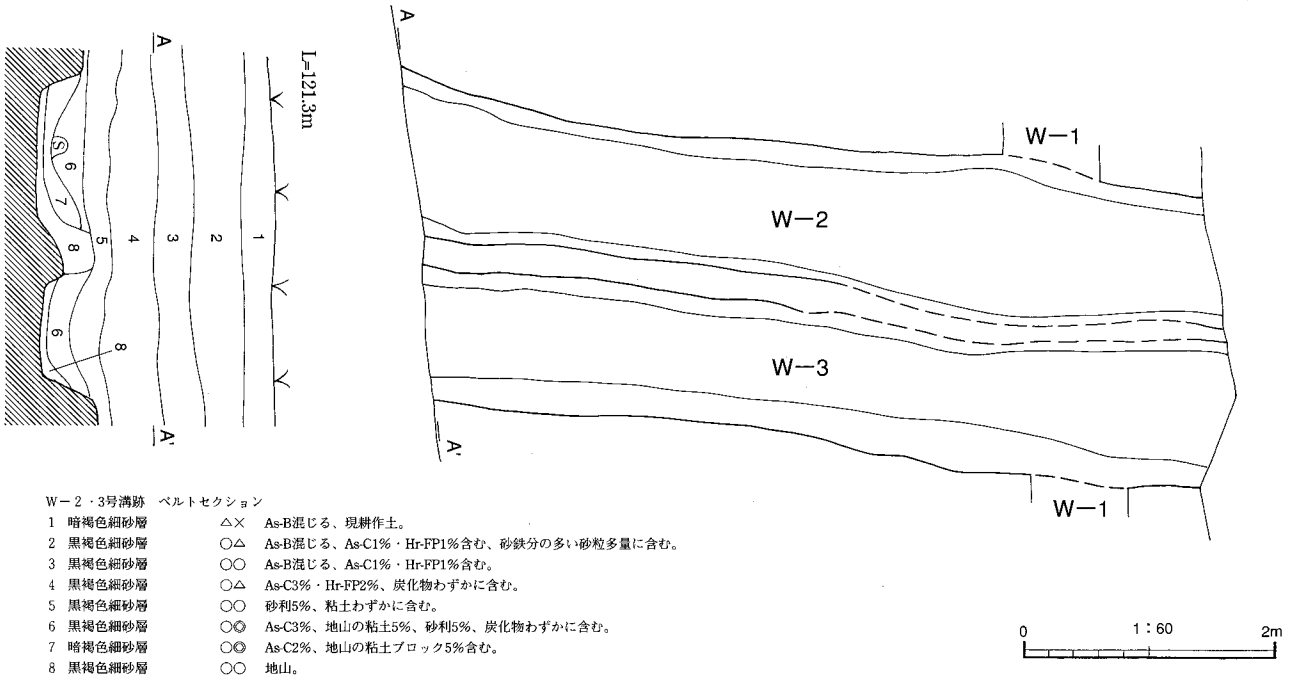
1	暗褐色細砂層	○△	As-C2%、炭化物わずかに含む。
2	黒褐色細砂層	○△	As-C・焼土粒わずかに含む。
3	暗褐色細砂層	△△	As-C1%、砂利含む。

W−1号溝跡　中央ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-B混じる。
2	暗褐色細砂層	◎○	粘土粒わずかに含む。

W−1号溝跡　南側ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	◎○	砂利混じる、As-Cわずかに含む。



W−2・3号溝跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△×	As-B混じる、現耕作土。
2	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C1%・Hr-FP1%含む、砂鉄分の多い砂粒多量に含む。
3	黒褐色細砂層	○○	As-B混じる、As-C1%・Hr-FP1%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C3%・Hr-FP2%、炭化物わずかに含む。
5	黒褐色細砂層	○○	砂利5%、粘土わずかに含む。
6	黒褐色細砂層	○◎	As-C3%、地山の粘土5%、砂利5%、炭化物わずかに含む。
7	暗褐色細砂層	○◎	As-C2%、地山の粘土ブロック5%含む。
8	黒褐色細砂層	○○	地山。

Fig.30　W−1～3号溝跡

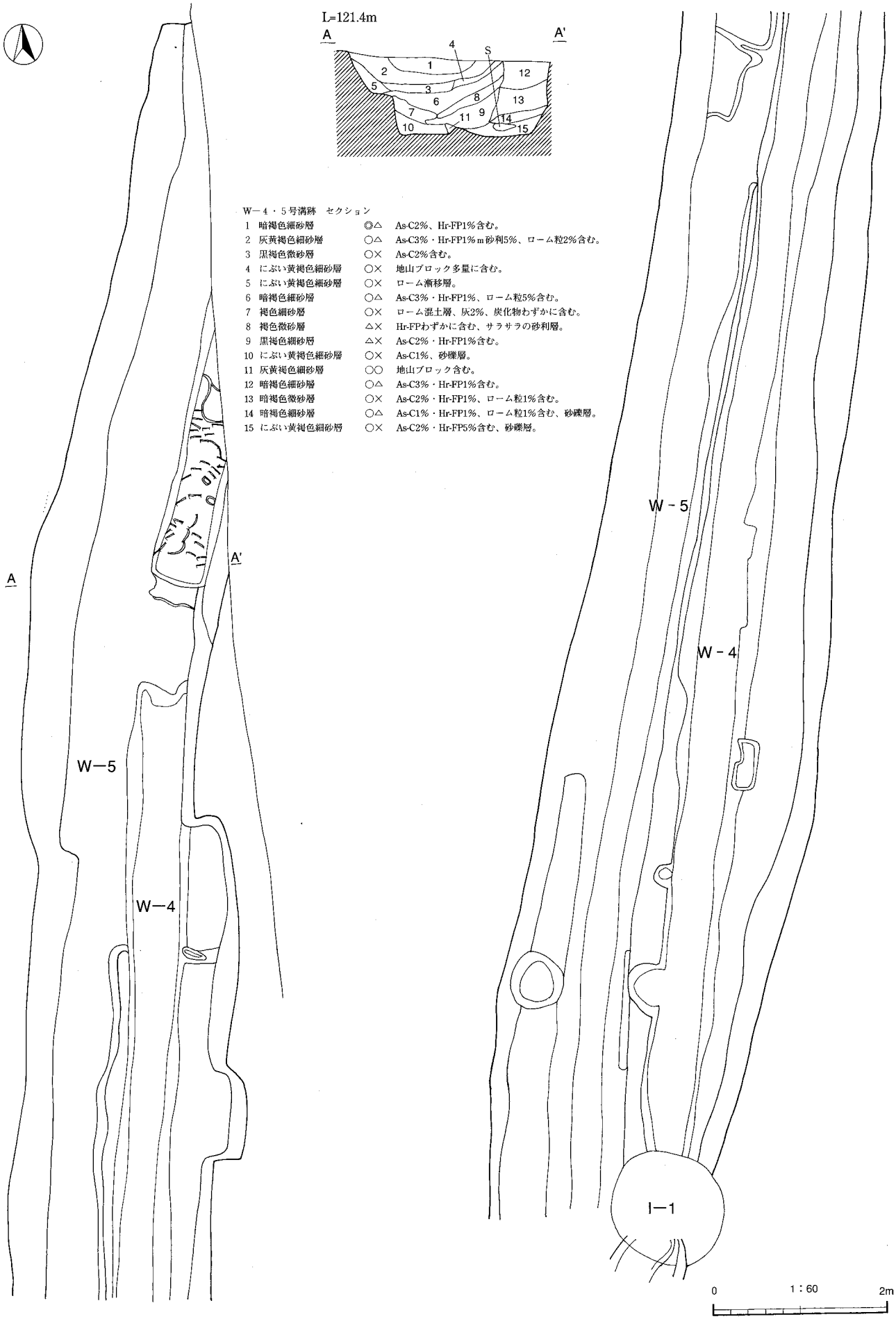
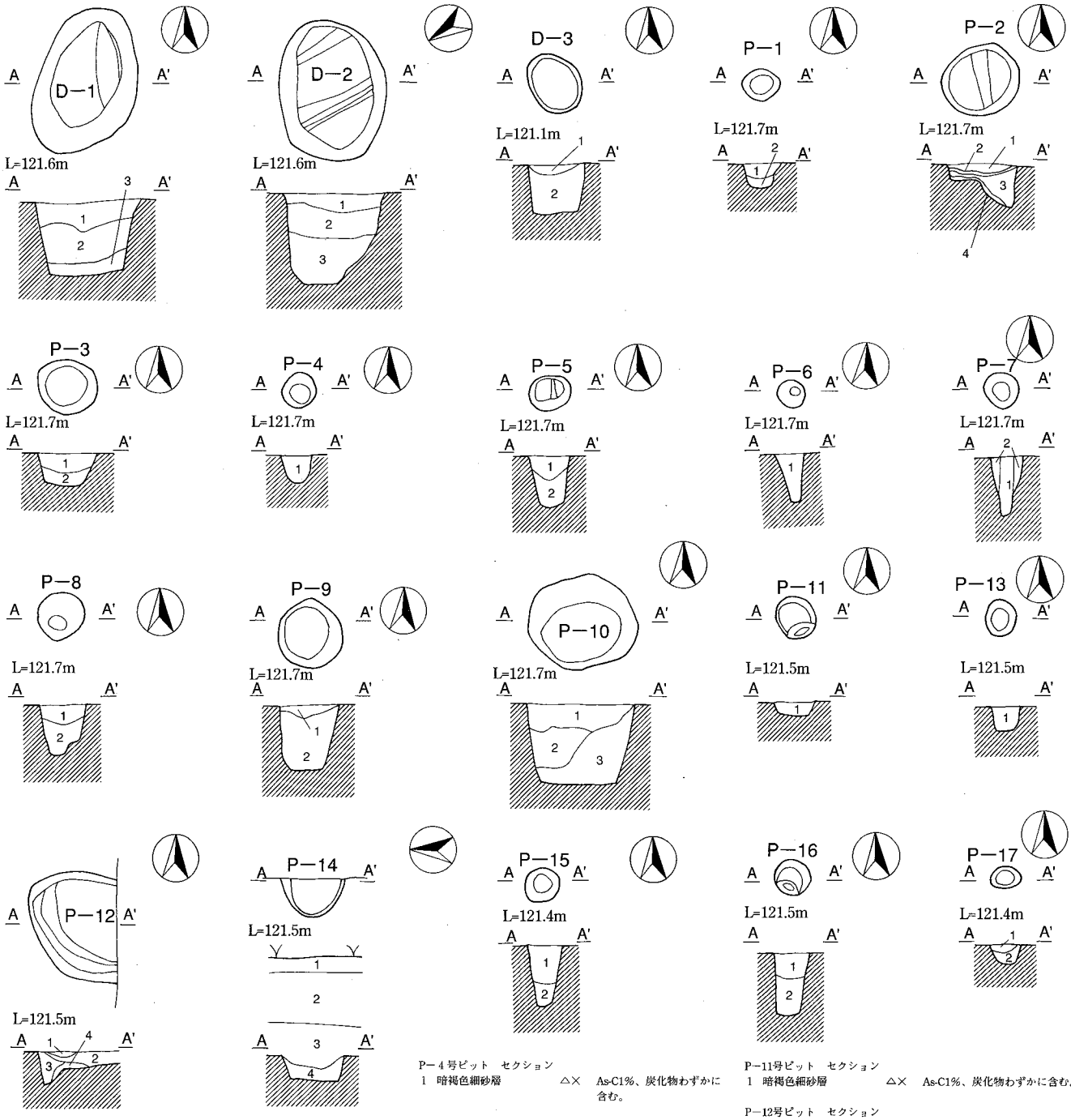


Fig.31　W－4・5号溝跡



D−1号土坑　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	As-C1%・Hr-FP1%、炭化物2%含む。
2 暗褐色細砂層	△×	As-C3%・Hr-FP3%、ローム粒2%、炭化物わずかに含む。
3 暗褐色細砂層	△×	As-C2%・Hr-FP2%、ローム粒2%、炭化物わずかに含む。

D−2号土坑　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	As-C2%・Hr-FP2%、炭化物1%含む。
2 暗褐色細砂層	△×	As-C3%・Hr-FP1%、ロームブロック5%含む。
3 暗褐色細砂層	×△	ローム粒3%、As-C2%含む。

D−3号土坑　セクション

1 灰黄褐色細砂層	○×	焼土・粘土多量に含む。
2 暗褐色細砂層	△×	As-C2%・Hr-FP2%、ローム粒3%含む。

P−1号ピット　セクション

1 黒褐色細砂層	○×	As-C2%含む。
2 暗褐色細砂層	△×	ローム粒2%含む。

P−2号ピット　セクション

1 黒褐色細砂層	○×	As-C2%含む。
2 灰黄褐色細砂層	○△	粘土多量に含む。
3 暗褐色細砂層	○×	As-C3%、ローム粒わずかに含む。
4 褐色細砂層	○×	ローム地山。

P−3号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	As-C1%、炭化物わずかに含む。
2 黒褐色細砂層	◎×	As-C2%含む。

P−4号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	△×	As-C1%、炭化物わずかに含む。

P−5号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○△	炭化物わずかに含む。
2 暗褐色細砂層	○×	ローム粒1%含む。

P−6号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	As-C2%、ローム粒1%含む。

P−7号ピット　セクション

1 黒褐色細砂層	○×	灰5%、ローム粒5%含む。
2 暗褐色細砂層	○×	As-C2%、ローム粒2%含む。

P−8号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	As-C1%含む。
2 にぶい黄褐色細砂層	△×	ローム粒3%含む。

P−9号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	
2 暗褐色細砂層	○×	As-C2%、ローム粒2%含む。

P−10号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○×	As-C1%含む。
2 褐色細砂層	○△	As-C2%、ローム粒3%含む。
3 黒褐色細砂層	○×	As-C1%、ローム粒2%含む。

P−11号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	△×	As-C1%、炭化物わずかに含む。

P−12号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	○△	As-C2%含む。
2 黒褐色細砂層	○×	灰多量に含む。
3 褐色細砂層	○×	ローム粒5%含む。
4 褐色細砂層	○×	地山。

P−13号ピット　セクション

1 暗褐色細砂層	××	にぶい黄褐色土ブロック混じる。

P−14号ピット　セクション

1 黒褐色細砂層	××	現耕作土。
2 暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%含む。
3 黒褐色細砂層	△×	As-C5%含む。
4 黒褐色細砂層	○○	As-C1%以下。

P−15号ピット　セクション

1 黒褐色細砂層	○×	炭化物わずかに含む。
2 暗褐色細砂層	△○	ローム粒5%含む。

P−16号ピット　セクション

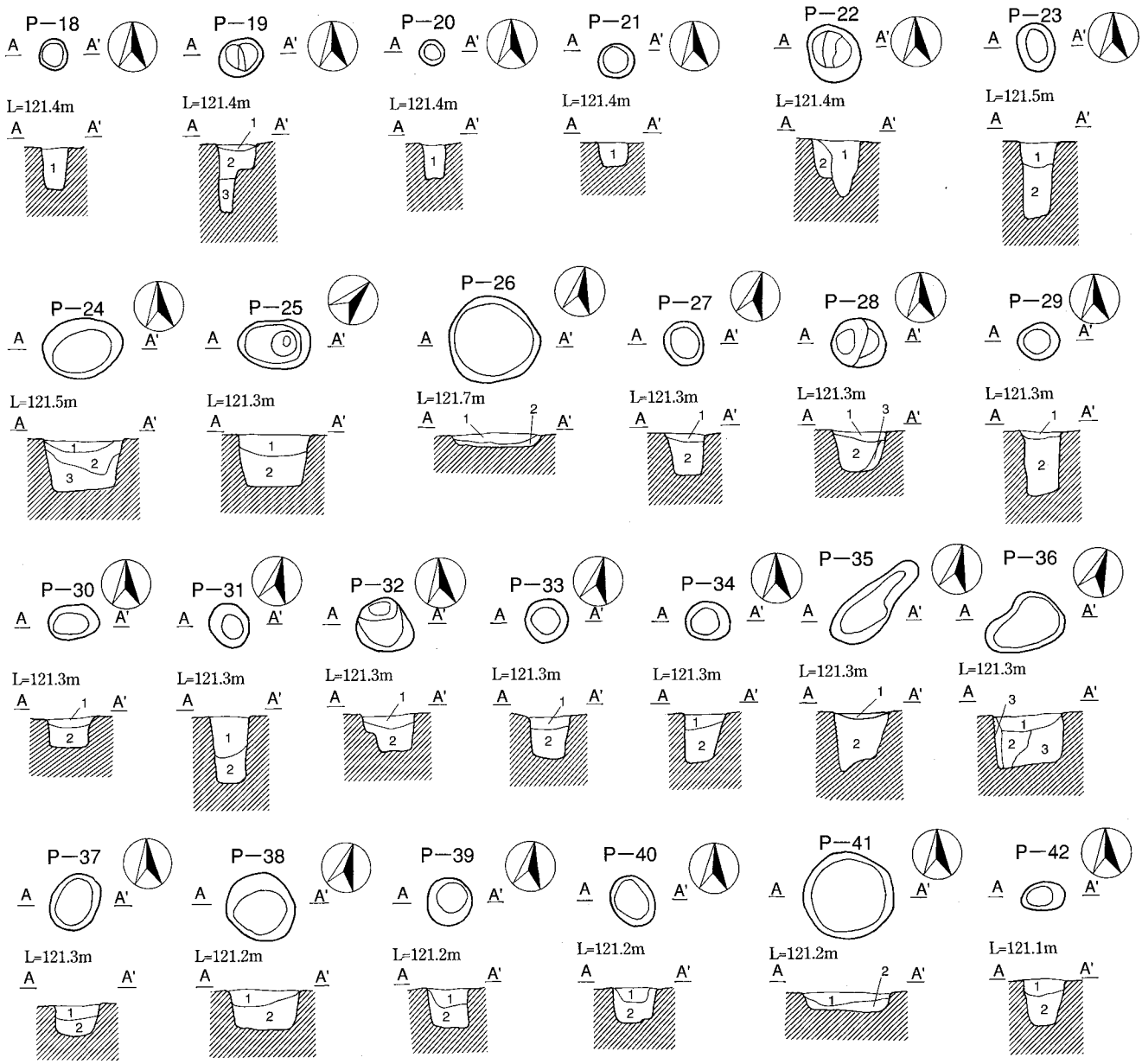
1 黒褐色細砂層	○△	As-C2%含む。
2 黒褐色細砂層	○△	ローム粒5%含む。

P−17号ピット　セクション

1 黒褐色細砂層	○×	炭化物わずかに含む。
2 黒褐色細砂層	○△	

0　1：60　2m

Fig.32　D−1～3号土坑、P−1～17号ピット



P−18号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、炭化物・焼土わずかに含む。

P−19号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　灰5%、炭化物5%、As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○△　As-C1%、炭化物わずかに含む。
3　黒褐色細砂層　○○　ローム粒わずかに含む。

P−20号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　△○　炭化物ブロックわずかに含む。

P−21号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C2%、粘土粒3%含む。

P−22号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○○　炭化物わずかに含む。
2　黒褐色細砂層　○△　As-C2%含む。

P−23号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C1%、焼土粒わずかに含む。
2　黒褐色細砂層　○○　地山。

P−24号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C1%含む。
3　黒褐色細砂層　○×　地山。

P−25号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、焼土粒わずかに含む。
2　黒褐色細砂層　○○　炭化物わずかに含む

P−26号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×
2　褐色細砂層　○×　ローム粒10%含む。

P−27号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○○
2　黒褐色細砂層　○×　地山。

P−28号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C1%含む。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C1%、炭化物わずかに含む。
3　黒褐色細砂層　○×　地山。

P−29号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、炭化物1%含む。
2　黒褐色細砂層　○○　炭化物2%含む。

P−30号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○
2　黒褐色細砂層　○×　地山。

P−31号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、炭化物1%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　砂利混じる、粘土わずかに含む。

P−32号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　炭化物わずかに含む。
2　黒褐色細砂層　○○　砂利混じる、粘土わずかに含む。

P−33号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　炭化物・焼土粒わずかに含む。

P−34号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　炭化物・焼土粒わずかに含む。

P−35号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C2%含む。
2　褐色細砂層　○△　砂利混じる。

P−36号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　砂利混じる、As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○○　砂利混じる。
3　暗褐色細砂層　○◎　焼土粒・As-C極少量含む。

P−37号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　地山。

P−38号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　地山。

P−39号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　地山。

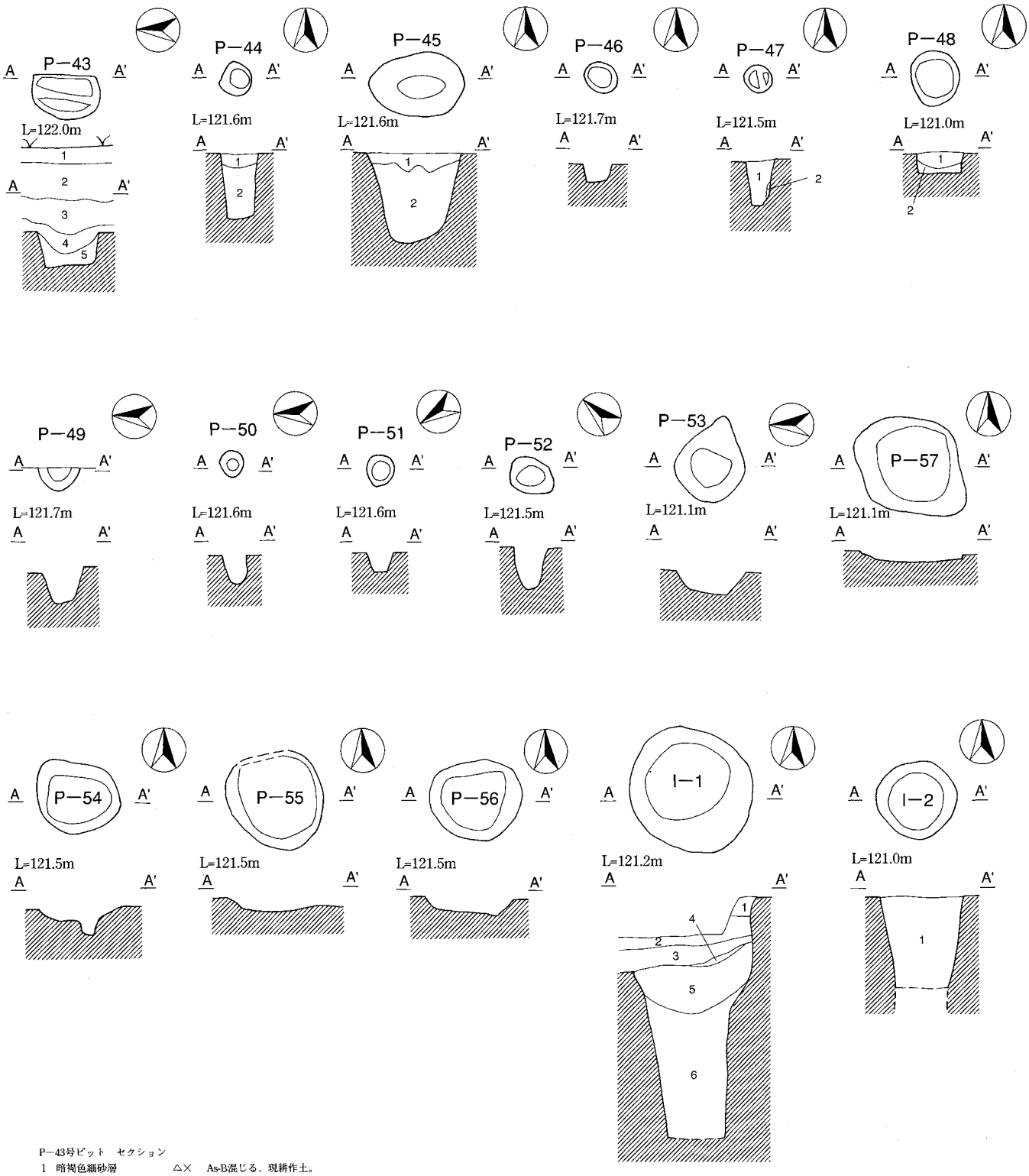
P−40号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　地山。

P−41号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　地山。

P−42号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C2%含む。
2　黒褐色細砂層　○◎　地山。

0　1：60　2m

Fig.33　P−18〜42号ピット



P−43号ピット　セクション

1	暗褐色細砂層	△×	As-B混じる、現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	砂利混じる、As-C2%・Hr-FP2%含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C3%・Hr-FP2%含む。
4	黒褐色細砂層	○△	As-C4%・Hr-FP1%含む。
5	暗褐色細砂層	○△	As-C3%、ローム粒3%含む。

P−44号ピット　セクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C1%・Hr-FP1%含む。
2	暗褐色細砂層	○×	ローム粒3%含む。

P−45号ピット　セクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C2%・Hr-FP1%、炭化物わずかに含む。
2	暗褐色細砂層	○×	As-C2%、Hr-FP2%、ローム粒3%含む。

P−47号ピット　セクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、Hr-FP1%含む。
2	暗褐色細砂層	○◎	地山。

P−48号ピット　セクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C2%含む。
2	暗褐色細砂層	○◎	地山。

I−1号井戸跡　セクション

1	黒褐色細砂層	◎○	As-C10%、焼土粒・炭化物粒含む。
2	黒褐色細砂層	○○	As-C7%、焼土粒含む。
3	黒褐色細砂層	◎○	As-C2%、焼土粒含む。
4	黒褐色微砂層	○◎	灰黄褐色粘土ブロック含む。
5	黒褐色微砂層	○◎	
6	黒褐色微砂層	○◎	砂利混じる、As-C1%、焼土粒極少量含む。

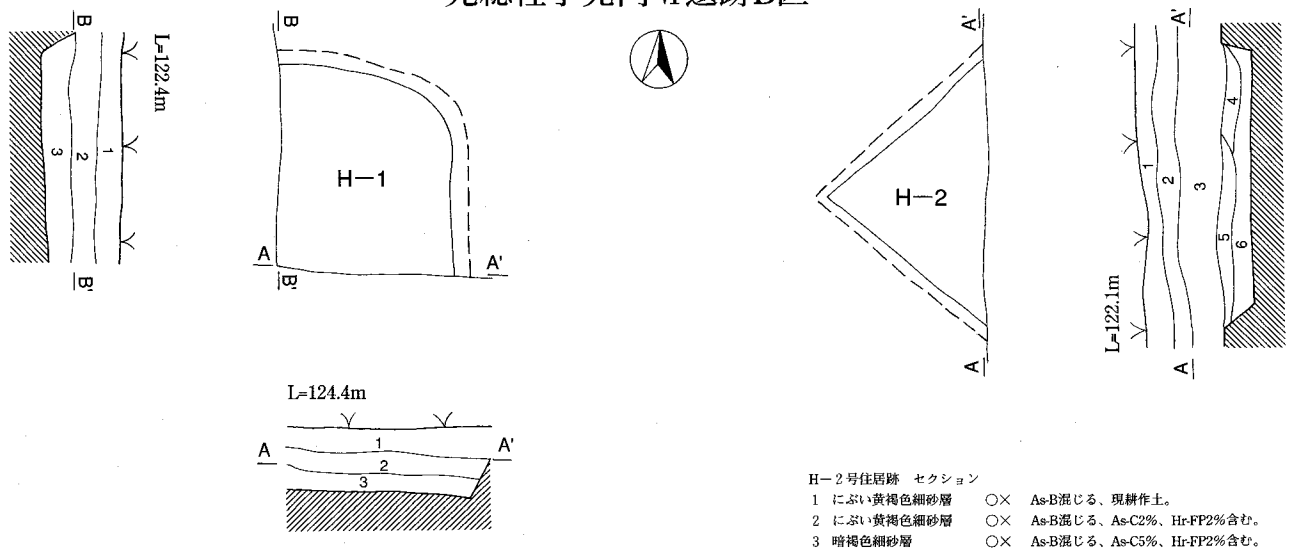
I−2号井戸跡　セクション

1	暗褐色細砂層	△○	As-B混じる、As-C3%、炭化物粒、焼土粒極少量含む。

0　1：60　2m

Fig.34　P−43〜57号ピット、I−1・2号井戸跡

元総社小見内Ⅵ遺跡B区

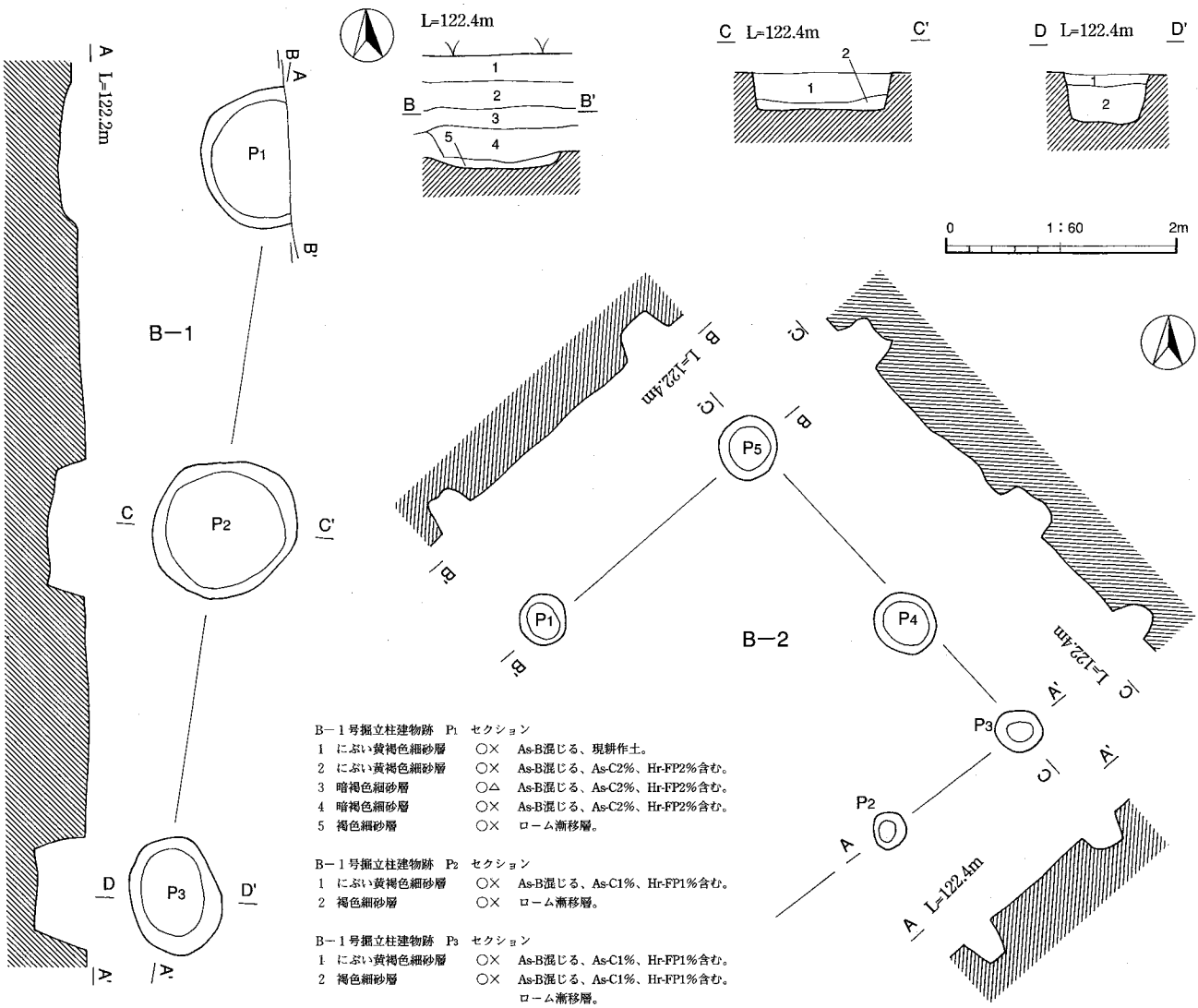


H−1号住居跡　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
3	黒褐色細砂層	○△	As-C5%、Hr-FP2%含む。

H−2号住居跡　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C5%、Hr-FP2%含む。
4	黒褐色細砂層	○×	As-C2%、Hr-FP1%含む。
5	黒色細砂層	◎△	As-C5%、Hr-FP2%含む。
6	暗褐色細砂層	○×	As-C1%、Hr-FP1%、ローム粒2%含む。



B−1号掘立柱建物跡　P1　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
3	暗褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
5	褐色細砂層	○×	ローム漸移層。

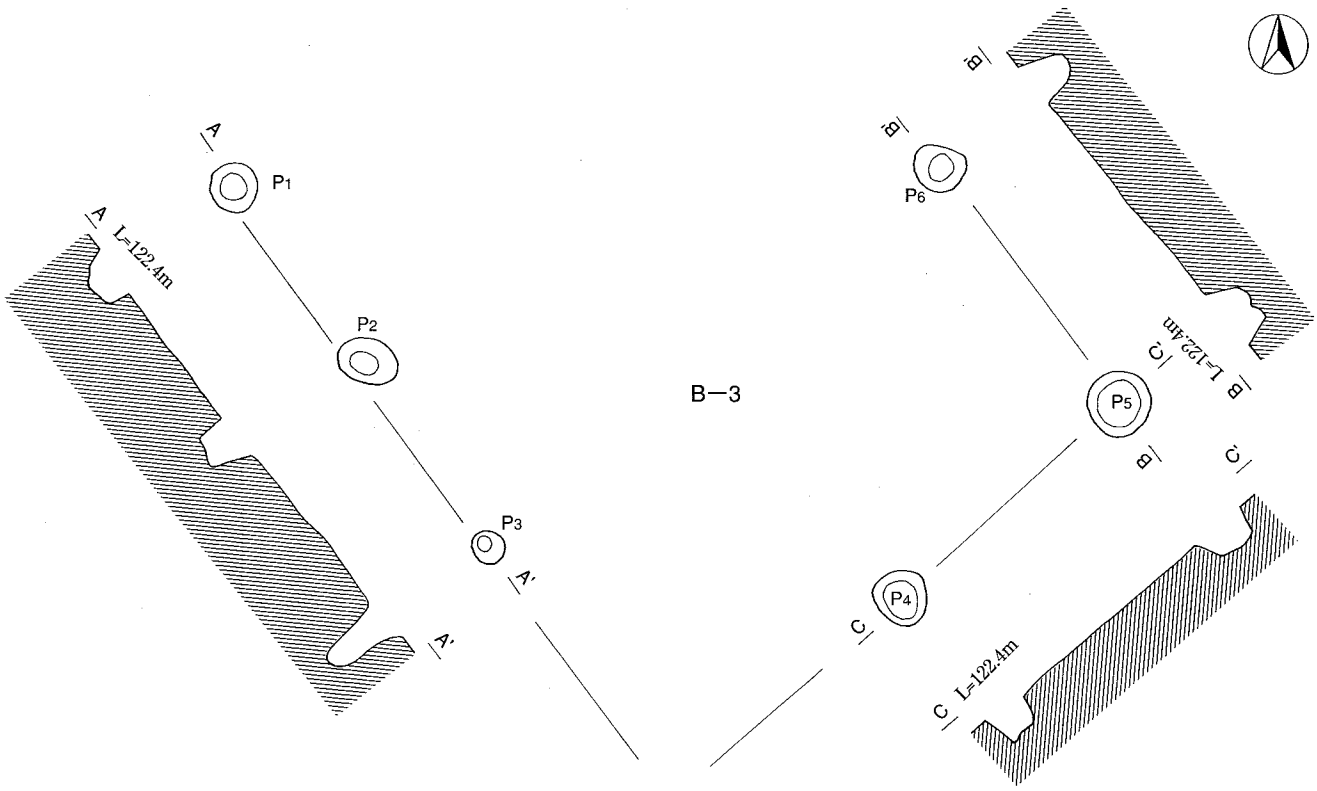
B−1号掘立柱建物跡　P2　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2	褐色細砂層	○×	ローム漸移層。

B−1号掘立柱建物跡　P3　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2	褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。ローム漸移層。

Fig.35　H−1・2号住居跡、B−1・2号掘立柱建物跡



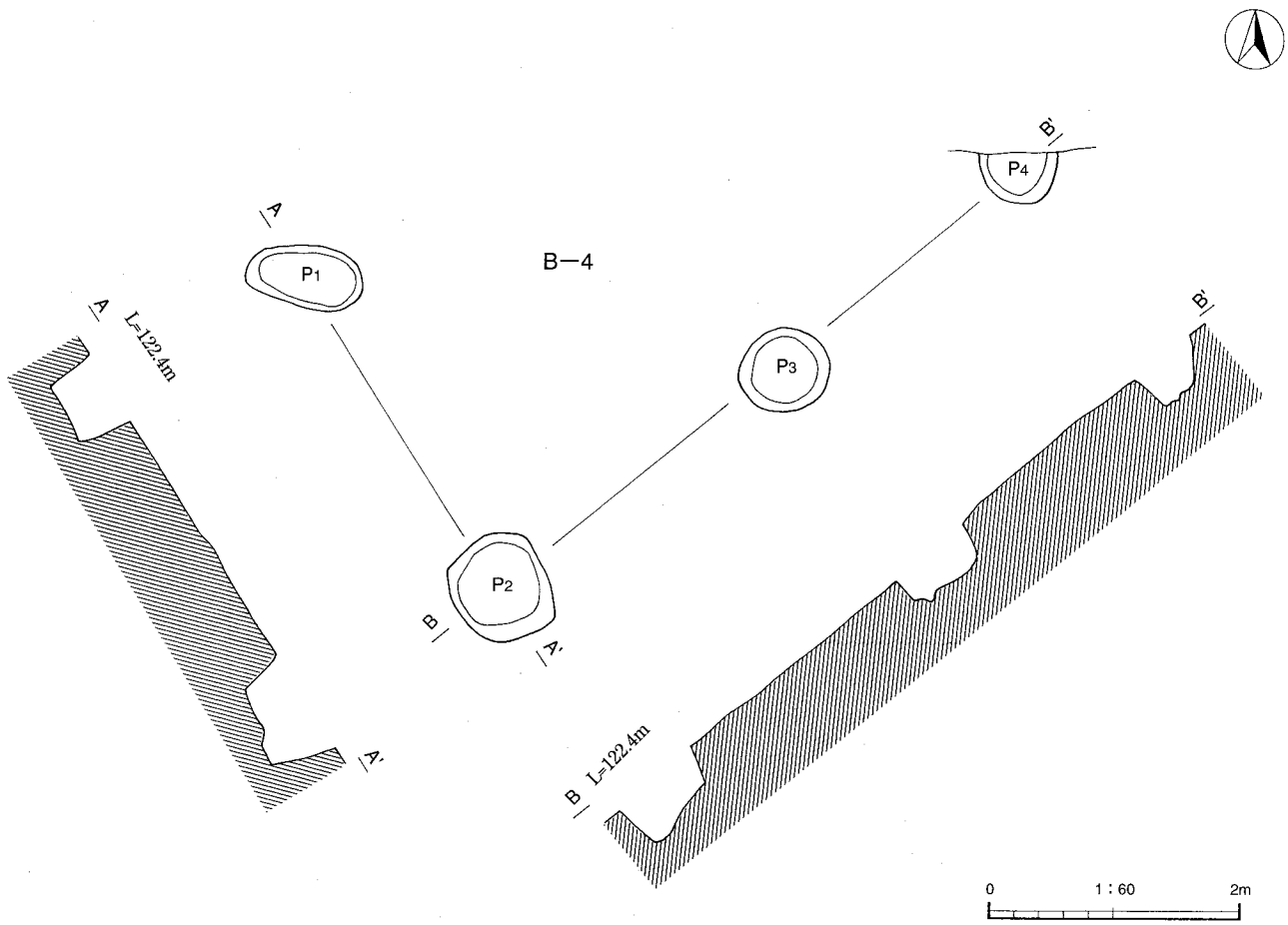
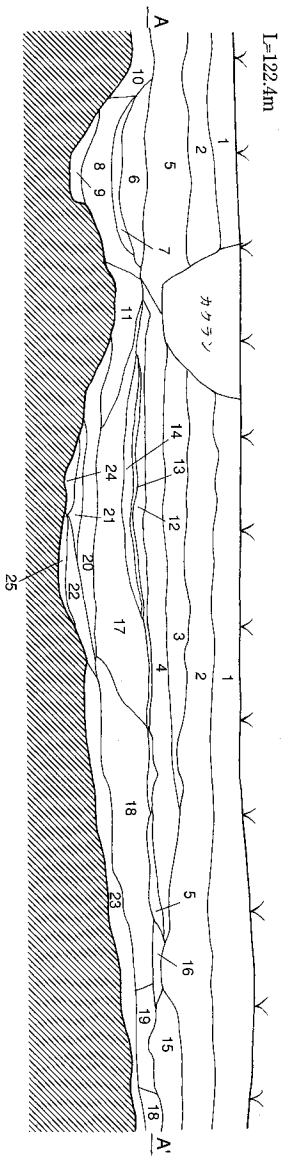
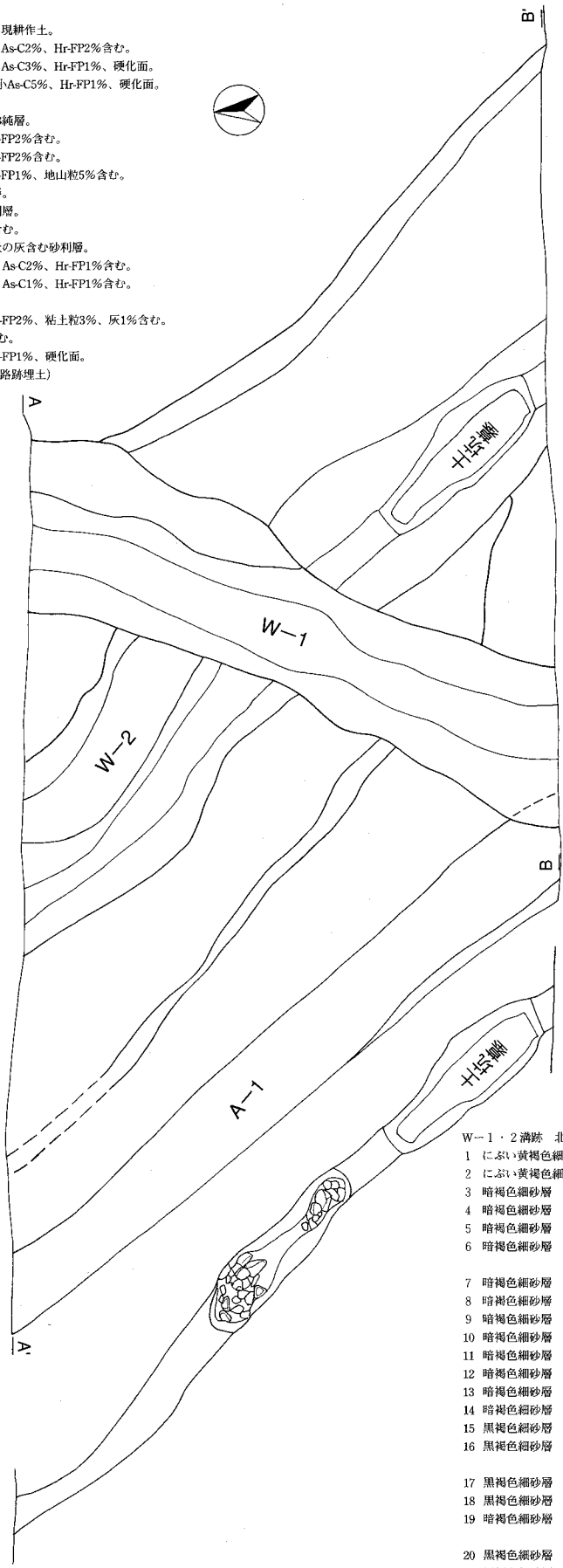


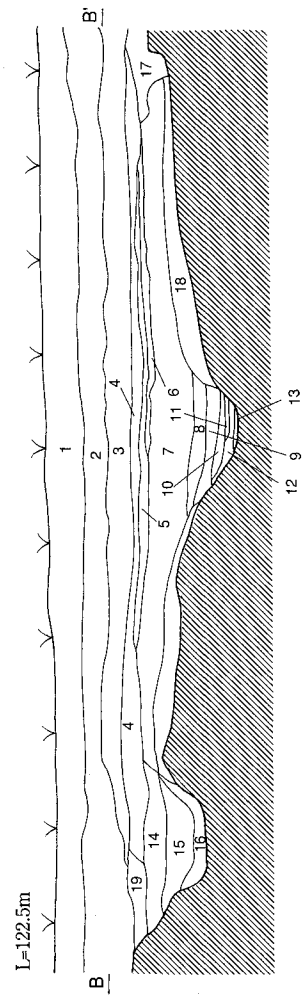
Fig.36　B－３・４号掘立柱建物跡

W－1・2号溝跡　南壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
3	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP1%、硬化面。
4	黒褐色細砂層	◎×	As-B5%、極小As-C5%、Hr-FP1%、硬化面。
5	暗褐色細砂層	××	As-B純層。
6	暗褐色細砂層	××	灰含む、As-B純層。
7	黒褐色細砂層	○○	As-C3%、Hr-FP2%含む。
8	黒褐色細砂層	○○	As-C2%、Hr-FP2%含む。
9	暗褐色細砂層	○○	As-C1%、Hr-FP1%、地山粒5%含む。
10	黒褐色細砂層	○×	川砂・砂利層。
11	黒褐色細砂層	××	灰含む、砂利層。
12	暗褐色細砂層	△×	砂利多量に含む。
13	暗褐色細砂層	△×	11層より多量の灰含む砂利層。
14	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP1%含む。
15	暗褐色細砂層	○×	砂利混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
16	暗褐色細砂層	○◎	地山漸移層。
17	黒褐色細砂層	○×	As-C2%、Hr-FP2%、粘土粒3%、灰1%含む。
18	黒褐色細砂層	○○	地山粒3%含む。
19	黒褐色細砂層	◎△	As-C3%、Hr-FP1%、硬化面。
			（A－1号道路跡埋土）





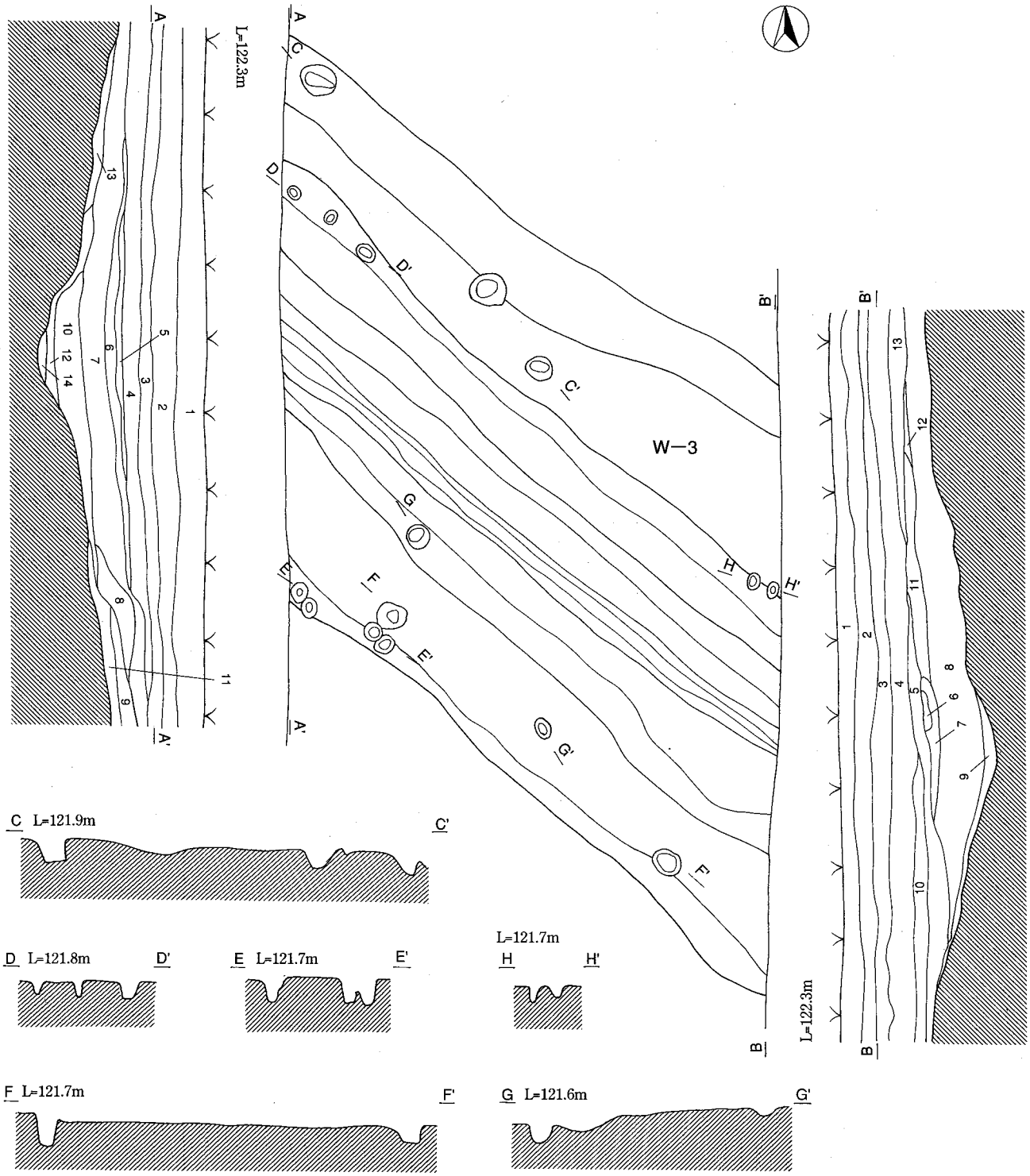


W－1・2溝跡　北壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	3層より多量にAs-B混じる。
5	暗褐色細砂層	○×	As-C1%、Hr-FP1%、砂利多量に含む。
6	暗褐色細砂層	○×	As-C1%、Hr-FP1%、砂利多量、地山ブロックわずかに含む。
7	暗褐色細砂層	○○	地山漸移層。
8	暗褐色細砂層	○×	As-C5%、Hr-FP1%含む。
9	暗褐色細砂層	○△	As-C2%、Hr-FP1%含む。
10	暗褐色細砂層	○×	As-C5%、Hr-FP1%含む。
11	暗褐色細砂層	○△	As-C3%、Hr-FP1%含む。
12	暗褐色細砂層	××	As-B純層。
13	暗褐色細砂層	△△	As-C2%、Hr-FP2%含む。
14	暗褐色細砂層	××	灰含む、As-B純層。
15	黒褐色細砂層	◎△	極小As-C3%、Hr-FP2%含む。
16	黒褐色細砂層	◎△	As-C3%、Hr-FP1%。硬化面。（A－1号道路跡埋土）
17	黒褐色細砂層	○△	As-C3%、Hr-FP2%含む。
18	黒褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP1%含む。
19	暗褐色細砂層	○×	砂利混じる、As-C1%、Hr-FP1%、地山ブロックわずかに含む。
20	黒褐色細砂層	○○	As-C2%、Hr-FP2%、砂利わずかに含む。
21	黒褐色細砂層	○×	砂利多量に含む。
22	黒褐色細砂層	○○	As-C1%、Hr-FP1%、のろ層。
23	灰黄褐色細砂層	△○	As-C1%、Hr-FP1%、地山漸移層。
24	暗褐色細砂層	○△	砂利多量に含む、地山ブロック含む。
25	暗褐色細砂層	△◎	地山漸移層。

0　1：60　2m

Fig.37　W－1・2号溝跡、A－1号道路状遺構



W－3号溝跡　西壁セクション

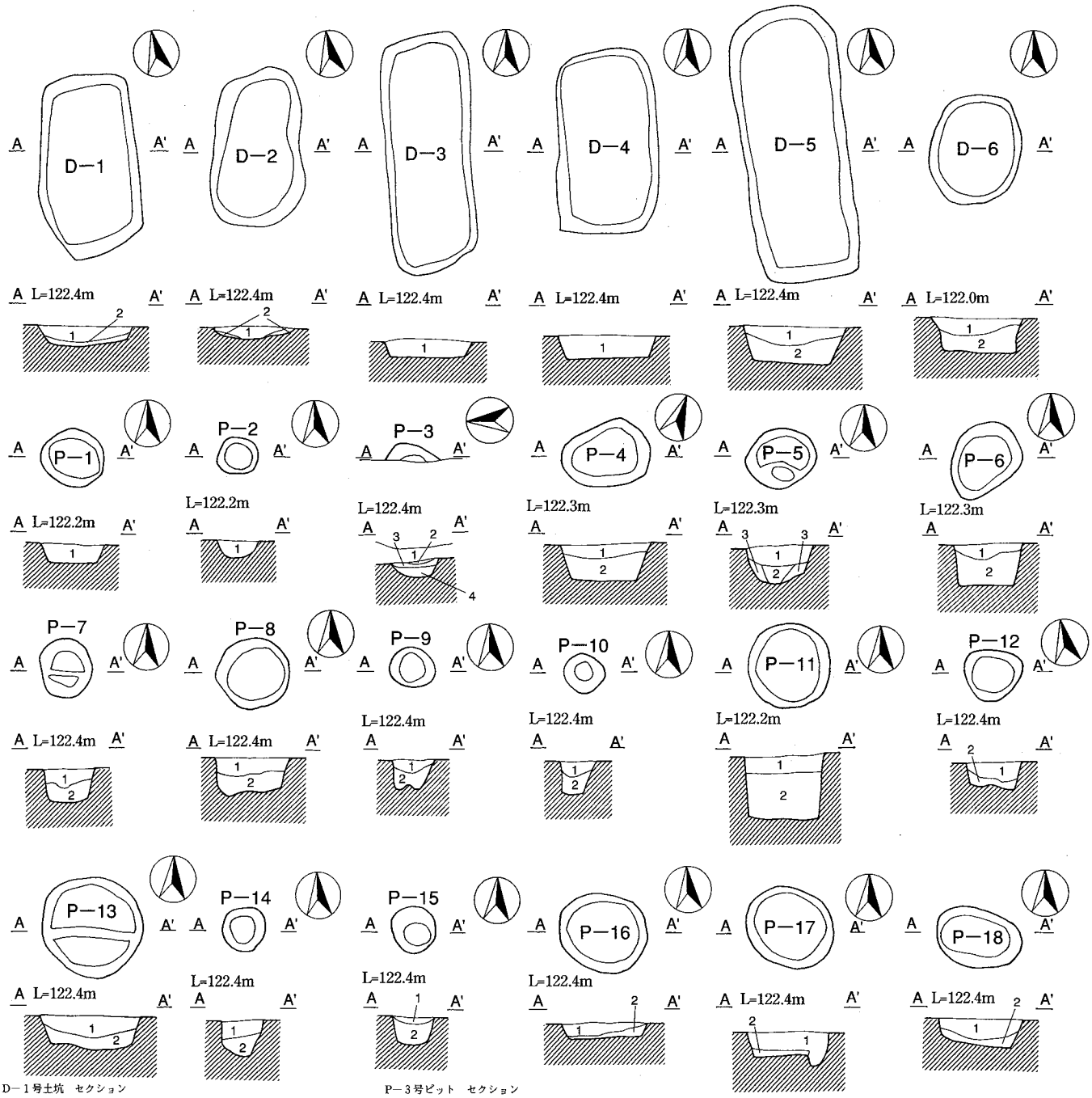
1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP3%、炭化物極少量含む。
3	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
4	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
5	黒褐色微砂層	○△	As-Bアッシュ。
6	暗褐色細砂層	××	As-B純層。
7	黒褐色細砂層	○△	As-C3%、Hr-FP1%含む。
8	黒褐色細砂層	◎△	As-C2%、Hr-FP1%含む。硬化面
9	黒褐色細砂層	○×	As-C3%、Hr-FP1%含む。
10	黒褐色細砂層	○△	As-C2%、Hr-FP1%含む。
11	暗褐色細砂層	○×	As-C2%、Hr-FP1%、ローム漸移層。
12	暗褐色細砂層	○△	ローム粒3%含む。のろ層。
13	黒褐色細砂層	○△	As-C1%、Hr-FP1%、ローム漸移層。
14	暗褐色細砂層	○×	川砂、砂礫層。(水成堆積)。

W－3号溝跡　東壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP2%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP3%、炭化物極少量含む。
4	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
5	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
6	黒褐色微砂層	○△	As-Bアッシュ。
7	暗褐色粗砂層	××	As-B純層。
8	黒褐色細砂層	○△	As-C3%、Hr-FP1%含む。
9	暗褐色細砂層	○△	ローム粒3%含む。のろ層。
10	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP1%含む。
11	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C3%、Hr-FP1%含む。
12	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
13	黒褐色細砂層	○×	As-B混じる。

0　1：60　2m

Fig.38　W－3号溝跡



D−1号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　暗褐色細砂層　○×　ローム粒3%含む。

D−2号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

D−3号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。

D−4号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。

D−5号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、白色軽石ブロック5%、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。

D−6号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、白色軽石ブロック5%、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。As-C1%、Hr-FP1%含む。

P−1号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。

P−2号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。

0　1：60　2m

P−3号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
3　暗褐色細砂層　○×　As-B混じる。
4　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。

P−4号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　暗褐色細砂層　○◎　粘性の強い地山漸移層。

P−5号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C1%、Hr-FP1%含む。
3　暗褐色細砂層　○◎　粘性の強い地山漸移層。

P−6号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　暗褐色細砂層　○◎　粘性の強い地山漸移層。

P−7号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　黄褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−8号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−9号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−10号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−11号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、白色軽石5%、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　暗褐色細砂層　○×　ロームブロック5%含む。

P−12号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−13号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−14号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

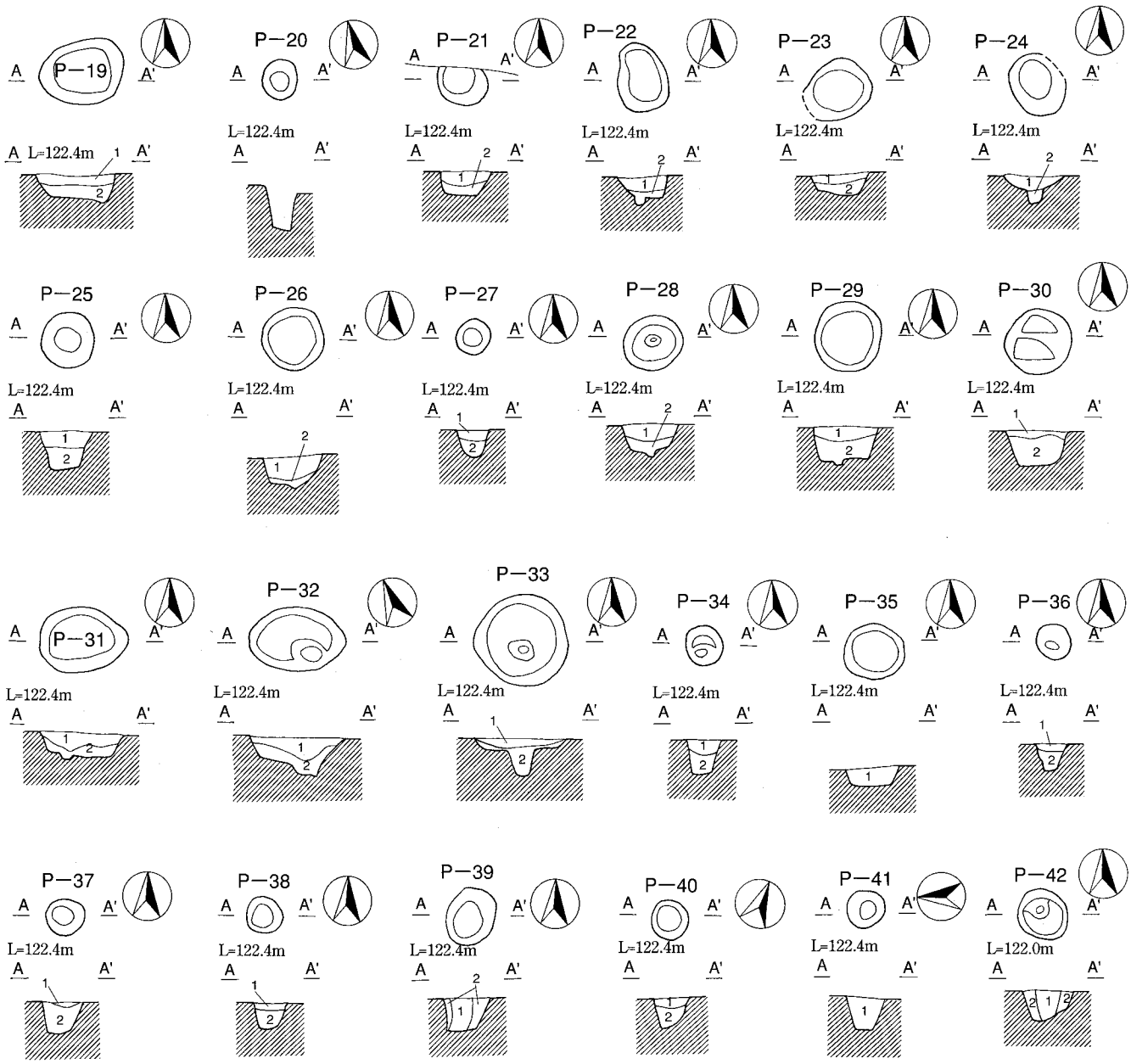
P−15号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−16号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−17号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−18号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

Fig.39　D−1～6号土坑・P−1～18ピット



P−19号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−21号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　にぶい黄褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−22号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−23号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−24号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−25号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−26号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　黄褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−27号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C2%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム粒混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。

P−28号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−29号ピット　セクション
1　褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　黄褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−30号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−31号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−32号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−33号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−34号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−35号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。

P−36号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×
2　暗褐色細砂層　○×　ローム粒5%含む。

P−37号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−38号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−39号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

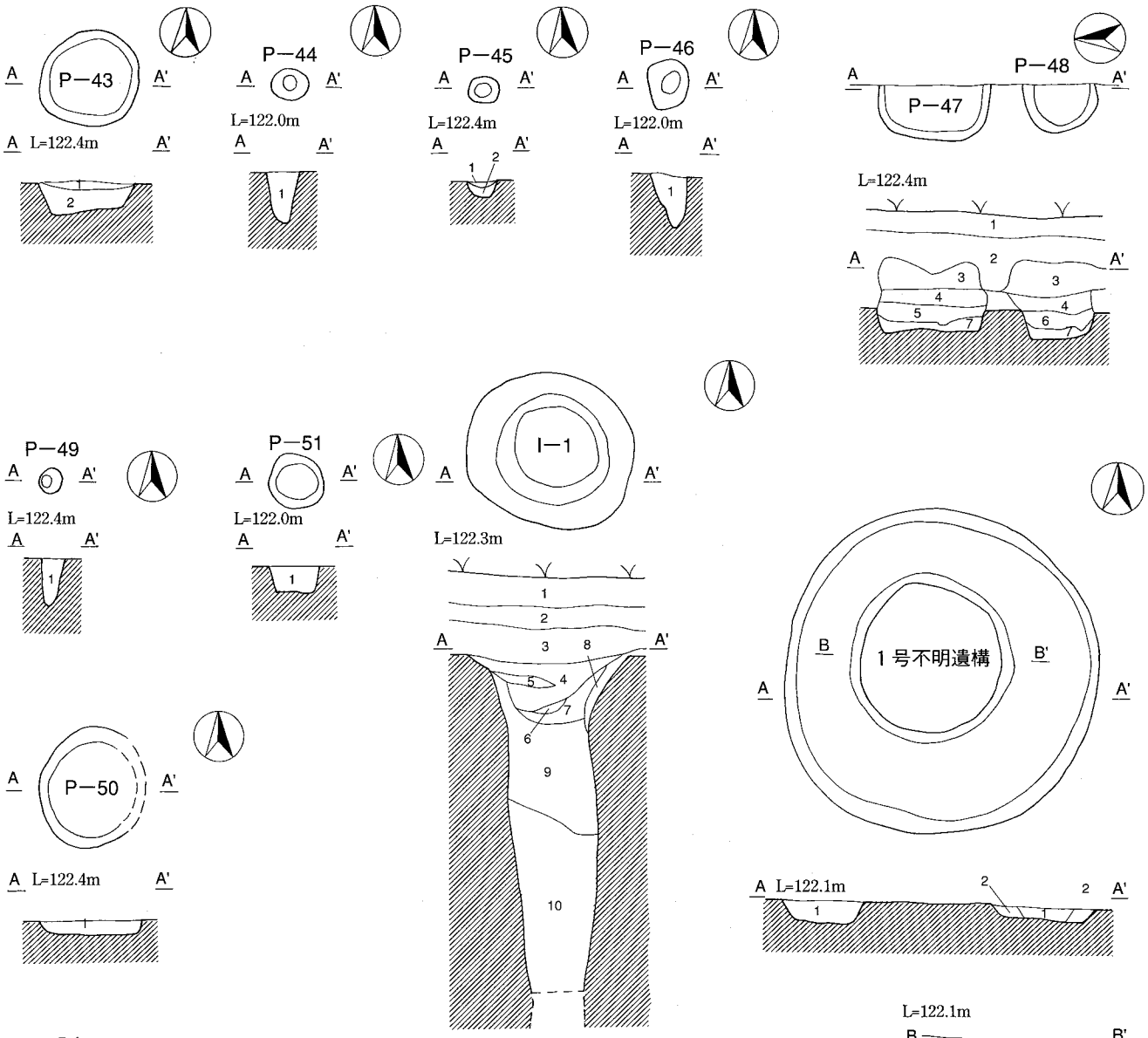
P−40号ピット　セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○×　As-B混じる。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

P−41号ピット　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C2%、Hr-FP2%含む。

P−42号ピット　セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C1%、Hr-FP1%含む。
2　褐色細砂層　○×　ローム漸移層。

0　1：60　2m

Fig.40　P−19〜42号ピット



P−43号ピット　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。
2	褐色細砂層	○×	As-C2%含む、ローム漸移層。

P−44号ピット　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。

P−45号ピット　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる。
2	褐色細砂層	○×	ローム漸移層。

P−46号ピット　セクション

1	暗褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。

P−47・48号ピット　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP2%含む。
2	暗褐色細砂層	○△	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP2%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP2%含む。
4	暗褐色細砂層	○×	As-C1%、Hr-FP1%含む。
5	暗褐色細砂層	○×	As-C1%、Hr-FP1%、ローム粒3%含む。
6	暗褐色細砂層	○△	
7	褐色細砂層	○×	ローム漸移層。

P−49号ピット　セクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。

P−50号ピット　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C1%、Hr-FP1%含む。

P−51号ピット　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、ローム粒2%、As-C2%、Hr-FP1%含む。

I−1号井戸跡　セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、現耕作土。
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
3	暗褐色細砂層	○×	As-B10%、As-C2%、Hr-FP2%含む。
4	黒褐色細砂層	○○	As-B混じる、粘土粒3%含む。
5	灰黄褐色細砂層	○◎	As-B5%、粘土層。
6	にぶい黄褐色細砂層	△◎	砂利（As-Bか？）と粘土の層。
7	灰黄褐色細砂層	○○	砂利（As-Bか？）混じる、粘土粒5%含む。
8	にぶい黄褐色細砂層	○◎	粘土層。
9	灰黄褐色細砂層	○○	粘土多量に含む砂利層。
10	にぶい黄褐色細砂層	○◎	灰わずかに含む粘土層。

1号不明遺構　周溝ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○×	As-B混じる、As-C2%、Hr-FP2%含む。
2	褐色細砂層	○×	ローム漸移層。

0　1：60　2m

Fig.41　P−43〜51号ピット、I−1号井戸跡、1号不明遺構

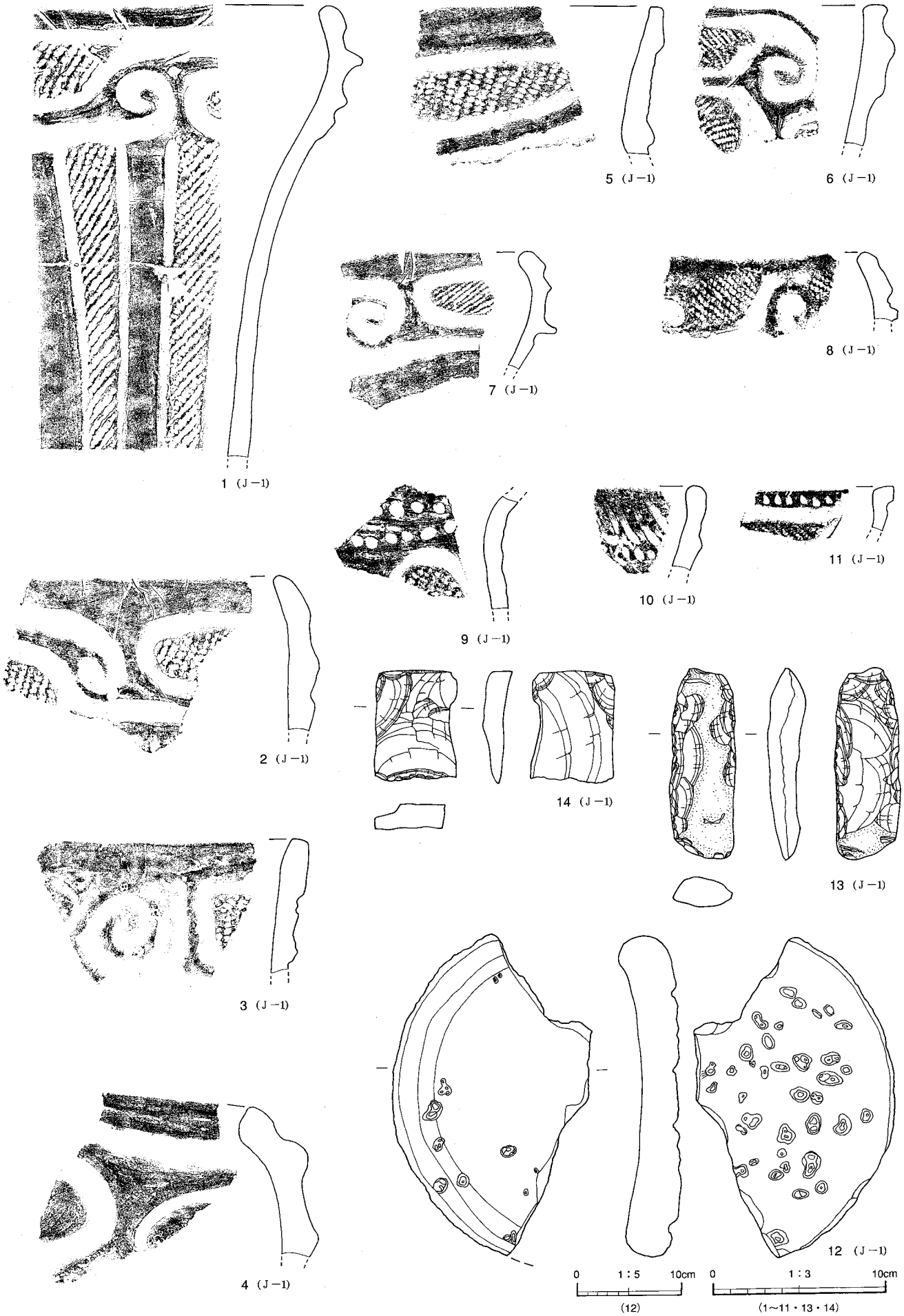


Fig.42　J－1号住居跡出土遺物

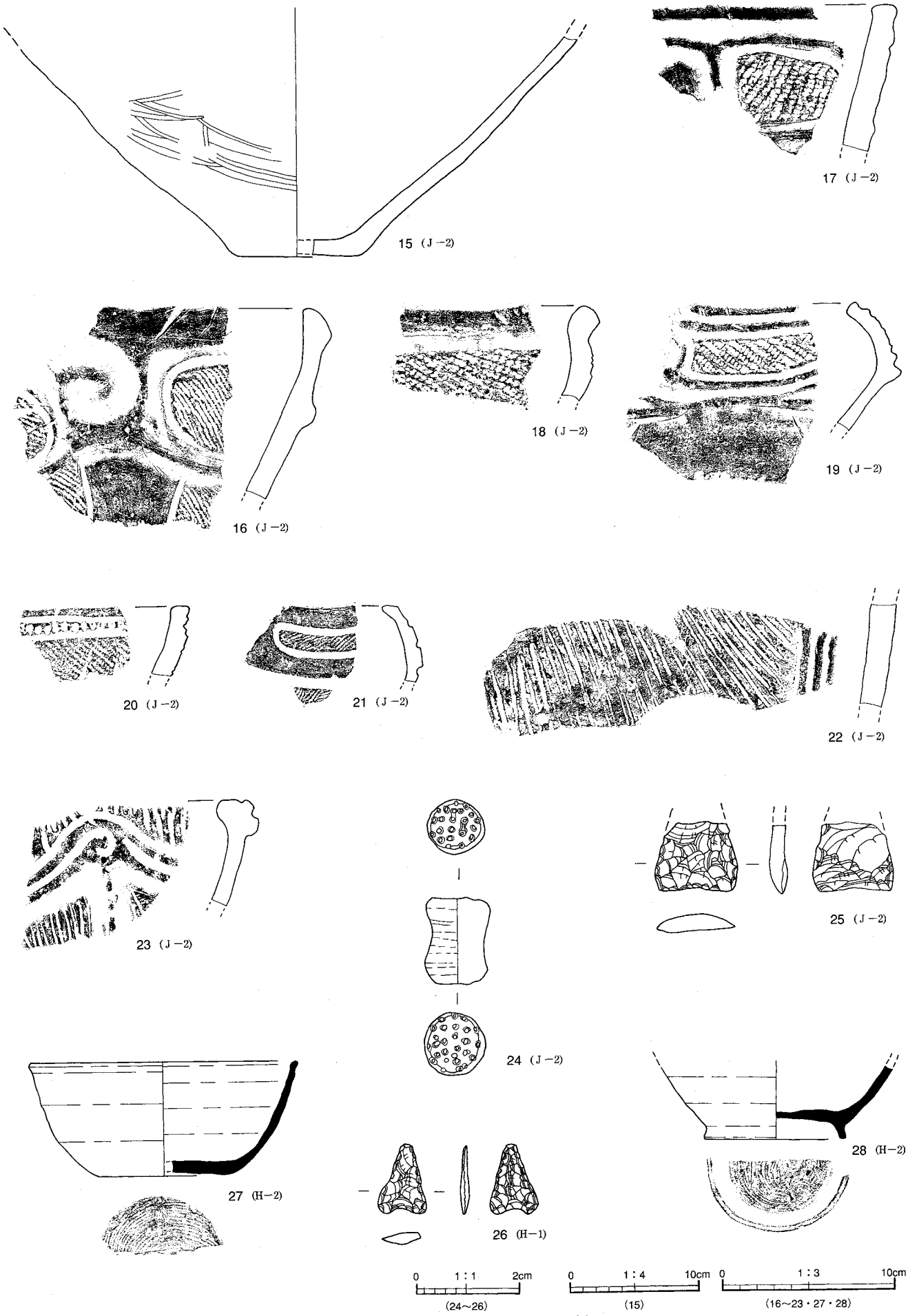


Fig.43　J－2・H－1・2号住居跡出土遺物

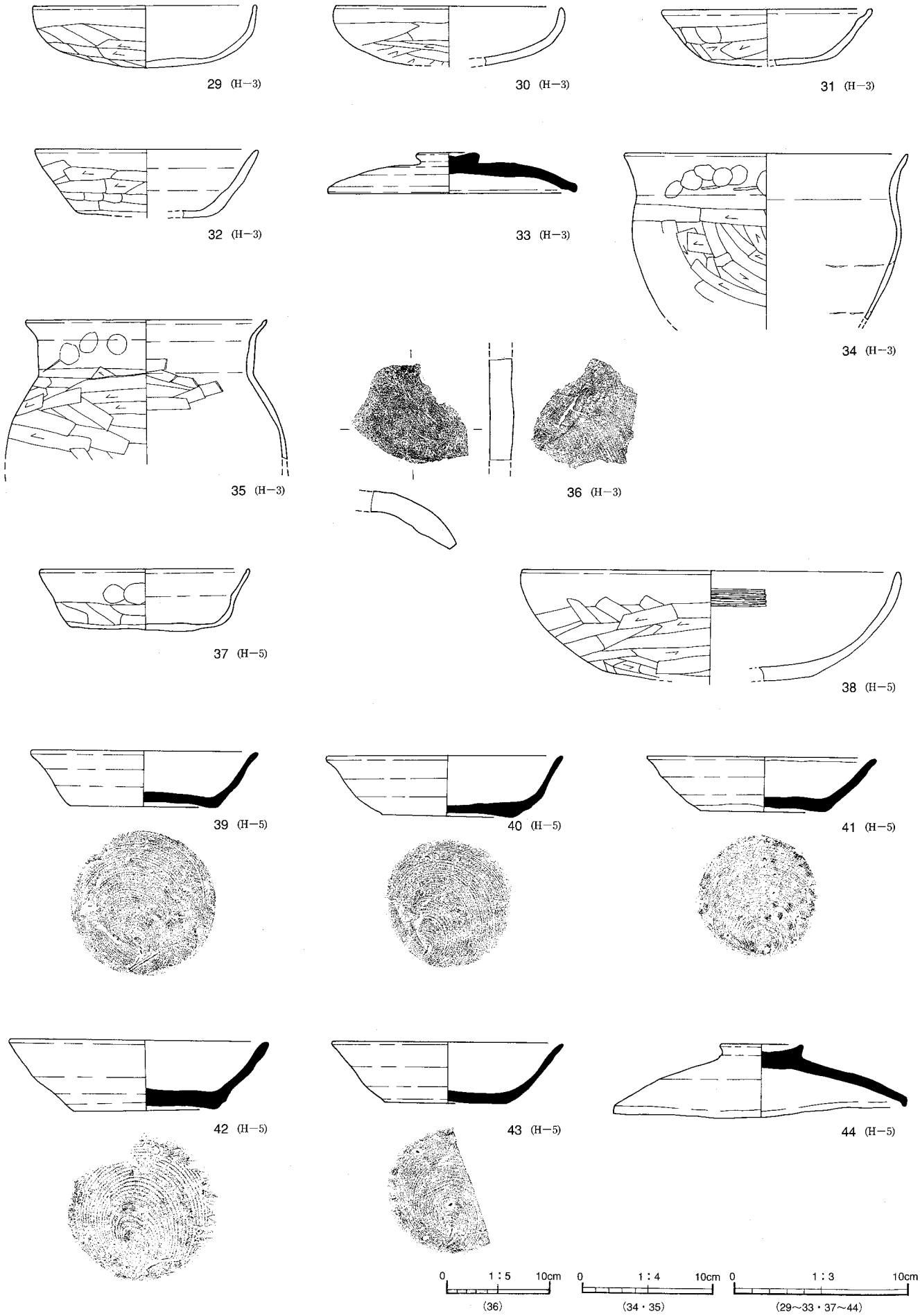


Fig.44　H−3・5号住居跡出土遺物

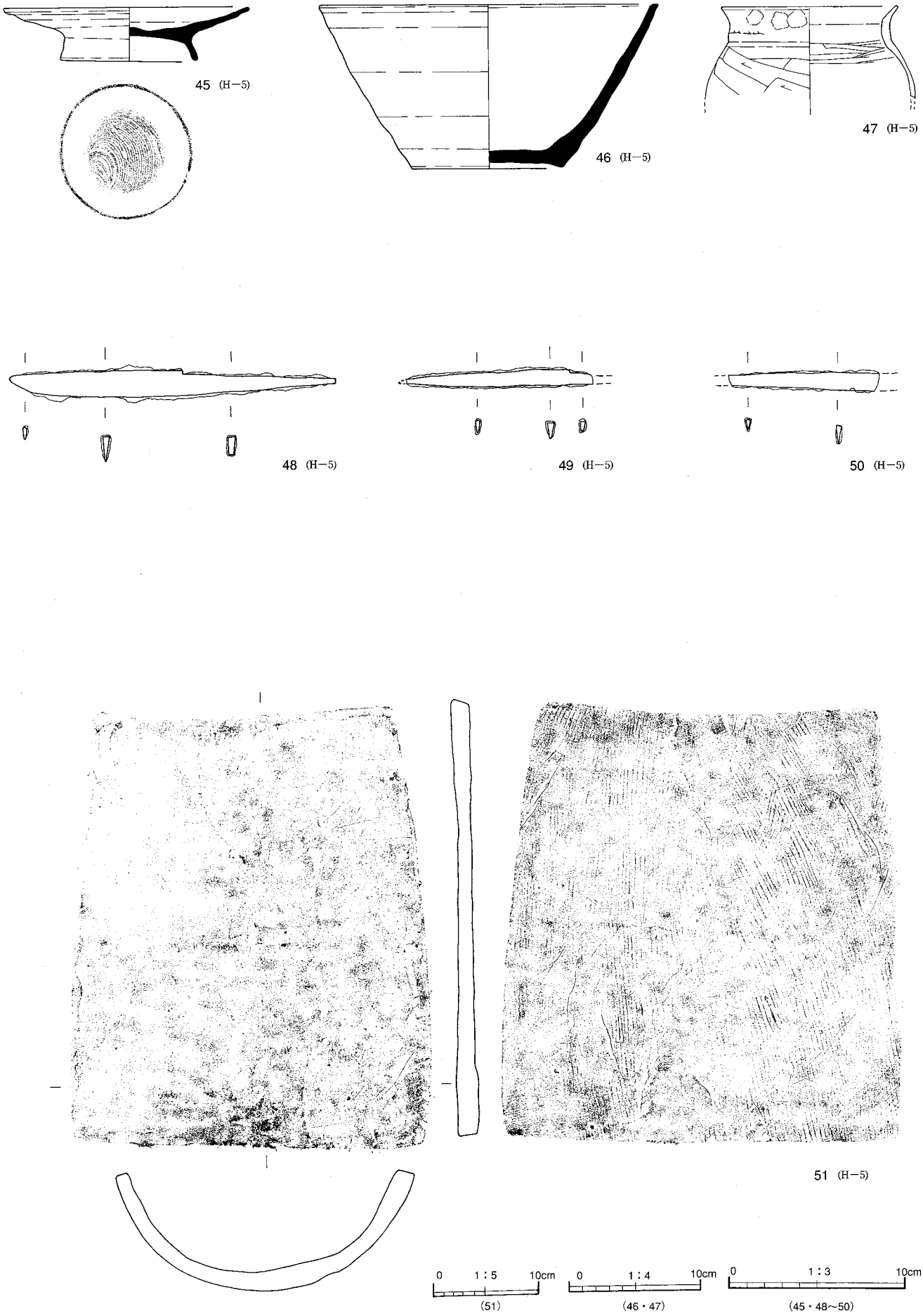
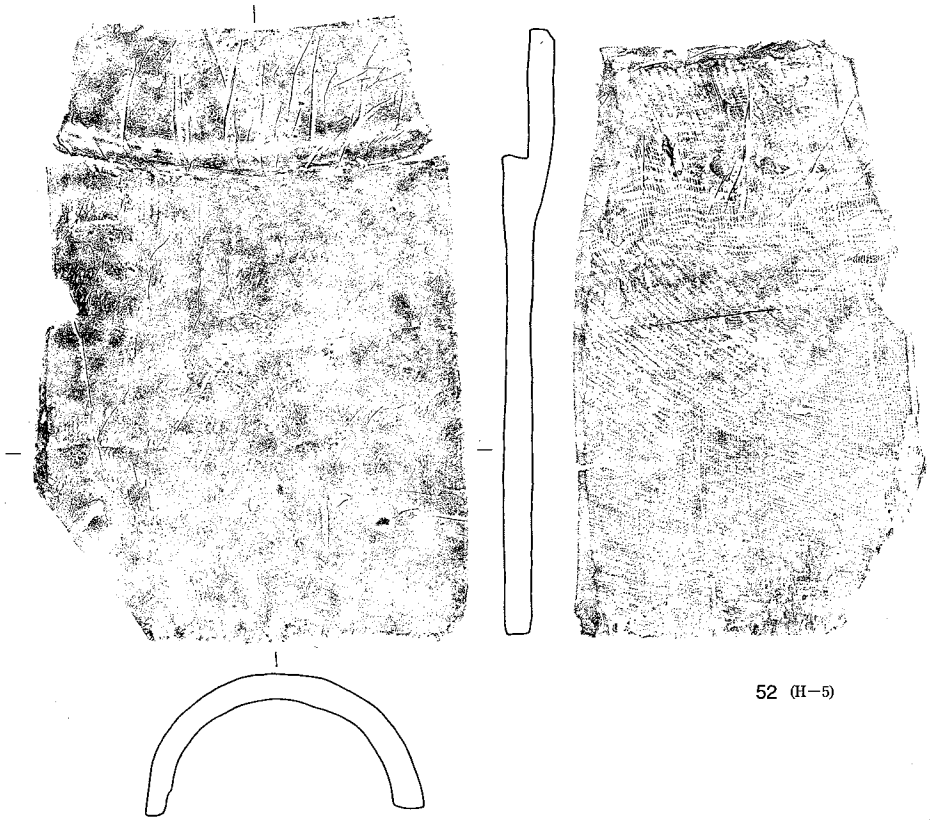
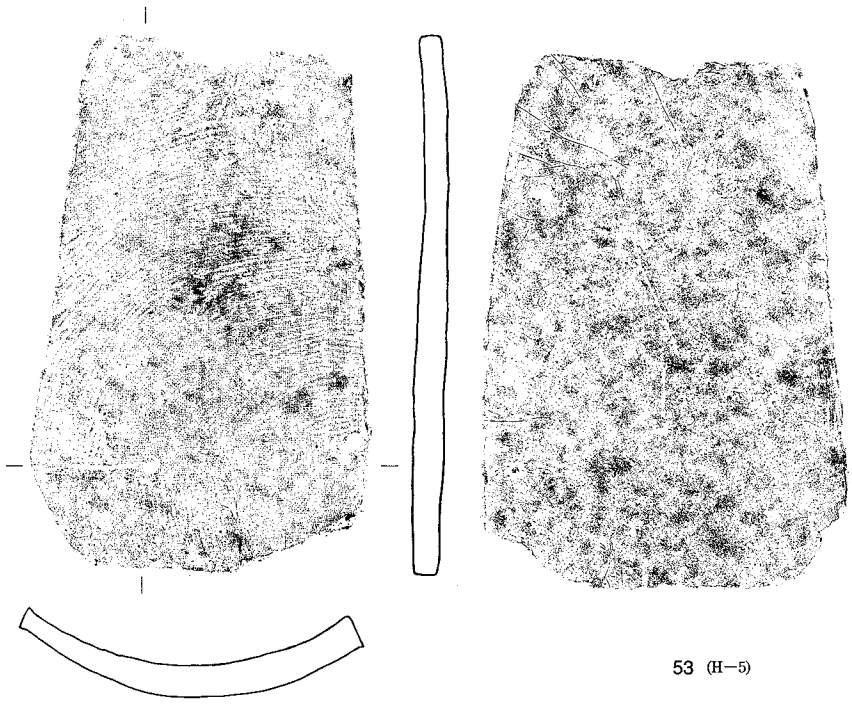


Fig.45 H−5号住居跡出土遺物



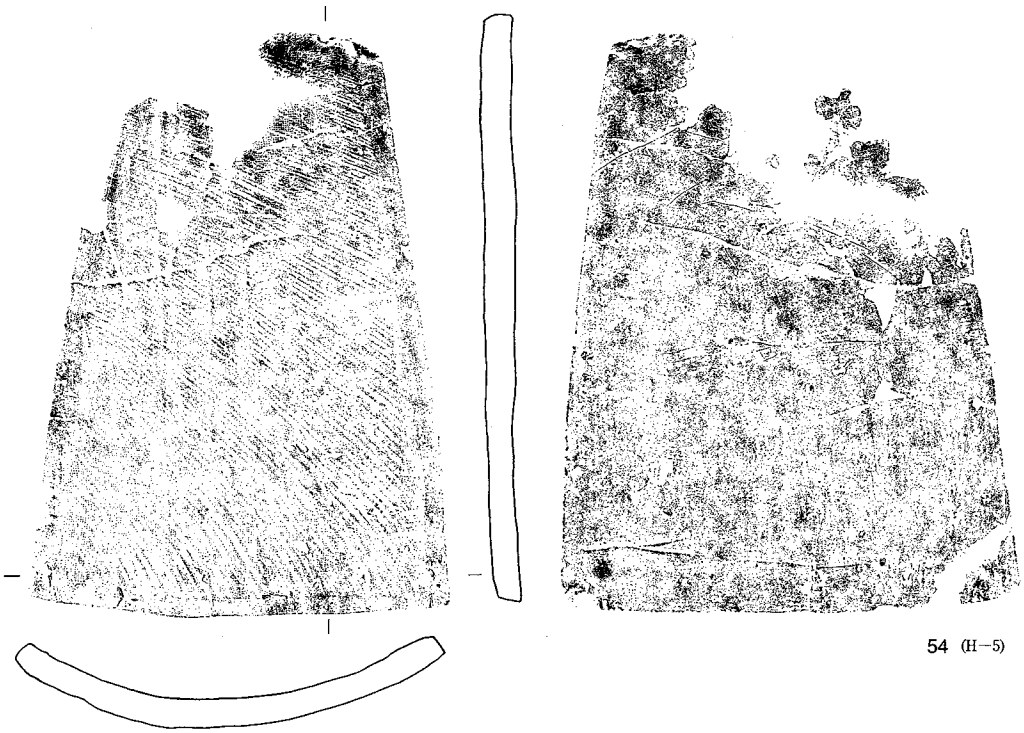
52 (H−5)



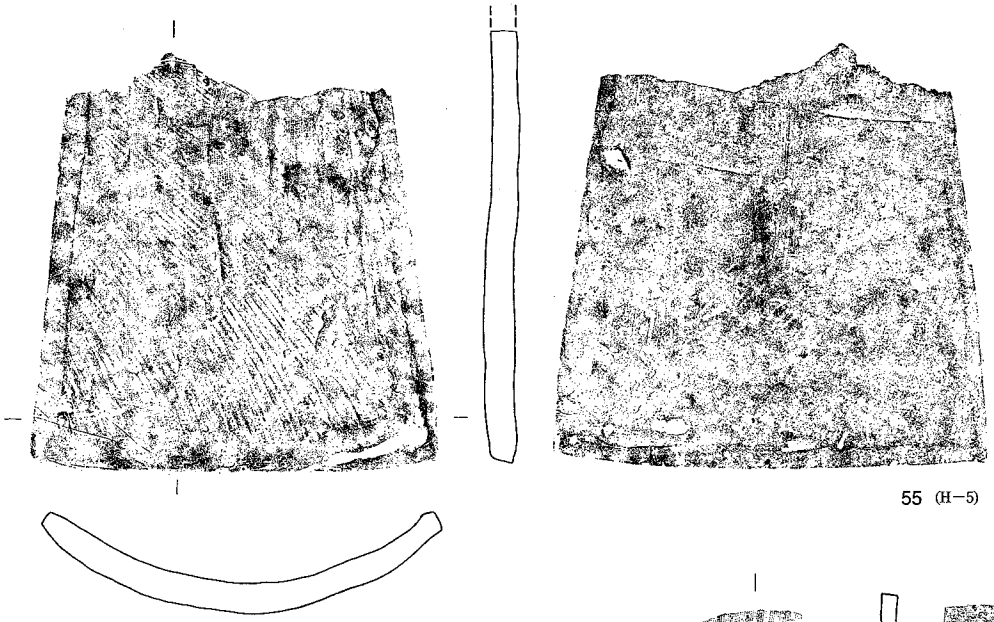
53 (H−5)

0 1：5 10cm
(52・53)

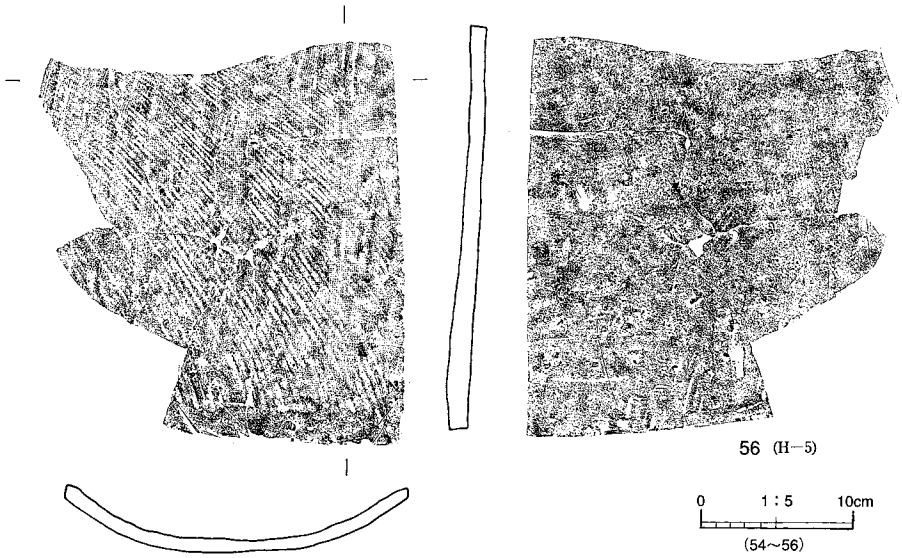
Fig.46 H−5号住居跡出土瓦



54 (H−5)



55 (H−5)

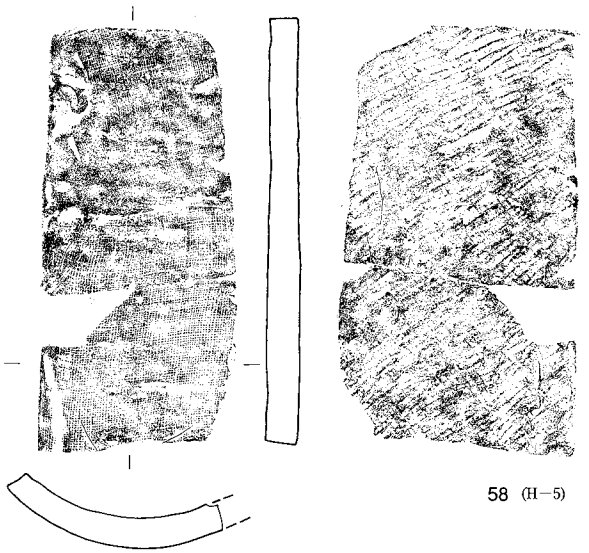


56 (H−5)

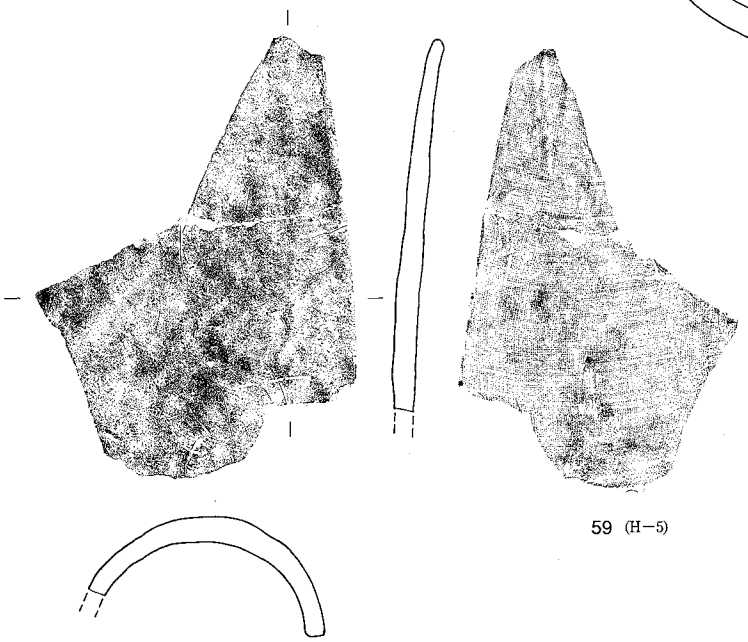
0 1：5 10cm
(54～56)

Fig.47 H－5号住居跡出土瓦

57 (H−5)



58 (H−5)



59 (H−5)

0 1：5 10cm

(57～59)

Fig.48 H−5号住居跡出土瓦

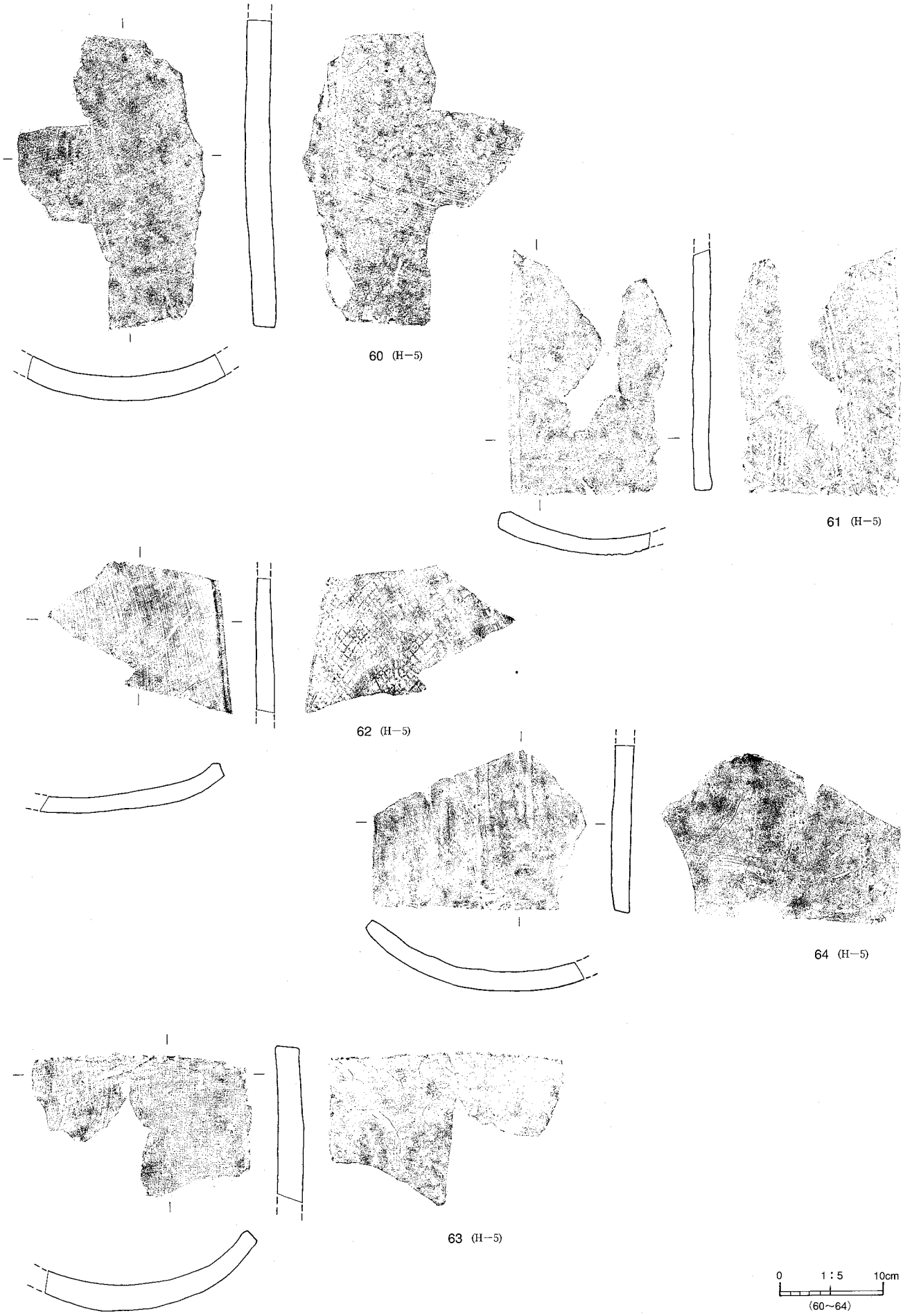


Fig.49 H－5号住居跡出土瓦

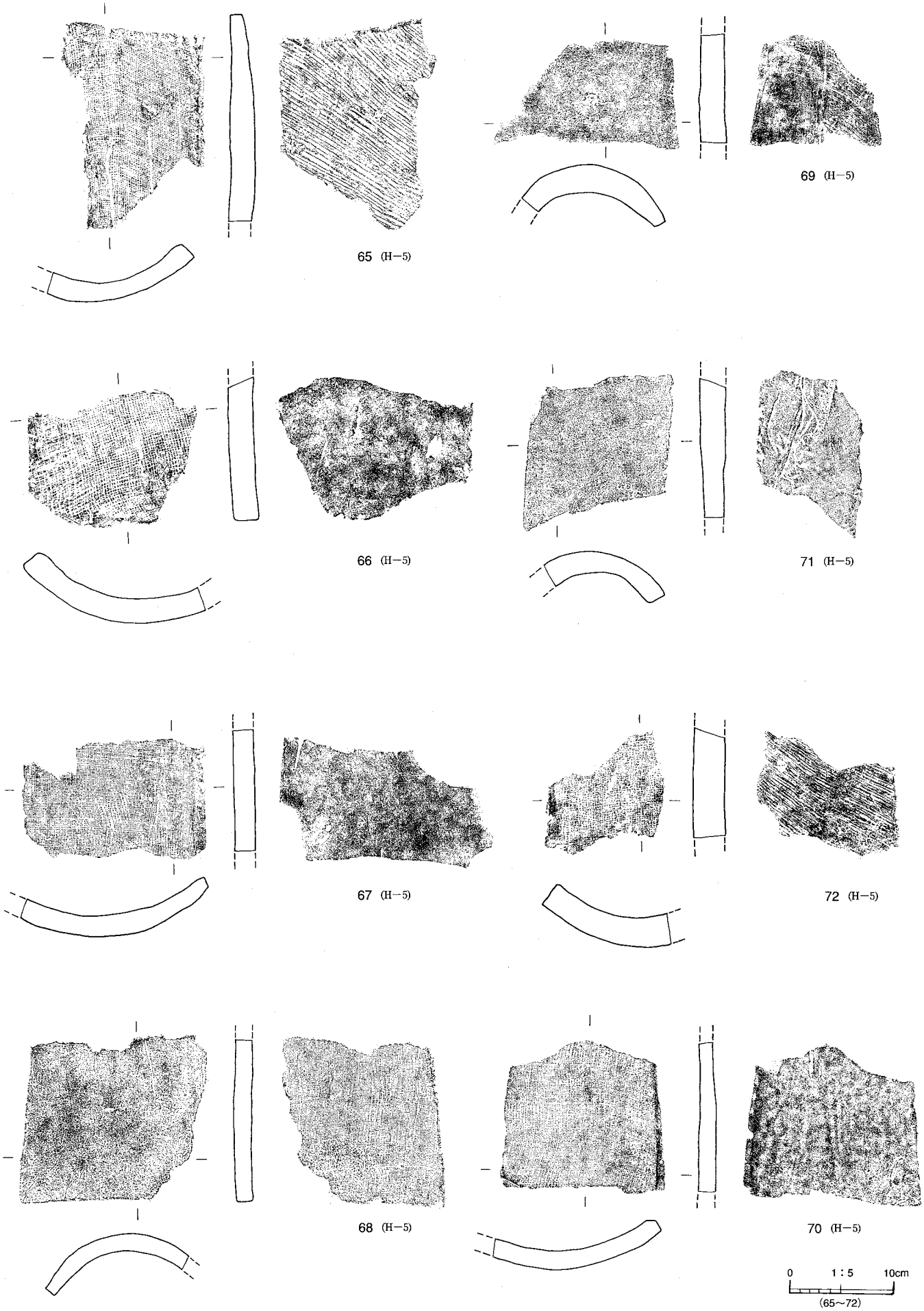
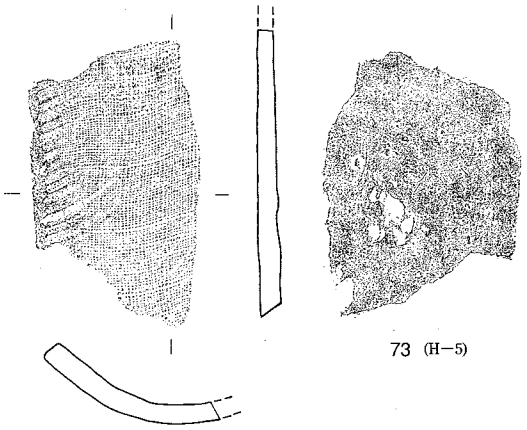
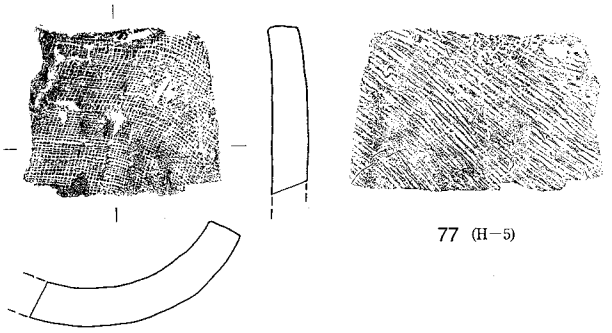


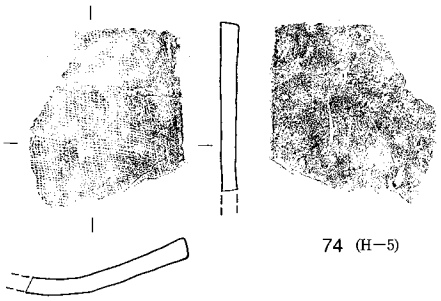
Fig.50 H－5号住居跡出土瓦



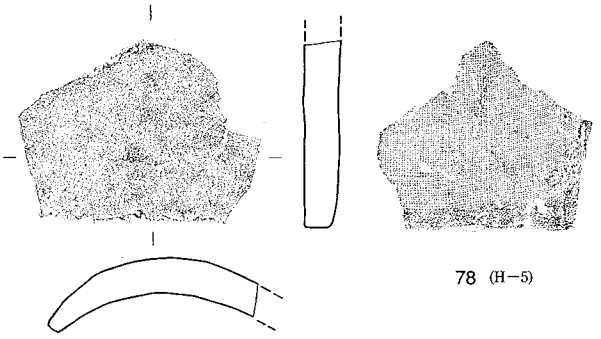
73 (H−5)



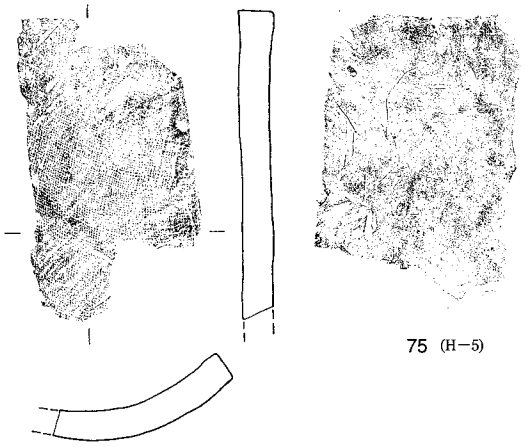
77 (H−5)



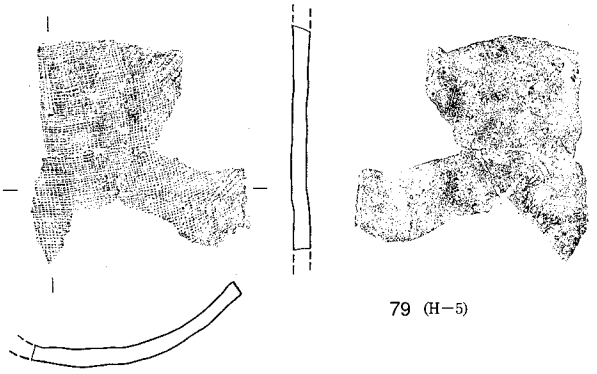
74 (H−5)



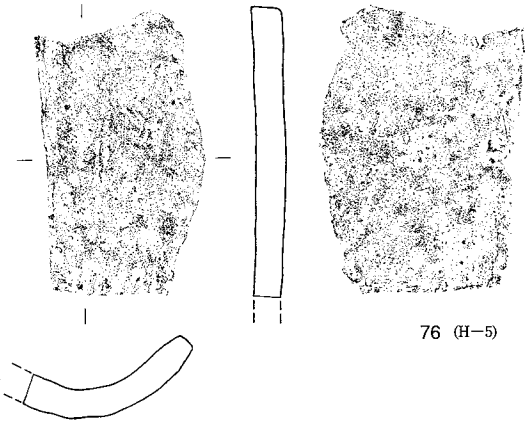
78 (H−5)



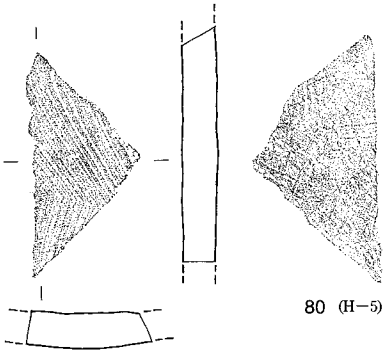
75 (H−5)



79 (H−5)



76 (H−5)



80 (H−5)

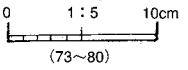


Fig.51　H－5号住居跡出土瓦

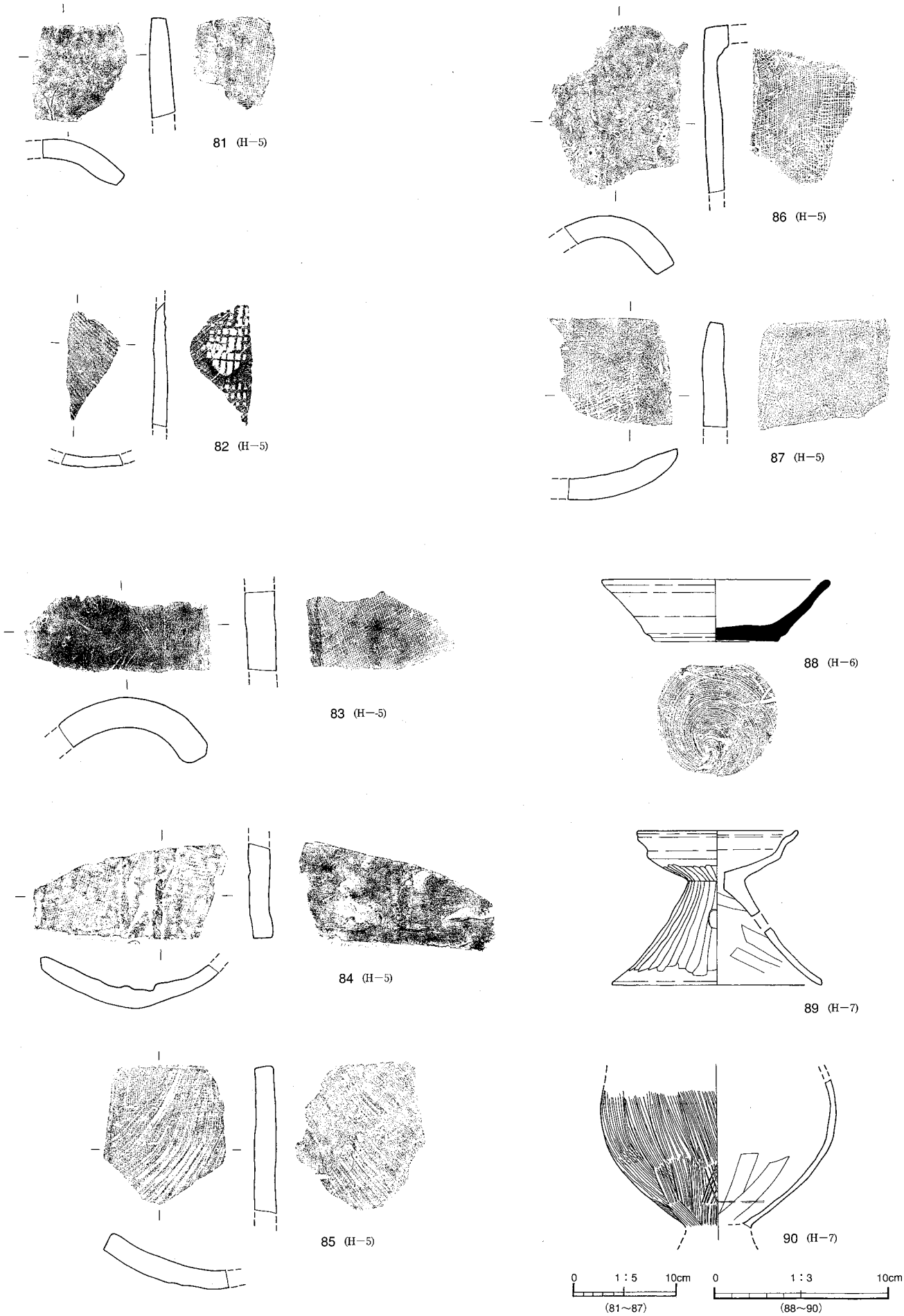
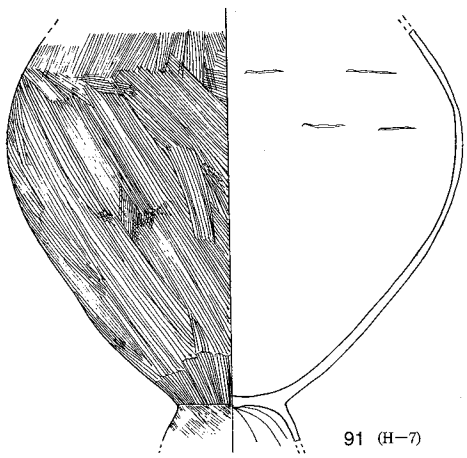
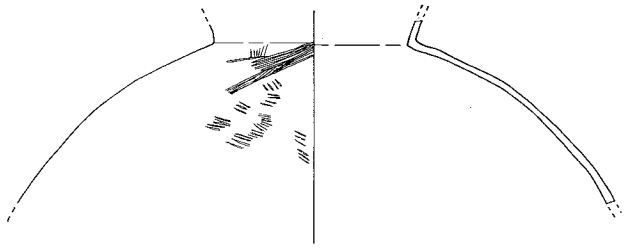


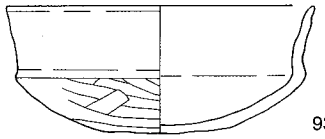
Fig.52 H−5～7号住居跡出土遺物



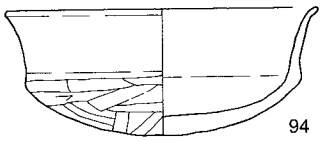
91 (H−7)



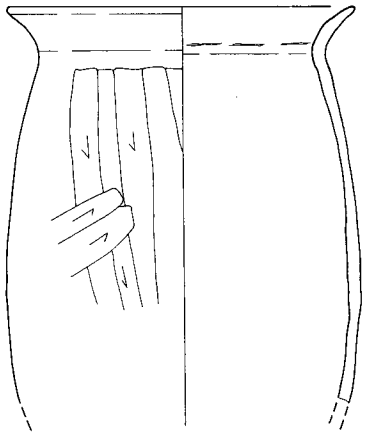
92 (H−7)



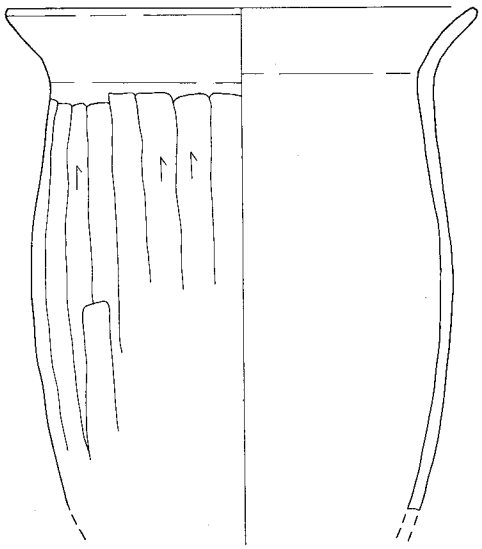
93 (H−8)



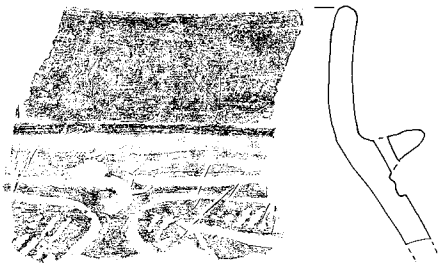
94 (H−8)



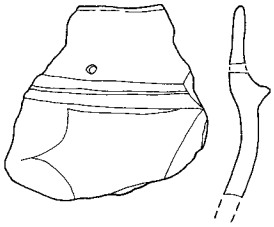
95 (H−8)



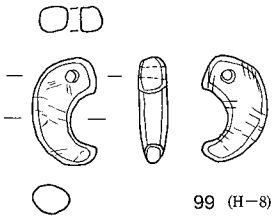
96 (H−8)



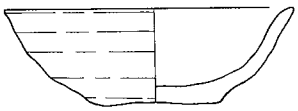
97 (H−8)



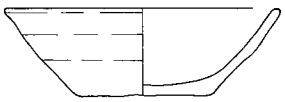
98 (H−8)



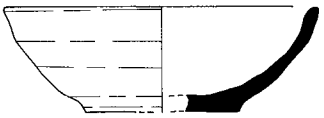
99 (H−8)



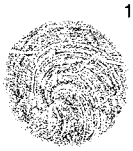
100 (H−9)

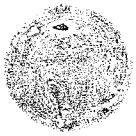


101 (H−9)



102 (H−9)





0 1：4 10cm
(91・92、95・96)

0 2：3 10cm
(99)

0 1：3 10cm
(93・94、97・98、100〜102)

Fig.53 H−7〜9号住居跡出土遺物

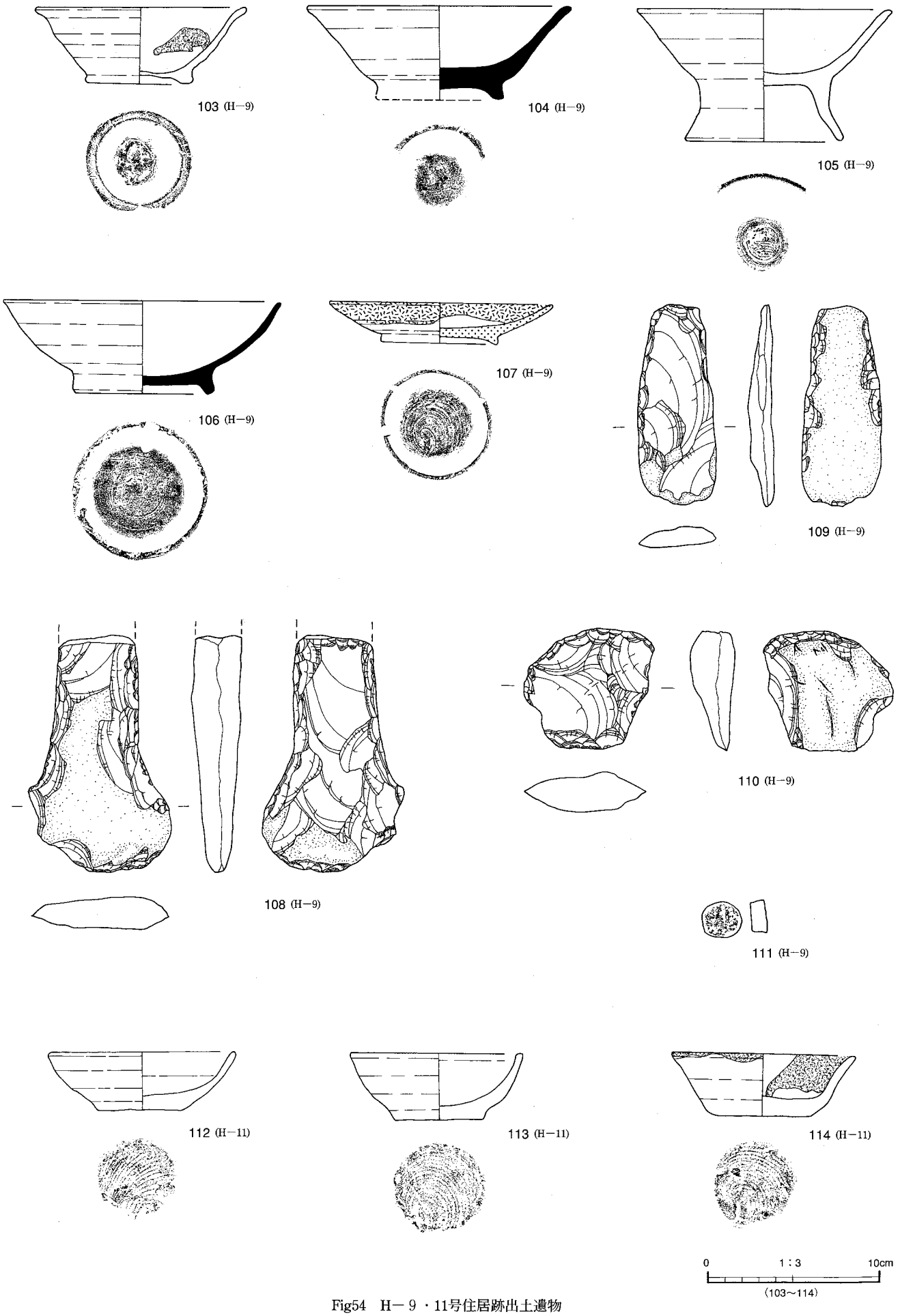


Fig54　H－９・11号住居跡出土遺物

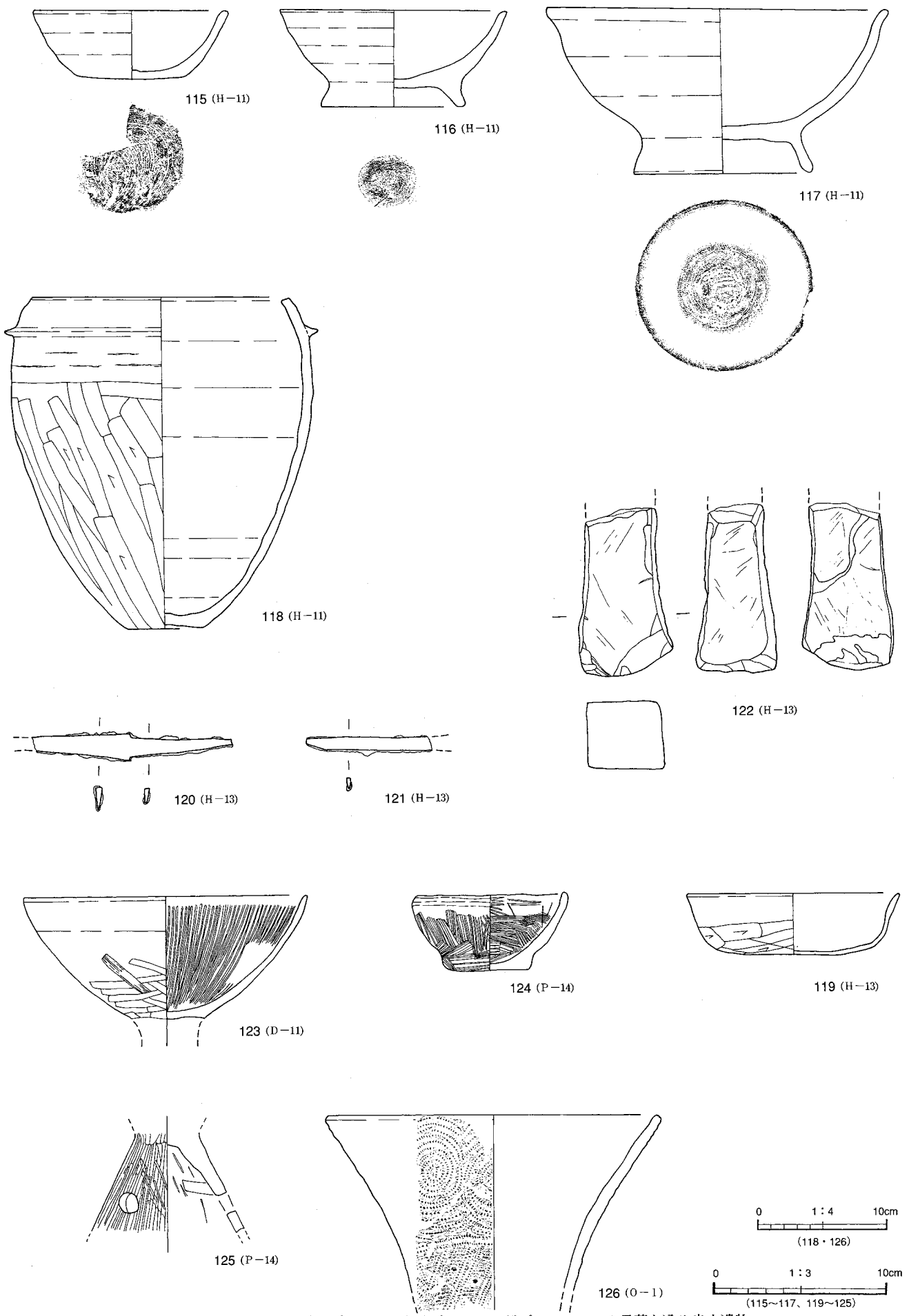


Fig.55 H－11・13号住居跡、D－11号土坑、P－14号ピット、O－1号落ち込み出土遺物

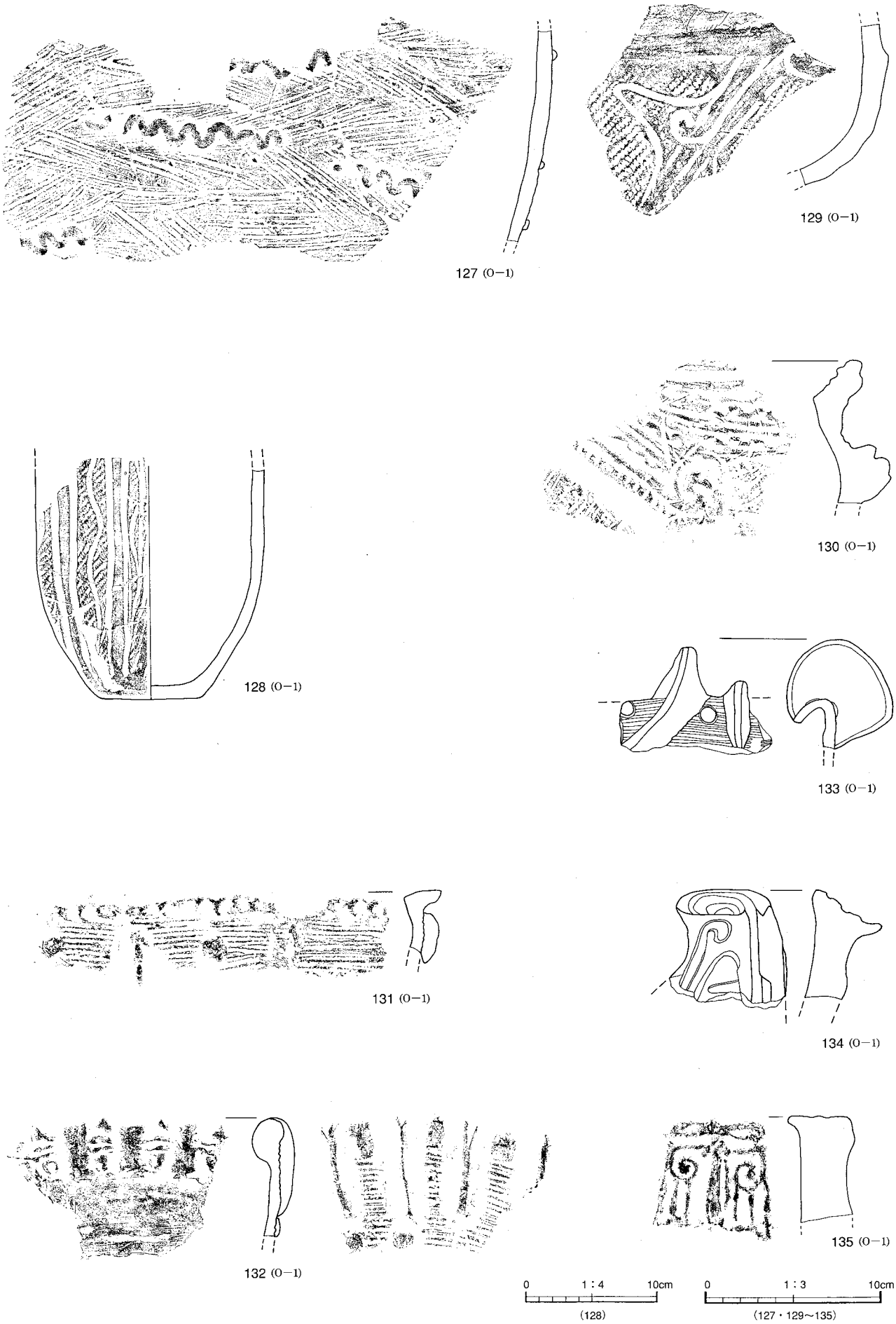


Fig.56　O－1号落ち込み出土遺物

Fig.57　O－1号落ち込み、グリッド、遺構外出土遺物

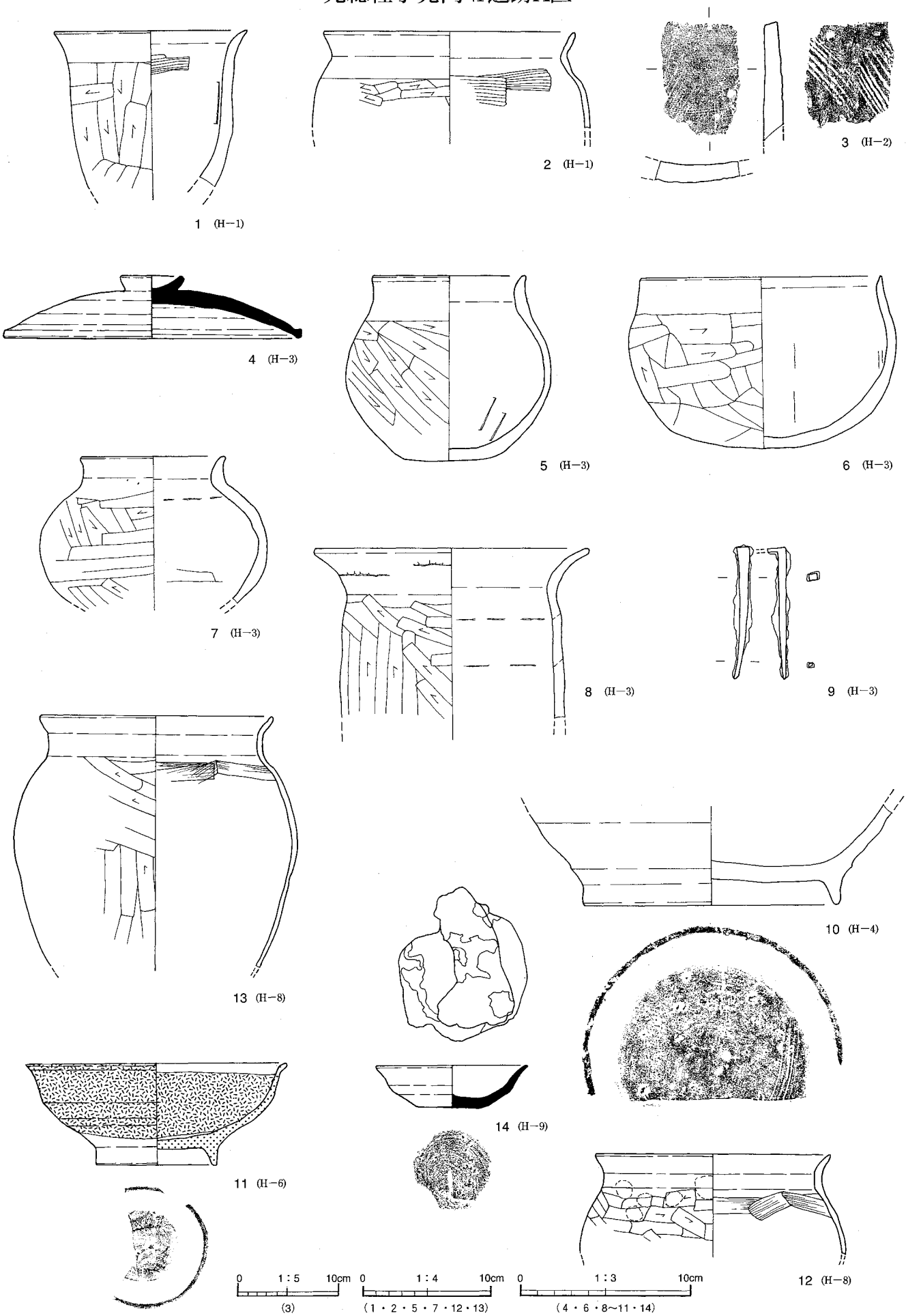


Fig.58 H−1〜4・6・8・9号住居跡出土遺物

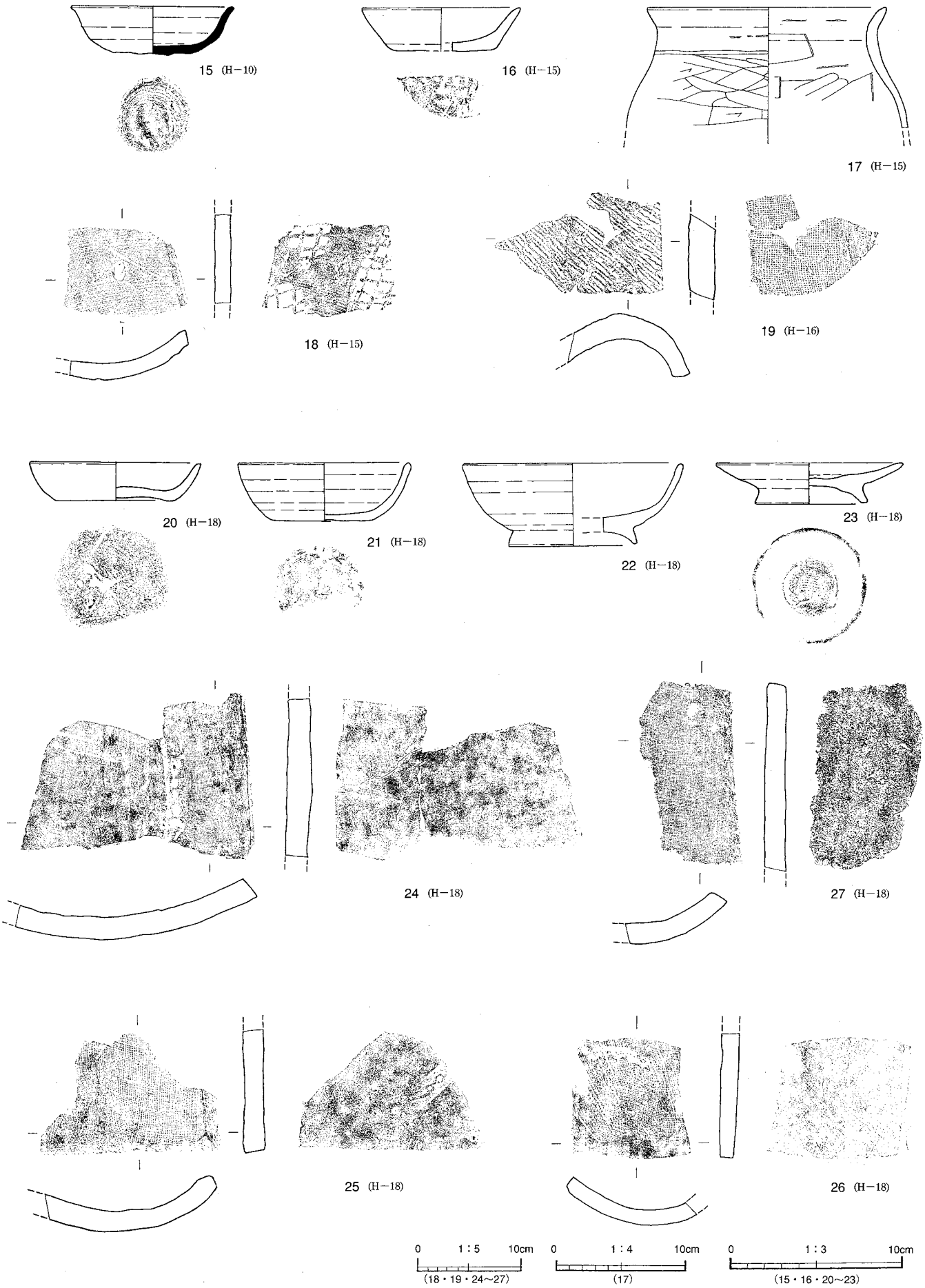


Fig.59 A区H−10・15・16・18号住居跡出土遺物

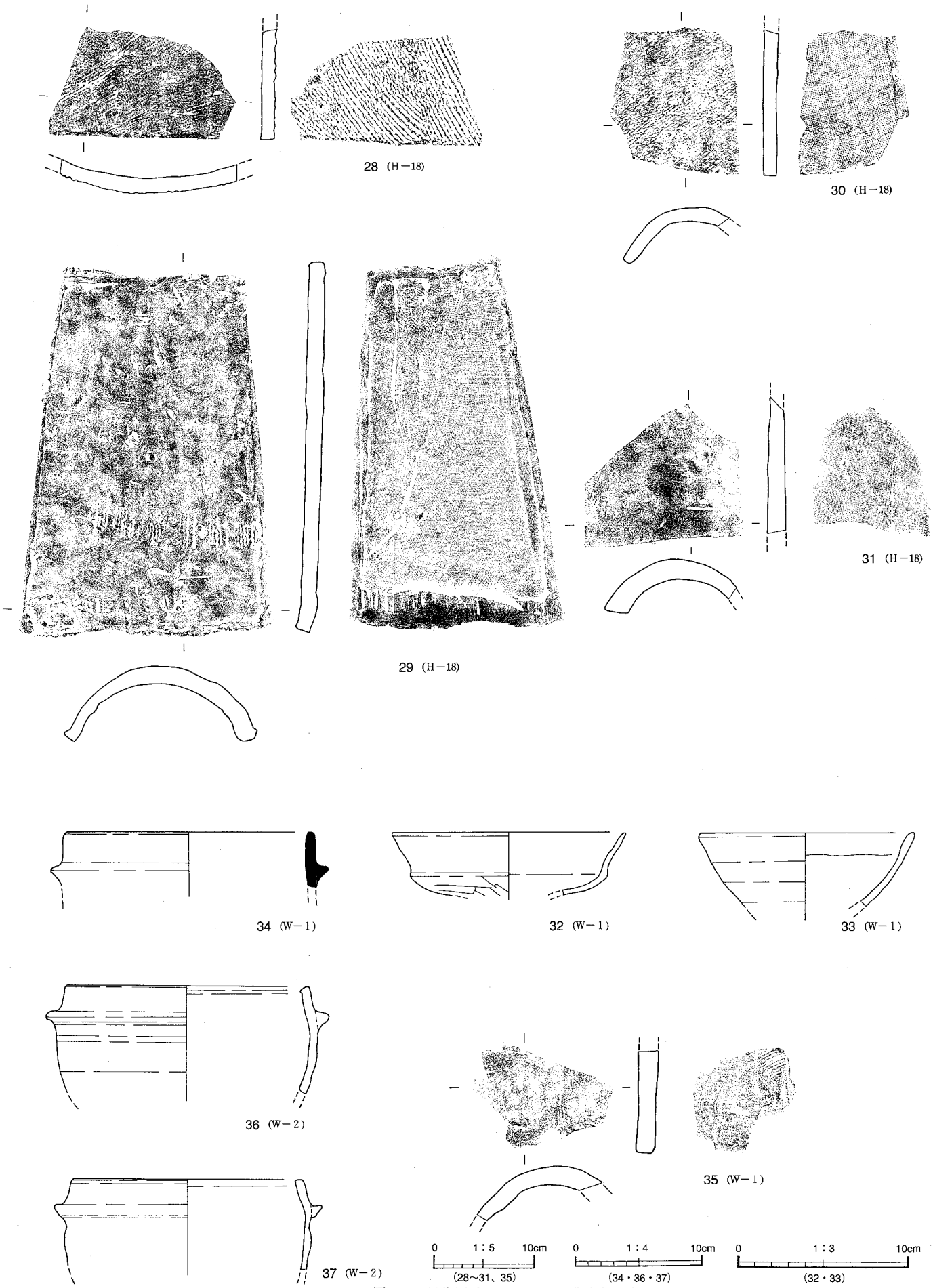


Fig.60　A区H－18号住居跡、W－1・2号溝跡出土遺物

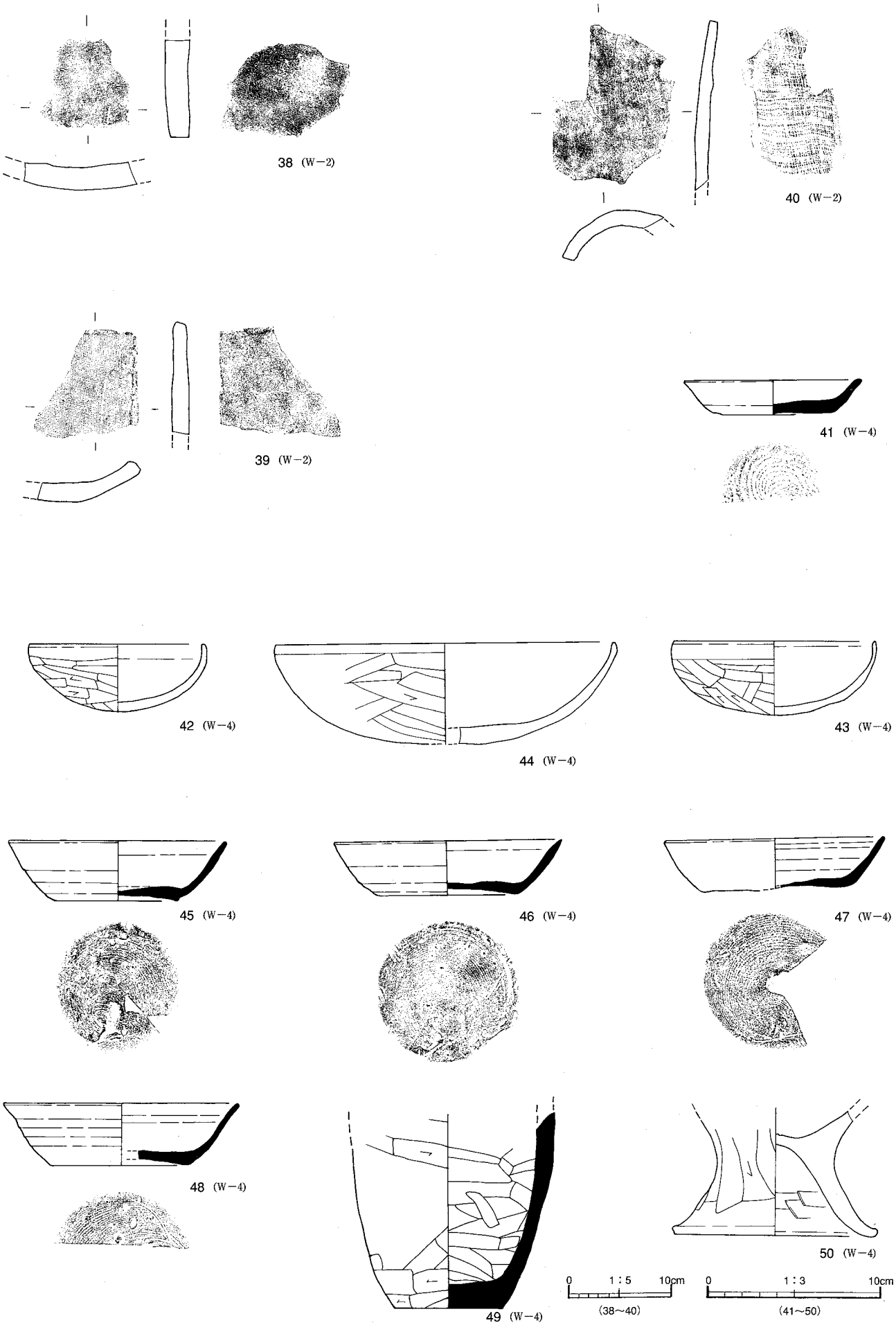


Fig.61 W−2・4号溝跡出土遺物

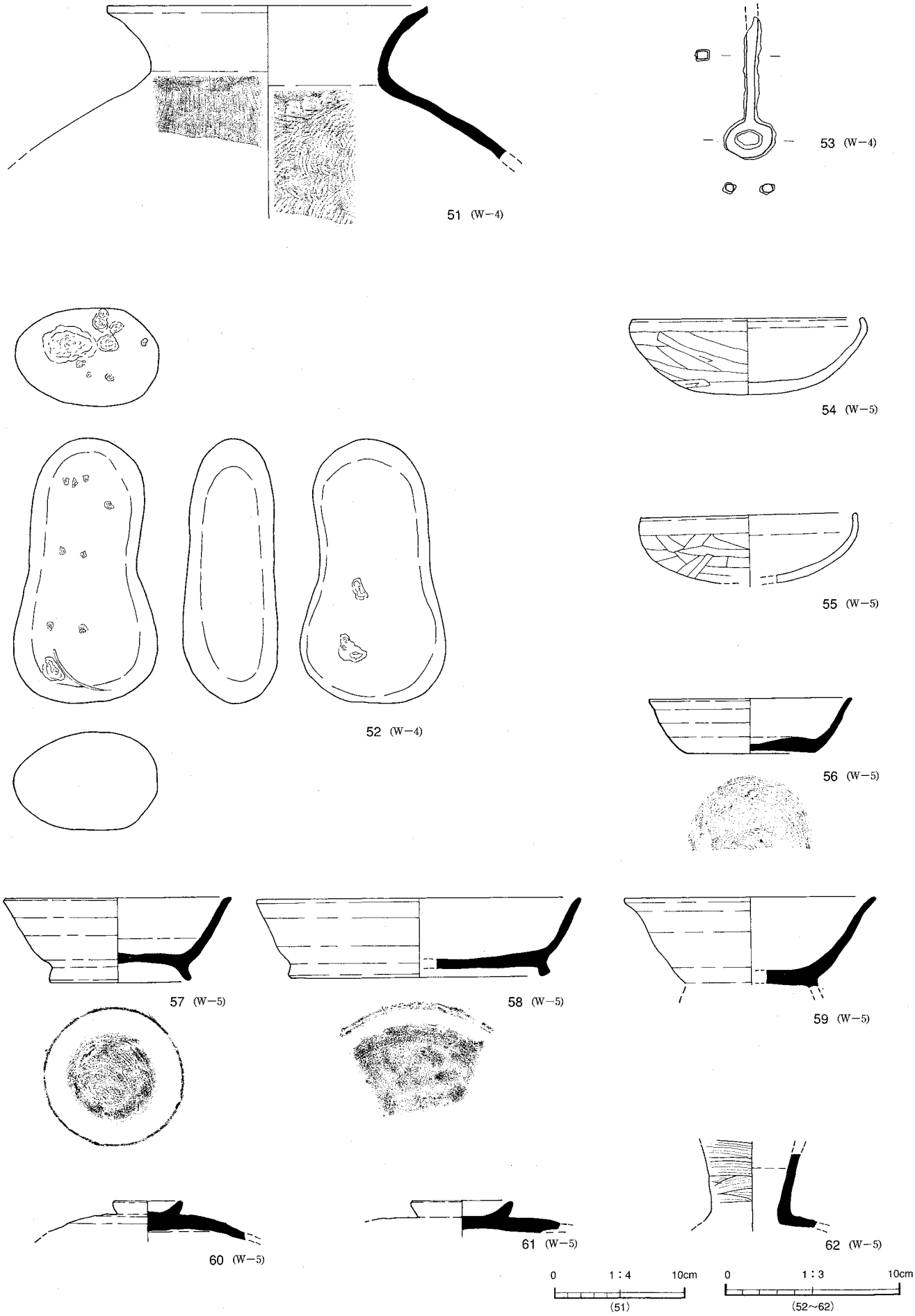


Fig.62 A区W－4・5号溝跡出土遺物

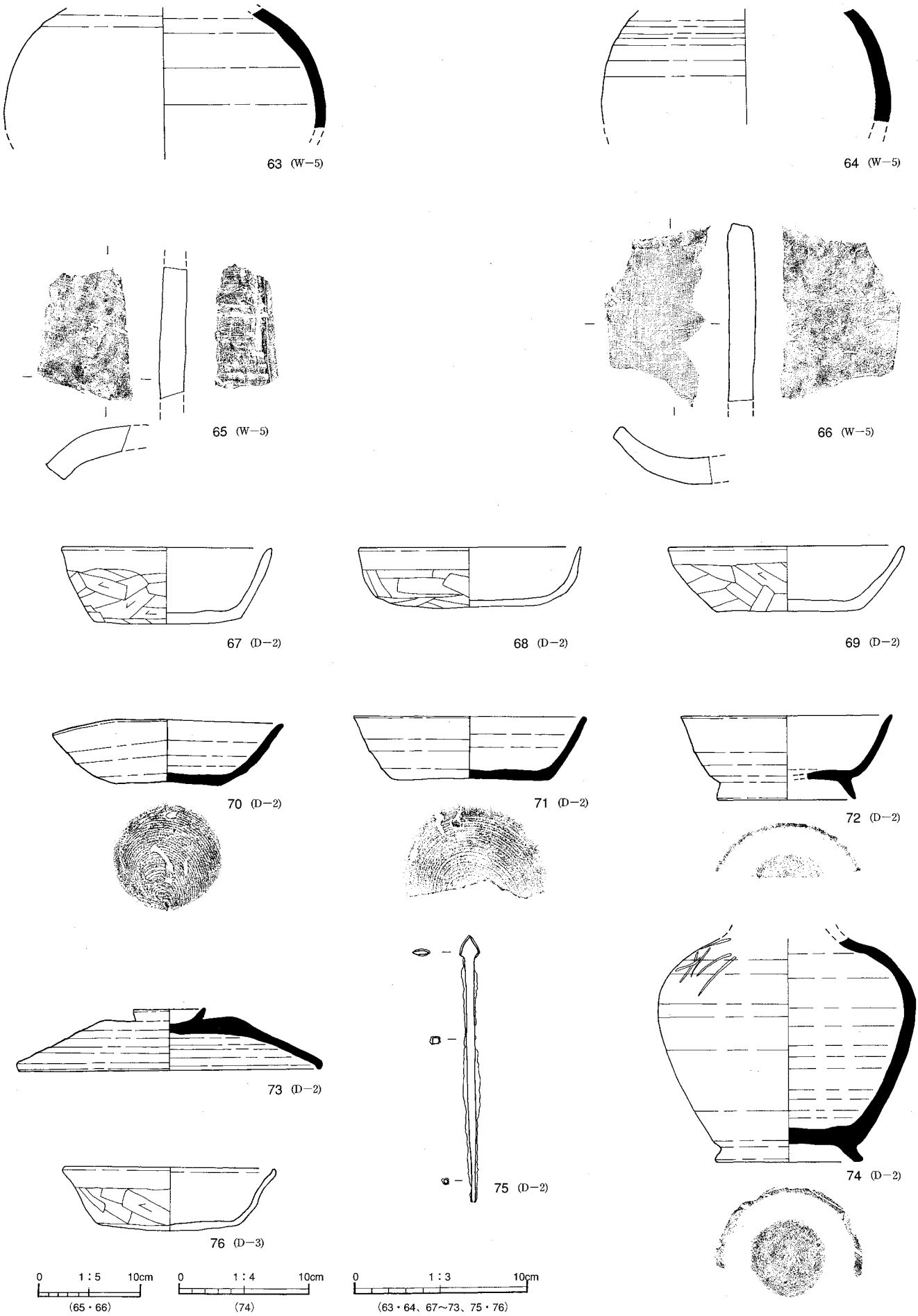
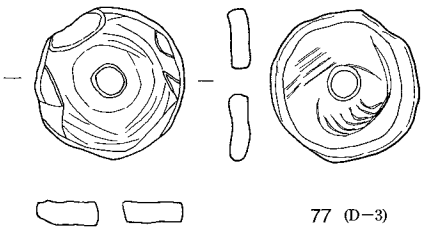
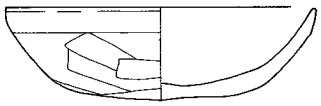


Fig.63　W－５号溝跡、Ｄ－２・３号土坑出土遺物

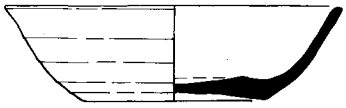


77 (D−3)

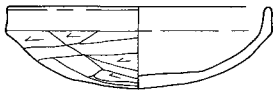


78 (I−1)

79 (X153 Y111)



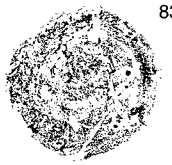
81 (X153 Y111)



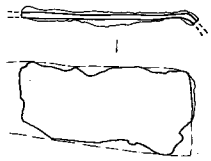
80 (X153 Y111)

82 (X153 Y111)

83 (X153 Y112)



84 (X153 Y112)



85 (遺構外)

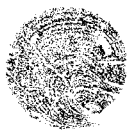
86 (遺構外)

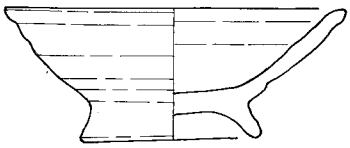
0 1：1 2cm (86)

0 1：3 10cm (77～85)

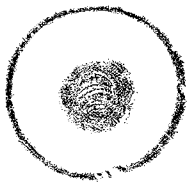
元総社小見内VI遺跡B区

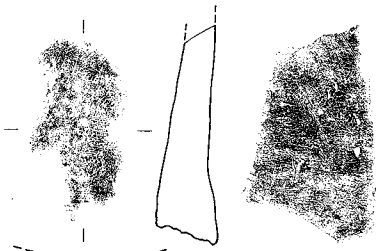
1 (W−2)





2 (W−2)





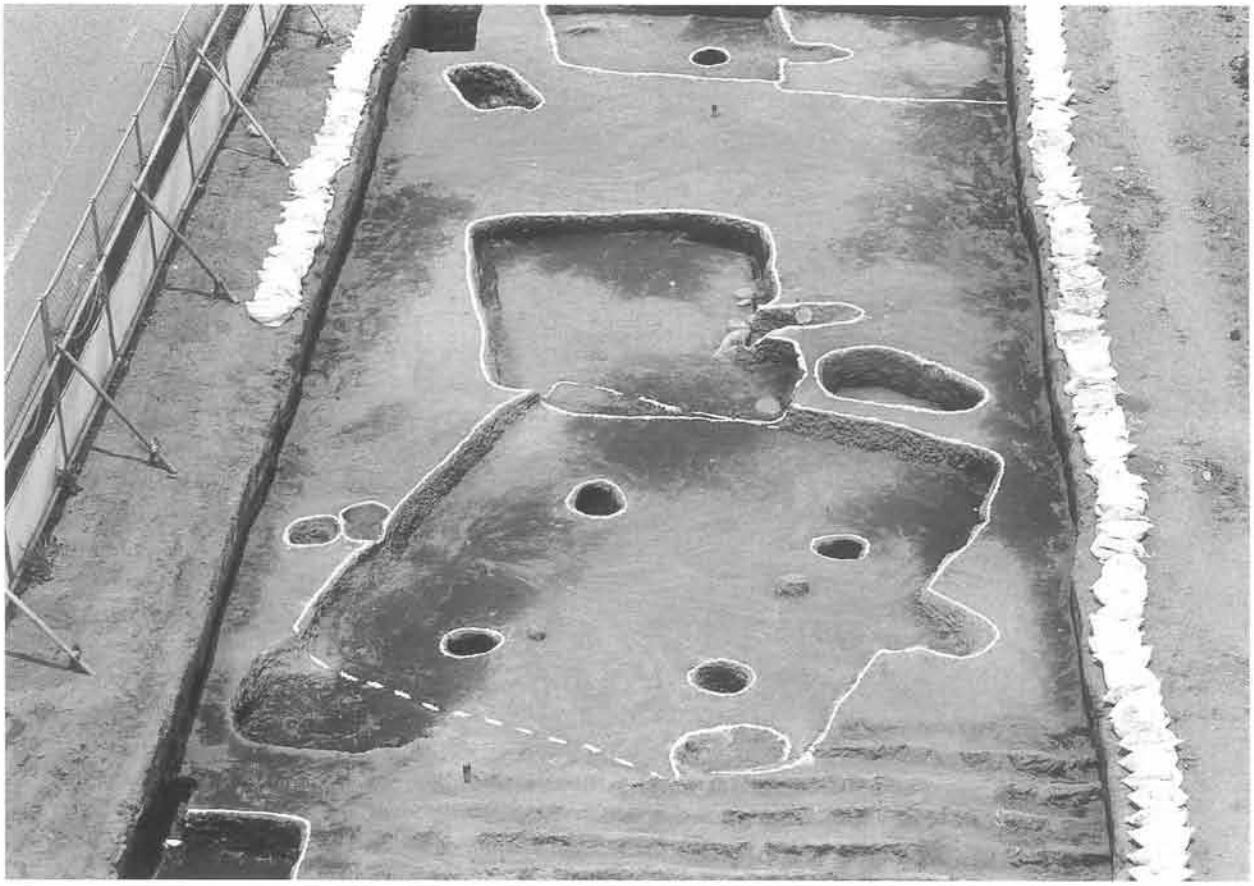
4 (W−3)

3 (W−3)

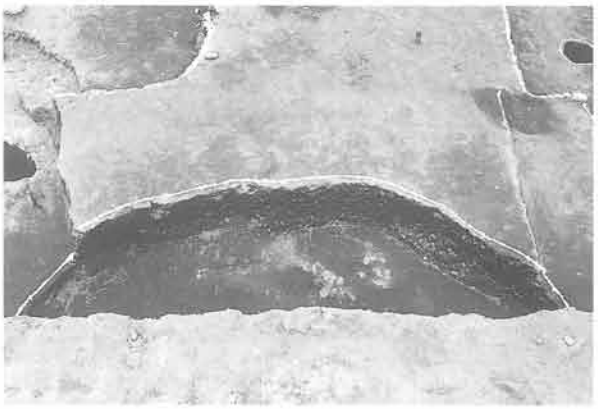
0 1：4 10cm (4)

0 1：3 10cm (1～3)

Fig.64 A区D−3号土坑、I−1号井戸跡、グリッド、遺構外出土遺物、B区W−2・3号溝跡

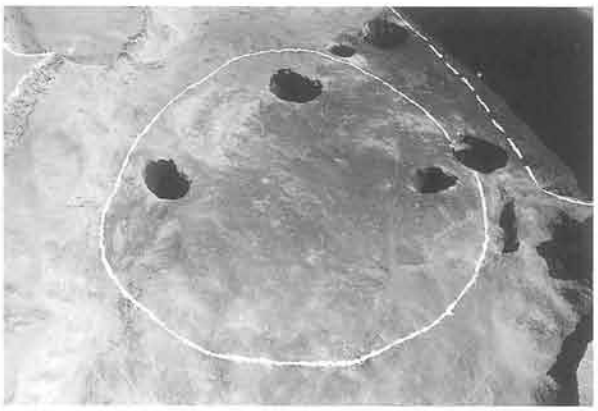


H－3・5号住居跡重複全景（南から）



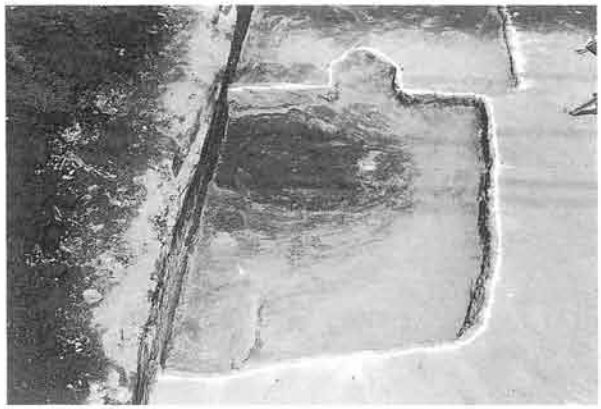
J－1号住居跡全景（東から）

J－1号住居跡遺物出土状況（西から）



J－2号住居跡全景（南から）

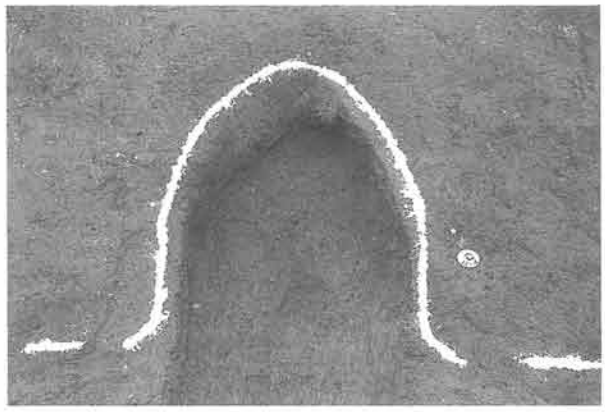
O－1号落ち込み全景（東から）



H－1号住居跡全景（西から）

H－1号住居跡竈全景（西から）

H－2号住居跡全景（西から）



H－4号住居跡竈全景（西から）

H－3号住居跡全景（西から）

H－3号住居跡竈全景（西から）

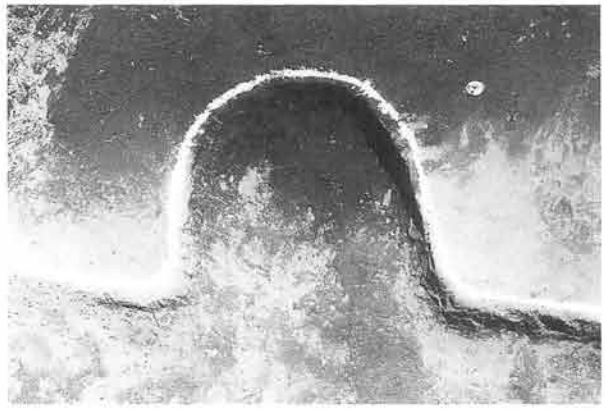
H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

H－5号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（西から）

H－5号住居跡全景（西から）

H－5号住居跡竈全景（西から）

H－6号住居跡全景（西から）



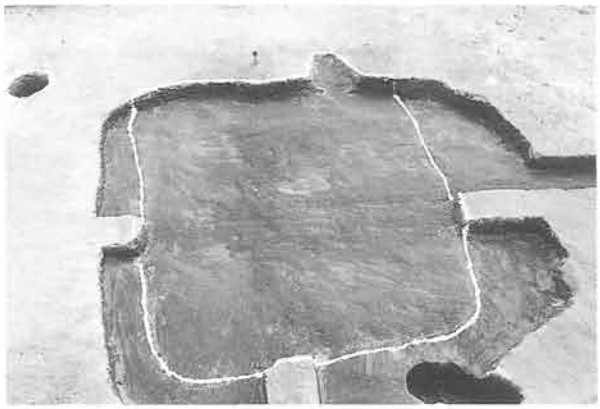
H－6号住居跡竈全景（西から）

H－7号住居跡全景（東から）

H－7号住居跡遺物出土状況（南から）

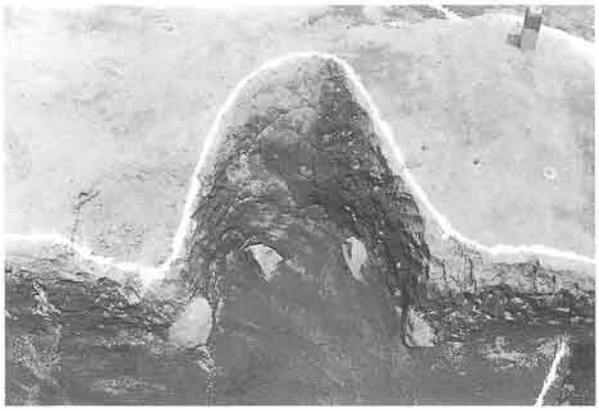
H－8号住居跡全景（西から）

H－8号住居跡竈全景（西から）



H－9号住居跡全景（西から）

H－10号住居跡全景（西から）

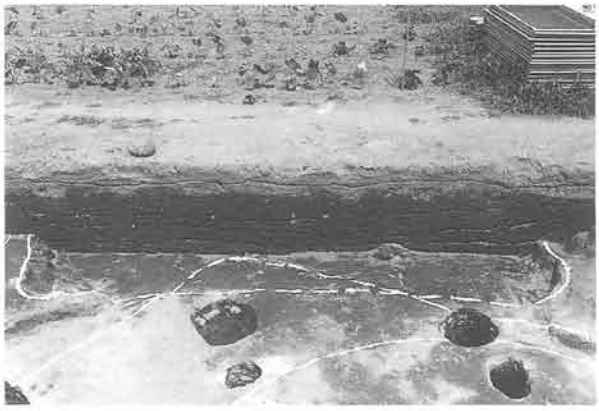


H－11号住居跡竈全景（西から）

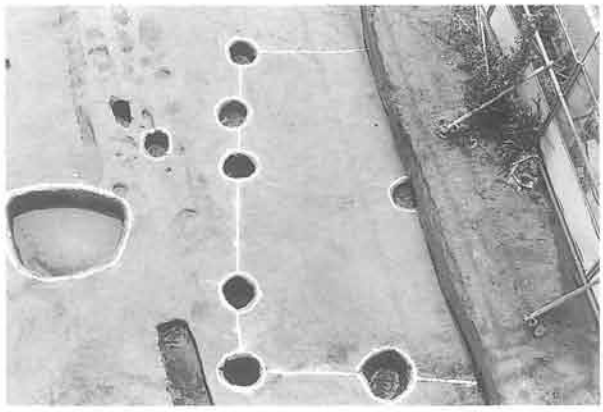
H－11号住居跡遺物出土状況（西から）

H－11号住居跡遺物出土状況（西から）

H－12号住居跡全景（西から）



H－13号住居跡全景（西から）

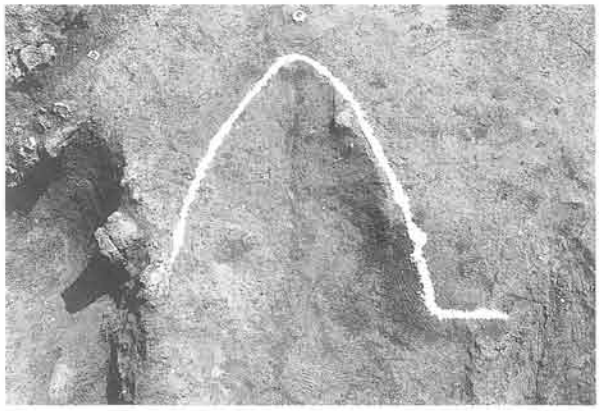


B－1号掘立柱建物跡全景（北から）

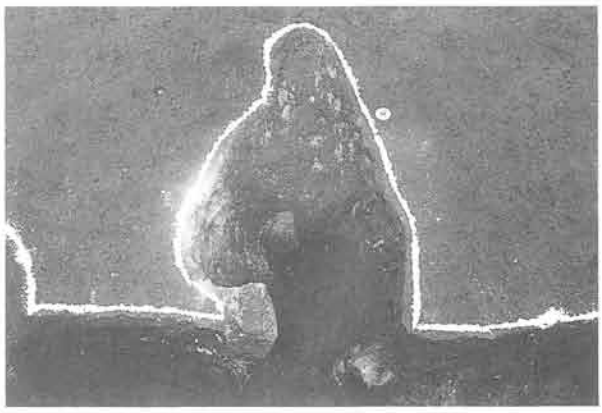
Ａ区全景（南から）

Ｈ－１・２・３号住居跡重複全景（西から）

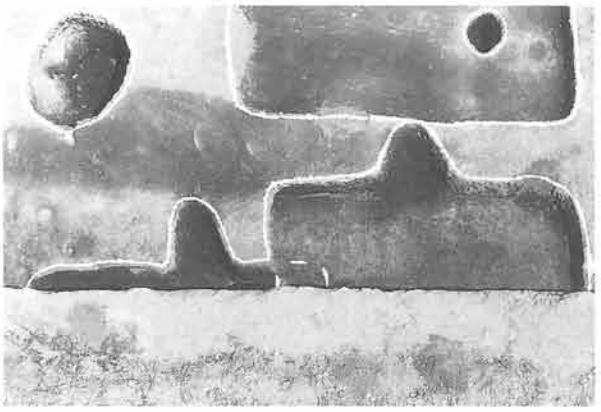
Ｈ－１号住居跡竈全景（西から）



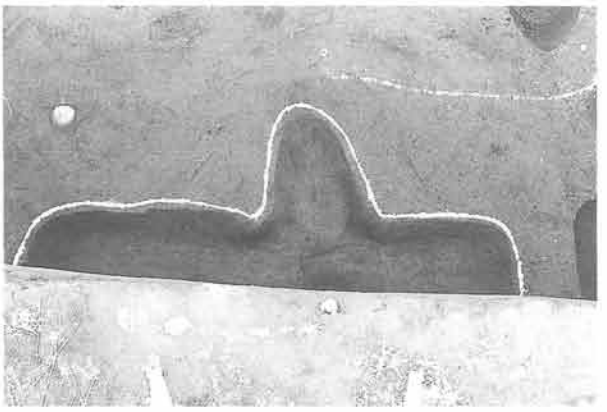
Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）



Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

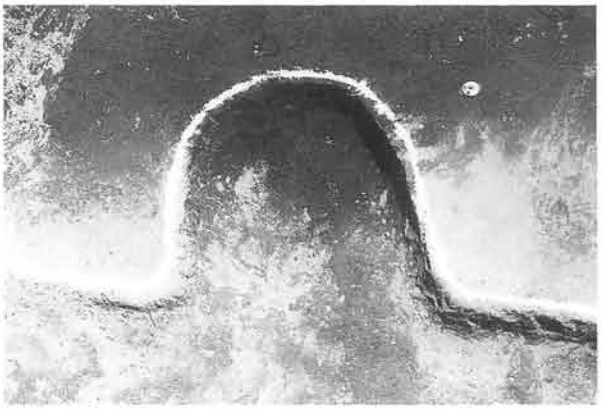


H－5・7号住居跡全景（西から）

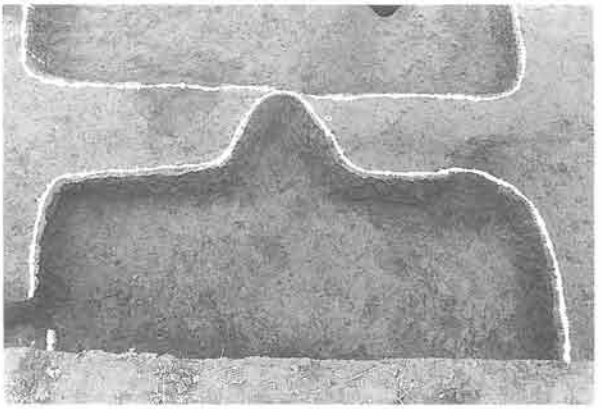


H－5号住居跡全景（西から）

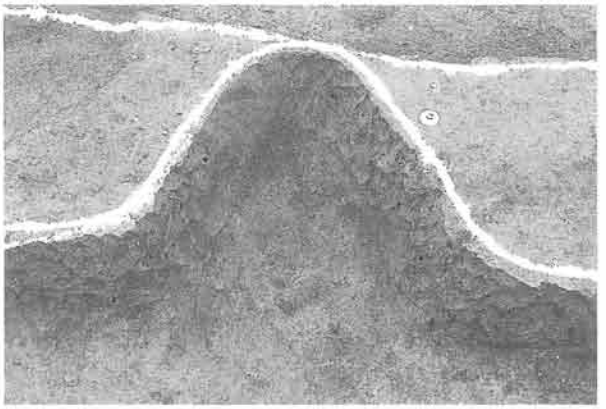
H－6号住居跡全景（西から）



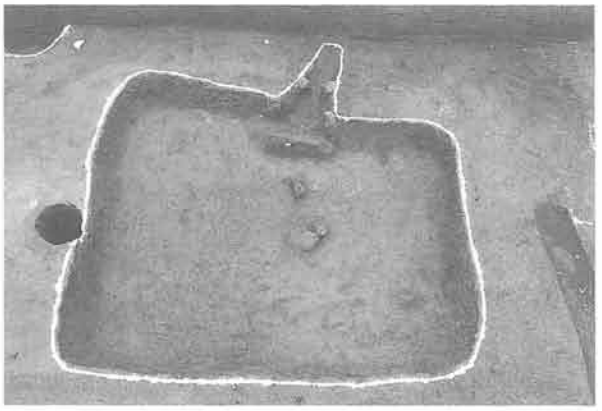
H－6号住居跡竈全景（西から）



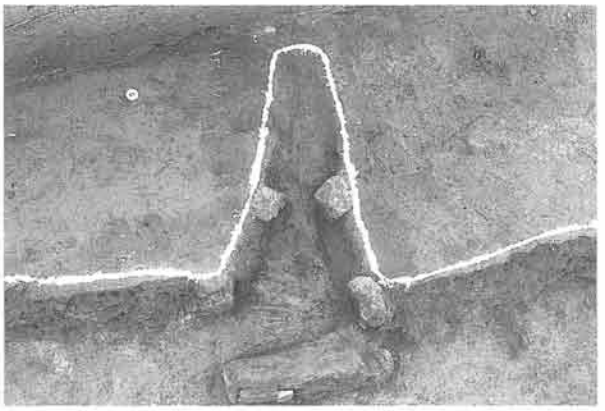
H－7号住居跡全景（西から）



H－7号住居跡竈全景（西から）



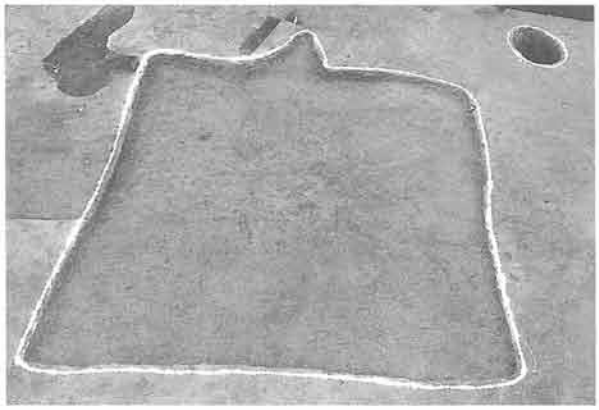
H－8号住居跡全景（西から）



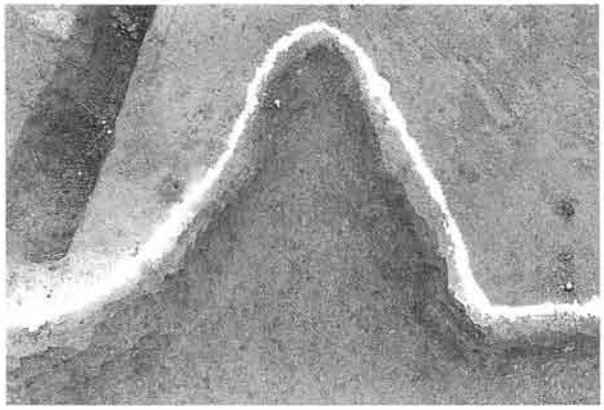
H－8号住居跡竈全景（西から）

H－9・10・11号住居跡重複全景（西から）

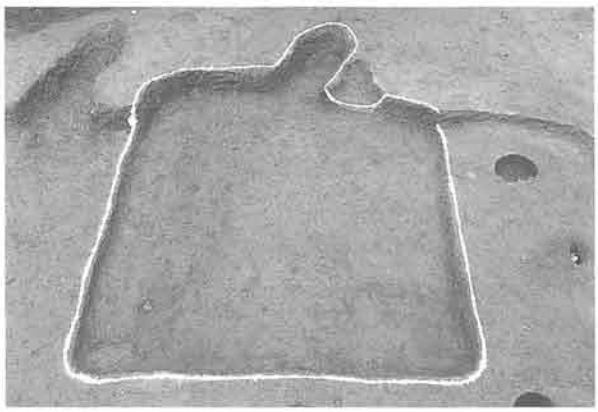
H－10号住居跡遺物出土状況（南から）



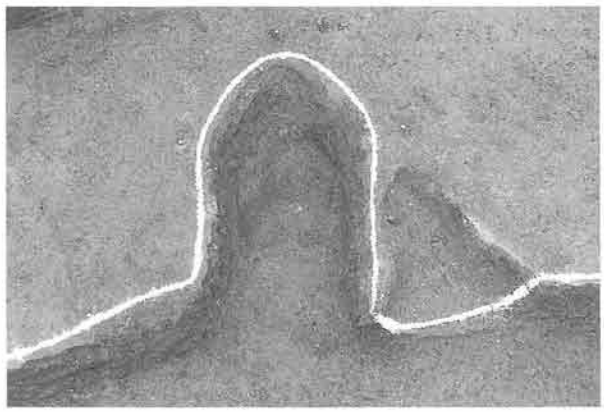
H－10号住居跡全景（西から）



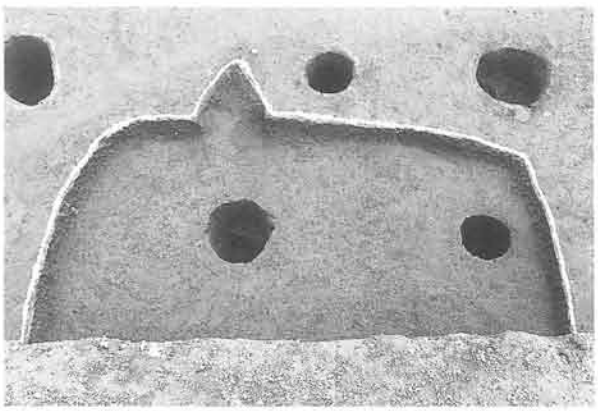
H－10号住居跡竈全景（西から）



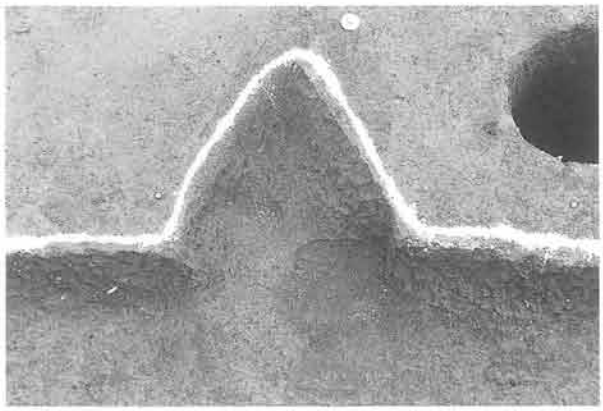
H－11号住居跡全景（西から）



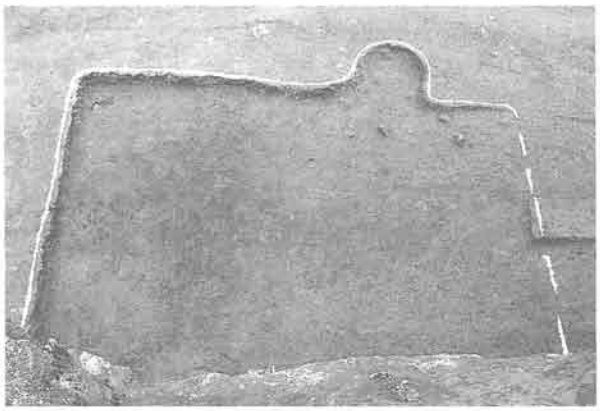
H－11号住居跡竈全景（西から）



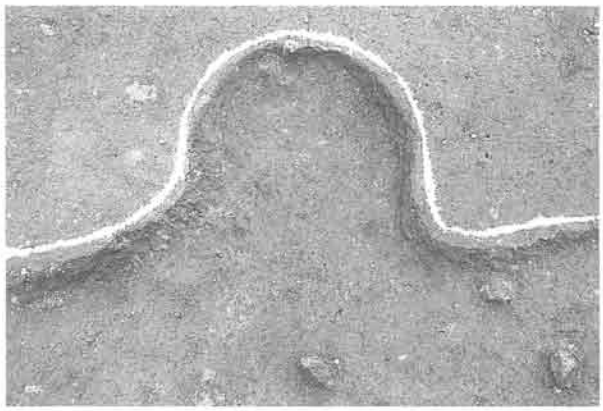
H－12号住居跡全景（西から）



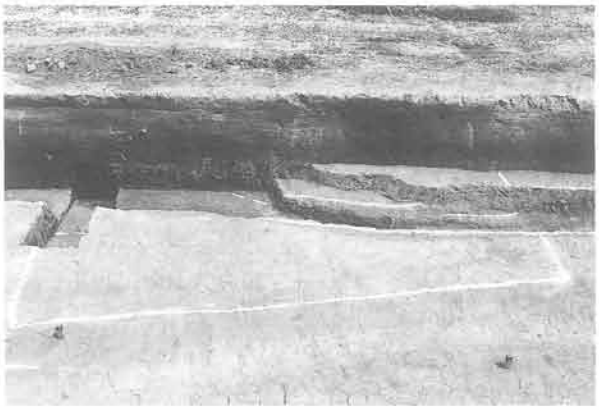
H－12号住居跡竈全景（西から）



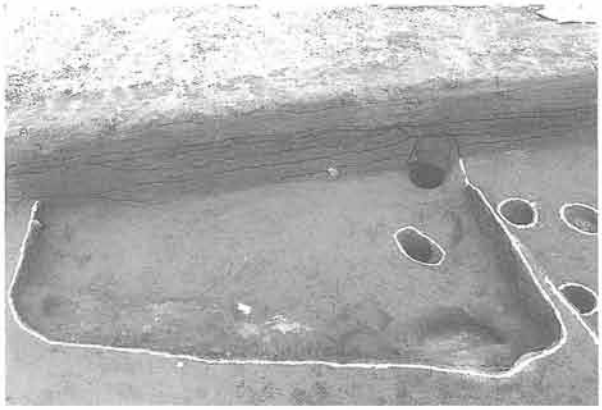
H－13号住居跡全景（西から）



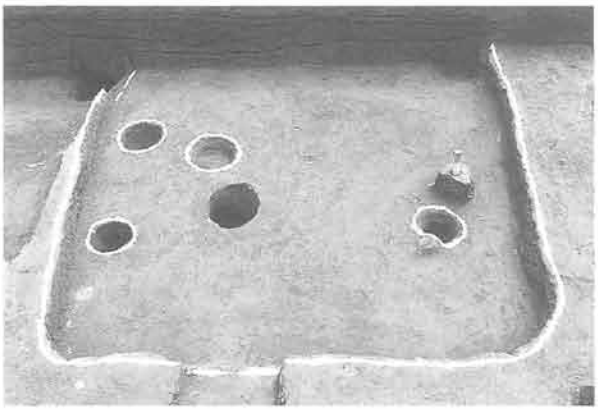
H－13号住居跡竈全景（西から）



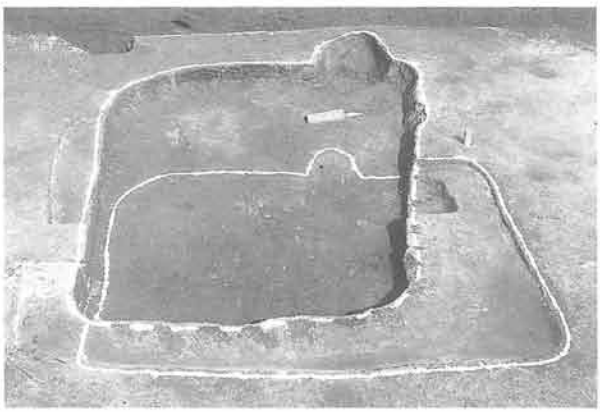
H－14号住居跡全景（西から）



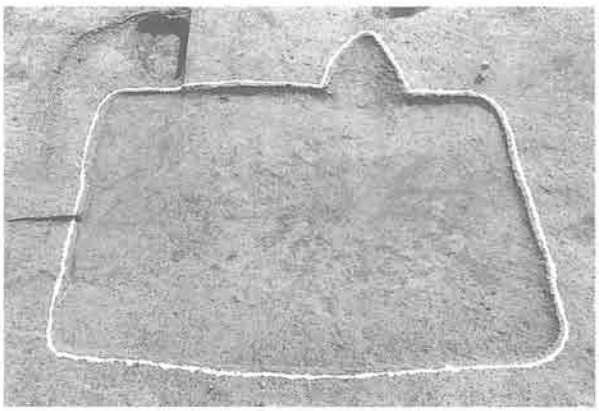
H－15号住居跡全景（西から）



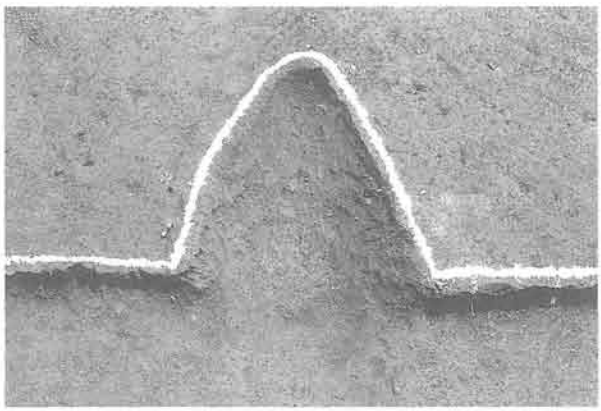
H－16号住居跡全景（西から）



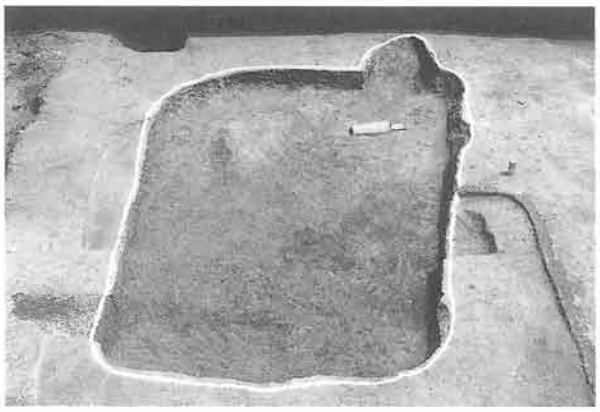
H－17・18号住居跡重複全景（西から）



H－17号住居跡全景（西から）

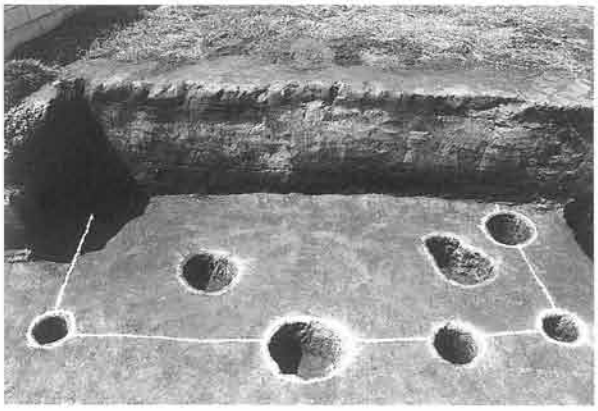


H－17号住居跡竈全景（西から）

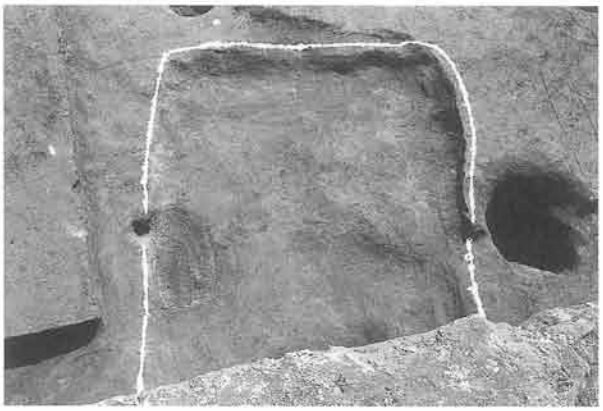


H－18号住居跡全景（西から）

H－18号住居跡竈全景（西から）



B－1号掘立柱建物跡全景（東から）



T－1号竪穴状遺構全景（西から）

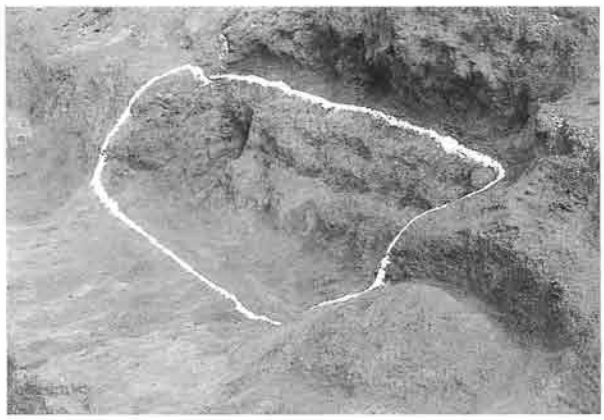
W－1号溝跡全景（南から）

W－2号溝跡全景（東から）

W－3号溝跡全景（南から）

W－4・5号溝跡拡大部（南から）

W－4・5号溝跡拡大部（西から）



W－4・5号溝跡竈構築材採掘跡（西から）

W－4・5号溝跡竈構築材採掘跡（北から）

W－4・5号溝跡遺物出土状況（西から）

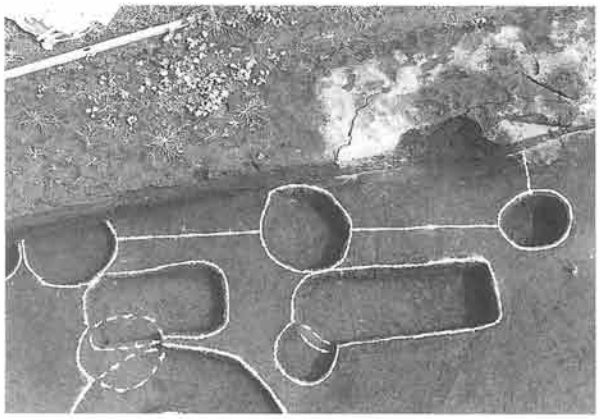
I－1号井戸跡全景（南東から）

I－2号井戸跡全景（北から）

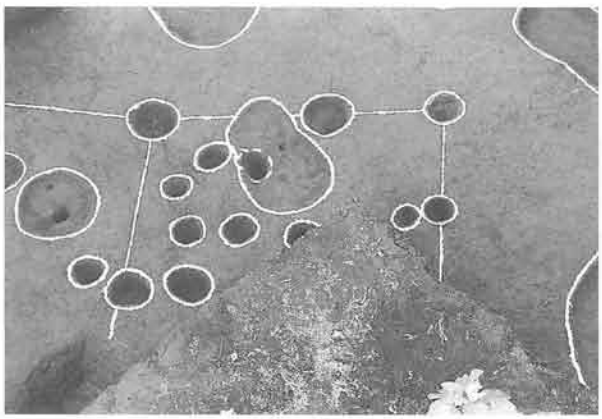
D－2号土坑遺物出土状況（南から）

D－2号土坑遺物出土状況（北から）

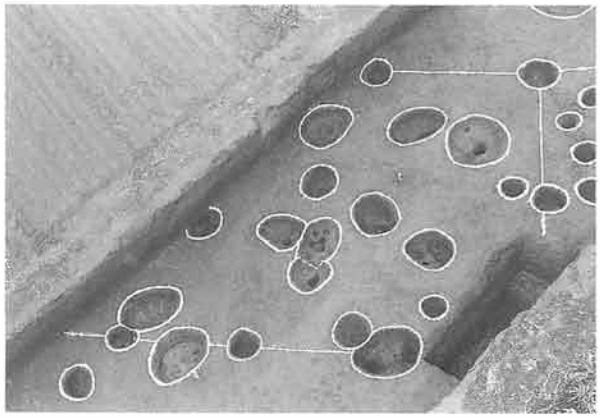
B区全景（南から）



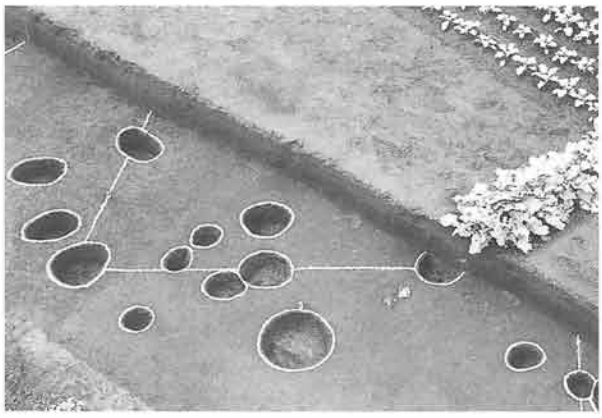
B－1号掘立柱建物跡全景（西から）



B－2号掘立柱建物跡全景（南から）



B－3号掘立柱建物跡全景（南から）



B－4号掘立柱建物跡全景（南東から）

W－1・2号溝跡全景（南から）

W－1号溝跡全景（南から）

I－1号井戸跡全景（北から）

W－3号溝跡全景（東から）

調査を終えて

元総社小見Ⅴ遺跡

1 (J-1)

2 (J-1)

3 (J-1)

4 (J-1)

5 (J-1)

6 (J-1)

7 (J-1)

8 (J-1)

9 (J-1)

10 (J-1)

11 (J-1)

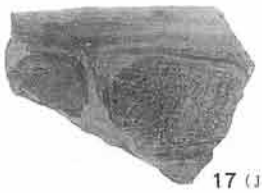
12 (J-1)

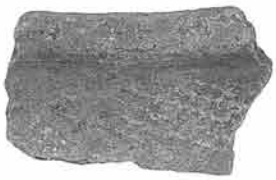
13 (J-1)

14 (J-1)

15 (J-2)

16 (J-2)


17 (J-2)


18 (J-2)

19 (J-2)

20 (J-2)

PL. 14

21 (J−2)

22 (J−2)

23 (J−2)

24 (J−2)

25 (J−2)

26 (H−1)

24 (J−2)

27 (H−2)

28 (H−2)

29 (H−3)

30 (H−3)

31 (H−3)

32 (H−3)

33 (H−3)

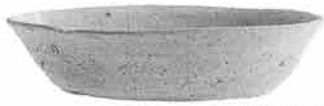
34 (H−3)

35 (H−3)

37 (H−5)

38 (H−5)

39 (H−5)


40 (H−5)

41 (H−5)

51 (H−5)

51 (H−5)

42 (H−5)

43 (H−5)

52 (H−5)

52 (H−5)

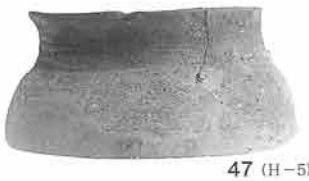
44 (H−5)

45 (H−5)

53 (H−5)

53 (H−5)

46 (H−5)



47 (H−5)

48 (H−5)

49 (H−5)

50 (H−5)

54 (H−5)

54 (H−5)

88 (H−6)

89 (H−7)

55 (H−5)

55 (H−5)

89 (H−7)

56 (H−5)

90 (H−7)

91 (H−7)

57 (H−5)

57 (H−5)

92 (H−7)

93 (H−8)

58 (H−5)

58 (H−5)

94 (H−8)

59 (H−5)

59 (H−5)

95 (H−8)

60 (H−5)

60 (H−5)

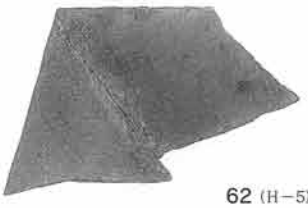
96 (H−8)

61 (H−5)

61 (H−5)

97 (H−8)

62 (H−5)


62 (H−5)

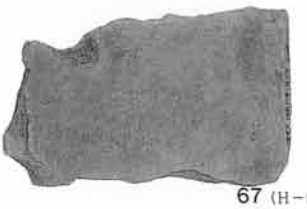
98 (H−8)

PL. 18

65 (H−5)

65 (H−5)

99 (H−8)


67 (H−5)

67 (H−5)

100 (H−9)

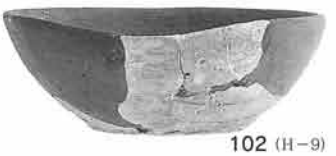
68 (H−5)

68 (H−5)

101 (H−9)

77 (H−5)

77 (H−5)


102 (H−9)

103 (H−9)

104 (H−9)

105 (H−9)

106 (H−9)

107 (H−9)

108 (H−9)

109 (H−9)

110 (H-9)

111 (H-9)

112 (H-11)

113 (H-11)

114 (H-11)

115 (H-11)

116 (H-11)

119 (H-13)

120 (H-13)

117 (H-11)

121 (H-13)

126 (O-1)

122 (H-13)

118 (H-11)

127 (O-1)

123 (D-11)

128 (O-1)

124 (H-14)

125 (P-14)

129 (O−1)

130 (O−1)

131 (O−1)

132 (O−1)

133 (O−1)

134 (O−1)

135 (O−1)

136 (O−1)

137 (O−1)

138 (O−1)

139 (O−1)

141 (O−1)

140 (O−1)

140 (O−1)

142 (O−1)

143 (X16Y132)

144 (X17Y133)

145 (X18Y143)

146 (遺構外)

147 (遺構外)

148 (遺構外)

元総社小見内Ⅵ遺跡A区

1 (H−1)

2 (H−1)

4 (H−3)

7 (H−3)

9 (H−3)

5 (H−3)

11 (H−6)

8 (H−3)

12 (H−8)

6 (H−3)

15 (H−10)

16 (H−15)

14 (H−9)

18 (H−15)

18 (H−15)

14 (H−9)

20 (H−18)

21 (H−18)

PL. 22

13 (H−8)

22 (H−18)

23 (H−18)

24 (H−18)

24 (H−18)

49 (W−4)

25 (H−18)

25 (H−18)

30 (H−18)

26 (H−18)

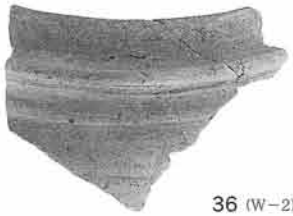
25 (H−10)

28 (H−18)

28 (H−18)

32 (W−1)

34 (W−1)


36 (W−2)

37 (W−2)

41 (W−4)

42 (W−4)

43 (W−4)

45 (W−4)

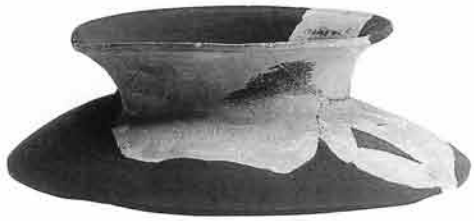
46 (W−4)

47 (W−4)

48 (W−4)

50 (W−4)

52 (W−4)


51 (W−4)

53 (W−4)

54 (W−5)

57 (W−5)

58 (W−5)

29 (H−18)

29 (H−18)

60 (W−5)

61 (W−5)

66 (W−5)

66 (W−5)

62 (W−5)

63 (W−5)

67 (D−2)

68 (D−2)

73 (D−2)

74 (D−2)

76 (D−3)

75 (D−2)

77 (D−3)

79 (XI53YIII)

80 (XI53YIII)

81 (XI53YIII)

82 (XI53YIII)

86 (遺構外)

87 (遺構外)

元総社小見内Ⅵ遺跡B区

1 (W−2)

2 (W−2)

3 (W−2)

4 (W−2)

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン　　モトソウジャオミゴイセキ・モトソウジャオミウチロクイセキ
書名	元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	髙橋　一彦　・　高坂　麻子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－２
発行年月日	西暦2004年３月18日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャ オミゴイセキ 元総社 小見Ⅴ遺跡	マエバシシモト ソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	15A118	36°23'31"	139°01'33"	20030520 20030623	約1,195 m²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業
モトソウジャ オミウチロクイセキ 元総社 小見内Ⅵ遺跡	マエバシシモト ソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	15A114	36°23'34"	139°01'55"	20030723 20031014	約1,034 m²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社 小見Ⅴ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡３軒	縄文土器、石器	なし
		古墳時代	竪穴住居跡２軒	土師器	
		平安時代	竪穴住居跡11軒	土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器他	
		中世以降	掘立柱建物跡１軒、畠跡、 土坑13基　他		
元総社 小見内Ⅵ遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴住居跡１軒	土師器	なし
		平安時代	竪穴住居跡７軒、溝８条	土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器他	
		中世以降	井戸跡３基、土坑11基　他		

元総社蒼海遺跡群
元総社小見Ⅴ遺跡
元総社小見内Ⅵ遺跡

2004年3月11日　印刷
2004年3月18日　発行

編集発行　前橋市埋蔵文化発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所　上越印刷工業株式会社